

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄									備考
計画の区分	大学の収容定員に係る学則変更									
フリガナ設置者	ガクコホクシツンヒガシクシカクケン 学校法人 東筑紫学園									
フリガナ大学の名称	キョウシヨウエイヨクシタフクク 九州栄養福祉大学 (Kyushu Nutrition Welfare University)									
大学本部の位置	福岡県北九州市小倉北区下到尾五丁目1番1号									
大学の目的	九州栄養福祉大学は教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、建学の精神と教育理念に基づいて高等学校教育の基礎の上に広く知識を授けると共に人格の完成をはかり、専門知識技能を教授研究し人類社会の福祉に貢献する人材の養成を目的とする。									
新設学部等の目的	本学の建学の精神「勇気・親和・愛・知性」を基に、食環境と健康に関する深い理解と先端のデータサイエンス技術を統合した教育を目的に現在の食物栄養学部へ食環境データサイエンス学科を設置する。また、変化の時代を生きるこどもたちを育成する指導力を修得した教育者、保育者の養成を目的に、新たにこども教育学部こども教育学科を設置する。新学部・学科設置に伴い、教育研究領域の拡張と新たな分野で必要とされる人材を養成することを目的として、収容定員を増加する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	食物栄養学部 (Faculty of Food and Nutrition)	年	人	年次人	人			年 月 第 年次		
	食物栄養学科 (Department of Food and Nutrition)	4	100	3年次 10	420	学士(食物栄養学) (Bachelor of Food and Nutrition Science)	家政関係	平成13年4月 第1年次	福岡県北九州市小倉北区下到尾五丁目1番1号	
	食環境データサイエンス学科 (Department of Food Environment Data Science)	4	50 (0)	-	200 (0)	学士(食環境データサイエンス) (Bachelor of Food Environment Data Science)	家政関係	令和7年4月 第1年次	同上	※令和6年4月設置届出
	リハビリテーション学部 (Faculty of Rehabilitation) 理学療法学科 (Department of Physical Therapy)	4	80	-	320	学士(理学療法学) (Bachelor of Physical Therapy)	保健衛生学関係	平成23年4月 第1年次	福岡県北九州市小倉南区葛原高松一丁目5番1号	
作業療法学科 (Department of Occupational Therapy)	4	40	-	160	学士(作業療法学) (Bachelor of Occupational Therapy)	保健衛生学関係	平成23年4月 第1年次	同上		

	こども教育学部 (Faculty of Childhood Education) こども教育学科 (Department of Childhood Education)	4	50 (0)	-	200 (0)	学士(こども 教育学) (Bachelor of Childhood Education)	教育関係	令和7年4月 第1年次	福岡県北九州市 小倉北区下道津 五丁目1番1号	※令和6年 3月設置認 可申請
	計		320 (220)	3年次 10	1300 (900)					
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行、 名称の変更等)		九州栄養福祉大学 こども教育学部こども教育学科(50)(令和6年3月認可申請) 東筑紫短期大学 食物栄養学科〔定員減〕(△20)(令和6年8月届出予定) 保育学科〔定員減〕(△80)(令和6年8月届出予定)								
教育 課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計	一科目				
	—	一科目	一科目	一科目	一科目	一科目				
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の 教員 (助手を除く)		
		教授	准教授	講師	助教	計				
新 設	食物栄養学部 食物栄養学科	12 (14)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	18 (20)	6 (6)	24 (24)		
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	12 (14)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	18 (20)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 6 人			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計(a~b)	12 (14)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	18 (20)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計(a~d)	12 (14)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	18 (20)				
食物栄養学部 食環境データサイエンス学 科	4人 (4)	2人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	6人 (5)	0人 (0)		24人 (9)		
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 5 人				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
小計(a~b)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)					
計(a~d)	4 (4)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (5)					

新	リハビリテーション学部 理学療法学科	6	4	1	3	14	0	58
		(6)	(4)	(1)	(3)	(14)	(0)	(58)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6	4	1	3	14	/	/
		(6)	(4)	(1)	(3)	(14)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0	0	0	0	0		
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
	小計（a～b）	6	4	1	3	14		
	(6)	(4)	(1)	(3)	(14)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0	0	0	0	0			
	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0	0	0	0	0			
	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
計（a～d）	6	4	1	3	14			
	(6)	(4)	(1)	(3)	(14)			
設	リハビリテーション学部 作業療法学科	4	3	1	1	9	0	59
		(4)	(3)	(1)	(1)	(9)	(0)	(59)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4	3	1	1	9	/	/
		(4)	(3)	(1)	(1)	(9)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0	0	0	0	0		
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
	小計（a～b）	4	3	1	1	9		
	(4)	(3)	(1)	(1)	(9)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0	0	0	0	0			
	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0	0	0	0	0			
	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
計（a～d）	4	3	1	1	9			
	(4)	(3)	(1)	(1)	(9)			
分	こども教育学部 こども教育学科	8	2	3	0	13	0	32
		(6)	(0)	(1)	(0)	(8)	(0)	(18)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7	1	1	0	9	/	/
		(6)	(0)	(0)	(0)	(6)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0	0	0	0	0		
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
	小計（a～b）	7	1	1	0	9		
	(6)	(0)	(0)	(0)	(6)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0	0	0	0	0			
	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	1	1	2	0	4			
	(0)	(0)	(2)	(0)	(2)			
計（a～d）	8	2	3	0	13			
	(6)	(0)	(2)	(0)	(8)			
計	34	16	6	4	60	6	—	
	(34)	(13)	(5)	(4)	(56)	(6)	(—)	

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人

既 設 分	該当なし		-	-	-	-	-	-	-	-
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		-	-	-	-	-	-	-	-
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		-	-	-	-	-	-	-	-
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	小計（a～b）		-	-	-	-	-	-	-	-
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		-	-	-	-	-	-	-	-	
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		-	-	-	-	-	-	-	-	
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計（a～d）		-	-	-	-	-	-	-	-	
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計		-	-	-	-	-	-	-	-	
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
合計		33 (34)	20 (17)	4 (3)	4 (4)	61 (58)	6 (6)	- (-)		
職種		専属			その他			計		
事務職員		30 (30)			15 (15)			45 (45)		
技術職員		0 (0)			0 (0)			0 (0)		
図書館職員		3 (3)			2 (2)			5 (5)		
その他の職員		0 (0)			6 (6)			6 (6)		
指導補助者		0 (0)			3 (3)			3 (3)		
計		11 (11)			48 (48)			59 (59)		
校 地 等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用			計			
	校舎敷地	29,681.70㎡	25,833.93㎡	0㎡			55,515.63㎡			
	その他	47,061.14㎡	3,526㎡	0㎡			50,587.14㎡			
	合計	76,742.84㎡	29,359.93㎡	0㎡			106,102.77㎡			
校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用			計			
		28,535.20㎡ (28,535.20㎡)	17,200.62㎡ (17,200.62㎡)	5,136.40㎡ (5,136.40㎡)			50,872.22㎡ (50,872.22㎡)			
教室・教員研究室		教室	98室	教員研究室			119室			
								大学全体（東筑紫短期大学と共用を含む）		
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点			
	大学全体	116,352 [7,234] (116,352 [7,234])	48 [6] (48 [6])	167 [45] (167 [45])	27 [27] (27 [27])	11,876 (11,876)	106 (106)	図書については 短大と共用		
	計	116,352 [7,234] (116,352 [7,234])	48 [6] (48 [6])	167 [45] (167 [45])	27 [27] (27 [27])	11,876 (11,876)	106 (106)			
スポーツ施設等		スポーツ施設		講堂		厚生補導施設		大学全体 (東筑紫短期大学と共用) スポーツ施設 (体育館)と講堂は兼用		
		2,683.78㎡		2,683.78㎡		1392.84㎡				

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には電子ジャーナル、データベースの整備費(運用コスト)を含む	
		教員1人当り研究費等		550千円	550千円	550千円	550千円	550千円	550千円		550千円
		共同研究費等		2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円		2,000千円
		図書購入費	6,599千円	2,060千円	2,275千円	2,516千円	2,786千円	2,786千円	2,786千円		2,786千円
	設備購入費	180,615千円	33,491千円	3,289千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円		
	学生1人当り納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		食物栄養学部食物栄養学科		1,270千円	1,040千円	1,040千円	1,040千円	—千円	—千円		—千円
		食物栄養学部食環境データサイエンス学科		1,450千円	1,220千円	1,220千円	1,220千円	—千円	—千円		—千円
		リハビリテーション学部理学療法学科		1,450千円	1,220千円	1,220千円	1,220千円	—千円	—千円		—千円
		リハビリテーション学部作業療法学科		1,450千円	1,220千円	1,220千円	1,220千円	—千円	—千円		—千円
こども教育学部こども教育学科			1,330千円	1,100千円	1,100千円	1,100千円	—千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			補助金、手数料、寄付金、資産運用収入等								
既設大学等の状況	大学等の名称		九州栄養福祉大学								
	学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
			年	人	年次人	人		倍			
	食物栄養学部食物栄養学科		4	100	3年次10	420	学士(食物栄養学)	1.01 1.01	平成13年度	北九州市小倉北区下到津五丁目1番1号	
	リハビリテーション学部理学療法学科		4	120 80	— —	480 320	学士(理学療法学)	0.99 1.12	平成23年度	北九州市小倉南区葛原高松一丁目5番1号	
	作業療法学科		4	40	—	160	学士(作業療法学)	0.72	平成23年度	同上	
	健康科学研究科健康栄養学専攻		2	4	—	8	修士(健康科学)	0.25	平成17年度	北九州市小倉北区下到津五丁目1番1号	
	大学等の名称		東筑紫短期大学								
	学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
			年	人	年次人	人		倍			
保育学科		2	150	—	300	短期大学士(保育学)	0.69	昭和29年度	北九州市小倉北区下到津五丁目1番1号		
食物栄養学科		2	70	—	140	短期大学士(食物栄養学)	1.10	昭和33年度	同上		
附属施設の概要		名称：認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園 目的：幼稚園型認定こども園の運営 所在地：北九州市小倉北区下到津五丁目3番14号 設置年月：昭和27年5月 規模等：土地1,904㎡、建物3,071㎡									

(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあっては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあっては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあっては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人東筑紫学園 設置認可等に関する組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
九州栄養福祉大学				九州栄養福祉大学				
食物栄養学部				食物栄養学部				
		3年次				3年次		
食物栄養学科	100	10	420	食物栄養学科	100	10	420	
				食環境データサイエンス学科	<u>50</u>	-	<u>200</u>	学科の設置(届出)
リハビリテーション学部				リハビリテーション学部				
理学療法学科	80	-	320	理学療法学科	80	-	320	
作業療法学科	40	-	160	作業療法学科	40	-	160	
				<u>こども教育学部</u>				学部の設置(認可申請)
				<u>こども教育学科</u>	<u>50</u>	-	<u>200</u>	
計				計				
	220	10	900		<u>320</u>	10	<u>1300</u>	
九州栄養福祉大学大学院				九州栄養福祉大学大学院				
健康科学研究科				健康科学研究科				
健康栄養学専攻	4	-	8	健康栄養学専攻	4	-	8	
計				計				
	4	-	8		4	-	8	
東筑紫短期大学				東筑紫短期大学				
保育学科	150	-	300	保育学科	<u>70</u>	-	<u>140</u>	定員変更(△80)
食物栄養学科	70	-	140	食物栄養学科	<u>50</u>	-	<u>100</u>	定員変更(△20)
専攻科 介護福祉専攻	30	-	30	専攻科 介護福祉専攻	30	-	30	
計				計				
	250	-	470		<u>150</u>	-	<u>270</u>	

最寄り駅からの距離や公共交通機関がわかる地図



九州栄養福祉大学
東筑紫短期大学

〒803-0846
福岡県北九州市小倉北区下津5丁目1番1号
JR西小倉駅からバスで約12分
JR南小倉駅から徒歩で約15分

小倉北区キャンパス配置図

- 食環境データサイエンス学科専用
- 共用

←至八幡

至小倉駅→



九州栄養福祉大学 学則（案）

第1章 総 則

（目 的）

第1条 九州栄養福祉大学（以下「本学」という。）は教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、建学の精神と教育理念に基づいて高等学校教育の基礎の上に広く知識を授けると共に人格の完成をはかり、専門知識技能を教授研究し人類社会の福祉に貢献する人材の養成を目的とする。

（自己点検・評価）

第2条 本学は、教育研究の水準の向上を図り、本学の教育目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動の状況について自ら点検及び評価を行う。

2 前項の点検及び評価を行うにあたっての項目の設定、実施体制等については別に定める。

第2章 学部、学科、修業年限及び入学定員、収容定員

（学部、学科、入学定員、収容定員）

第3条 本学において設置する学部、学科及びその入学定員、収容定員は次の通りとする。

学 部	学 科	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
食 物 栄 養 学 部	食物栄養学科	100人	10人	420人
	食環境データサイエンス学科	50人	—	200人
リハビリテーション学部	理学療法学科	80人	—	320人
	作業療法学科	40人	—	160人
こども教育学部	こども教育学科	50人	—	200人

（学部・学科の目的）

第4条 各学部・学科における人材養成並びに教育研究上の目的を以下の通り定める。

一 食物栄養学部

建学の精神に基づき、生命の源である食を通して福祉を実現するという使命感・方法意識のもと、実践的な食指導を行い、また食品の生産・流通を含む広範な食環境領域に対し大量のデータ収集・分析を行う専門家を養成し、「食の番人」として豊かな食生活と健康という観点から地域社会の持続的発展に寄与し得る人材を養成する。

(1) 食物栄養学科

本学教育への理解を基礎に、幅広い教養を涵養し、管理栄養士としての基本的知識・技術を修得させ、医療、介護、福祉、食品産業・流通分野などにおいて実践的な役割を果た

し得る専門的知識・技術に長けた管理栄養士を養成する。

(2) 食環境データサイエンス学科

食品の生産・流通・医療・福祉・環境に関する幅広い知識とこれらに関連する多量のデータ収集・分析能力を有し、食の課題について多角的にアプローチにより解決することのできるデータサイエンティストを養成する。

二 リハビリテーション学部

高度な医学的知識と技術を修得し、対象者の心身に寄り添いつつ的確なアプローチを行えることに加え、人々の健康で幸福な生活を守る健康生活の番人としての役割を果たせる理学療法士・作業療法士を養成する。

(1) 理学療法学科

人の動きやその機能を医学的に分析・考察しながら、運動を治療や指導の手段として活用する科学的な根拠をもとに、治療対象者一人ひとりに満足感を提供できる理学療法士を養成する。

(2) 作業療法学科

治療対象者のそばにいて、人との信頼関係を大切にしながら物理的・技術的・精神的な面において生活を支えることができる作業療法士を養成する。

三 こども教育学部

社会が大きく変動する中、主体的かつ柔軟に対応する力が求められていることから、建学の精神を基盤に、自ら考え、実践的に行動する力とその指導力を身に付け、地域社会における子育てや教育の中核となり得る教育者・保育者を育成する。

(1) こども教育学科

建学の精神を基盤とした豊かな人格形成とともに、変化の激しい現代社会における諸課題を主体的かつ柔軟に解決するための知識と指導力を有し、こどもたちのみならず、幅広い世代とこれらの力を共有することができる教育者・保育者を養成する。

(修業年限及び在学年限)

第5条 本学の修業年限は4年とする。

2 在学年限は8年を超えることはできない。但し、編入学、転入学又は再入学により入学した学生は、入学後の修業年数の2倍に相当する年限を超えて在学することができない。

第3章 教育課程

(開設授業科目及びその単位数)

第6条 本学において開設する授業科目及び単位数は別表第1の通りとする。

第4章 履修の方法、学修の評価、課程修了の認定及び卒業

(履修の方法)

第7条 履修の方法は次の通りとする。

- 一 卒業するためには4年以上在学し、必修単位を含めて124単位以上を修得しなければならない。
- 二 基礎教養科目は必修単位を含めて24単位以上修得しなければならない。

(履修する科目の登録及び上限)

第8条 学生は、当該年度において履修する授業科目を開講の始めに登録しなければならない。

- 2 学生は、前項により登録した授業科目以外の授業科目を履修し、また単位を修得することはできない。
- 3 各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として修得すべき単位数については、1年間または1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を別に定める。
- 4 所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認めることがある。

(単位修得の認定)

第9条 各授業科目に対する課程を修了した者には単位を与える。

第10条 単位修得の認定は試験、論文、その他の方法によるものとし、その方法については各授業科目の担当者が定める。

(試験等の時期)

第11条 試験は毎年2回とし、前期及び後期の終りに定期に行う。

但し、定期試験のほか随時に試験を行うことがある。

(再試験)

第12条 所定の単位を修得できない者に対しては再試験を行うことがある。

(追試験)

第13条 疾病、その他やむを得ない事由によって試験を受けることができなかつた者に対しては追試験を行うことがある。

(学修の評価)

第14条 試験の成績は、秀・優・良・可・不可で表し、秀・優・良・可を合格とする。

(試験に関する細則)

第15条 試験に関する細部の規定は別に定める。

(単位の計算方法)

第 16 条 各授業科目に対する単位数は次の基準により計算する。

- 一 講義については 15 時間の授業をもって 1 単位とする。
- 二 演習については 30 時間の授業をもって 1 単位とする。但し、当該授業の教育効果、授業時間外に必要な学修を考慮して、15 時間の授業をもって 1 単位とすることができる。
- 三 実験・実習及び実技については 45 時間の授業をもって 1 単位とする。但し、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修を考慮して、30 時間の授業をもって 1 単位とすることができる。

(教育内容等の改善)

第 17 条 本学に授業内容及び方法の改善を図るための委員会を設け、研修及び研究を実施する。

- 2 前項の委員会については別に定める。

(卒業の条件)

第 18 条 本学を卒業するために必要な授業科目及び単位数は別表第 1 の通りとする。

(資格の取得)

第 19 条 栄養士法第 2 条第 1 項の規定に基づく栄養士の免許を受けようとする者は、食物栄養学科に在籍し、第 18 条に規定する卒業の条件を充足し、かつ栄養士法施行規則に基づき本学が定めた科目及び単位を修得しなければならない。

第 20 条 栄養士法第 5 条の 3 の規定に基づく管理栄養士国家試験の受験資格を得るためには、食物栄養学科に在籍し、第 18 条に規定する卒業の条件を充足し、かつ栄養士法施行令及び管理栄養士学校指定規則に基づき本学が定めた科目及び単位を修得しなければならない。

- 2 食品衛生法第 30 条第 1 項の規定に基づく食品衛生監視員および第 48 条第 1 項並びに第 6 項の 3 の規定に基づく食品衛生管理者の任用資格を得るには、食物栄養学科に在籍し、第 18 条に規定する卒業の条件を充足し、かつ食品衛生法施行令及び食品衛生法施行規則に基づき本学が定めた科目及び単位を修得しなければならない。

第 21 条 食物栄養学部食物栄養学科において、教育職員免許法別表第 2 の 2 の規定に基づく栄養教諭一種免許状を得るためには前条の規定によるほか、教育職員免許法施行規則に基づき本学が定めた科目及び単位を修得しなければならない。

- 2 こども教育学部こども教育学科において、教育職員免許法別表第 1 の規定に基づく幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭の一種免許状を得るためには、教育職員免許法施行規則に基づき本学が定めた科目及び単位を修得しなければならない。
- 3 こども教育学部こども教育学科において、保育士資格を得るためには、児童福祉法及び児童福祉法施行規則に基づき本学が定めた科目及び単位を修得しなければならない。

第 22 条 理学療法士及び作業療法士法第 11 条第 1 号の規定に基づく理学療法士国家試験の受験資格を得るためには、理学療法学科に在籍し、第 18 条に規定する卒業の条件を充足し、かつ理学

療法士作業療法士学校養成施設指定規則に基づき本学が定めた科目及び単位を修得しなければならない。

第 23 条 理学療法士及び作業療法士法第 12 条第 1 号の規定に基づく作業療法士国家試験の受験資格を得るためには、作業療法学科に在籍し、第 18 条に規定する卒業の条件を充足し、かつ理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に基づき本学が定めた科目及び単位を修得しなければならない。

(卒業の認定及び学位の授与)

第 24 条 本学に 4 年以上在学し、第 18 条に定める単位を修得した者に対しては、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。

第 25 条 本学を卒業した者に対しては、次の区分に従い学士の学位を授与する。

食物栄養学部	食物栄養学科	学士 (食物栄養学)
	食環境データサイエンス学科	学士 (食環境データサイエンス)
リハビリテーション学部	理学療法学科	学士 (理学療法学)
	作業療法学科	学士 (作業療法学)
こども教育学部	こども教育学科	学士 (こども教育学)

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第 26 条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60 単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。
- 3 前 2 項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

(大学以外の教育施設等における学修)

第 27 条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

- 2 前項により与えることのできる単位数は、編入学及び転入学等の場合を除き、前条第 1 項により修得したものとみなした単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。
- 3 前 2 項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

(入学前の既修得単位等の認定)

第 28 条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 学生が入学する前の前条第 1 項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

- 3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学及び転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えないものとする。
- 4 前3項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

第5章 入学、退学、休学、転学、復学

(入学の時期)

第29条 入学の時期は毎年学年の始めとする。

(入学の資格)

第30条 本学に入学し得る者は次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

- 一 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者
- 二 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）
- 三 外国において学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- 四 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- 五 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- 六 文部科学大臣の指定した者
- 七 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験（旧規程による大学入学資格検定）に合格した者
- 八 本学において個別の入学資格審査により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で18歳に達した者

(入学の出願)

第31条 本学への入学を志願する者は、入学願書に所定の入学検定料及び別に定める書類を添えて願い出なければならない。

(入学者の選考)

第32条 前条の入学志願者については入学試験により選考を行う。

第33条 入学試験に関する細則は別に定める。

(入学手続き及び入学許可)

第34条 第32条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の誓約書に入学金を添え指定

の期日迄に提出しなければならない。入学の手続きを完了した者に入学を許可する。

- 2 理由なくして前項の手続きを怠った者は、入学を取り消すことがある。
- 3 納付した入学金は返還しない。

第 35 条 前条の誓約書に連署する保護者は親族又は縁故者で学生の在学中の一切の責任を負うものである。

(退 学)

第 36 条 退学を願う者は、その理由を記して保護者連署をもって学長に願い出て許可を受けなければならない。

但し、疾病のため退学しようとする場合は医師の診断書を添付しなければならない。

(除 籍)

第 37 条 次の各号の 1 に該当する者は除籍する。

- 一 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- 二 第 5 条に定める在学年限を超えた者
- 三 第 40 条第 3 項に定める休学期間を超えてなお修学できない者
- 四 長期にわたり行方不明の者

(復 籍)

第 38 条 前条第 1 号により除籍となった者が、復籍を願い出た時は、教授会の議を経て復籍することができる。但し、未納の学費を納付しなければならない。

- 2 前項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

(休 学)

第 39 条 疾病その他やむを得ない事由により引き続き 3 ヶ月以上修学することのできない者は学長の許可を得て休学することができる。

- 2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることがある。

(休学の期間)

第 40 条 休学の期間は 1 年以内とする。但し、特別の事由のある場合は、1 年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

- 2 休学期間は在学期間に算入しない。
- 3 休学期間は通算して 4 年を超えることができない。

(復 学)

第 41 条 休学期間中に休学の事由がなくなった場合は学長の許可を得て復学することができる。

(再 入 学)

第 42 条 退学した者が、1 年以内に再入学を願い出た時は、学年始めにおいて選考の上、原学年に入学許可することがある。

(転 学)

第 43 条 学生が他の大学に転学または受験しようとするときは、学長の許可を得なければならない。

(転 入 学)

第 44 条 本学に転入学を希望する者があるときは、欠員のある場合に限り選考の上、転入学を許可することがある。転入学を希望する者は現に在学する学長の承認書を提出しなければならない。

- 2 転入学の時期は学年の始めまたは、学期始めとし本人の既修の授業科目及び単位並びに在学年数については、その一部又は全部を本学において認定して今後履修すべき授業科目及び単位数並びに在学年数を決定する。

(編 入 学)

第 45 条 編入学を希望する者があるときは、選考の上教授会の議を経て、学長が入学を許可することがある。ただし、食物栄養学部食物栄養学科を除いては欠員が生じた場合に限る。

- 2 編入学の時期及び履修すべき授業科目、単位、在学年数については別に定める。

第 6 章 授業料その他の学費

(授業料その他の納付金)

第 46 条 入学検定料、入学金、授業料等は別表第 2 の通りとする。

- 2 授業料等は前・後期 2 期分納とする。但し、申出によってさらに分割納入を認めることがある。
- 3 編入学した者の授業料等については、編入した当該学年の授業料等の額とする。
- 4 東筑紫短期大学から編入した者の入学金については、編入学した当該学年の額を適用し、これを半額免除する。

(授業料その他の納付金の納入時期)

第 47 条 学生は所定の期日までに授業料等を納付しなければならない。

- | | | |
|------|------------|-------------|
| 一 前期 | 4 月 1 日から | 4 月 20 日まで |
| 二 後期 | 10 月 1 日から | 10 月 20 日まで |

(復学等の場合の授業料)

第 48 条 前期又は後期中途において、復学又は入学した者は、復学又は入学した月の属する期の授業料等を復学又は入学した月に納付しなければならない。

(学年途中で卒業する場合の授業料)

第 49 条 学年の途中で卒業する見込みの者は卒業する見込みの月の属する期の授業料等を納付するものとする。

(休学の場合の授業料)

第 50 条 授業料等は休学の場合は免除する。但し、休学を許可され又は命ぜられた者については、休学の始まる前日及び休学の終わった翌日の属する期の学費は納付しなければならない。

(退学及び停学の場合の授業料)

第 51 条 前期又は後期の途中で退学し又は除籍された者の該当期分の授業料等は徴収する。
2 停学期間中の授業料等は徴収する。

(授業料その他の学費の不還付)

第 52 条 一旦納めた検定料、入学金及び授業料等はいかなる理由によるも返付しない。

(授業料等減免)

第 53 条 成績優秀な者であつてやむを得ない事情により学資の支弁困難な者に対しては教授会の議を経て授業料等を免除あるいは貸与することがある。これらの場合に関する細部の規定はこれを別に定める。

(社会人及び外国人留学生等の授業料)

第 54 条 社会人、外国人留学生、研究生、委託生、科目等履修生、特別聴講学生の検定料及び授業料等については別に定める。

第 7 章 職 員 組 織

(職 員)

第 55 条 本学には学長、学長補佐、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員及びその他の職員を置く。

2 学長は、本学教育事業及び事務を総括主宰するとともに、すべての校務をつかさどり、所属の教職員を統督する。

(職員の職務)

第 56 条 職員の職務に関しては学校教育法その他法令の定めあるもののほか、別に定めるところによる。

第8章 教授会に関する事項

(教授会)

第57条 本学に教授会を置く。但し、学長が、必要と認めるときは、学部教授会を開くことができる。

(教授会の構成)

第58条 教授会は、学長、学長補佐及び当該学部に所属する教授をもって組織する。

2 教授会は、学長が必要と認めるときは、准教授、講師及び助教、その他専門性を有する職員を加えて、第61条に規定する事項について、審議することができる。

(教授会の招集)

第59条 教授会は学長がこれを招集する。但し、学長にやむを得ざる支障ある場合は学長補佐がこれに代って招集することがある。

2 学長は教授会の構成員の3分の2以上から議題を示して要求があった場合には、要求のあった日から7日以内に教授会を招集しなければならない。

3 学長は教授会の議長となる。但し、学長にやむを得ざる支障ある場合は学長補佐が代行する。

(教授会の開催)

第60条 教授会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開催することはできない。

(審議事項)

第61条 教授会の審議すべき事項は次に掲げるものとする。

- 一 学位の授与
- 二 学則及びその他学内規則の制定・改廃に関する事項
- 三 教育課程及び授業に関する事項
- 四 入学試験に関する事項
- 五 学生の試験並びに課程修了に関する事項
- 六 学生の入学、成績考査及び卒業に関する事項
- 七 学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
- 八 教員の教育研究及び教育研究業績の審査等に関する事項

但し、資格審査に関する教育研究業績等の審査に関しては、「九州栄養福祉大学教員選考規程」に基づくものとする。

九 自己点検・評価に関する事項

2 教授会は前項に規定するもののほか、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(運営細則の委任)

第62条 その他教授会の運営に関し必要とする事項については、別に定める。

第9章 図書館その他附属施設

(図書館)

第63条 本学に図書館を設ける。図書館に関する規定は別に定める。

(附属研究所)

第64条 本学に附属研究所を設ける。附属研究所に関する規定は別に定める。

第10章 研究生、委託生、科目等履修生、特別聴講学生

(研究生)

第65条 本学を卒業した者又はこれと同等以上の学力を有する者で特に本学で研究を希望する者があるときは、選考の上、研究生として入学を許可することがある。

(科目等履修生)

第66条 本学の授業科目中特定の科目の履修を希望する者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

- 2 前項で履修を許可された科目等履修生に対し単位を与えることができる。
- 3 科目等履修生に関して必要な事項は、別に定める。

(特別聴講学生)

第67条 本学において、他の大学又は短期大学との単位互換協定により前条の規定による学生の履修を許可する場合は特別聴講学生として取り扱う。

- 2 特別聴講学生に関して必要な事項は、別に定める。

(委託生)

第68条 公共団体その他の機関から本学の特定の授業科目につき学修を委託された者があるときは、選考の上、委託生として入学を許可することがある。

- 2 前項で履修を許可された委託生に対し単位を与えることができる。
- 3 委託生に関して必要な事項は、別に定める。

第11章 外国人留学生

(外国人留学生)

第69条 外国人で本学に入学を志願する者に対しては、特別選考の上、入学を許可することがある。

- 2 外国人留学生に関して必要な事項は、別に定める。

第12章 学年、学期及び休業日並びに授業日数

(学 年)

第70条 学年は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(学 期)

第71条 学年は次の2学期に分ける。

前 期 4月1日より 9月20日まで

後 期 9月21日より 3月31日まで

(休 業 日)

第72条 休業日は次の通りとする。

日曜日・国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

本学創立記念日 3月 3日

春 季 休 業 4月 1日から 4月 5日まで

夏 季 休 業 8月 13日から 9月 12日まで

冬 季 休 業 12月 25日から 翌年1月7日まで

- 2 学長は、必要がある場合は、前項の休業日を臨時に変更することができる。
- 3 学長は、第1項に規定するもののほか、臨時の休業日を定めることができる。

(授 業 期 間)

第73条 1年間の授業期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

第13章 賞 罰

(表 彰)

第74条 学生として表彰に値する行為があった者に対しては、教授会の議を経て学長が表彰することがある。

(懲 戒)

第75条 本学の規則等に違反し、または学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

- 2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

第76条 退学は次の各号の1に該当する者に対して行う。

- 一 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- 二 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- 三 正当の事由がなくて出席が常でない者
- 四 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第14章 学 生 寮

(学 生 寮)

第77条 本学に学生寮を設ける。

第78条 学生寮には寮監その他の職員を置く。

第79条 学生寮に関する細部の規定は別に定める。

第15章 公 開 講 座

(公開講座)

第80条 学校教育法第107条に基づき、社会人の教養を高め、地域社会の文化の向上に資するため、本学に公開講座を開講することがある。

附 則

- 1 本学則は令和7年4月1日から之を施行する。
- 2 令和6年度以前の入学生については旧学則による。

別表第1

食物栄養学部 食物栄養学科

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
基 礎 教 養 科 目	本学教育への理解				初年次教育含む
	建学の思想	2		2	
	キャリアガイダンスⅠ	2	2		
	キャリアガイダンスⅡ	2	2		
	食と哲学	2	2		
	倫理学	2	2		
	食と福祉	2		2	
	栄養士のための農園演習	1		1	
	人間と文化への理解				
	文 学	2		2	
	文章校正と編集	2		2	
	人間関係の心理	2		2	
	人間と社会への理解				
	日本国憲法	2		2	
	栄養士の法制度論	2		2	
	食と経済	2		2	
	生活とマスコミ	2		2	
	人間と科学への理解				
	基礎生物学	2		2	
	食物と薬	2		2	
	基礎化学	2		2	
	化 学	2	2		
	生命と科学	2		2	
	基礎統計学	2	2		
	コンピュータリテラシーⅠ	1		1	
	コンピュータリテラシーⅡ	1		1	
	語学と国際社会への理解				
	実用英語の基礎Ⅰ	1	2	2	
実用英語の基礎Ⅱ	1				
語学の理解	2				
実用英語Ⅰ	1		1		
実用英語Ⅱ	1		1		
フランス語の基礎	1		1		
料理とフランス語	1		1		
中国語の基礎	1		1		

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
基礎 教養 科目	語学と国際社会への理解				
	料理と中国語	1		1	
	国際理解のための基礎英語	2		2	
	国際理解（海外研修）	2		2	
	健康と運動への理解				
	健康スポーツ科学Ⅰ	2	2		
健康スポーツ科学Ⅱ	2		2		
スポーツ栄養学	2		2		
基礎教養科目 24 単位以上必修					
専 門 教 育 科 目	管理栄養士基本科目				
	社会・環境と健康				
	健康管理概論	2		2	
	公衆衛生学Ⅰ	2	2		
	公衆衛生学Ⅱ	2		2	
	社会福祉論	2	2		
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち				
	解剖生理学Ⅰ	2	2		
	解剖生理学Ⅱ	2	2		
	生化学Ⅰ	2	2		
	生化学Ⅱ	2	2		
	病態生理学	2	2		
	疾病の成り立ちと病態	2	2		
	運動生理学	2	2		
	微生物学	2	2		
	生化学実験	1	1		
	解剖生理学実習	1	1		
	解剖生理学実験	1	1		
	食べ物と健康				
	食品学総論	2	2		
	食品衛生学	2	2		
	食品加工学	2	2		
	調理学	2	2		
食品学実験Ⅰ	1	1			
食品学実験Ⅱ	1	1			
食品加工学実習	1	1			
食品衛生学実験	1	1			

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
専 門 教 育 分 野	食べ物と健康	調理学実習Ⅰ	1	1	
		調理学実習Ⅱ	1	1	
		調理学実習Ⅲ	1	1	
		基礎栄養学			
		基礎栄養学	2	2	
		基礎栄養学実験	1	1	
	応用栄養学				
		応用栄養学Ⅰ	2	2	
		応用栄養学Ⅱ	2	2	
		応用栄養学Ⅲ	2		2
		応用栄養学実習	1	1	
	栄養教育論				
		栄養教育論Ⅰ	2	2	
		栄養教育論Ⅱ	2	2	
		栄養教育論Ⅲ	2		2
		栄養教育論実習Ⅰ	1	1	
		栄養教育論実習Ⅱ	1	1	
	臨床栄養学				
		臨床栄養学Ⅰ	2	2	
		臨床栄養学Ⅱ	2	2	
		臨床栄養学Ⅲ	2		2
		食物とアレルギー	2	2	
		臨床栄養学実習Ⅰ	1	1	
		臨床栄養学実習Ⅱ	1	1	
	公衆栄養学				
		公衆栄養学Ⅰ	2	2	
		公衆栄養学Ⅱ	2	2	
		公衆栄養学実習	1	1	
	給食経営管理論				
		給食管理	2	2	
	給食経営管理論	2	2		
	給食管理実習	1	1		

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考	
専 門 分 野	総合演習					
	食健康センター活動（演習）	1		1		
	臨地実習指導（演習）	1		1		
	臨地実習					
	臨地実習Ⅰ	2		2		
	臨地実習Ⅱ	1		1		
	臨地実習Ⅲ	1	1			
	専門基礎科目					
	栄養カウンセリング	2		2		
	栄養情報処理演習Ⅰ	1	1			
	栄養情報処理演習Ⅱ	1	1			
	食品学各論	2	2			
	食品基礎実験	1	1			
	有機化学	2	2			
	福祉分野					
	栄養福祉論	2	2			
	社会福祉援助技術	2	2	7		
	高齢者心理学	2				
	育児と栄養	2				
	リハビリテーション概論	2				
	食事介助実習（学外）	1				
実践栄養分野						
料理特別実習Ⅰ	1	1	2			
料理特別実習Ⅱ	1					
料理特別実習Ⅲ	1					
管理栄養士演習ⅠA	2	2				
管理栄養士演習ⅠB	2	2				
管理栄養士演習Ⅱ	2		2			
運動処方論	2	2				
食と健康分野						
食品機能論	2	2	8			
栄養薬理学Ⅰ	2					
栄養薬理学Ⅱ	2					
栄養士のための薬膳	2					
細菌性食中毒学	2					

福祉施設

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
専 門 教 育 科 目	食品産業・流通分野				
	食品バイオテクノロジー	2		2	
	食卓デザイン論	2		2	
	食品の官能評価・鑑別演習	2		2	
	食品流通論	2		2	
	卒業研究				
	キャリアデザイン	2	2		
	専門ゼミナール	2	2		
	卒業論文	2		2	
	専門教育科目 100 単位以上必修				
卒業単位 124 単位以上必修					
教職に関する専門教育科目					
	児童・生徒の栄養指導Ⅰ	2		2	
	児童・生徒の栄養指導Ⅱ	2		2	
	教育原理	2		2	
	教職概論	2		2	
	教育制度論	1		1	
	教育心理学	2		2	
	特別支援教育概論	1		1	
	教育課程論	1		1	
	道德教育の理論と方法	1		1	
	総合的な学習と特別活動	1		1	
	教育方法論	1		1	
	生徒指導の理論と方法	2		2	
	教育相談（カウンセリング含む）	2		2	
	栄養教育実習	1		1	
	栄養教育実習事前・事後指導	1		1	
	教職実践演習（栄養教諭）	2		2	

食物栄養学部 食環境データサイエンス学科

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
基 礎	本学教育への理解				初年次教育含む
	キャリアガイダンスⅠ	1	1		
	キャリアガイダンスⅡ	1	1		
	キャリアガイダンスⅢ	1	1		
	キャリアガイダンスⅣ	1	1		
	食環境データサイエンス概論	2	2		
	食環境イノベーションデザイン	2	2		
農園演習	1		1		
礎 教 養	人間と文化・社会・化学への理解				
	食と経済	2		2	
	人間関係の心理	2		2	
	基礎生物学	2		2	
	基礎化学	2		2	
	化 学	2	2		
	リハビリテーション概論	2		2	
	コンピュータリテラシー	1	1		
AI・データサイエンス入門	1	1			
科 目	語学と国際社会への理解				
	実用英語の基礎Ⅰ	1	1		
	実用英語の基礎Ⅱ	1	1		
	実用英語	1		1	
	国際理解（海外研修）	2		2	
目	健康と運動への理解				
	健康スポーツ科学Ⅰ	1	1		
	健康スポーツ科学Ⅱ	1	1		
	健康スポーツ科学Ⅲ	1		1	
	健康スポーツ科学Ⅳ	1		1	
基礎教養科目 24 単位以上必修					

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考	
専 門 教 育 科 目	食と健康科目	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち				
		解剖生理学	2		2	
		生化学	2	2		
		疾病の成り立ちと病態	2		2	
		運動生理学	2		2	
		食品分子機能学	2	2		
		微生物学	2	2		
		食べ物と健康				
		食品学総論	2	2		
		食品衛生学	2	2		
		食品加工学	2	2		
		栄養学				
	基礎栄養学	2	2			
	応用栄養学	2		2		
	臨床栄養学	2		2		
	公衆栄養学	2		2		
	スポーツ栄養学	2		2		
	データサイエンス科目	数学基礎科目				
		微積分学基礎	2	2		
		データサイエンスのための微積分学	2	2		
		線形代数基礎	2	2		
		データサイエンスのための線形代数	2	2		
		確率統計学基礎	2	2		
		データサイエンスのための確率統計学	2	2		
		データサイエンスのための応用数学	2	2		
		コンピュータシステム科目				
		プログラミング基礎	2	2		
プログラミング演習		1	1			
情報ネットワーク		2	2			
データベース入門		2	2			
センシングと信号処理		2	2			

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
専 門 教 育 科 目	データサイエンス科目	データサイエンス基礎科目			
		機械学習基礎	2	2	
		機械学習演習	1	1	
		データ解析基礎	2	2	
		データ解析演習	1	1	
		ニューラルネット基礎	2	2	
		ニューラルネット演習	1	1	
		データサイエンス実践科目			
		マルチモーダル AI 技術と応用	2		2
		データ駆動型意思決定と可視化	2		2
		食農健康データサイエンス	2	2	
		先端 AI 論	2	2	
		フードウェルネスデータサイエンス	2	2	
		バイオインフォマティクス	2	2	
		先端ロボティクス論	2	2	
		社会とデータサイエンス			
		マーケティングとデータサイエンス	2	2	
		マネジメントとデータサイエンス	2	2	
	人間と AI	2	2		
	食環境マネジメント科目				
	マーケティング論	2		2	
	マーケティングリサーチ	2		2	
	流通システム論	2		2	
	消費者行動論	2		2	
	サプライチェーンマネジメント学	2	2		
	アグリビジネスマネジメント学	2	2		
	食環境地域連携演習	1		1	
インターンシップ	1		1		
アントレプレナー論	2	2			
アントレプレナー演習	1	1			
卒業研究					
データサイエンス基礎演習	1	1			
データサイエンス実践演習	1	1			
卒業研究	8	8			
専門教育科目 100 単位以上必修					
卒業単位 124 単位以上必修					

リハビリテーション学部 理学療法学科

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
基礎教養科目／科学的思考の基礎・人間と生活・社会の理解	本学教育への理解				初年次教育含む 初年次教育含む
	キャリア教育	2	2		
	スタートアップ教育Ⅰ	1	1		
	スタートアップ教育Ⅱ	1	1		
	健康と栄養	2	2	2	
	北九州市のノーマライゼーション	2			
	食と農園	1		1	
	人間と文化・社会への理解				4 4
	医療人のための教育学Ⅰ	2	2		
	社会福祉と地域ケア	2	2		
	医学倫理学	2	2		
	基礎心理学	2	4	4	
	医療人のための教育学Ⅱ	2			
	医療人のための哲学	2			
	医療人のための法学	2			
	人間と科学への理解				2 6
	基礎生物学	2	2	6	
	基礎物理学	2			
	基礎化学	2			
	医療人のための科学	2			
	情報処理演習Ⅰ	1	1		
	情報処理演習Ⅱ	1	1		
	健康スポーツ科学	1	1		
	語学と国際社会への理解				1 4
実用英語の基礎Ⅰ	1	1			
英会話Ⅰ	1	1			
実用英語の基礎Ⅱ	1	1	4		
英会話Ⅱ	1				
フランス語の基礎	1				
中国語の基礎	1				
韓国語の基礎	1				
基礎教養科目 24 単位以上必修					

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能及び心身の発達				
	解剖学Ⅰ	2	2		
	解剖学Ⅱ	2	2		
	生理学Ⅰ	2	2		
	生理学Ⅱ	2	2		
	解剖生理学総合実習	1	1		
	運動学Ⅰ	2	2		
	運動学Ⅱ	2	2		
	人間発達学	2	2		
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進				
	病理学	2	2		
	臨床心理学	2	2		
	小児科学	2	2		
	内科学	2	2		
	整形外科学	2	2		
	神経内科学	2	2		
	精神医学Ⅰ	2	2		
	臨床医学とリハビリテーション	2	2		
	リハビリテーション栄養学	2	2		
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念				
	リハビリテーション概論	2	2		
	地域保健学	2	2		
	臨床統計	1	1		

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
専 門 科 目	基礎理学療法学				
	理学療法学概論	2	2		初年次教育含む
	理学療法ゼミナールⅠ	1	1		
	理学療法ゼミナールⅡ	1	1		
	理学療法ゼミナールⅢ	1	1		
	理学療法基礎演習	1	1	2	
	理学療法総合研究	2			
	理学療法研究法演習	1	1		
	理学療法管理学				
	理学療法管理学	2	2		
	理学療法評価学				
	理学療法評価学Ⅰ	2	2		
	理学療法評価学Ⅱ	1	1		
	理学療法評価学Ⅲ	1	1		
	理学療法評価学統合演習Ⅰ	1	1		
	理学療法評価学統合演習Ⅱ	1	1		
	動作分析演習Ⅰ	1	1		
	動作分析演習Ⅱ	1	1		
	理学療法治療学				
	運動療法学概論	2	2		
	運動療法学演習	1	1		
	物理療法Ⅰ	1	1		
	物理療法Ⅱ	1	1		
	義肢装具学	2	2		
	高次脳機能理学療法	1	1		
	中枢神経疾患理学療法Ⅰ	1	1		
	骨・関節疾患理学療法Ⅰ	1	1		
	神経・筋疾患理学療法	1	1		
	内部疾患理学療法Ⅰ	1	1		
小児理学療法Ⅰ	1	1			
義肢装具学演習	1	1			
中枢神経疾患理学療法Ⅱ	1	1			
骨・関節疾患理学療法Ⅱ	1	1			
内部疾患理学療法Ⅱ	1	1			
小児理学療法Ⅱ	1	1			
日常生活活動演習	1	1			
理学療法総合演習Ⅰ	1	1			
理学療法総合演習Ⅱ	1	1			
高齢期理学療法学	2	2			

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考	
専 門 科 目	スポーツ系理学療法	1	2	3		
	パラスポーツ	1				
	先端医療と理学療法	1				
	性差医療と理学療法	1				
	予防理学療法	1				
	地域理学療法学					
	生活環境論	2	2			
	地域理学療法学	2	2			
	臨床実習					
	臨床実習Ⅰ	1	1			
	臨床実習Ⅱ	4	4			
	臨床実習Ⅲ	7	7			
	臨床実習Ⅳ	7	7			
	臨床実習Ⅴ	1	1			
	専門教育科目 104 単位以上必修					
卒業単位 128 単位以上必修						
資格取得に関する科目						
園芸概論	2		2			
園芸療法の基礎	2		2			
園芸療法実習	2		2			
ガーデニング	1		1			

リハビリテーション学部 作業療法学科

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考	
基礎 教養 科目 ／ 科学 的 思考 の 基盤 ・ 人間 と 生活 ・ 社会 の 理解	本学教育への理解				初年次教育含む 初年次教育含む	
	キャリア教育	2	2			
	スタートアップ教育Ⅰ	1	1			
	スタートアップ教育Ⅱ	1	1			
	健康と栄養	2	2	2		
	北九州市のノーマライゼーション	2				
	食と農園	1		1		
	人間と文化・社会への理解				4	4
	医療人のための教育学Ⅰ	2	2			
	社会福祉と地域ケア	2	2			
	医学倫理学	2	2			
	基礎心理学	2	4	4		
	医療人のための教育学Ⅱ	2				
	医療人のための哲学	2				
	医療人のための法学	2				
	人間と科学への理解				2	6
	基礎生物学	2	2	6		
	基礎物理学	2				
	基礎化学	2				
	医療人のための科学	2				
	情報処理演習Ⅰ	1	1			
	情報処理演習Ⅱ	1	1			
	健康スポーツ科学	1	1			
	語学と国際社会への理解				1	4
実用英語の基礎Ⅰ	1	1				
英会話Ⅰ	1	1				
実用英語の基礎Ⅱ	1	1	4			
英会話Ⅱ	1					
フランス語の基礎	1					
中国語の基礎	1					
韓国語の基礎	1					
基礎教養科目 24 単位以上必修						

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能及び心身の発達				
	解剖学Ⅰ	2	2		
	解剖学Ⅱ	2	2		
	生理学Ⅰ	2	2		
	生理学Ⅱ	2	2		
	解剖生理学総合実習	1	1		
	運動学Ⅰ	2	2		
	運動学Ⅱ	2	2		
	人間発達学	2	2		
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進				
	病理学	2	2		
	臨床心理学	2	2		
	小児科学	2	2		
	内科学	2	2		
	整形外科学	2	2		
	神経内科学	2	2		
	精神医学Ⅰ	2	2		
	精神医学Ⅱ	2	2		
	臨床医学とリハビリテーション	2	2		
	リハビリテーション栄養学	2	2		
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念				
	リハビリテーション概論	2	2		
	地域保健学	2	2		
	臨床統計	1	1		

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
専 門 科 目	基礎作業療法学				初年次教育含む
	作業療法学概論	2	2		
	基礎作業演習Ⅰ	1	1		
	基礎作業演習Ⅱ	1	1		
	基礎作業実習	1	1		
	作業療法ゼミナールⅠ	1	1		
	作業療法ゼミナールⅡ	1	1		
	作業療法管理学				
	作業療法管理学	2	2		
	作業療法評価学				
	作業療法評価学	2	2		
	身体機能作業療法評価演習Ⅰ	1	1		
	身体機能作業療法評価演習Ⅱ	1	1		
	精神機能作業療法評価演習	1	1		
	高次脳機能作業療法評価演習	1	1		
	発達期作業療法評価演習	1	1		
	生活機能評価	1	1		
	作業療法治療学				
	運動器疾患作業療法学	2	2		
	中枢神経疾患作業療法学	2	2		
	内部疾患作業療法学	2	2		
	精神疾患作業療法学Ⅰ	2	2		
	精神疾患作業療法学Ⅱ	2	2		
	発達期作業療法演習Ⅰ	1	1		
	発達期作業療法演習Ⅱ	1	1		
	義肢装具学	2	2		
	高次脳機能作業療法演習	1	1		
高齢期作業療法演習	1	1			
日常生活活動支援	1	1			
生活支援工学	2	2			
作業療法研究法	1	1			
臨床作業療法演習	1	1			
作業療法基礎演習	1	1			
作業療法専門演習	1	1			

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
専 門 科 目	手の機能と ICT	1	1	6	
	地域精神保健作業療法演習	1			
	認知症ケア支援	1			
	パラスポーツ	1			
	福祉住環境演習	1			
	作業療法総合研究	2			
地域作業療法学					
	地域作業療法学	2	2		
	地域マネジメント演習	1	1		
	職業関連支援	1	1		
臨床実習					
	臨床実習Ⅰ	2	2		
	臨床実習Ⅱ	4	4		
	臨床実習Ⅲ	8	8		
	臨床実習Ⅳ	8	8		
	臨床実習Ⅴ	1	1		
専門教育科目 108 単位以上必修					
卒業単位 132 単位以上必修					
資格取得に関する科目					
	園芸概論	2		2	
	園芸療法の基礎	2		2	
	園芸療法実習	2		2	
	ガーデニング	1		1	

こども教育学部 こども教育学科

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
基礎 教 養 科 目	本学教育への理解				初年次教育含む
	キャリア研究Ⅰ	1	1		
	キャリア研究Ⅱ	1	1		
	建学の精神と健康生活	2	2		
	人権教育概論	2	2		
	農園演習	1	1		
	社会科学				
	日本国憲法	2		2	
	society5.0の世界	2		2	
	消費者行動論	2		2	
	人文科学				
	美術	2		2	
	中国語の基礎	1		1	
	英語Ⅰ	1	1		
	英語Ⅱ	1	1		
	国際理解（海外研修）	2		2	
	自然科学				
	エネルギー代謝学	2		2	
	統計学	2		2	
	バイオサイエンス	2		2	
	化学	2		2	
	コンピュータリテラシーⅠ	1	1		
	コンピュータリテラシーⅡ	1	1		
	AI・データサイエンス入門	1		1	
デジタルメディアリテラシー	2		2		
健康スポーツ科学Ⅰ	1	1			
健康スポーツ科学Ⅱ	1		1		
基礎教養科目 24 単位以上必修					

授 業 科 目		開 講 単 位 数	必 修 単 位 数	選 択 単 位 数	備 考
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域（教科）に関する専門的事項・特別支援教育の基礎理論に関する科目				
	健康	2		2	
	人間関係	2		2	
	環境	2		2	
	言葉	2		2	
	表現	2		2	
	領域のねらい	2		2	
	こどもの表現（総合劇演習）	1		1	
	国語科教育論	2		2	
	社会科教育論	2		2	
	算数科教育論	2		2	
	理科教育論	2		2	
	生活科教育概論	2		2	
	音楽教育理論	2		2	
	造形の理論	2		2	
	家庭科教育論	2		2	
	体育	2		2	
	英語科教育概論	2		2	
	障がいと教育	2	2		
	保育内容（各教科）の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）				
	健康の指導法	1		1	
	環境の指導法	1		1	
	人間関係の指導法	1		1	
	言葉の指導法	1		1	
	表現の指導法	1		1	
	領域の指導法	1		1	
	国語科指導法	1		1	
	社会科指導法	1		1	
	算数科指導法	1		1	
理科指導法	1		1		
生活科指導法	1		1		
音楽教育基礎（ピアノ）Ⅰ	1		1		
音楽教育基礎（ピアノ）Ⅱ	1		1		
音楽教育基礎（ピアノ）Ⅲ	1		1		
音楽教育基礎（ピアノ）Ⅳ	1		1		
音楽教育応用（わらべうた）	1		1		
音楽教育応用（様々な楽器）	1		1		

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
領域及び保育内容の指導法に関する科目	保育内容（各教科）の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）				
	こどもの造形Ⅰ	1		1	
	こどもの造形Ⅱ	1		1	
	こどもの造形Ⅲ	1		1	
	家庭科指導法	1		1	
	こどもの食と栄養Ⅰ	1		1	
	こどもの食と栄養Ⅱ	1		1	
	体育科教育実践法Ⅰ	1		1	
	体育科教育実践法Ⅱ	1		1	
	英語科指導法	1		1	
	特別支援教育領域に関する科目				
	知的障害児の心理・病理・生理	2		2	
	肢体不自由児の心理・病理・生理	2		2	
	病弱児の心理・病理・生理	2		2	
	知的障害児教育	2		2	
	知的障害児指導法	2		2	
	肢体不自由児教育	2		2	
肢体不自由児指導法	2		2		
病弱児教育	2		2		
専門教育科目	教育の基礎的理解に関する科目				
	教育原理	2	2		
	教職概論	2	2		
	学校運営と制度	2	2		
	教育心理学	2	2		
	特別支援教育概論	2	2		
	教育課程・保育計画	2		2	
	初等科課程編成論	2		2	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目				
	こどもの理解と教育相談	2	2		
	道徳教育の理論と方法	2	2		
	総合的な学習の時間	2	2		
	特別活動指導論	2	2		
	教育方法論	2		2	
I C Tを活用した授業構築	2		2		
児童・生徒の生活と進路指導	2	2			

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
専 門	教育実践に関する科目				
	幼稚園教育実習Ⅰ	1		1	
	幼稚園教育実習Ⅱ	3		3	
	幼稚園教育実習事前・事後指導	1		1	
	小学校教育実習	4		4	
	小学校教育実習事前・事後指導	1		1	
	特別支援学校教育実習	2		2	
	特別支援学校教育実習事前・事後指導	1		1	
教 育 科 目	大学が独自に開設する科目				
	ボディパーカッション教育Ⅰ	1		1	
	ボディパーカッション教育Ⅱ	1		1	
	保幼小連携論	2	2		
	地域と学校	2	2		
	こどもと学校の歴史	2	2		
	教育社会学	2		2	
	学級経営論Ⅰ	2	2		
	学級経営論Ⅱ	1		1	
	生活の中のジェンダー	2		2	
	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目				
	視覚障害児教育総論	2		2	
	聴覚障害児教育総論	2		2	
	発達障害児教育総論	2		2	

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
専 門 教 育 科 目	保育の本質・目的に関する科目				
	保育原理	2	2		
	こども家庭福祉	2	2		
	社会福祉	2		2	
	こども家庭支援論	2		2	
	こども家庭福祉演習Ⅰ	1		1	
	こども家庭福祉演習Ⅱ	1		1	
	社会的養護Ⅰ	2		2	
	保育の対象の理解に関する科目				
	こども家庭支援の心理学	2		2	
	こどもの保健	2		2	
	発達心理学	2		2	
	保育の内容・方法に関する科目				
	乳児保育Ⅰ	2		2	
	乳児保育Ⅱ	1		1	
	こどもの健康と安全	1		1	
	障害児保育Ⅰ	1		1	
	障害児保育Ⅱ	1		1	
	社会的養護Ⅱ	1		1	
	子育て支援	1	1		
	保育指導論	2		2	
	保育実習				
	保育実習ⅠA（保育所）	2		2	
	保育実習ⅠB（施設）	2		2	
	保育実習指導Ⅰ	2		2	
	保育実習Ⅱ（保育所）	2		2	
	保育実習Ⅲ（施設）				
	保育実習指導Ⅱ（保育所）	1		1	
保育実習指導Ⅲ（施設）					
ゼ ミ ナ ー ル	プレゼミナール	1	1		
	ゼミナールⅠ	1	1		
	ゼミナールⅡ	1	1		
	卒業研究Ⅰ	2	2		
	卒業研究Ⅱ	2	2		
専門教育科目 100 単位以上必修					
卒業単位 124 単位以上必修					

別表第2 検定料、入学金、授業料、施設費等 (単位：円)

1. 検定料

検定料	30,000	出願時に納付
検定料 (大学入学共通テスト利用入学試験)	15,000	出願時に納付

2. 授業料等

学部	区分	1年次	2年次	3年次	4年次	備考
食物栄養学部 食物栄養学科	入学金	230,000				入学合格時に納付
	授業料	680,000	680,000	680,000	680,000	前、後期二期分納
	施設設備資金	100,000	100,000	100,000	100,000	前、後期二期分納
	教育充実費	160,000	160,000	160,000	160,000	前、後期二期分納
	実験実習料	100,000	100,000	100,000	100,000	前、後期二期分納
	計	1,270,000	1,040,000	1,040,000	1,040,000	

学部	区分	1年次	2年次	3年次	4年次	備考
食環境データサイエンス学部 食物栄養学部	入学金	230,000				入学合格時に納付
	授業料	960,000	960,000	960,000	960,000	前、後期二期分納
	教育充実費	160,000	160,000	160,000	160,000	前、後期二期分納
	施設設備資金	100,000	100,000	100,000	100,000	前、後期二期分納
	計	1,450,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	

学部	区分	1年次	2年次	3年次	4年次	備考
リハビリテーション学部	入学金	230,000				入学合格時に納付
	授業料	960,000	960,000	960,000	960,000	前、後期二期分納
	教育充実費	160,000	160,000	160,000	160,000	前、後期二期分納
	施設設備資金	100,000	100,000	100,000	100,000	前、後期二期分納
	計	1,450,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	

学部	区分	1年次	2年次	3年次	4年次	備考
こども教育学部	入学金	230,000				入学合格時に納付
	授業料	680,000	680,000	680,000	680,000	前、後期二期分納
	施設設備資金	100,000	100,000	100,000	100,000	前、後期二期分納
	教育充実費	100,000	100,000	100,000	100,000	前、後期二期分納
	実験実習料	220,000	220,000	220,000	220,000	前、後期二期分納
	計	1,330,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	

九州栄養福祉大学
食物栄養学部食環境データサイエンス学科

学則の変更の趣旨等を記載した書類

目次

1. 学則変更（収容定員変更）の内容	2
2. 学則変更（収容定員変更）の必要性.....	2
3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	5
4. 教員組織の変更内容	12
5. 大学全体の施設、設備等の変更内容.....	13

1. 学則変更（収容定員変更）の内容

九州栄養福祉大学（以下「本学」という。）は、令和7年度に食物栄養学部¹に食環境データサイエンス学科（入学定員50人、収容定員200人）の開設を計画し、これを届出で設置することに伴い、本学の収容定員の増加に係る学則の変更を行うものである。

なお、本学では同時期に、こども教育学部こども教育学科（入学定員50人、収容定員200人）の設置認可申請を行っていることから、本学則変更の内容はこの変更を含めたものとする。本学則変更の概要は以下の表の通りである【資料1-1学則】。

現行

学 部	学 科	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
食物栄養学部	食物栄養学科	100人	10人	420人
リハビリテーション学部	理学療法学科	80人	—	320人
	作業療法学科	40人	—	160人
合 計		220人	10人	900人

令和7年4月1日変更

学 部	学 科	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
食物栄養学部	食物栄養学科	100人	10人	420人
	食環境データサイエンス学科	<u>50人</u>	—	<u>200人</u>
リハビリテーション学部	理学療法学科	80人	—	320人
	作業療法学科	40人	—	160人
こども教育学部	こども教育学科	50人	—	200人
合 計		320人	10人	1300人

食環境データサイエンス学科設置に係る定員増加を下線で示す。

2. 学則変更（収容定員変更）の必要性

(1) 食環境データサイエンス学科設置の目的

九州栄養福祉大学食物栄養学部食環境データサイエンス学科は、本学の建学の精神「**勇氣・親和・愛・知性**」を基に、AI・データサイエンスを地域社会や人類の福祉のために活用するという信念を有し、食環境・健康分野の深い専門知識とAI・データサイエンスのスキルを合わせ持つことにより、子供から高齢者までの「豊かな食生活と健康」を実現する持続可能な社会に貢献するグローバル人材を育成することを教育上の目的とする。基礎から応用に至るまでのAI・データサイエンス技術の習得、食環境問題に

対する深い洞察、実践的な問題解決能力の育成、倫理的・社会的責任感の高い専門家の養成に重点を置き、異なる分野の知識を統合して新たな視点から問題にアプローチできる人材を育成する。そのために、食品の生産・流通、医療・福祉、環境への影響に関連する広範なデータを収集・分析し、科学的根拠に基づいた社会の持続可能な発展に寄与するデータ駆動型の専門家を養成するための教育研究を行う。

上記教育目的を達成するために、以下のような、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、このディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得するために、授業科目を基礎教養科目と専門教育科目に区分し、それぞれの科目内容が有機的に連動し、段階的・体系的に学修できるようカリキュラムを編成している【資料 2-1】。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学科では、本学の建学の精神を理解し、卒業時に次の資質・能力を身に付けた者に対し、学士の学位を授与します。

1. 子供から高齢者までの豊かな食生活と健康を支え、持続可能な社会の実現に貢献しようという使命感を有する。
2. 食環境・健康分野の AI・データサイエンスに関連する専門知識と技能を習得し、多様なデータの収集・分析能力、科学的合理性に基づく判断能力を有する。
3. 食環境・健康に関する現実の課題を理解し、AI・データサイエンス技術を用いて実践的な解決策を提案する能力を有する。
4. 新しいアイデアやアプローチを通じて、食環境・健康分野におけるイノベーションを推進し、科学技術と社会の架け橋となる能力を有する。
5. 社会からの信頼に応えるために、卒業後も継続的な学習と自己研鑽に努める姿勢を有する。

(2) 学校法人及び大学の沿革と現状

本学園は昭和 11 年宇城信五郎・力子夫妻が設立した筑紫洋裁女学院に端を発する学校法人東筑紫学園を母体とする。同学園は実学に重きをおく建学の精神「筑紫の心」を掲げ、昭和 22 年東筑紫女子中学校設立、同 23 年東筑紫高等学校設立、昭和 25 年東筑紫短期大学被服科を設立、同 26 年東筑紫幼稚園を設立、同 29 年 4 月保育科（現・保育学科）、同 33 年 4 月栄養科（現・食物栄養学科）を設置、平成 13 年九州栄養福祉大学食物栄養学部設立、同 14 年専攻科介護福祉専攻設置 同 17 年大学院修士課程設立（現在は健康科学研究科）、同 23 年リハビリテーション学部設置、同 29 年認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園設置、現在に至っている。

本学科の母体となる九州栄養福祉大学（食物栄養学部・管理栄養士養成課程）は、平成 13 年 4 月、当時の環境問題、食生活の多様化、増大する生活習慣病、深刻化する高齢化社会、女性の社会進出などを背景に、「食」を通して福祉（幸福）を実現すると

いう方法意識のもと東筑紫短期大学食物栄養学科を一部改組して開学した。とくに学園設立以来建学の精神としてきた生活実学の思想を重んじ、地域生活者の健康・長寿を守る「食生活の番人」として課程教育のみならず、課程内外での人格教育を重視し、人格・実践力ともに秀でた管理栄養士の輩出に注力してきた。平成 17 年 4 月、九州栄養福祉大学大学院食物栄養学研究科を開学、管理栄養士養成課程を修了した学生がさらに食と健康について高度な知識と研究手法を学ぶ環境を整えた。

平成 23 年 4 月、同大学に九州リハビリテーション大学校を基盤にしてリハビリテーション学部（理学療法学科、作業療法学科）を開設、引き続き建学の精神に則り「リハビリ」を通して地域生活者の健康生活、福祉を実現するという目的を掲げ、人格・実践力ともに優れた理学・作業療法士を育成してきた。

現在の九州栄養福祉大学は、食物栄養学部食物栄養学科、リハビリテーション学部理学療法学科・作業療法学科、大学院健康科学研究科（平成 24 年 4 月名称変更）の計 4 科を有している。これらを含めた学校法人全体の概要並びに九州栄養福祉大学の組織は【資料 2-2】の通りである。

(3) 食環境データサイエンス学科を設置する必要性

1) 社会的背景

医療技術の進歩によって、「人生 100 年時代」と呼ばれる現代では、単に寿命を延ばすだけではなく、より長い期間、健康的で自分らしく生活できることが求められるようになってきた。さらに、昨今の第 4 次産業革命や Society5.0 と称される革新的デジタル社会の世界的進展を背景に、多様な分野でデータを活用するデータサイエンス人材の育成が我が国の喫緊の課題となっている。内閣府の「統合イノベーション戦略 2023」に沿って、産学官連携による教育体制強化の必要性が認識されており、食環境におけるデータサイエンスの重要性も注目されている。これには、AI と機械学習を活用した課題解決への取り組みが含まれ、持続可能な食環境の実現に向けて、農業、食品製造、流通、健康といった分野でのデータ分析の重要性が高まっている。例えば、農業分野においては、気候変動や土壌の状態を考慮した作物の栽培方法の最適化といった精密農業（スマート農業）への転換が求められている。食品製造分野では、生産プロセスの効率化や品質管理の強化が、流通分野では、需要予測や廃棄物削減のためのデータ利活用が重要視されている。さらに、健康分野では、食事データと健康状態との相関分析を通じて、個々の栄養改善に寄与できると期待されている。

2) 地域特性と本学に食環境データサイエンス学科を設置する理由

本学が所在する北九州市は、学術研究都市の整備や国家戦略特区（地方創生特区第 2 弾）の指定など、知的基盤が整備されており、同市内にある国公立大学における本学科と同系統学科の入試倍率は、いずれも 3～5 倍と高い倍率を維持している。このことか

ら、食環境データサイエンス学科に対する受験生の期待は、非常に高いものと推察される。「学生確保の見通しと学生確保に向けた取組を記載した書類」に記載しているように、令和6年1月下旬から2月中旬に既設学部に入学生績がある高校で2時間以内に通学できる高校を選択し、現2年生を対象に、本学科への入学志望に関するアンケート調査を行ったところ、年度末の忙しい時期に行ったアンケート調査に関わらず、定員の1.5倍程度の受験者が予測できる結果となった。実際には、今回アンケート調査を行った近隣の高校以外の広範囲の高校からの入学志望も少なからず見込めるので、定員50人の学生確保は十分に可能と考えられる。

本学科の教育上の特色は、本学の強みである食環境と健康分野の教育実績に、地元工学系大学のデジタル教育実績、日本を代表するDX推進企業および10社以上の地元企業のビジネス展開実績を融合させ、さらに地元行政によるバックアップを受けながら、AI・データサイエンスの基礎から社会実装までの能力を養う体系的教育組織とプログラムを構築することにある。本学はこれらの企業と産学連携協定を締結し、実習の受入のみならず、具体的な社会課題解決のための共同研究、講師派遣など、強固な連携体制を構築し、就職にも繋げていく予定である。したがって、本学科の設置は、社会的な人材需要の見通しを十分に踏まえたものとなっている。

さらに、大学の沿革と現状で記載したように、現在、九州栄養福祉大学は、幼稚園から中学校、高等学校、短期大学、大学、大学院までを擁する学校法人東筑紫学園に所属している。これまで、本学と短期大学では、建学の精神「勇気・親和・愛・知性」を基にし、食物栄養、リハビリテーション、保育そして介護の分野で、学部学科の枠を越えた学内連携による教育研究が行われ、地域社会を支える多数のスペシャリストを輩出してきた（平成16年度から令和5年度、本学卒業生3312名）【資料2-3】。この実績は本学の強みであり、本学科は、人生のあらゆるステージにおいて人々が健康的生活を送ることができる、これからの未来社会に求められるグローバルな人材を輩出するにふさわしい環境といえる。

3. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

(1) 教育課程の変更内容

食環境データサイエンス学科を開設予定の食物栄養学部は、これまで管理栄養士を養成する食物栄養学科のみからなる学部であったため、食環境データサイエンス学科を開設するにあたり、養成する人材像を以下のように変更・設定している。

○食物栄養学部

建学の精神に基づき、生命の源である食を通して福祉を実現するという使命感・方法意識のもと、実践的な食指導を行い、また食品の生産・流通を含む広範な食環境領域に対し大量のデータ収集・分析を行う専門家を養成し、「食の番人」として豊かな食生活

と健康という観点から地域社会の持続的発展に寄与し得る人材を養成する。

○食物栄養学科

本学教育への理解を基礎に、幅広い教養を涵養し、管理栄養士としての基本的知識・技術を修得させ、医療、介護、福祉、食品産業・流通分野などにおいて実践的な役割を果たし得る専門的知識・技術に長けた管理栄養士を養成する。

○食環境データサイエンス学科

食品の生産・流通・医療・福祉・環境に関する幅広い知識とこれらに関連する多量のデータ収集・分析能力を有し、食の課題について多角的にアプローチにより解決することのできるデータサイエンティストを養成する。

また、食環境データサイエンス学科の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、既設の食物栄養学部食物栄養学科で培われてきた教育内容に加え、食環境データサイエンス学科の特色を打ち出した内容となっている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得するために、授業科目を基礎教養科目と専門教育科目に区分し、それぞれの科目内容が有機的に連動し、段階的・体系的に学修できるようカリキュラムを編成します。

1.	建学の精神にある「勇気、親和、愛、知性」の調和のとれた人間性を目指し、教科教育のみならず、多様な行事教育を取り入れる。
2.	基礎教養科目では、本学教育への理解を基礎に、幅広い教養を涵養し、専門科目の履修に向けた基礎的知識・技術の修得に必要な科目を配置する。
3.	食と健康科目では、食と健康に関する専門的知識と技術の修得に必要な科目を配置する。
4.	データサイエンス科目では、食環境・健康に関するデータサイエンスの専門家としての知識及び技術の体系的な修得に必要な科目を配置する。
5.	食環境マネジメント科目では、産業界との連携による実践的な経験を重視し、現実の課題に対する実践的な解決策を提案できる能力に必要な科目を配置する。

なお、食物栄養学部では、既存の食物栄養学科が管理栄養士養成課程でもあるため専門教育科目に共通科目は設けておらず、学科単位でそれぞれ科目を開講するが、基礎教

養科目の選択科目については十分に教育の質の確保を考慮した上で、受講希望者数によっては合同で授業を行う予定である。また、既存の食物栄養学科の講義科目は学年単位（100人前後）あるいはクラス単位（30～40人）で、演習・実験・実習科目はクラス単位で開講しており、食環境データサイエンス学科開設後も変更はない。食環境データサイエンス学科は入学定員50人であることから、すべての科目を学年単位で開講する。

以上のことから、食環境データサイエンス学科の開設による他学部等への影響はなく、従前と同等以上の教育課程内容を担保できるものと考えている。

(2) 科目区分の設定

科目区分は、「基礎教養科目」と「専門教育科目」に大別される。

「基礎教養科目」は、本学教育への理解を基礎に、幅広い教養を涵養し、専門科目の履修に向けた基礎的知識・技術の修得に必要な科目であり、「本学教育への理解」「人間と文化・社会・科学への理解」「語学と国際社会への理解」「健康と運動への理解」に区分される。

「専門教育科目」は、「食と健康科目」「データサイエンス科目」「食環境マネジメント科目」「卒業研究」に区分される。

具体的な科目構成は以下のとおりである。

○基礎教養科目

「本学教育への理解」「人間と文化・社会・科学への理解」「語学と国際社会への理解」「健康と運動への理解」の4科目群に分け、1年次を中心に1～2年次で開講する。

本学科が育成を目指す「食環境・健康分野の深い専門知識とAI・データサイエンスのスキルを合わせ持つグローバル人材」に求められる基礎的能力の修得に必要な科目である、「キャリアガイダンスⅠ」「キャリアガイダンスⅡ」「キャリアガイダンスⅢ」「キャリアガイダンスⅣ」「食環境データサイエンス概論」「食環境イノベーションデザイン」「コンピュータリテラシー」「AI・データサイエンス入門」「化学」「実用英語の基礎Ⅰ」「実用英語の基礎Ⅱ」「健康スポーツ科学Ⅰ」「健康スポーツ科学Ⅱ」を必修科目としている。

○専門教育科目

専門教育科目は、AI・データサイエンスを地域社会や人類の福祉のために活用するという信念を涵養し、食環境・健康分野の深い専門知識とAI・データサイエンスのスキルを修得するための科目であり、「食と健康科目」「データサイエンス科目」「食環境マネジメント科目」「卒業研究」の4科目群に分け、1年次より順次開講する。

● 1年次

食環境・健康分野の専門知識およびAI・データサイエンスのスキルを修得するために必要な基礎科目を中心に開講する。「食品衛生学」「食品学総論」「微積分学

基礎」「線形代数基礎」「確率統計学基礎」「プログラミング基礎」「データサイエンスのための微積分学」「データサイエンスのための線形代数」「プログラミング演習」「情報ネットワーク」を必修科目としている。

- 2年次

1年次の基礎的な学修を踏まえ、より専門性の高い科目を開講する。「基礎栄養学」「データサイエンスのための確率統計学」「データサイエンスのための応用数学」「データベース入門」「センシングと信号処理」「機械学習基礎」「データ解析基礎」「機械学習演習」「データ解析演習」「バイオインフォマティクス」「アントレプレナー論」「アントレプレナー演習」を必修科目としている。

- 3年次

1、2年次での学修を踏まえ、実社会問題を取り扱う実践的科目を開講する。「食品加工学」「ニューラルネット基礎」「ニューラルネット演習」「食農健康データサイエンス」「フードウェルネスデータサイエンス」「先端 AI 論」「先端ロボティクス論」「先端 AI 論」「マーケティングとデータサイエンス」「マネジメントとデータサイエンス」「サプライチェーンマネジメント学」「アグリビジネスマネジメント学」「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス実践演習」を必修科目としている。

- 4年次

これまでに学修した食環境・健康分野の専門知識および AI・データサイエンスのスキルを統合するとともに、食環境・健康分野に関する課題の抽出、課題解決のための研究手法の検討・提案、調査・データ収集、データに基づいた実践活動等を行う「卒業研究」必修科目として開講する。

本学では、一単位時間＝45時間という原則に基づき、通常時制の授業（90分）1回を2時間とみなしたうえで、単位時間充足のための学修を、講義科目（2単位、90時間）については予習・復習として4時間（180分）、演習科目（1単位、45時間）については予習・復習として1時間（90分）行うよう指導している。授業外の学修時間を確保できるよう、履修登録単位数に上限を設ける。

(3) 履修登録科目の上限、履修制限

○履修登録科目の上限

予習・復習等の自己学修を含め、1単位あたり45時間の学修が必要であることから、学生の十分な学修時間を確保するため、本学では1年間に履修登録できる単位数の上限を48単位としている（履修規程 第6条第2項）。

ただし、所定の単位を優れた成績をもって取得した者あるいは相当な理由により、学長がとくに認めた者については、教務部長の許可を得たうえで、履修登録単位数の上限を超えた履修登録が認められる場合がある（履修規程 第6条第3項）。

第6条 (略)

- 2 1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限を48単位とする。
ただし、次の各号に定めるものについては登録単位数の上限から除くものとする。
 - (1) 教職に関する専門教育科目
 - (2) 学長が認めた科目
- 3 前項の規定にかかわらず、次の者は教務部長の許可を得て、登録単位数の上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。
 - (1) 所定の単位を優れた成績をもって取得した者
 - (2) 相当な理由により、学長がとくに認めた者

各学期に開講される科目の単位数は下表のとおりである。

開講期	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
開講単位数	23	23	23	24	23	16	8	0
	46		47		39		8	

※ 「国際理解 (海外研修)」「インターンシップ」の単位数は、前期、後期それぞれで計上している。

※ 「農園演習」「卒業研究」(通年科目)の単位数は、前期で計上している。

上表より、各年次の開講単位数は47単位以下であり、再履修科目を抱えていなければ本学が定める履修登録単位数の上限を超えて履修することはないと考えている。

○履修制限

食環境データサイエンス学科の教育目標に基づき体系的に学修できるよう、一部の科目に履修制限を設けている(履修規程 第5条第2項)。

第5条 (略)

- 2 授業科目の履修制限を以下のとおり定める。
 - (1) キャリアガイダンスⅠ」「キャリアガイダンスⅡ」の単位を取得していなければ、「キャリアガイダンスⅢ」および「キャリアガイダンスⅣ」を履修できない。
 - (2) 専門教育科目において、科目名に「基礎」が付く下記の基礎科目の単位を取得していなければ、関連する科目を履修できない。
 - 「微積分学基礎」(「データサイエンスのための微積分学」の履修に必要)
 - 「確率統計学基礎」(「データサイエンスのための確率統計学」の履修に必要)
 - 「プログラミング基礎」(「プログラミング演習」の履修に必要)
 - 「データサイエンス基礎演習」(「データサイエンス実践演習」の履修に必要)

(4) 教育方法、履修指導方法

○教育方法

AI・データサイエンスに関する高度なスキルを修得するために、一部の科目については基礎科目と演習科目を開講する。また、多くの科目でノート PC を持参させ、日常的に利活用する。Python による実装・動作確認を優先し、理論については後からスムーズに理解できるような構成とすることで、学修へのモチベーション維持に努める。

○履修指導方法

履修指導は、すべての学年において、年度初めのオリエンテーション内で実施する。履修単位表やシラバス等を確認し、科目内容を十分把握したうえで履修登録するように指導する。

入学生に対しては、入学翌日からのオリエンテーション内で、本学の建学の精神と教育理念の理解を図るとともに、本学科の教育目標、育成を目指す人材像の説明を行う。併せて、持参したノート PC の学内 Wi-Fi への接続、Microsoft Office を始めとする必須ソフトウェアの導入、学内の各種システムの利用に必要なユーザ ID の配布等、大学での学びに必要な準備を行う。

また、大学生活や科目内容に関する質問・相談に必要な基幹教員の研究室の場所、オフィスアワー等についても周知する。

なお、履修指導はオリエンテーション内で学科所属の教員が行うことから他学部等に影響はなく、食環境データサイエンス学科の開設後も、教育方法、履修指導方法ともに従前と同等以上の内容を担保できるものと考えている。

(5) 進級要件

食環境データサイエンス学科では、学科の教育目標に基づき体系的に学修し、また一年間の履修登録科目の上限である 48 単位を超えて履修しないようにするため、3 年次および 4 年次への進級について進級要件を設けている（履修規程 第 9 条）。

第 9 条 進級制度を以下のとおり定める。

1. 3 年に進級するには、以下に掲げる要件をすべて満たさなければならない。
 - ① 「キャリアガイダンスⅠ」「キャリアガイダンスⅡ」「キャリアガイダンスⅢ」「キャリアガイダンスⅣ」の単位を取得していること。
 - ② 2 年次までに開講される卒業必修科目のうち、単位未取得科目が前期 2 科目以内かつ後期 2 科目以内であること。
2. 4 年に進級するには、以下に掲げる要件をすべて満たさなければならない。
 - ① 「データサイエンス基礎演習」「データサイエンス実践演習」の単位を取得していること。

- ② 3年次までに開講される卒業必修科目のうち、単位未取得科目が前期2科目以内であること（後期開講科目はすべて単位取得済みであること）。

(6) 卒業要件

食環境データサイエンス学科の卒業要件は以下のとおりである。

- 4年以上在学し、124単位以上を取得しなければならない。（履修規程 第2条）
- 履修単位表に定めるところに従って、「基礎教養科目」24単位以上、「専門教育科目」100単位以上取得しなければならない。（履修規程 第3条）

また、科目区分ごとの必修・選択等の科目数、単位数は下表のとおりである。

区分		必修		選択	
		科目数	単位数	科目数	単位数
基礎教養科目		13	16	10	15
※ 基礎教養科目 24 単位以上必修					
専門教育 科目	食と健康科目	7	14	7	14
	データサイエンス科目	26	48	2	4
	食環境マネジメント科目	4	7	6	10
	卒業研究	3	10	0	0
	計	40	79	15	28
※ 専門教育科目 100 単位以上必修					

上表より、基礎教養科目における必修科目の単位数は、卒業要件である24単位の2/3にあたる16単位であり、適切な割合であると考えている。

専門科目の「食と健康科目」群、「食環境マネジメント科目」群については、各自の興味に応じて科目を選択できるようにしている。一方、「データサイエンス科目」群、「卒業研究」については、「食環境・健康分野の深い専門知識と AI・データサイエンスのスキルを合わせ持つグローバル人材」の育成に不可欠であることから、ほぼすべての科目を必修としている。

(7) 履修モデル

食環境データサイエンス学科では「食環境・健康分野の深い専門知識と AI・データサイエンスのスキルを合わせ持つグローバル人材」の育成を目指しており、履修指導時には、学生の志向に応じて以下の履修モデルを提示する。

- 「健康×データサイエンス」に興味のある学生向け
「食と健康科目」群の選択科目をできる限り多く履修すること。

- 「食料生産×データサイエンス」に興味のある学生向け
「食健康マネジメント科目」群の「サプライチェーンマネジメント学」「アグリビジネス
スマネジメント学」を履修すること。
- 「食品流通×データサイエンス」に興味のある学生向け
「食環境マネジメント科目」群の「マーケティング論」「マーケティングリサーチ」「流
通システム論」「消費者行動論」を履修すること。

4. 教員組織の変更内容

食環境データサイエンス学科の教員組織は、開設時に食物栄養学部 食物栄養学科から異動する教員 3 名、併設校 東筑紫短期大学 食物栄養学科から異動する教員 1 名、及び新規に着任する教員 1 名、合計 5 名の基幹教員で始動する。2 年目には、さらに 1 名の教員が着任し、完成年度には基幹教員 6 名で構成される教員組織を計画している。

この教員構成は、入学定員 50 人（家政関係）に対して、大学設置基準第 10 条の別表第 1 に定められる必要な基幹教員数 6 名を満たし、加えて大学全体での別表第 2 の基幹教員数も満たしている。完成年度の基幹教員の職位及び年齢構成は、下記の表のとおり各年代でバランス良く配置され、教育研究の高度化に応えられる体制を整えている。また、基幹教員は、食環境データサイエンスの各分野とそれに近接する領域の専門家であり、全員が博士または修士の学位を有している。さらに、産業界との連携を強化するため、食農健康データサイエンス関連の実務経験を持つ教員も 1 名配置する。

完成年度までに定年を迎える教員については、「【資料 4-1】満 60 歳以降に雇用される者の役職及び職位等委嘱に関する規準」第 6 条に基づき、定年延長により雇用を維持する。さらに、該当分野で優れた教育研究業績を有する教員を継続的に公募することで、後任となる基幹教員の育成及び採用を図り、本学科の教育研究が円滑に遂行されるよう、教員組織の体制強化に努める。また、他学科等から移籍する教員の補充についても、新規に教員を採用することで他学科等の教育の質を従来と同等に維持する予定である。

完成年度における基幹教員の職位及び年齢構成（単位：人）

職位	学位	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	計
教授	博士	—	—	—	2	1	3
	修士	—	—	1	—	—	1
准教授	博士	—	—	1	—	—	1
	修士	1	—	—	—	—	1
計	博士	—	—	1	2	1	4
	修士	1	—	1	—	—	2

※平均年齢：58.2 歳

5. 大学全体の施設、設備等の変更内容

1) 校地、運動場の整備計画

本学の大学設置基準上必要な校地面積は 9,000 m²（北区キャンパス 4,200 m²、南区キャンパス 4,800 m²）で、併設校である東筑紫短期大学の設置基準上必要な校地面積は 4,400 m²となっていることから、全体に必要な校地面積は 13,400 m²であるが、2箇所のキャンパスを合計した設置基準上校地に算入される面積は 106,102.77 m²（北区キャンパス 29,359.93 m²、南区キャンパス 76,742.84 m²）であり、大学収容定員及び併設校東筑紫短期大学の収容定員より算出した設置基準上必要な校地面積 13,400 m²を満たしている。なお、運動場用地として福岡県京都市郡苅田町に面積 14,629.93 m²のグラウンドと小倉南区キャンパスに面積 6,710 m²のグラウンドを有している。又、本学の大学設置基準上必要な校舎面積は 10,545.00 m²（食物栄養学部 4,132.00 m²、リハビリテーション学部 6,413.00 m²）となっているが、本学は専用校舎面積として 26,452.34 m²（北区キャンパス 6,894.41 m²、南区キャンパス 19,557.93 m²）を保有している。なお、その他に東筑紫短期大学と共用する面積は 24,360.36 m²であるが、大学と短期大学で共有する校舎面積は 50,812.70 m²もあり基準を十分満たしている。本学に設置されている体育館は、北区キャンパスは講堂兼体育館 2,683.78 m²、第 2 体育館 317.04 m²、南区キャンパスは体育館 910.00 m²となっており授業や課外活動で利用している。障がい者に対する施設設備の整備状況としては、小倉北区キャンパスの各講義棟（1～3号館、5号館）、食堂棟、講堂兼体育館のエントランスに車椅子用のスロープを設置しており、すべての講義棟、講堂兼体育館及び図書館にはエレベーターを設置している。又、階段の手摺や身体障がい者用多目的トイレを設置しているほか、各フロアをバリアフリー対応としている。小倉南区キャンパスでは 1号館と 3号館のエントランスに車椅子用のスロープと駐車場を設置している。1号館、2号館、3号館には階段に手摺を設置しており、6号館 1階と 7号館の廊下には手摺を設置している。多目的トイレを 2号館、3号館、5号館、6号館 2階、7号館にそれぞれ設置している。このように両キャンパスとも身体障がい者への配慮を行っている。

新たに新設される食環境データサイエンス学科専用で使用される北区キャンパス 5号館では、様々な授業形態・授業規模に対応する教室とアクティブラーニング型授業を実現するための机・椅子等の機器・備品等を備えている。1階にコミュニティエリア（230 m²）を設け、学生の学修及び休息・交流のためのスペースを十分に設けている。また、コミュニティエリア内に冷食レストランエリアを設け、冷凍食品等の簡易的な食事の提供も行う。2階から 6階の教室には、講義室が 4室（2階 1室 99人収容、3階 63人収容可能な 2室、6階 187人収容可能な大講義室）、演習室が 5階に 3室、研究室 2室（4

階に1室と5階に1室)及び4階にゼミ室8室を設ける。各講義室・演習室にはプロジェクター、スクリーン、電子黒板、AV設備を整備しビジュアルな講義や高速通信による遠隔講義にも対応している。また、2階には、サーバールーム1室、更衣室2室を設ける。さらに、1階から3階には1室ずつ3室の自習室を設け、学生の自学自習、グループ学習、休憩場所等の多目的に活用できる。このように、教育研究活動の目的や規模に応じて柔軟に利用することができる施設設計としている。その他、また、5号館には、各種委員会や打ち合わせ等に用いる会議室、事務室、来客用の応接および非常勤講師の控え室、備品等の保管に必要な倉庫、図書などを適切に備えている。

以上のとおり、各科目の授業内容に応じて適切な教室配当を可能にしており、施設・設備の利用予定からも支障はない。

(2) 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学には小倉北区キャンパスに九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学図書館(以下、図書館)と小倉南区キャンパスに九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学図書館小倉南区キャンパス分室(以下、分室)がある。食環境データサイエンス学科は小倉北区キャンパスに設置される為、図書館を主に利用する予定である。図書館には図書98,589冊(内、外国書3,553冊)、学術雑誌91誌(内、外国書9誌)、その他に視聴覚資料等を所蔵している。蔵書については毎年度、定期的な図書・学術雑誌等の整備を行っている。

食環境データサイエンス学科の教育・研究の為、開設時において、確率統計学やプログラミング、データベース等データサイエンス科目関連の図書を中心に550冊(内、電子書籍17冊)を整備した。また学術雑誌については、データサイエンス科目や農業に関するもの16誌(内、電子ジャーナル4誌)を新たに整備した【資料5-1】。既設の食物栄養学科があったことから、当該学科の授業科目に関する医学や農学分野等の図書9,143冊、学術及び教育・研究に寄与する雑誌35誌(内、電子ジャーナル2誌)を所蔵しており、食環境データサイエンス学科の教育・研究に支障はないと考える。

データベースについては「医中誌 Web」、「メディカルオンライン」、「MEDLINE with Full Text」を以前より契約しており、医学分野の研究に備えてきた。新学科の設置にあたり、新たに海外のデータベース「Agricultural Science Collection」を整備した。このデータベースは農学やフードサイエンス等の分野を収録している為、食環境データサイエンス学科の教育・研究に大いに活用できると考える。

また図書館には自学習できるスペースとして閲覧席を144席備えており、館内は無線LANを整備し、学生のインターネットを利用した学習が可能な環境となっている。蔵書検索については専用のパソコンを設置し、図書館システムによるOPACで図書館と分室の横断検索が可能となっている。

他大学との連携については、九州地区大学図書館協議会と福岡県・佐賀県大学図書館協議会に加盟している為、加盟館同士の学生証での相互利用(一部を除く)が可能とな

っている。

なお、食環境データサイエンス学科およびこども教育学部の開設に伴い、図書館の一部改修工事を行い、食環境データサイエンス学科およびこども教育学部用の図書を配架する書架の設置スペース（59.67m²）を確保する。

資料目次

【資料 1-1】 学則

【資料 2-1】 カリキュラムマップ

【資料 2-2】 法人の現状、組織図

【資料 2-3】 大学卒業者数

【資料 4-1】 満 60 歳以降に雇用される者の役職及び職位等委嘱に関する基準

【資料 5-1】 学術及び教育・研究に寄与する雑誌一覧

【添付資料】 教育課程等の概要

九州栄養福祉大学 学則（案）

第1章 総 則

（目 的）

第1条 九州栄養福祉大学（以下「本学」という。）は教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、建学の精神と教育理念に基づいて高等学校教育の基礎の上に広く知識を授けると共に人格の完成をはかり、専門知識技能を教授研究し人類社会の福祉に貢献する人材の養成を目的とする。

（自己点検・評価）

第2条 本学は、教育研究の水準の向上を図り、本学の教育目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動の状況について自ら点検及び評価を行う。

2 前項の点検及び評価を行うにあたっての項目の設定、実施体制等については別に定める。

第2章 学部、学科、修業年限及び入学定員、収容定員

（学部、学科、入学定員、収容定員）

第3条 本学において設置する学部、学科及びその入学定員、収容定員は次の通りとする。

学 部	学 科	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
食 物 栄 養 学 部	食物栄養学科	100人	10人	420人
	食環境データサイエンス学科	50人	—	200人
リハビリテーション学部	理学療法学科	80人	—	320人
	作業療法学科	40人	—	160人
こども教育学部	こども教育学科	50人	—	200人

（学部・学科の目的）

第4条 各学部・学科における人材養成並びに教育研究上の目的を以下の通り定める。

一 食物栄養学部

建学の精神に基づき、生命の源である食を通して福祉を実現するという使命感・方法意識のもと、実践的な食指導を行い、また食品の生産・流通を含む広範な食環境領域に対し大量のデータ収集・分析を行う専門家を養成し、「食の番人」として豊かな食生活と健康という観点から地域社会の持続的発展に寄与し得る人材を養成する。

(1) 食物栄養学科

本学教育への理解を基礎に、幅広い教養を涵養し、管理栄養士としての基本的知識・技術を修得させ、医療、介護、福祉、食品産業・流通分野などにおいて実践的な役割を果た

し得る専門的知識・技術に長けた管理栄養士を養成する。

(2) 食環境データサイエンス学科

食品の生産・流通・医療・福祉・環境に関する幅広い知識とこれらに関連する多量のデータ収集・分析能力を有し、食の課題について多角的にアプローチにより解決することのできるデータサイエンティストを養成する。

二 リハビリテーション学部

高度な医学的知識と技術を修得し、対象者の心身に寄り添いつつ的確なアプローチを行えることに加え、人々の健康で幸福な生活を守る健康生活の番人としての役割を果たせる理学療法士・作業療法士を養成する。

(1) 理学療法学科

人の動きやその機能を医学的に分析・考察しながら、運動を治療や指導の手段として活用する科学的な根拠をもとに、治療対象者一人ひとりに満足感を提供できる理学療法士を養成する。

(2) 作業療法学科

治療対象者のそばにいて、人との信頼関係を大切にしながら物理的・技術的・精神的な面において生活を支えることができる作業療法士を養成する。

三 こども教育学部

社会が大きく変動する中、主体的かつ柔軟に対応する力が求められていることから、建学の精神を基盤に、自ら考え、実践的に行動する力とその指導力を身に付け、地域社会における子育てや教育の中核となり得る教育者・保育者を育成する。

(1) こども教育学科

建学の精神を基盤とした豊かな人格形成とともに、変化の激しい現代社会における諸課題を主体的かつ柔軟に解決するための知識と指導力を有し、こどもたちのみならず、幅広い世代とこれらの力を共有することができる教育者・保育者を養成する。

(修業年限及び在学年限)

第5条 本学の修業年限は4年とする。

2 在学年限は8年を超えることはできない。但し、編入学、転入学又は再入学により入学した学生は、入学後の修業年数の2倍に相当する年限を超えて在学することができない。

第3章 教育課程

(開設授業科目及びその単位数)

第6条 本学において開設する授業科目及び単位数は別表第1の通りとする。

第4章 履修の方法、学修の評価、課程修了の認定及び卒業

(履修の方法)

第7条 履修の方法は次の通りとする。

- 一 卒業するためには4年以上在学し、必修単位を含めて124単位以上を修得しなければならない。
- 二 基礎教養科目は必修単位を含めて24単位以上修得しなければならない。

(履修する科目の登録及び上限)

第8条 学生は、当該年度において履修する授業科目を開講の始めに登録しなければならない。

- 2 学生は、前項により登録した授業科目以外の授業科目を履修し、また単位を修得することはできない。
- 3 各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として修得すべき単位数については、1年間または1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を別に定める。
- 4 所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認めることがある。

(単位修得の認定)

第9条 各授業科目に対する課程を修了した者には単位を与える。

第10条 単位修得の認定は試験、論文、その他の方法によるものとし、その方法については各授業科目の担当者が定める。

(試験等の時期)

第11条 試験は毎年2回とし、前期及び後期の終りに定期に行う。

但し、定期試験のほか随時に試験を行うことがある。

(再試験)

第12条 所定の単位を修得できない者に対しては再試験を行うことがある。

(追試験)

第13条 疾病、その他やむを得ない事由によって試験を受けることができなくなった者に対しては追試験を行うことがある。

(学修の評価)

第14条 試験の成績は、秀・優・良・可・不可で表し、秀・優・良・可を合格とする。

(試験に関する細則)

第15条 試験に関する細部の規定は別に定める。

(単位の計算方法)

第 16 条 各授業科目に対する単位数は次の基準により計算する。

- 一 講義については 15 時間の授業をもって 1 単位とする。
- 二 演習については 30 時間の授業をもって 1 単位とする。但し、当該授業の教育効果、授業時間外に必要な学修を考慮して、15 時間の授業をもって 1 単位とすることができる。
- 三 実験・実習及び実技については 45 時間の授業をもって 1 単位とする。但し、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修を考慮して、30 時間の授業をもって 1 単位とすることができる。

(教育内容等の改善)

第 17 条 本学に授業内容及び方法の改善を図るための委員会を設け、研修及び研究を実施する。

- 2 前項の委員会については別に定める。

(卒業の条件)

第 18 条 本学を卒業するために必要な授業科目及び単位数は別表第 1 の通りとする。

(資格の取得)

第 19 条 栄養士法第 2 条第 1 項の規定に基づく栄養士の免許を受けようとする者は、食物栄養学科に在籍し、第 18 条に規定する卒業の条件を充足し、かつ栄養士法施行規則に基づき本学が定めた科目及び単位を修得しなければならない。

第 20 条 栄養士法第 5 条の 3 の規定に基づく管理栄養士国家試験の受験資格を得るためには、食物栄養学科に在籍し、第 18 条に規定する卒業の条件を充足し、かつ栄養士法施行令及び管理栄養士学校指定規則に基づき本学が定めた科目及び単位を修得しなければならない。

- 2 食品衛生法第 30 条第 1 項の規定に基づく食品衛生監視員および第 48 条第 1 項並びに第 6 項の 3 の規定に基づく食品衛生管理者の任用資格を得るには、食物栄養学科に在籍し、第 18 条に規定する卒業の条件を充足し、かつ食品衛生法施行令及び食品衛生法施行規則に基づき本学が定めた科目及び単位を修得しなければならない。

第 21 条 食物栄養学部食物栄養学科において、教育職員免許法別表第 2 の 2 の規定に基づく栄養教諭一種免許状を得るためには前条の規定によるほか、教育職員免許法施行規則に基づき本学が定めた科目及び単位を修得しなければならない。

- 2 こども教育学部こども教育学科において、教育職員免許法別表第 1 の規定に基づく幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭の一種免許状を得るためには、教育職員免許法施行規則に基づき本学が定めた科目及び単位を修得しなければならない。
- 3 こども教育学部こども教育学科において、保育士資格を得るためには、児童福祉法及び児童福祉法施行規則に基づき本学が定めた科目及び単位を修得しなければならない。

第 22 条 理学療法士及び作業療法士法第 11 条第 1 号の規定に基づく理学療法士国家試験の受験資格を得るためには、理学療法学科に在籍し、第 18 条に規定する卒業の条件を充足し、かつ理学

療法士作業療法士学校養成施設指定規則に基づき本学が定めた科目及び単位を修得しなければならない。

第 23 条 理学療法士及び作業療法士法第 12 条第 1 号の規定に基づく作業療法士国家試験の受験資格を得るためには、作業療法学科に在籍し、第 18 条に規定する卒業の条件を充足し、かつ理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に基づき本学が定めた科目及び単位を修得しなければならない。

(卒業の認定及び学位の授与)

第 24 条 本学に 4 年以上在学し、第 18 条に定める単位を修得した者に対しては、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。

第 25 条 本学を卒業した者に対しては、次の区分に従い学士の学位を授与する。

食物栄養学部	食物栄養学科	学士（食物栄養学）
	食環境データサイエンス学科	学士（食環境データサイエンス）
リハビリテーション学部	理学療法学科	学士（理学療法学）
	作業療法学科	学士（作業療法学）
こども教育学部	こども教育学科	学士（こども教育学）

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第 26 条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60 単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。
- 3 前 2 項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

(大学以外の教育施設等における学修)

第 27 条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

- 2 前項により与えることのできる単位数は、編入学及び転入学等の場合を除き、前条第 1 項により修得したものとみなした単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。
- 3 前 2 項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

(入学前の既修得単位等の認定)

第 28 条 本学において教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 学生が入学する前の前条第 1 項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

- 3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学及び転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えないものとする。
- 4 前3項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

第5章 入学、退学、休学、転学、復学

(入学の時期)

第29条 入学の時期は毎年学年の始めとする。

(入学の資格)

第30条 本学に入学し得る者は次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

- 一 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者
- 二 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）
- 三 外国において学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- 四 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- 五 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- 六 文部科学大臣の指定した者
- 七 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験（旧規程による大学入学資格検定）に合格した者
- 八 本学において個別の入学資格審査により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で18歳に達した者

(入学の出願)

第31条 本学への入学を志願する者は、入学願書に所定の入学検定料及び別に定める書類を添えて願い出なければならない。

(入学者の選考)

第32条 前条の入学志願者については入学試験により選考を行う。

第33条 入学試験に関する細則は別に定める。

(入学手続き及び入学許可)

第34条 第32条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の誓約書に入学金を添え指定

の期日迄に提出しなければならない。入学の手続きを完了した者に入学を許可する。

- 2 理由なくして前項の手続きを怠った者は、入学を取り消すことがある。
- 3 納付した入学金は返還しない。

第 35 条 前条の誓約書に連署する保護者は親族又は縁故者で学生の在学中の一切の責任を負うものである。

(退 学)

第 36 条 退学を願う者は、その理由を記して保護者連署をもって学長に願い出て許可を受けなければならない。

但し、疾病のため退学しようとする場合は医師の診断書を添付しなければならない。

(除 籍)

第 37 条 次の各号の 1 に該当する者は除籍する。

- 一 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- 二 第 5 条に定める在学年限を超えた者
- 三 第 40 条第 3 項に定める休学期間を超えてなお修学できない者
- 四 長期にわたり行方不明の者

(復 籍)

第 38 条 前条第 1 号により除籍となった者が、復籍を願い出た時は、教授会の議を経て復籍することができる。但し、未納の学費を納付しなければならない。

- 2 前項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

(休 学)

第 39 条 疾病その他やむを得ない事由により引き続き 3 ヶ月以上修学することのできない者は学長の許可を得て休学することができる。

- 2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることがある。

(休学の期間)

第 40 条 休学の期間は 1 年以内とする。但し、特別の事由のある場合は、1 年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

- 2 休学期間は在学期間に算入しない。
- 3 休学期間は通算して 4 年を超えることができない。

(復 学)

第 41 条 休学期間中に休学の事由がなくなった場合は学長の許可を得て復学することができる。

(再入学)

第42条 退学した者が、1年以内に再入学を願い出た時は、学年始めにおいて選考の上、原学年に入学許可することがある。

(転学)

第43条 学生が他の大学に転学または受験しようとするときは、学長の許可を得なければならない。

(転入学)

第44条 本学に転入学を希望する者があるときは、欠員のある場合に限り選考の上、転入学を許可することがある。転入学を希望する者は現に在学する学長の承認書を提出しなければならない。

- 2 転入学の時期は学年の始めまたは、学期始めとし本人の既修の授業科目及び単位並びに在学年数については、その一部又は全部を本学において認定して今後履修すべき授業科目及び単位数並びに在学年数を決定する。

(編入学)

第45条 編入学を希望する者があるときは、選考の上教授会の議を経て、学長が入学を許可することがある。ただし、食物栄養学部食物栄養学科を除いては欠員が生じた場合に限る。

- 2 編入学の時期及び履修すべき授業科目、単位、在学年数については別に定める。

第6章 授業料その他の学費

(授業料その他の納付金)

第46条 入学検定料、入学金、授業料等は別表第2の通りとする。

- 2 授業料等は前・後期2期分納とする。但し、申出によってさらに分割納入を認めることがある。
- 3 編入学した者の授業料等については、編入した当該学年の授業料等の額とする。
- 4 東筑紫短期大学から編入した者の入学金については、編入学した当該学年の額を適用し、これを半額免除する。

(授業料その他の納付金の納入時期)

第47条 学生は所定の期日までに授業料等を納付しなければならない。

- | | | |
|------|---------|----------|
| 一 前期 | 4月1日から | 4月20日まで |
| 二 後期 | 10月1日から | 10月20日まで |

(復学等の場合の授業料)

第48条 前期又は後期の中途において、復学又は入学した者は、復学又は入学した月の属する期の授業料等を復学又は入学した月に納付しなければならない。

(学年途中で卒業する場合の授業料)

第 49 条 学年の途中で卒業する見込みの者は卒業する見込みの月の属する期の授業料等を納付するものとする。

(休学の場合の授業料)

第 50 条 授業料等は休学の場合は免除する。但し、休学を許可され又は命ぜられた者については、休学の始まる前日及び休学の終わった翌日の属する期の学費は納付しなければならない。

(退学及び停学の場合の授業料)

第 51 条 前期又は後期の途中で退学し又は除籍された者の該当期分の授業料等は徴収する。
2 停学期間中の授業料等は徴収する。

(授業料その他の学費の不還付)

第 52 条 一旦納めた検定料、入学金及び授業料等はいかなる理由によるも返付しない。

(授業料等減免)

第 53 条 成績優秀な者であつてやむを得ない事情により学資の支弁困難な者に対しては教授会の議を経て授業料等を免除あるいは貸与することがある。これらの場合に関する細部の規定はこれを別に定める。

(社会人及び外国人留学生等の授業料)

第 54 条 社会人、外国人留学生、研究生、委託生、科目等履修生、特別聴講学生の検定料及び授業料等については別に定める。

第 7 章 職 員 組 織

(職 員)

第 55 条 本学には学長、学長補佐、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員及びその他の職員を置く。

2 学長は、本学教育事業及び事務を総括主宰するとともに、すべての校務をつかさどり、所属の教職員を統督する。

(職員の職務)

第 56 条 職員の職務に関しては学校教育法その他法令の定めあるもののほか、別に定めるところによる。

第8章 教授会に関する事項

(教授会)

第57条 本学に教授会を置く。但し、学長が、必要と認めるときは、学部教授会を開くことができる。

(教授会の構成)

第58条 教授会は、学長、学長補佐及び当該学部に所属する教授をもって組織する。

- 2 教授会は、学長が必要と認めるときは、准教授、講師及び助教、その他専門性を有する職員を加えて、第61条に規定する事項について、審議することができる。

(教授会の招集)

第59条 教授会は学長がこれを招集する。但し、学長にやむを得ざる支障ある場合は学長補佐がこれに代って招集することがある。

- 2 学長は教授会の構成員の3分の2以上から議題を示して要求があった場合には、要求のあった日から7日以内に教授会を招集しなければならない。
- 3 学長は教授会の議長となる。但し、学長にやむを得ざる支障ある場合は学長補佐が代行する。

(教授会の開催)

第60条 教授会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開催することはできない。

(審議事項)

第61条 教授会の審議すべき事項は次に掲げるものとする。

- 一 学位の授与
- 二 学則及びその他学内規則の制定・改廃に関する事項
- 三 教育課程及び授業に関する事項
- 四 入学試験に関する事項
- 五 学生の試験並びに課程修了に関する事項
- 六 学生の入学、成績考査及び卒業に関する事項
- 七 学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
- 八 教員の教育研究及び教育研究業績の審査等に関する事項

但し、資格審査に関する教育研究業績等の審査に関しては、「九州栄養福祉大学教員選考規程」に基づくものとする。

- 九 自己点検・評価に関する事項

- 2 教授会は前項に規定するもののほか、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(運営細則の委任)

第62条 その他教授会の運営に関し必要とする事項については、別に定める。

第9章 図書館その他附属施設

(図書館)

第63条 本学に図書館を設ける。図書館に関する規定は別に定める。

(附属研究所)

第64条 本学に附属研究所を設ける。附属研究所に関する規定は別に定める。

第10章 研究生、委託生、科目等履修生、特別聴講学生

(研究生)

第65条 本学を卒業した者又はこれと同等以上の学力を有する者で特に本学で研究を希望する者があるときは、選考の上、研究生として入学を許可することがある。

(科目等履修生)

第66条 本学の授業科目中特定の科目の履修を希望する者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

- 2 前項で履修を許可された科目等履修生に対し単位を与えることができる。
- 3 科目等履修生に関して必要な事項は、別に定める。

(特別聴講学生)

第67条 本学において、他の大学又は短期大学との単位互換協定により前条の規定による学生の履修を許可する場合は特別聴講学生として取り扱う。

- 2 特別聴講学生に関して必要な事項は、別に定める。

(委託生)

第68条 公共団体その他の機関から本学の特定の授業科目につき学修を委託された者があるときは、選考の上、委託生として入学を許可することがある。

- 2 前項で履修を許可された委託生に対し単位を与えることができる。
- 3 委託生に関して必要な事項は、別に定める。

第11章 外国人留学生

(外国人留学生)

第69条 外国人で本学に入学を志願する者に対しては、特別選考の上、入学を許可することがある。

- 2 外国人留学生に関して必要な事項は、別に定める。

第12章 学年、学期及び休業日並びに授業日数

(学 年)

第70条 学年は4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(学 期)

第71条 学年は次の2学期に分ける。

前 期	4月1日より	9月20日まで
後 期	9月21日より	3月31日まで

(休 業 日)

第72条 休業日は次の通りとする。

日曜日・国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

本学創立記念日	3月	3日
春 季 休 業	4月	1日から 4月 5日まで
夏 季 休 業	8月	13日から 9月 12日まで
冬 季 休 業	12月	25日から 翌年1月7日まで

- 2 学長は、必要がある場合は、前項の休業日を臨時に変更することができる。
- 3 学長は、第1項に規定するもののほか、臨時の休業日を定めることができる。

(授 業 期 間)

第73条 1年間の授業期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

第13章 賞 罰

(表 彰)

第74条 学生として表彰に値する行為があった者に対しては、教授会の議を経て学長が表彰することがある。

(懲 戒)

第75条 本学の規則等に違反し、または学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

- 2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

第76条 退学は次の各号の1に該当する者に対して行う。

- 一 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- 二 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- 三 正当の事由がなくて出席が常でない者
- 四 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第14章 学生寮

(学生寮)

第77条 本学に学生寮を設ける。

第78条 学生寮には寮監その他の職員を置く。

第79条 学生寮に関する細部の規定は別に定める。

第15章 公開講座

(公開講座)

第80条 学校教育法第107条に基づき、社会人の教養を高め、地域社会の文化の向上に資するため、本学に公開講座を開講することがある。

附 則

- 1 本学則は令和7年4月1日から之を施行する。
- 2 令和6年度以前の入学生については旧学則による。

別表第1

食物栄養学部 食物栄養学科

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
基 礎 教 養 科 目	本学教育への理解				初年次教育含む
	建学の思想	2		2	
	キャリアガイダンスⅠ	2	2		
	キャリアガイダンスⅡ	2	2		
	食と哲学	2	2		
	倫理学	2	2		
	食と福祉	2		2	
	栄養士のための農園演習	1		1	
	人間と文化への理解				
	文 学	2		2	
	文章校正と編集	2		2	
	人間関係の心理	2		2	
	人間と社会への理解				
	日本国憲法	2		2	
	栄養士の法制度論	2		2	
	食と経済	2		2	
	生活とマスコミ	2		2	
	人間と科学への理解				
	基礎生物学	2		2	
	食物と薬	2		2	
	基礎化学	2		2	
	化 学	2	2		
	生命と科学	2		2	
	基礎統計学	2	2		
	コンピュータリテラシーⅠ	1		1	
	コンピュータリテラシーⅡ	1		1	
	語学と国際社会への理解				
	実用英語の基礎Ⅰ	1	2	2	
実用英語の基礎Ⅱ	1				
語学の理解	2				
実用英語Ⅰ	1		1		
実用英語Ⅱ	1		1		
フランス語の基礎	1		1		
料理とフランス語	1		1		
中国語の基礎	1		1		

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
基礎 教養 科目	語学と国際社会への理解				
	料理と中国語	1		1	
	国際理解のための基礎英語	2		2	
	国際理解（海外研修）	2		2	
	健康と運動への理解				
	健康スポーツ科学Ⅰ	2	2		
	健康スポーツ科学Ⅱ	2		2	
スポーツ栄養学	2		2		
基礎教養科目 24 単位以上必修					
専 門 教 育 科 目	管理栄養士基本科目				
	社会・環境と健康				
	健康管理概論	2		2	
	公衆衛生学Ⅰ	2	2		
	公衆衛生学Ⅱ	2		2	
	社会福祉論	2	2		
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち				
	解剖生理学Ⅰ	2	2		
	解剖生理学Ⅱ	2	2		
	生化学Ⅰ	2	2		
	生化学Ⅱ	2	2		
	病態生理学	2	2		
	疾病の成り立ちと病態	2	2		
	運動生理学	2	2		
	微生物学	2	2		
	生化学実験	1	1		
	解剖生理学実習	1	1		
	解剖生理学実験	1	1		
	食べ物と健康				
	食品学総論	2	2		
	食品衛生学	2	2		
	食品加工学	2	2		
	調理学	2	2		
食品学実験Ⅰ	1	1			
食品学実験Ⅱ	1	1			
食品加工学実習	1	1			
食品衛生学実験	1	1			

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考		
専 門 教 育 分 野	専門基礎分野	食べ物と健康					
		調理学実習Ⅰ	1	1			
		調理学実習Ⅱ	1	1			
		調理学実習Ⅲ	1	1			
	専 門 教 育 分 野	基礎栄養学					
			基礎栄養学	2	2		
			基礎栄養学実験	1	1		
		応用栄養学					
			応用栄養学Ⅰ	2	2		
			応用栄養学Ⅱ	2	2		
			応用栄養学Ⅲ	2			2
			応用栄養学実習	1	1		
		栄養教育論					
			栄養教育論Ⅰ	2	2		
			栄養教育論Ⅱ	2	2		
			栄養教育論Ⅲ	2			2
			栄養教育論実習Ⅰ	1	1		
			栄養教育論実習Ⅱ	1	1		
		臨床栄養学					
			臨床栄養学Ⅰ	2	2		
			臨床栄養学Ⅱ	2	2		
			臨床栄養学Ⅲ	2			2
			食物とアレルギー	2	2		
			臨床栄養学実習Ⅰ	1	1		
			臨床栄養学実習Ⅱ	1	1		
		公衆栄養学					
			公衆栄養学Ⅰ	2	2		
			公衆栄養学Ⅱ	2	2		
			公衆栄養学実習	1	1		
		給食経営管理論					
給食管理			2	2			
給食経営管理論			2	2			
給食管理実習	1		1				

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考	
専 門 分 野	総合演習					
	食健康センター活動（演習）	1		1		
	臨地実習指導（演習）	1		1		
	臨地実習					
	臨地実習Ⅰ	2		2		
	臨地実習Ⅱ	1		1		
	臨地実習Ⅲ	1	1			
	専門基礎科目					
	栄養カウンセリング	2		2		
	栄養情報処理演習Ⅰ	1	1			
	栄養情報処理演習Ⅱ	1	1			
	食品学各論	2	2			
	食品基礎実験	1	1			
	有機化学	2	2			
	福祉分野					
	栄養福祉論	2	2			
	社会福祉援助技術	2	2	7		
	高齢者心理学	2				
	育児と栄養	2				
	リハビリテーション概論	2				
	食事介助実習（学外）	1				
実践栄養分野						
料理特別実習Ⅰ	1	1	2			
料理特別実習Ⅱ	1					
料理特別実習Ⅲ	1					
管理栄養士演習ⅠA	2	2				
管理栄養士演習ⅠB	2	2				
管理栄養士演習Ⅱ	2		2			
運動処方論	2	2				
食と健康分野						
食品機能論	2	2	8			
栄養薬理学Ⅰ	2					
栄養薬理学Ⅱ	2					
栄養士のための薬膳	2					
細菌性食中毒学	2					
専 門 基 礎 科 目						
教 育 科 目					福祉施設	

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
専 門 教 育 科 目	食品産業・流通分野				
	食品バイオテクノロジー	2		2	
	食卓デザイン論	2		2	
	食品の官能評価・鑑別演習	2		2	
	食品流通論	2		2	
	卒業研究				
	キャリアデザイン	2	2		
	専門ゼミナール	2	2		
	卒業論文	2		2	
専門教育科目 100 単位以上必修					
卒業単位 124 単位以上必修					
教職に関する専門教育科目					
	児童・生徒の栄養指導Ⅰ	2		2	
	児童・生徒の栄養指導Ⅱ	2		2	
	教育原理	2		2	
	教職概論	2		2	
	教育制度論	1		1	
	教育心理学	2		2	
	特別支援教育概論	1		1	
	教育課程論	1		1	
	道德教育の理論と方法	1		1	
	総合的な学習と特別活動	1		1	
	教育方法論	1		1	
	生徒指導の理論と方法	2		2	
	教育相談（カウンセリング含む）	2		2	
	栄養教育実習	1		1	
	栄養教育実習事前・事後指導	1		1	
	教職実践演習（栄養教諭）	2		2	

食物栄養学部 食環境データサイエンス学科

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
基 礎 教 養 科 目	本学教育への理解				初年次教育含む
	キャリアガイダンスⅠ	1	1		
	キャリアガイダンスⅡ	1	1		
	キャリアガイダンスⅢ	1	1		
	キャリアガイダンスⅣ	1	1		
	食環境データサイエンス概論	2	2		
	食環境イノベーションデザイン	2	2		
	農園演習	1		1	
	人間と文化・社会・化学への理解				
	食と経済	2		2	
	人間関係の心理	2		2	
	基礎生物学	2		2	
	基礎化学	2		2	
	化 学	2	2		
	リハビリテーション概論	2		2	
	コンピュータリテラシー	1	1		
	AI・データサイエンス入門	1	1		
	語学と国際社会への理解				
	実用英語の基礎Ⅰ	1	1		
	実用英語の基礎Ⅱ	1	1		
	実用英語	1		1	
	国際理解（海外研修）	2		2	
	健康と運動への理解				
	健康スポーツ科学Ⅰ	1	1		
健康スポーツ科学Ⅱ	1	1			
健康スポーツ科学Ⅲ	1		1		
健康スポーツ科学Ⅳ	1		1		
基礎教養科目 24 単位以上必修					

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考	
専 門 教 育 科 目	食と健康科目	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち				
		解剖生理学	2		2	
		生化学	2	2		
		疾病の成り立ちと病態	2		2	
		運動生理学	2		2	
		食品分子機能学	2	2		
		微生物学	2	2		
		食べ物と健康				
		食品学総論	2	2		
		食品衛生学	2	2		
		食品加工学	2	2		
		栄養学				
	基礎栄養学	2	2			
	応用栄養学	2		2		
	臨床栄養学	2		2		
	公衆栄養学	2		2		
	スポーツ栄養学	2		2		
	データサイエンス科目	数学基礎科目				
		微積分学基礎	2	2		
		データサイエンスのための微積分学	2	2		
		線形代数基礎	2	2		
		データサイエンスのための線形代数	2	2		
		確率統計学基礎	2	2		
		データサイエンスのための確率統計学	2	2		
		データサイエンスのための応用数学	2	2		
		コンピュータシステム科目				
		プログラミング基礎	2	2		
プログラミング演習		1	1			
情報ネットワーク		2	2			
データベース入門		2	2			
センシングと信号処理		2	2			

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考	
専 門 教 育 科 目	データサイエンス科目	データサイエンス基礎科目				
		機械学習基礎	2	2		
		機械学習演習	1	1		
		データ解析基礎	2	2		
		データ解析演習	1	1		
		ニューラルネット基礎	2	2		
		ニューラルネット演習	1	1		
		データサイエンス実践科目				
		マルチモーダル AI 技術と応用	2		2	
		データ駆動型意思決定と可視化	2		2	
		食農健康データサイエンス	2	2		
		先端 AI 論	2	2		
		フードウェルネスデータサイエンス	2	2		
		バイオインフォマティクス	2	2		
		先端ロボティクス論	2	2		
		社会とデータサイエンス				
		マーケティングとデータサイエンス	2	2		
		マネジメントとデータサイエンス	2	2		
	人間と AI	2	2			
	食環境マネジメント科目					
	マーケティング論	2		2		
	マーケティングリサーチ	2		2		
	流通システム論	2		2		
	消費者行動論	2		2		
	サプライチェーンマネジメント学	2	2			
	アグリビジネスマネジメント学	2	2			
	食環境地域連携演習	1		1		
インターンシップ	1		1			
アントレプレナー論	2	2				
アントレプレナー演習	1	1				
卒業研究						
データサイエンス基礎演習	1	1				
データサイエンス実践演習	1	1				
卒業研究	8	8				
専門教育科目 100 単位以上必修						
卒業単位 124 単位以上必修						

リハビリテーション学部 理学療法学科

授業科目		開講 単位数	必修 単位数	選択 単位数	備考
基礎 教養 科目 ／ 科学的 思考の 基礎・ 人間と 生活・ 社会の 理解	本学教育への理解				初年次教育含む 初年次教育含む
	キャリア教育	2	2		
	スタートアップ教育Ⅰ	1	1		
	スタートアップ教育Ⅱ	1	1		
	健康と栄養	2	2	2	
	北九州市のノーマライゼーション	2			
	食と農園	1		1	
	人間と文化・社会への理解				4 4
	医療人のための教育学Ⅰ	2	2		
	社会福祉と地域ケア	2	2		
	医学倫理学	2	2		
	基礎心理学	2	4	4	
	医療人のための教育学Ⅱ	2			
	医療人のための哲学	2			
	医療人のための法学	2			
	人間と科学への理解				2 6
	基礎生物学	2	2	6	
	基礎物理学	2			
	基礎化学	2			
	医療人のための科学	2			
	情報処理演習Ⅰ	1	1		
	情報処理演習Ⅱ	1	1		
	健康スポーツ科学	1	1		
	語学と国際社会への理解				1 4
実用英語の基礎Ⅰ	1	1			
英会話Ⅰ	1	1			
実用英語の基礎Ⅱ	1	1	4		
英会話Ⅱ	1				
フランス語の基礎	1				
中国語の基礎	1				
韓国語の基礎	1				
基礎教養科目 24 単位以上必修					

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能及び心身の発達				
	解剖学Ⅰ	2	2		
	解剖学Ⅱ	2	2		
	生理学Ⅰ	2	2		
	生理学Ⅱ	2	2		
	解剖生理学総合実習	1	1		
	運動学Ⅰ	2	2		
	運動学Ⅱ	2	2		
	人間発達学	2	2		
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進				
	病理学	2	2		
	臨床心理学	2	2		
	小児科学	2	2		
	内科学	2	2		
	整形外科学	2	2		
	神経内科学	2	2		
	精神医学Ⅰ	2	2		
	臨床医学とリハビリテーション	2	2		
	リハビリテーション栄養学	2	2		
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念				
	リハビリテーション概論	2	2		
地域保健学	2	2			
臨床統計	1	1			

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
専 門 科 目	基礎理学療法学				
	理学療法学概論	2	2		初年次教育含む
	理学療法ゼミナールⅠ	1	1		
	理学療法ゼミナールⅡ	1	1		
	理学療法ゼミナールⅢ	1	1		
	理学療法基礎演習	1	1	2	
	理学療法総合研究	2			
	理学療法研究法演習	1	1		
	理学療法管理学				
	理学療法管理学	2	2		
	理学療法評価学				
	理学療法評価学Ⅰ	2	2		
	理学療法評価学Ⅱ	1	1		
	理学療法評価学Ⅲ	1	1		
	理学療法評価学統合演習Ⅰ	1	1		
	理学療法評価学統合演習Ⅱ	1	1		
	動作分析演習Ⅰ	1	1		
	動作分析演習Ⅱ	1	1		
	理学療法治療学				
	運動療法学概論	2	2		
	運動療法学演習	1	1		
	物理療法Ⅰ	1	1		
	物理療法Ⅱ	1	1		
	義肢装具学	2	2		
	高次脳機能理学療法	1	1		
	中枢神経疾患理学療法Ⅰ	1	1		
	骨・関節疾患理学療法Ⅰ	1	1		
	神経・筋疾患理学療法	1	1		
	内部疾患理学療法Ⅰ	1	1		
	小児理学療法Ⅰ	1	1		
	義肢装具学演習	1	1		
	中枢神経疾患理学療法Ⅱ	1	1		
	骨・関節疾患理学療法Ⅱ	1	1		
内部疾患理学療法Ⅱ	1	1			
小児理学療法Ⅱ	1	1			
日常生活活動演習	1	1			
理学療法総合演習Ⅰ	1	1			
理学療法総合演習Ⅱ	1	1			
高齢期理学療法学	2	2			

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考	
専 門 科 目	スポーツ系理学療法	1	2	3		
	パラスポーツ	1				
	先端医療と理学療法	1				
	性差医療と理学療法	1				
	予防理学療法	1				
	地域理学療法学					
	生活環境論	2	2			
	地域理学療法学	2	2			
	臨床実習					
	臨床実習Ⅰ	1	1			
	臨床実習Ⅱ	4	4			
	臨床実習Ⅲ	7	7			
	臨床実習Ⅳ	7	7			
	臨床実習Ⅴ	1	1			
	専門教育科目 104 単位以上必修					
卒業単位 128 単位以上必修						
資格取得に関する科目						
園芸概論	2		2			
園芸療法の基礎	2		2			
園芸療法実習	2		2			
ガーデニング	1		1			

リハビリテーション学部 作業療法学科

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考	
基礎 教養 科目 ／ 科学 的 思考 の 基盤 ・ 人間 と 生活 ・ 社会 の 理解	本学教育への理解				初年次教育含む 初年次教育含む	
	キャリア教育	2	2			
	スタートアップ教育Ⅰ	1	1			
	スタートアップ教育Ⅱ	1	1			
	健康と栄養	2	2	2		
	北九州市のノーマライゼーション	2				
	食と農園	1		1		
	人間と文化・社会への理解				4	4
	医療人のための教育学Ⅰ	2	2			
	社会福祉と地域ケア	2	2			
	医学倫理学	2	2			
	基礎心理学	2	4	4		
	医療人のための教育学Ⅱ	2				
	医療人のための哲学	2				
	医療人のための法学	2				
	人間と科学への理解				2	6
	基礎生物学	2	2	6		
	基礎物理学	2				
	基礎化学	2				
	医療人のための科学	2				
	情報処理演習Ⅰ	1	1			
	情報処理演習Ⅱ	1	1			
	健康スポーツ科学	1	1			
	語学と国際社会への理解				1	4
実用英語の基礎Ⅰ	1	1				
英会話Ⅰ	1	1				
実用英語の基礎Ⅱ	1	1	4			
英会話Ⅱ	1					
フランス語の基礎	1					
中国語の基礎	1					
韓国語の基礎	1					
基礎教養科目 24 単位以上必修						

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能及び心身の発達				
	解剖学Ⅰ	2	2		
	解剖学Ⅱ	2	2		
	生理学Ⅰ	2	2		
	生理学Ⅱ	2	2		
	解剖生理学総合実習	1	1		
	運動学Ⅰ	2	2		
	運動学Ⅱ	2	2		
	人間発達学	2	2		
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進				
	病理学	2	2		
	臨床心理学	2	2		
	小児科学	2	2		
	内科学	2	2		
	整形外科学	2	2		
	神経内科学	2	2		
	精神医学Ⅰ	2	2		
	精神医学Ⅱ	2	2		
	臨床医学とリハビリテーション	2	2		
	リハビリテーション栄養学	2	2		
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念				
リハビリテーション概論	2	2			
地域保健学	2	2			
	臨床統計	1	1		

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
専 門 科 目	基礎作業療法学				初年次教育含む
	作業療法学概論	2	2		
	基礎作業演習Ⅰ	1	1		
	基礎作業演習Ⅱ	1	1		
	基礎作業実習	1	1		
	作業療法ゼミナールⅠ	1	1		
	作業療法ゼミナールⅡ	1	1		
	作業療法管理学				
	作業療法管理学	2	2		
	作業療法評価学				
	作業療法評価学	2	2		
	身体機能作業療法評価演習Ⅰ	1	1		
	身体機能作業療法評価演習Ⅱ	1	1		
	精神機能作業療法評価演習	1	1		
	高次脳機能作業療法評価演習	1	1		
	発達期作業療法評価演習	1	1		
	生活機能評価	1	1		
	作業療法治療学				
	運動器疾患作業療法学	2	2		
	中枢神経疾患作業療法学	2	2		
	内部疾患作業療法学	2	2		
	精神疾患作業療法学Ⅰ	2	2		
	精神疾患作業療法学Ⅱ	2	2		
	発達期作業療法演習Ⅰ	1	1		
	発達期作業療法演習Ⅱ	1	1		
	義肢装具学	2	2		
	高次脳機能作業療法演習	1	1		
高齢期作業療法演習	1	1			
日常生活活動支援	1	1			
生活支援工学	2	2			
作業療法研究法	1	1			
臨床作業療法演習	1	1			
作業療法基礎演習	1	1			
作業療法専門演習	1	1			

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
専 門 科 目	手の機能と ICT	1	1	6	
	地域精神保健作業療法演習	1			
	認知症ケア支援	1			
	パラスポーツ	1			
	福祉住環境演習	1			
	作業療法総合研究	2			
地域作業療法学					
	地域作業療法学	2	2		
	地域マネジメント演習	1	1		
	職業関連支援	1	1		
臨床実習					
	臨床実習Ⅰ	2	2		
	臨床実習Ⅱ	4	4		
	臨床実習Ⅲ	8	8		
	臨床実習Ⅳ	8	8		
	臨床実習Ⅴ	1	1		
専門教育科目 108 単位以上必修					
卒業単位 132 単位以上必修					
資格取得に関する科目					
	園芸概論	2		2	
	園芸療法の基礎	2		2	
	園芸療法実習	2		2	
	ガーデニング	1		1	

こども教育学部 こども教育学科

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
基礎 教 養 科 目	本学教育への理解				初年次教育含む
	キャリア研究Ⅰ	1	1		
	キャリア研究Ⅱ	1	1		
	建学の精神と健康生活	2	2		
	人権教育概論	2	2		
	農園演習	1	1		
	社会科学				
	日本国憲法	2		2	
	society5.0の世界	2		2	
	消費者行動論	2		2	
	人文科学				
	美術	2		2	
	中国語の基礎	1		1	
	英語Ⅰ	1	1		
	英語Ⅱ	1	1		
	国際理解（海外研修）	2		2	
	自然科学				
	エネルギー代謝学	2		2	
	統計学	2		2	
	バイオサイエンス	2		2	
	化学	2		2	
	コンピュータリテラシーⅠ	1	1		
	コンピュータリテラシーⅡ	1	1		
	AI・データサイエンス入門	1		1	
デジタルメディアリテラシー	2		2		
健康スポーツ科学Ⅰ	1	1			
健康スポーツ科学Ⅱ	1		1		
基礎教養科目 24 単位以上必修					

授 業 科 目		開 講 単 位 数	必 修 単 位 数	選 択 単 位 数	備 考
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域（教科）に関する専門的事項・特別支援教の基礎理論に関する科目				
	健康	2		2	
	人間関係	2		2	
	環境	2		2	
	言葉	2		2	
	表現	2		2	
	領域のねらい	2		2	
	こどもの表現（総合劇演習）	1		1	
	国語科教育論	2		2	
	社会科教育論	2		2	
	算数科教育論	2		2	
	理科教育論	2		2	
	生活科教育概論	2		2	
	音楽教育理論	2		2	
	造形の理論	2		2	
	家庭科教育論	2		2	
	体育	2		2	
	英語科教育概論	2		2	
	障がいと教育	2	2		
	保育内容（各教科）の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）				
	健康の指導法	1		1	
	環境の指導法	1		1	
	人間関係の指導法	1		1	
	言葉の指導法	1		1	
	表現の指導法	1		1	
	領域の指導法	1		1	
	国語科指導法	1		1	
	社会科指導法	1		1	
算数科指導法	1		1		
理科指導法	1		1		
生活科指導法	1		1		
音楽教育基礎（ピアノ）Ⅰ	1		1		
音楽教育基礎（ピアノ）Ⅱ	1		1		
音楽教育基礎（ピアノ）Ⅲ	1		1		
音楽教育基礎（ピアノ）Ⅳ	1		1		
音楽教育応用（わらべうた）	1		1		
音楽教育応用（様々な楽器）	1		1		

授 業 科 目	開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
領域及び保育内容の指導法に関する科目	保育内容（各教科）の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）			
	こどもの造形Ⅰ	1		1
	こどもの造形Ⅱ	1		1
	こどもの造形Ⅲ	1		1
	家庭科指導法	1		1
	こどもの食と栄養Ⅰ	1		1
	こどもの食と栄養Ⅱ	1		1
	体育科教育実践法Ⅰ	1		1
	体育科教育実践法Ⅱ	1		1
	英語科指導法	1		1
専 門 教 育 科 目	特別支援教育領域に関する科目			
	知的障害児の心理・病理・生理	2		2
	肢体不自由児の心理・病理・生理	2		2
	病弱児の心理・病理・生理	2		2
	知的障害児教育	2		2
	知的障害児指導法	2		2
	肢体不自由児教育	2		2
	肢体不自由児指導法	2		2
病弱児教育	2		2	
専 門 教 育 科 目	教育の基礎的理解に関する科目			
	教育原理	2	2	
	教職概論	2	2	
	学校運営と制度	2	2	
	教育心理学	2	2	
	特別支援教育概論	2	2	
	教育課程・保育計画	2		2
	初等科課程編成論	2		2
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			
	こどもの理解と教育相談	2	2	
	道徳教育の理論と方法	2	2	
	総合的な学習の時間	2	2	
	特別活動指導論	2	2	
教育方法論	2		2	
I C Tを活用した授業構築	2		2	
児童・生徒の生活と進路指導	2	2		

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
専 門 教 育 科 目	教育実践に関する科目				
	幼稚園教育実習Ⅰ	1		1	
	幼稚園教育実習Ⅱ	3		3	
	幼稚園教育実習事前・事後指導	1		1	
	小学校教育実習	4		4	
	小学校実習事前・事後指導	1		1	
	特別支援学校教育実習	2		2	
	特別支援学校教育実習事前・事後指導	1		1	
	保育・教職実践演習(保幼小)	2		2	
	大学が独自に開設する科目				
	ボディパーカッション教育Ⅰ	1		1	
	ボディパーカッション教育Ⅱ	1		1	
	保幼小連携論	2	2		
	地域と学校	2	2		
	こどもと学校の歴史	2	2		
	教育社会学	2		2	
	学級経営論Ⅰ	2	2		
	学級経営論Ⅱ	1		1	
	生活の中のジェンダー	2		2	
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目					
視覚障害児教育総論	2		2		
聴覚障害児教育総論	2		2		
発達障害児教育総論	2		2		

授 業 科 目		開 講 単位数	必 修 単位数	選 択 単位数	備 考
専 門 教 育 科 目	保育の本質・目的に関する科目				
	保育原理	2	2		
	こども家庭福祉	2	2		
	社会福祉	2		2	
	こども家庭支援論	2		2	
	こども家庭福祉演習Ⅰ	1		1	
	こども家庭福祉演習Ⅱ	1		1	
	社会的養護Ⅰ	2		2	
	保育の対象の理解に関する科目				
	こども家庭支援の心理学	2		2	
	こどもの保健	2		2	
	発達心理学	2		2	
	保育の内容・方法に関する科目				
	乳児保育Ⅰ	2		2	
	乳児保育Ⅱ	1		1	
	こどもの健康と安全	1		1	
	障害児保育Ⅰ	1		1	
	障害児保育Ⅱ	1		1	
	社会的養護Ⅱ	1		1	
	子育て支援	1	1		
	保育指導論	2		2	
	保育実習				
	保育実習ⅠA（保育所）	2		2	
	保育実習ⅠB（施設）	2		2	
	保育実習指導Ⅰ	2		2	
	保育実習Ⅱ（保育所）	2		2	
	保育実習Ⅲ（施設）				
	保育実習指導Ⅱ（保育所）	1		1	
保育実習指導Ⅲ（施設）					
ゼ ミ ナ ー ル	プレゼミナール	1	1		
	ゼミナールⅠ	1	1		
	ゼミナールⅡ	1	1		
	卒業研究Ⅰ	2	2		
	卒業研究Ⅱ	2	2		
専門教育科目 100 単位以上必修					
卒業単位 124 単位以上必修					

別表第2 検定料、入学金、授業料、施設費等 (単位：円)

1. 検定料

検定料	30,000	出願時に納付
検定料 (大学入学共通テスト利用入学試験)	15,000	出願時に納付

2. 授業料等

学部	区分	1年次	2年次	3年次	4年次	備考
食物栄養学部 食物栄養学科	入学金	230,000				入学合格時に納付
	授業料	680,000	680,000	680,000	680,000	前、後期二期分納
	施設設備資金	100,000	100,000	100,000	100,000	前、後期二期分納
	教育充実費	160,000	160,000	160,000	160,000	前、後期二期分納
	実験実習料	100,000	100,000	100,000	100,000	前、後期二期分納
	計	1,270,000	1,040,000	1,040,000	1,040,000	

学部	区分	1年次	2年次	3年次	4年次	備考
食物栄養学部 食環境データサイエンス学科	入学金	230,000				入学合格時に納付
	授業料	960,000	960,000	960,000	960,000	前、後期二期分納
	教育充実費	160,000	160,000	160,000	160,000	前、後期二期分納
	施設設備資金	100,000	100,000	100,000	100,000	前、後期二期分納
	計	1,450,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	

学部	区分	1年次	2年次	3年次	4年次	備考
リハビリテーション学部	入学金	230,000				入学合格時に納付
	授業料	960,000	960,000	960,000	960,000	前、後期二期分納
	教育充実費	160,000	160,000	160,000	160,000	前、後期二期分納
	施設設備資金	100,000	100,000	100,000	100,000	前、後期二期分納
	計	1,450,000	1,220,000	1,220,000	1,220,000	

学部	区分	1年次	2年次	3年次	4年次	備考
こども教育学部	入学金	230,000				入学合格時に納付
	授業料	680,000	680,000	680,000	680,000	前、後期二期分納
	施設設備資金	100,000	100,000	100,000	100,000	前、後期二期分納
	教育充実費	100,000	100,000	100,000	100,000	前、後期二期分納
	実験実習料	220,000	220,000	220,000	220,000	前、後期二期分納
	計	1,330,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000	

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- DP1 子供から高齢者までの豊かな食生活と健康を支え、持続可能な社会の実現に貢献しようという使命感を有する。
 DP2 食環境・健康分野の AI・データサイエンスに関連する専門知識と技能を習得し、多様なデータの収集・分析能力、科学的合理性に基づく判断能力を有する。
 DP3 食環境・健康に関する現実の課題を理解し、AI・データサイエンス技術を用いて実践的な解決策を提案する能力を有する。
 DP4 新しいアイデアやアプローチを通じて、食環境・健康分野におけるイノベーションを推進し、科学技術と社会の懸け橋となる能力を有する。
 DP5 社会からの信頼に応えるために、卒業後も継続的な学習と自己研鑽に努める姿勢を有する。

	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
4 年次履修					●卒業研究
3 年次履修	●運動生理学 ●食品加工学 ●スポーツ栄養学 ●マーケティングリサーチ ●消費者行動論	●ニューラルネット基礎 ●データ駆動型意思決定と可視化 ● <u>フードウェルネスデータサイエンス</u>	●ニューラルネット演習 ●マルチモーダル AI 技術と応用 ●マーケティングとデータサイエンス ● <u>マネジメントとデータサイエンス</u>	●食農健康データサイエンス ●先端 AI 論 ●先端ロボティクス論 ●人間と AI ●サプライチェーンマネジメント学 ● <u>アグリビジネスマネジメント学</u>	●データサイエンス基礎演習 ● <u>データサイエンス実践演習</u>
2 年次履修	○人間関係の心理 ○リハビリテーション概論 ○健康スポーツ科学Ⅲ ○健康スポーツ科学Ⅳ ●疾病の成り立ちと病態 ● <u>食品分子機能学</u> ● <u>基礎栄養学</u> ● <u>応用栄養学</u> ● <u>臨床栄養学</u> ● <u>公衆栄養学</u> ● <u>マーケティング論</u> ● <u>流通システム論</u>	● <u>データサイエンスのための応用数学</u> ● <u>データベース入門</u> ● <u>センシングと信号処理</u> ● <u>機械学習基礎</u> ● <u>データ解析基礎</u> ● <u>バイオインフォマティクス</u>	● <u>データサイエンスのための確率統計学</u> ● <u>機械学習演習</u> ● <u>データ解析演習</u>	●アントレプレナー論 ●アントレプレナー演習	○キャリアガイダンスⅢ ○キャリアガイダンスⅣ ○実用英語 ○国際理解（海外研修） ○食環境地域連携演習 ○インターンシップ
1 年次履修	○農園演習 ○食と経済 ○基礎生物学 ○基礎化学 ○化学 ○健康スポーツ科学Ⅰ ○健康スポーツ科学Ⅱ ●解剖生理学 ●生化学 ●微生物学 ● <u>食品学総論</u> ● <u>食品衛生学</u>	○ <u>コンピュータリテラシー</u> ● <u>微積分学基礎</u> ● <u>データサイエンスのための微積分学</u> ● <u>線形代数基礎</u> ● <u>データサイエンスのための線形代数</u> ● <u>確率統計学基礎</u> ● <u>情報ネットワーク</u>	○ <u>AI・データサイエンス入門</u> ● <u>プログラミング基礎</u> ● <u>プログラミング演習</u>	○ <u>食環境データサイエンス概論</u> ○ <u>食環境イノベーションデザイン</u>	○キャリアガイダンスⅠ ○キャリアガイダンスⅡ ○ <u>実用英語の基礎Ⅰ</u> ○ <u>実用英語の基礎Ⅱ</u>

※ ○印は基礎教養科目、●印は専門教育科目

※ 下線付き科目は主要授業科目

<学校法人東筑紫学園の現状：令和5年5月1日現在>

教育機関名	所在地	入学定員	収容定員	在籍者数
九州栄養福祉大学 大学院	北九州市小倉北区下到津五丁目1番1号	4人	8人	2人
九州栄養福祉大学	小倉北区キャンパス： (食物栄養学部) 北九州市小倉北区下到津五丁目1番1号 小倉南区キャンパス： (リハビリテーション学部) 北九州市小倉南区葛原高松一丁目5番1号	230人	900人	902人
東筑紫短期大学	北九州市小倉北区下到津五丁目1番1号	220人	440人	361人
東筑紫短期大学 専攻科 介護福祉専攻	北九州市小倉北区下到津五丁目1番1号	30人	30人	11人
東筑紫学園高等学校	北九州市小倉北区清水四丁目10番1号	450人	1,350人	1,121人
照曜館中学校	北九州市小倉北区清水四丁目10番1号	100人	300人	196人
認定こども園東筑紫 短期大学附属幼稚園	北九州市小倉北区下到津五丁目3番14号	240人	240人	183人

九州栄養福祉大学 年次別卒業生数

令和6年3月19日

学部・学科 年度	食物栄養学部		リハビリテーション学部			合計	
	期	食物栄養学科 計	期	理学療法 学科	作業療法 学科		計
平成16年度	1期	113				113	
平成17年度	2	104				104	
平成18年度	3	109				109	
平成19年度	4	106				106	
平成20年度	5	107				107	
平成21年度	6	111				111	
平成22年度	7	123				123	
平成23年度	8	109				109	
平成24年度	9	110				110	
平成25年度	10	119				119	
平成26年度	11	112	1期	57	27	84	196
平成27年度	12	114	2	89	46	135	249
平成28年度	13	117	3	70	32	102	219
平成29年度	14	114	4	87	34	121	235
平成30年度	15	112	5	71	40	111	223
令和元年度	16	114	6	82	28	110	224
令和2年度	17	103	7	79	35	114	217
令和3年度	18	111	8	83	39	122	233
令和4年度	19	84	9	80	36	116	200
令和5年度	20	95	10	83	27	110	205
合計		2187		781	344	1125	3312

満60歳以降に雇用される者の役職及び職位等委嘱に関する規準

第1条 この規準は、『学校法人東筑紫学園定年退職者の再雇用に関する規程』により満60歳以降引き続き雇用された教職員の役職及び職位等の委嘱に関する事項を定めることを目的とする。

第2条 高年齢者雇用安定法に則り、専任職員であった者を定年年令（満60歳）を超えて引き続き雇用する場合は満65歳までとし、契約は1年毎の更新とする。なお、期限付き雇用者についても満65歳を超えて雇用しないことを原則とする。

第3条 全ての専任職員は、定年年令（満60歳）到達以降に雇用されるときは、特別な場合を除き教育職に在っては職位（教授、准教授、講師等）、行政職にあつては役職（部長、課長等）を委嘱しないことを原則とする。この場合、大学及び短期大学の教員については「特任」職を委嘱する。

第4条 前条の規定に拘らず定年年令（満60歳）到達以降再雇用するに当たり、学校の必要により役職・職位を委嘱することがある。この場合、役職の任期規程に依らず委嘱期間は1年間とし、役職・職位の委嘱年齢は満65歳を超えないことを原則とする。

第5条 前条の役職・職位を委嘱された者が、更に満65歳を超えて再雇用される場合には、役職を委嘱しない。

この場合、『就業規則』第50条第1項に定めるとおり、大学・短期大学の専任の教育職員については役職は委嘱しないが、職位を委嘱することが出来る。

第6条 大学等設置時に文部科学省から教授として認可された教員は、満75歳に到達するまでの間同職位及び同等以上の役職を委嘱することが出来る。

第7条 概ね60歳以降特に外部から招聘された者（管理職及び教授・准教授・講師等）は、満72歳に到達するまでの間同等若しくは同等以上の役職・職位を委嘱することが出来る。

附 則

- 1 この規準は平成25年4月1日から施行する。
- 2 この改正規準は平成26年4月1日から施行する。

食物栄養学部 食環境データサイエンス学科

学術及び教育・研究に寄与する雑誌一覧

雑誌名	出版社
【新規購入予定】和雑誌	
・ Interface	CQ出版社
・ コンピュータソフトウェア	岩波書店
・ 情報処理	情報処理学会
・ 数理科学	サイエンス社
・ 統計	日本統計協会
・ 日経NETWORK	日経BPマーケティング
・ 日経エレクトロニクス	日経BPマーケティング
・ 日経コンピュータ	日経BPマーケティング
・ 日経ソフトウェア	日経BPマーケティング
・ 農業と経済	英明企画編集
・ 農耕と園芸	誠文堂新光社
【所蔵】和雑誌	
・ 生化学	日本生化学会
・ 日本臨床	日本臨床社
・ 実験医学	羊土社
・ 日本健康学会誌	日本健康学会
・ 総合診療	医学書院
・ 小児科臨床	総合医学社
・ FFIジャーナル	FFIジャーナル編集委員会
・ Food style21	食品化学新聞社
・ 臨床と微生物	近代出版
・ 食と健康	日本食品衛生協会
・ 食品衛生学雑誌	日本食品衛生学会
・ 月刊HACCP	鶏卵肉情報センター
・ 日本食品科学工学会誌	日本食品科学工学会
・ 栄養	ジェフコーポレーション
・ 栄養学雑誌	日本栄養改善学会
・ 日本栄養士会雑誌	日本栄養士会
・ 栄養学レビュー	女子栄養大学出版部
・ 栄養と料理	女子栄養大学出版部
・ 臨床栄養	医歯薬出版
・ Medical nutritionist of PEN leaders	フジメディカル出版
・ アレルギーの臨床	北隆館
・ 学校保健研究	日本学校保健学会
・ 食と医療	講談社エディトリアル
・ ヘルスケアレストラン	日本医療企画
・ Nutrition Care	メディカ出版
・ 臨床スポーツ医学	文光堂
【新規購入予定】外国雑誌(PR)	
・ Japanese Journal of Mathematics (3rd Series)	Springer Nature

食物栄養学部 食環境データサイエンス学科

学術及び教育・研究に寄与する雑誌一覧

雑誌名	出版社
【新規購入予定】外国雑誌(OJ)	
・ Biometrika	Oxford University Press
・ Journal of Cognitive Neuroscience	The M.I.T. Press
・ Mathematical Proceedings of the Cambridge Philosophical Society	Cambridge University Press
・ Neural Computation	The M.I.T. Press
【所蔵】外国雑誌(PR)	
・ The Lancet	The Lancet LTD
・ Appetite	Elsevier Science
・ Food Science Technology Research	Japanese Society for Food Science and Technology
・ Journal of the American Nutrition Association	Taylor & Francis Limited
・ Journal of the Academy of Nutrition and Dietetics	W.B.Saunders Co.
・ Nutrition Reviews	Oxford University Press
・ Nutrition : International Journal of Applied and Basic Nutritional Sciences	W.B.Saunders Co.
【所蔵】外国雑誌(OJ)	
・ The Journal of Nutrition	Science Direct (提供元)
・ The American Journal of Clinical Nutrition	Science Direct (提供元)

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(食物栄養学部食環境データサイエンス学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
基礎 教養 科目	キャリアガイダンスⅠ	1前	○	1				○			4	1					オムニバス
	キャリアガイダンスⅡ	1後	○	1				○			4	1					オムニバス
	キャリアガイダンスⅢ	2前	○	1				○			4	1					オムニバス
	キャリアガイダンスⅣ	2後	○	1				○			4	1					オムニバス
	食環境データサイエンス概論	1前	○	2			○				4	1					オムニバス
	食環境イノベーションデザイン	1後	○	2			○				1					1	オムニバス
	農園演習	1通			1			○								2	
	食と経済	1前			2			○								1	
	人間関係の心理	2前			2			○								1	
	基礎生物学	1前			2			○								1	
	基礎化学	1前			2			○				1					
	化学	1後		2				○			1						
	リハビリテーション概論	2前			2			○								3	オムニバス
	コンピュータリテラシー	1前	○		1				○		1						
	AI・データサイエンス入門	1後	○		1				○		1						
	実用英語の基礎Ⅰ	1前	○		1				○								1
	実用英語の基礎Ⅱ	1後	○		1				○								1
	実用英語	2前			1				○								1
	国際理解（海外研修）	2前・2後			1				○								2
	健康スポーツ科学Ⅰ	1前			1				○								1
	健康スポーツ科学Ⅱ	1後			1				○								1
	健康スポーツ科学Ⅲ	2前			1				○								1
	健康スポーツ科学Ⅳ	2後			1				○								1
小計（23科目）		—	—	16	15			—			4	1	0	0		10	
専門 教育 科目	食と健康 科目	解剖生理学	1前			2		○									1
		生化学	1後	○		2		○			1						
		疾病の成り立ちと病態	2後			2			○								1
		運動生理学	3後			2			○								1
		食品分子機能学	2後	○		2			○		1						
		微生物学	1前	○		2			○			1					
		食品学総論	1後	○		2			○				1				1
		食品衛生学	1前	○		2			○				1				
		食品加工学	3前	○		2			○								1
		基礎栄養学	2前	○		2			○		1						
		応用栄養学	2前			2			○								1
		臨床栄養学	2後			2			○								1
		公衆栄養学	2後			2			○								1
		スポーツ栄養学	3後			2			○								1
小計（14科目）		—	—	14	14	0		—			2	1	0	0		7	

教 育 課 程 等 の 概 要

(食物栄養学部食環境データサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員		
専門教育科目 データサイエンス科目	微積分学基礎	1前		2			○			1								
	データサイエンスのための微積分学	1後	○	2			○			1								
	線形代数基礎	1後		2			○								1			
	データサイエンスのための線形代数	1後	○	2			○								1			
	確率統計学基礎	1後		2			○			1								
	データサイエンスのための確率統計学	2前	○	2			○			1								
	データサイエンスのための応用数学	2前	○	2			○				1							
	プログラミング基礎	1前	○	2			○			1								
	プログラミング演習	1後	○	1				○		1								
	情報ネットワーク	1後	○	2			○			1								
	データベース入門	2前	○	2			○			1								
	センシングと信号処理	2後		2			○								1			
	機械学習基礎	2前		2			○								1			
	機械学習演習	2前		1				○							1			
	データ解析基礎	2後	○	2			○				1							
	データ解析演習	2後	○	1				○			1							
	ニューラルネット基礎	3前	○	2			○				1							
	ニューラルネット演習	3前	○	1				○			1							
	マルチモーダルAI技術と応用	3後			2		○								1			
	データ駆動型意思決定と可視化	3前			2		○								1			
	食農健康データサイエンス	3前	○	2			○				1							
	先端AI論	3後	○	2			○				1							
	フードウェルネスデータサイエンス	3前	○	2			○			1	1							
	バイオインフォマティクス	2後	○	2			○			1	1							
	先端ロボティクス論	3後		2			○									1		
	マーケティングとデータサイエンス	3前	○	2			○			1								
	マネジメントとデータサイエンス	3後	○	2			○			1								
	人間とAI	3前		2			○									1		
小計 (28科目)		-	-	48	4	0	-	-	-	4	2	0	0			4		
専門教育科目 食環境マネジメント科目	マーケティング論	2後			2		○									1		
	マーケティングリサーチ	3前			2		○									1		
	流通システム論	2後			2		○									1		
	消費者行動論	3前			2		○									1		
	サプライチェーンマネジメント学	3前	○	2			○								5		オムニバス	
	アグリビジネスマネジメント学	3後	○	2			○								5		オムニバス	
	食環境地域連携演習	2後			1			○		1						2		
	インターンシップ	3前・3後			1			○		1						1		
	アントレプレナー論	2前	○	2			○									5		オムニバス
	アントレプレナー演習	2後		1				○								5		オムニバス
小計 (10科目)		-	-	7	10	0	-	-	-	2	0	0	0		9			
専門教育科目 卒業研究	データサイエンス基礎演習	3前	○	1				○		4	1							
	データサイエンス実践演習	3後	○	1				○		4	1							
	卒業研究	4通	○	8				○		4	1							
小計 (3科目)		-	-	10	0	0	-	-	-	4	1	0	0		0			
合計 (126科目)			-	-	95	43	0	-	-	4	2	0	0		26			
学位又は称号	学士 (食環境データサイエンス)			学位又は学科の分野			家政関係											
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等											
「基礎教養科目」から必修科目16単位を含む24単位以上、「専門教育科目」から必修科目79単位を含む100単位以上、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限：48単位 (年間))							1 学年の学期区分			2期								
							1 学期の授業期間			15週								
							1 時限の授業の標準時間			90分								

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科 (学位の種類及び分野の変更等に関する基準 (平成十五年文部科学省告示第三十九号) 別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。) についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。

- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校を設ける場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校を設ける場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

学生確保の見通しと学生確保に向けた取組を記載した書類

目次

- (1) 新設組織の概要
- (2) 人材需要の社会的な動向等
- (3) 学生確保の見通し等
- (4) 新設組織の定員設定の理由

(1) 新設組織の概要

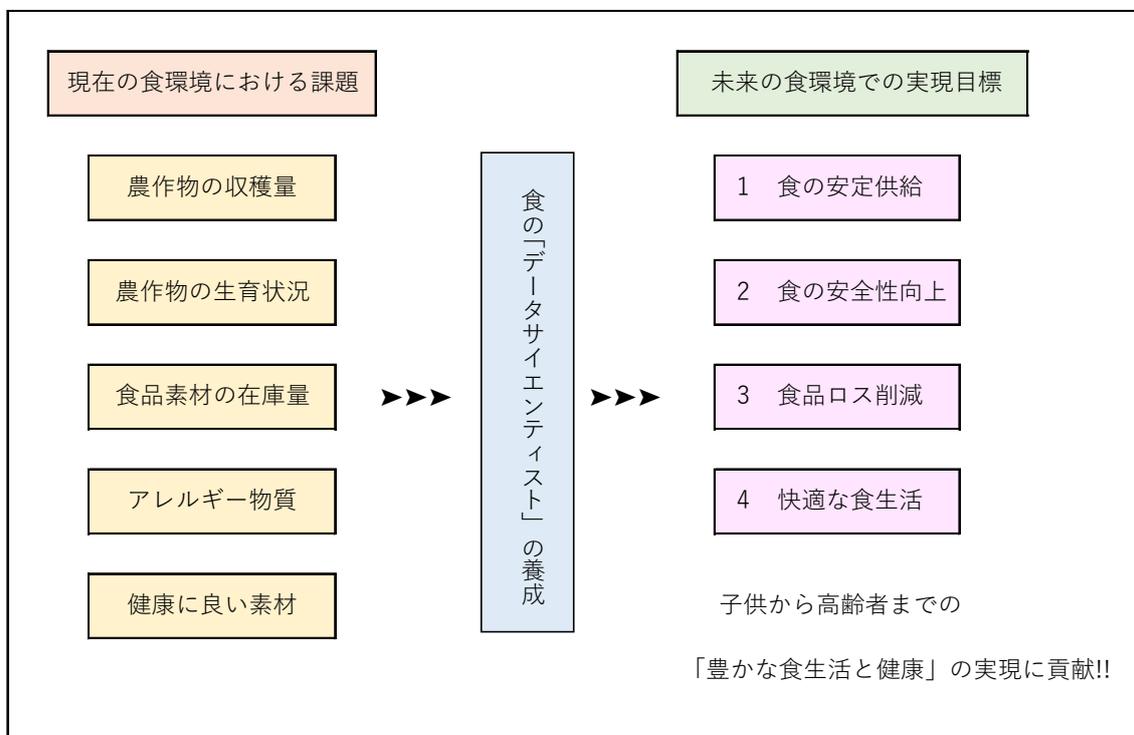
①新設組織の概要（名称、入学定員（編入学定員）、収容定員、所在地）

新設組織	入学定員	3年次 編入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食環境データサイエ ンス学科	50	0	200	福岡県北九州市小倉北区 下到津5丁目1番1号

②新設組織の特色

食品の生産・流通・医療・福祉・環境に関する幅広い知識とこれらに関連する多量のデータ収集・分析能力を有し、食の課題について多角的なアプローチにより解決することのできるデータサイエンティストを養成する。

現代社会では、「人生100年時代」と呼ばれる中で、単に長く生きるだけでなく、健康で充実した生活を送ることが求められている。この背景には、医療技術の進歩のみならず、第4次産業革命やSociety5.0と称される革新的デジタル社会の進展があり、ビッグデータの活用が各分野で重要視されている。食環境分野も例外ではなく農業、食品製造、流通、健康管理といった各ステージで蓄積されるデータから新たな価値を引き出すことが期待され、AI（人工知能）とデータサイエンス分野における専門知識を有する人材の育成、ひいてはこれらの先進技術を体系的に学べる教育環境の整備が求められている。こうした背景から、九州栄養福祉大学の食環境データサイエンス学科では、AI技術とデータサイエンスの技術を駆使し、未来の食環境問題を科学的アプローチで解決できる専門家として、地域社会や人類の福祉向上に貢献する「グローバル人材」を養成する。また、北九州地域の産学連携を活かした展開、地元企業との包括的な連携によるプロジェクトやインターンシップを通じて、実践的な学びと経験を提供し、即活躍できる能力の育成を図っていく。



既施設の組織の定員変更
(変更前)

近接する既施設	入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
東筑紫短期大学 保育学科	150	300	福岡県北九州市小倉北区 下到津 5 丁目 1 番 1 号
東筑紫短期大学 食物栄養学科	70	140	福岡県北九州市小倉北区 下到津 5 丁目 1 番 1 号

(変更後)

近接する既施設	入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
東筑紫短期大学 保育学科	70	140	福岡県北九州市小倉北区 下到津 5 丁目 1 番 1 号
東筑紫短期大学 食物栄養学科	50	100	福岡県北九州市小倉北区 下到津 5 丁目 1 番 1 号

(2) 人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向分析
データサイエンティスト不足の現状と今後

【令和 4 年度の有効求人倍率は 2.77】

企業側のニーズに対し、データサイエンティストの人数は不足しているというのが現状である。ハローワークの求人統計データによると、データサイエンティストの有効求人倍率は 2.77 となっている。これは、データサイエンティストを志望している求職者 1 人に対し、該当ポジションの求人が 2.77 件あるという状態である。つまり、企業が求めているデータサイエンティストの人数に対し、求職者の数が不足していることを意味している。このデータから、企業側がデータサイエンティストを確保するのに苦労している現状が伺える。

【2030 年に AI 人材は最大 14.5 万人不足】

将来的にも、データサイエンティストが不足する状況は続くと予想される。経済産業省が 2019 年に発表した調査結果「IT 人材需給に関する調査 - 調査報告書」では、AI に関する需要が現状と同程度で伸び続けた場合、AI 人材は最大 14.5 万人不足すると試算されている。

②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的分析

18 歳人口予測 (全体：九州沖縄：2022～2034 年)

		2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
福岡県	人数	45,564	45,254	44,280	46,058	47,297	47,308	46,859
	指数	100.0	99.3	97.2	101.1	103.8	103.8	102.8
		2029	2030	2031	2032	2033	2034	
	人数	47,890	47,058	46,551	46,381	45,962	45,658	
	指数	105.1	103.3	102.2	101.8	100.9	100.2	

18歳人口予測（男子：九州沖縄：2022～2034年）

		2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
福岡県	人数	23,156	23,031	22,584	23,577	24,059	23,961	23,580
	指数	100.0	99.5	97.5	101.8	103.9	103.5	101.8
		2029	2030	2031	2032	2033	2034	
	人数	24,630	24,031	23,916	23,762	23,644	23,731	
	指数	106.4	103.8	103.3	102.6	102.1	100.1	

18歳人口予測（女子：九州沖縄：2022～2034年）

		2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
福岡県	人数	22,408	22,223	21,696	22,481	23,238	23,347	23,279
	指数	100.0	99.2	96.8	100.3	103.7	104.2	103.9
		2029	2030	2031	2032	2033	2034	
	人数	23,260	23,027	22,635	22,619	22,318	22,487	
	指数	103.8	102.8	101.0	100.9	99.6	100.4	

福岡県の18歳人口予測2022～2034年（13年間分）を上記に示した。2022年の18歳人口を100とした場合に、それぞれの年の指数で表している。全体については、2034年100.2、男子学生については2034年100.1、女子については2034年100.4であり、男女共に開設から10年間福岡県内の18歳人口は、減少しないことが推測される。また、福岡県の大学への進学率（現役）推移を下記に示した。2013年大学への進学率が44.6%、2022年大学への進学率が51.3%と13年間で6.7%進学率が上昇している。

2023年以降10年間の進学率は、正確には、分からないが急激に進学率が下がることは考えにくく、少なくとも2022年の進学率を下回らないと考えられる。したがって開設の年、定員を充足できれば開設から10年間定員を充足できると考えられる。

福岡県の大学への進学率（2022～2034年）

	2013	2014	2015	2016	2017	2018
卒業者数	42,908	41,758	42,095	42,094	42,535	41,698
大学進学者数	19,141	19,082	19,668	19,900	20,256	19,669
大学進学率	44.6	45.7	46.7	47.3	47.6	47.2
	2019	2020	2021	2022		
卒業者数	41,981	41,909	40,738	39,994		
大学進学者数	20,042	19,988	19,790	20,518		
大学進学率	47.7	47.7	48.6	51.3		

③新設組織の主な学生募集地域

九州栄養福祉大学での、出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位 5 都道府県）

〈食物栄養学部〉令和 5 年度実績

	都道府県	人数	構成比
1	福岡県	263 人	61.9%
2	山口県	54 人	12.7%
3	鹿児島県	31 人	7.3%
4	大分県	17 人	4.0%
5	宮崎県	14 人	3.3%
		425 人	100%

〈リハビリテーション学部〉令和 5 年度実績

	都道府県	人数	構成比
1	福岡県	360 人	75.5%
2	大分県	38 人	8.0%
3	山口県	36 人	7.5%
4	鹿児島県	9 人	1.9%
5	宮崎県	8 人	1.7%
		477 人	100%

添付データ別紙 1 の通り、福岡県全体でいえば、福岡県からの入学者が一番多く 57.7%を占めている。次に佐賀県、熊本県、長崎県と続く。本学においても、食物栄養学部、リハビリテーション学部ともにやはり福岡県が一番多い。食物栄養学部は 61.9%、リハビリテーション学部は 75.5%であり、県全体の構成比よりも若干高めである。したがって、当然ながら地元福岡県、特に北九州市を中心に学生募集を展開していくことになる。おそらく、新学部も福岡県が全体の 60%程度を占めると推測される。ただし、1 番の福岡県以外になると、食物栄養学部では 2 番目に山口県、3 番目に鹿児島県、4 番目に大分県、5 番目に宮崎県となり、福岡県全体の構成比とはかなり順位が異なる。リハビリテーション学部についても、2 番目が大分県、3 番目が山口県であり、本学が九州最北端の北九州市に立地し、近隣の山口県下関市や大分県中津市・宇佐市から通学圏内であるため、福岡市地区の大学とは募集地域が異なっており、このことが本学の強みであると考えられ、山口県、大分県は特に重点的に学生募集に取り組む。

【添付データ】

- ・新設組織が置かれる都道府県の入学状況
(別紙 1)

④既設組織の定員充足の状況

別紙 2-1 の 3 で示したように、過去 5 年間の平均入学定員充足率については、食物栄養学部食物栄養学科 1.03、リハビリテーション学部理学療法学科 1.18、リハビリテーション学部作業療法学科 0.78、東筑紫短期大学保育学科 0.80。東筑紫短期大学食物栄養学科 1.01 と全ての学科が 0.7 倍を超えており、三学科については定員を充足している。全ての学科が免許や資格取得を目的としており、生活に欠かせない分野を学びたい学生は多くはないが、一定数存在すると考えられる。今回新設する食環境データサイエンス学科も、生活していくうえで欠かせない食環境について学ぶ学科であり、既設の学部同様、ある一定数の入学希望者が存在すると考えられ、定員の 50 名は充足できると考えられる。

また、東筑紫短期大学保育学科は現在、入学定員が 150 名である。過去 5 年間の定員充足率の平均は 0.8 で充足していないため、令和 7 年度より入学定員を 70 名に変更する予定である。また、東筑紫短期大学食物栄養学科の入学定員も 70 名から 50 名へ

変更予定である。

【添付データ】

- ・既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）（別紙2の1）
- ・既設学科等の収容定員の充足状況（別紙2の2）

(3) 学生確保の見通し等

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

高校訪問については、添付の学生募集高校訪問分担表5月分、12月分を添付した。大学と短期大学の教員で担当し、北九州地区を中心に沖縄県を除く九州全県を訪問している。基本的に年2回（5月・12月）実施している（学生募集高校訪問分担表添付）。この訪問により、進路指導の先生方に直接本学の教育の特徴や入試の内容などについて、説明している。毎年ほぼ同じ教員が同じ高校を担当しているため、進路の先生方とも親しく信頼関係を構築できているのではないかと考える。

近接する学問分野を持つ既設組織として、食物栄養学部食物栄養学科について説明する。別紙3にオープンキャンパス、進学ガイダンスの取り組み概要と入学者数などに関する分析を示した。オープンキャンパスについては、令和3年6回開催、令和4年6回開催した。オープンキャンパス参加者のなかで毎年30～40%前後の学生が入学している。進学ガイダンスについては、令和3年高校会場38校、会場形式58会場、令和4年高校会場43校、会場形式42会場に参加した。進学ガイダンス相談者から毎年10～20%前後の学生が入学している。したがって、オープンキャンパスや進学ガイダンスへの参加が学生確保において重要である。オープンキャンパスや進学ガイダンスへの参加者の約50%の学生が入学へと結びついている。そのため、新学科についても、オープンキャンパス、進学ガイダンスを中心に募集活動を行う。

【添付データ】

- ・既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績（別紙3）

イ 新設組織における取組とその目標

過去5年間の食物栄養学部食物栄養学科の入学者数について、下記に示した。

令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
99人	108人	113人	110人	83人

令和元年度に100を割った年度もあったが、毎年入学定員の100名前後を維持しており、今回新設する食環境データサイエンス学科も同じ食分野であるため、一連の学生募集の方法については、大きな変更はせず、新学科への学生募集に力を入れていく。したがって、高校訪問については年2回、オープンキャンパスは年6回以上、特別に新学科のみのオープンキャンパスも計画している。また、進学ガイダンスも高校会場40校前後、会場形式50会場前後の参加を予定している。食分野においてデータサイエンスを実施する意義について高校生等に対してわかりやすく説明するために、新学科パンフレットを作成している。（資料）

また、本学のホームページやSNSを利用した新学科の情報提供も同時に行っていく。さらに令和6年8月に新学科開設にあたり包括連携協定を結ぶ約20社の企業や団体とともに、本学で連携協定締結式を開催し、マスコミ等を通じて本学科の知名度を上げていく予定である。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

オープンキャンパスについては、アで述べたように、オープンキャンパス参加者のなかで毎年30～40%前後の学生が入学しており、進学ガイダンス相談者から毎年10～20%前後の学生が入学している。したがって、オープンキャンパス、進学ガイダンスともにトータルで150名以上が参加・相談するように募集活動を行えば、定員充足可能であると考えられる。

②競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

【競合校】中村学園大学栄養科学部フード・マネジメント学科

新学科の教育内容は食環境に関する幅広い知識とこれらに関する多量のデータ収集・分析能力を有するデータサイエンスの専門家を養成することである。したがって、類似性のある競合校の設定は大変難しいが、中村学園大学栄養科学部フード・マネジメント学科を設定させていただいた。

中村学園は1957年中村栄養短期大学栄養科を開学している。九州では最も歴史のある（九州で最初の）栄養士養成校として知られている。東筑紫学園は1950年東筑紫短期大学被服科を開学し、1958年栄養科を開設している。したがって、中村学園より1年遅れの開設ではあるが、九州では2番目の栄養士養成伝統校として知られている。九州栄養福祉大学は2001年食物栄養学部のみで管理栄養士養成専門大学として開学したが、栄養士教育ということでは、同一法人東筑紫短期大学での教育経験が礎となっている。したがって、両大学とも食と栄養に関する長い教育経験があり、それに加えて、フードマネジメントやデータサイエンスなどの分野を学ぶ点が共通している。

入学定員については、中村学園大学栄養科学部フード・マネジメント学科が100名、九州栄養福祉大学食物栄養学部食環境データサイエンス学科が50名である。

所在地については、中村学園大学は人口約160万人の都市福岡市にあり、九州栄養福祉大学は人口約92万人の北九州市にあるため、比較的大都市に設置している。したがって、競合校であるが、主な学生募集地域に関しては、中村学園大学は福岡都市圏、九州栄養福祉大学は北九州地区、山口県下関市、大分県中津市・宇佐市など、対象地域が分かれている。

イ 競合校の入学志願動向等

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
志願者数	413名	564名	425名
受験者数	411名	561名	423名
合格者数	285名	329名	349名
入学者数	122名	129名	122名
定員充足率	122%	129%	122%

中村学園大学栄養科学部フード・マネジメント学科は、志願者数も毎年400名を超え、定員充足率も100%も超えている。福岡市と北九州市では都市の規模が異なるが、本学は入学定員を中村学園大学の半分、50名を予定しているため、定員充足はできるのではないかと考える。

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員に未充足の場合のみ）
上記のとおり、過去3年間入学定員充足率100%を超えている。

エ 学生納付金等の金額設定理由

学生納付金については、入学金を23万円、授業料等を122万円とし、初年度の学生納付金は145万円とした。2年次以降は入学金を除いた122万円とする。これは、学生への還元と大学の経営に関わる財務的視点、大学の今後の発展のための施設・設備の充実を考慮するとともに、近隣の他大学における学生納付金の設定状況も考慮したうえで設定している。

近隣の類似学部学科を持つ大学との比較

大学名	入学金	授業料等	初年度合計
九州栄養福祉大学	230,000 円	1,220,000 円	1,450,000 円
A 大学	260,000 円	1,190,000 円	1,450,000 円
B 大学	300,000 円	1,000,000 円	1,300,000 円

③先行事例分析
該当なし

④学生確保に関するアンケート調査

【アンケート調査方法について】

アンケート依頼

高校訪問分担表のとおり直接本学教員が高校に訪問し所属長にアンケート依頼した。

(依頼状添付)

既設学部、学科に入学実績がある高校で2時間以内に通学できる高校を選択。

アンケート実施校：45校 (実施期間：1月下旬～2月)

アンケート回答の高校生(現3年生)総数：7,452名

アンケート対象者に必要な情報を提供するためにリーフレットを作成した。

(リーフレット添付)

情報の内容については、開設予定の学部・学科の名称、入学定員、学費、学位、学びの内容、設置の理念、養成する人材像、アドミッションポリシー、取得を目指す資格、卒業後の進路、類似大学学部・学科を明示した。

アンケートの調査内容については、申請手引きの書式に則り作成した。

(アンケート用紙添付)

アンケート用紙【設問3】興味ある学問分野については、本学が新設予定の食環境データサイエンス学科の教育の特性上、理学関係、工学関係、農学関係、家政学関係、保健衛生学関係、その他、どの分野でも関係していると考えられ、どの分野を選択しても可として判断した。

したがって、受験希望の有無の判断は、以下の条件に基づいて行っている。

第一志望 【設問1】「①大学」を選択

【設問2】「③私立」を選択

【設問3】いずれを選択しても可

【設問4】「①第一志望として受験する」を選択

【設問5】「①入学する」を選択

第二志望 【設問1～3】上記と同様

【設問4】「②第二志望として受験する」を選択

【設問5】「②志望順位は上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択

第三志望 【設問1～3】上記と同様

【設問4】「③第三志望として受験する」を選択

【設問5】「②志望順位は上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択

また、前回はアンケートの回答校が33校の段階での集計結果を報告したが、その後にアンケートの回答が返送されてきた3校分を加え、さらに追加でアンケートを実施した9校(大分県中津地区を中心に実施)分を加えた、計45校分のアンケート集計結果を報告する。

【クロス集計の手順と集計結果】

- アンケート実施校： 45 校
 - アンケート回答の高校生（現3年生）： 7,452 名
 - 【設問1】において「①大学」を選択した学生数：4,799 名（64.4%）
 - 4,799 名のうち【設問2】において「③私立」を選択した学生数：2,544 名（53.0%）
 - 2,544 名のうち【設問4】において「①第一志望として受験する」を選択し、かつ【設問5】において「①入学する」を選択した学生数：52 名（全体の0.7%）
 - 2,544 名のうち【設問4】において「②第二志望として受験する」を選択し、かつ【設問5】において「②志望順位は上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択した学生：81 名（全体の1.1%）
 - 2,544 名のうち【設問4】において「③第三志望として受験する」を選択し、かつ【設問5】において「②志望順位は上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択した学生：141 名（全体の1.9%）
- 45 校の各高校別の第一志望、第二志望、第三志望の調査結果を資料として添付した。
（資料：新学部・新学科設置準備アンケート調査結果）

集計結果より、第一志望が52名と定員の50名を上回っている。また、第二志望、第三志望の合計222名（入学定員の約4.5倍）の現3年生が食環境データサイエンス学科に興味を示しており、このうち、20%程度の学生が受験すると推定される。推定の根拠として、別表に過去5年間の一般選抜前期・大学入学共通テスト利用選抜前期の入試結果を示す。本学の既設学科は食物栄養学科、理学療法学科、作業療法学科の3学科であり、本学が第一志望である学生のほとんどは、専願制（合格すると入学することが条件）である総合型選抜、学校推薦型選抜を受験している。一般選抜や大学入学共通テスト利用選抜は併願可能であるため、第二志望や第三志望である学生も受験していることが推測される。一般選抜前期の場合、合格者が入学する割合（以下、歩留率と表現）の5年間の平均は、食物栄養学科が52.5%、理学療法学科が55.8%、作業療法学科が61%である。新設予定の食環境データサイエンス学科の歩留率が、既設の食物栄養学科の歩留率と相関がある確証はないが、既設学科の歩留率を踏まえて少なくとも20%程度はあると見込んでもよいと考える。

- アンケートにて第一志望と判断された者： 52 名
- アンケートにて第二希望、第三希望と判断された者の20%： 44 名

以上のことから、定員50名は確保できると考える。
（資料：九州栄養福祉大学 入試状況（過去5年間））

⑤人材需要に関するアンケート調査等

【食環境データサイエンス学科卒業生の採用に関するアンケート結果まとめ】

■調査目的

2025年4月開設予定の九州栄養福祉大学 食物栄養学部「食環境データサイエンス学科」に対する企業（団体）のニーズを把握する。

■調査概要

調査票タイトル	卒業生の採用に関するアンケート
調査対象	企業（団体）の人事採用関係者
調査エリア	全国
調査方法	Web 調査
調査実施機関	1. 本学 2. アイブリッジ株式会社
実施時期	1. 2024年6月20日～2024年7月3日 2. 2024年6月25日～2024年6月27日
有効回答数	1. 152社（団体） 2. 550社

■調査結果概要

本学並びに調査会社が実施した調査において、「食環境データサイエンス学科」に対する企業（団体）のニーズは下表に示す結果となった。

調査項目	本学 実施分	調査会社 実施分
「食環境データサイエンス学科」の必要性	必要だと思う 96.1%	必要だと思う 69.6%
「食環境データサイエンス学科」卒業生の採用意向	採用したいと思う 65.1%	採用したいと思う 57.3%
採用を考える場合の、毎年の採用想定人数	258人	1,261人

この結果より、「食環境データサイエンス学科」に対する企業（団体）のニーズは高いと考える。また、採用を考える場合の毎年の採用想定人数は本学科入学定員である50人を大幅に上回っており、安定した人材需要があることが伺える。

本学及び併設校と関わりのある企業及び団体に対して匿名での調査を行ったところ、本学科の入学定員をはるかに超える人数の採用が想定されたが、より公正な調査とするために調査会社（アイブリッジ株式会社）にも調査を委託した。

以下、本学が実施した調査及び調査会社が実施した調査それぞれの結果の詳細について述べる。（資料：食環境データサイエンス学科卒業生の採用に関するアンケート調査結果）

■回答企業（団体）の属性

1. 本学 実施分

回答企業（団体）の本社（本部）所在地は、北九州市を含む「福岡県内」が66.4%と半数以上を占め、うち「北九州市内」が32.2%である。

回答企業（団体）の業種は、「卸売・小売業」が20.4%と最も多く、「医療・福祉」が11.8%、「飲食サービス業」と「製造業（食料品以外）」がそれぞれ11.2%、「情報通信業」が9.2%である。

回答企業（団体）の従業員数（正社員数）は、「1,000人以上」が27.0%と最も多く、次いで「10人未満」が21.1%、「10人～50人未満」が13.8%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

回答企業の本社所在地は、「関東地方」が45.3%と約半数を占め、次いで「近畿地方」が20.4%、「中部地方」が12.2%である。北九州市を含む「福岡県内」は5.6%、うち「北九州市内」は0.9%であった。

回答企業の業種は、「製造業」が17.5%と最も多く、次いで「サービス業」が15.3%、「商社・卸売り・小売業」が12.9%である。

回答企業の従業員数（正社員数）は、「1,000人以上」が22.9%と最も多く、次いで「10人未満」が19.5%、「10人～50人未満」が16.2%である。

■回答企業（団体）の採用状況（過去3か年）と本年度採用人数の傾向

1. 本学 実施分

回答企業（団体）の過去3か年の平均的な正規社員の採用人数は、「1人～5人未満」が34.2%と最も多く、次いで「100人以上」が19.7%、「5人～10人未満」が13.2%であり、「0人」と回答した企業（団体）は5.9%であった。

回答企業（団体）の2024年度の新規採用人数は、2023年度と比較して「ほぼ昨年度並み」が45.4%と最も多く、次いで「増加した」が24.3%、「採用しなかった」が15.8%、「減少した」が14.5%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

回答企業の過去3か年の平均的な正規社員の採用人数は、「1人～5人未満」が27.5%と最も多く、次いで「20人～50人未満」が14.9%、「100人以上」が12.9%であり、「0人」と回答した企業は12.5%であった。

回答企業の2024年度の新規採用人数は、2023年度と比較して「ほぼ昨年度並み」が50.7%と最も多く、次いで「増加した」が21.5%、「採用しなかった」が16.4%、「減少した」が11.5%である。

■九州栄養福祉大学 食物栄養学部「食環境データサイエンス学科」の特色に対する魅力度

※「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業（団体）の割合を魅力度とする。

【特色1】本学の食環境・健康分野の教育実績に、地元工学系大学、日本を代表するAI活用企業及び20社近くの地元企業との産学連携を活かし、AI・データサイエンスの基礎から実社会への応用まで修得できる体系的な教育プログラムを構築し、卒業後、即社会で活躍できる人材を養成する。

1. 本学 実施分

特色1についての魅力度は、93.4%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

特色1についての魅力度は、67.3%である。

【特色2】食環境・健康分野における農業、食品製造、流通、健康管理といった各段階で蓄積されるデータをAI・データサイエンス技術を用いて分析し、科学的合理性に基づいて課題解決策を提案できるデータサイエンティストを養成する。

1. 本学 実施分

特色2についての魅力度は、93.4%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

特色2についての魅力度は、63.1%である。

【特色3】本学科棟（6階建て）は、アクティブラーニング型授業を実現するための最新の機器・備品を備え、ビジュアルな講義や高速通信による遠隔講義に対応するとともに、企業のサテライトオフィスを設け、学内でのインターンシップや学生によるアルバイトを可能とする。また、食とデータサイエンスに係る企業や地元自治体と連携して社会的課題解決のための卒業研究を行い、卒業後も研究活動を生かした就職につなげる。

1. 本学 実施分

特色2についての魅力度は、92.8%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

特色2についての魅力度は、64.4%である。

■九州栄養福祉大学 食物栄養学部「食環境データサイエンス学科」の必要度

※「必要だと思う」と回答した企業（団体）の割合を必要度とする。

1. 本学 実施分

必要度は、96.1%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

必要度は、69.6%である。

■九州栄養福祉大学 食物栄養学部「食環境データサイエンス学科」卒業生の採用見込み

1. 本学 実施分

「採用したいと思う」と回答した企業（団体）は全体の65.1%に当たる99社（団体）であり、これらの企業（団体）が毎年採用を想定している人数の合計は258人であった。

※「6人～10人未満」は6人、「10人以上」は10人とみなして算出した。

「採用したいと思う」と回答した企業の業種別内訳は下表のとおりである。

業種	N	採用人数計	平均採用人数
卸売・小売業	22	55	2.5
飲食サービス業	15	59	3.9
医療・福祉	13	37	2.8
情報通信業	11	24	2.2

製造業（食料品）	9	13	1.4
製造業（食料品以外）	7	13	1.9
金融・保険業	5	27	5.4
運輸業	2	3	1.5
教育機関	2	7	3.5
建設業	2	3	1.5
複合サービス業	2	3	1.5
電気・ガス・熱供給・水道業	1	1	1.0
農林漁業・鉱業	1	1	1.0
不動産業	1	1	1.0
その他	6	11	1.8
全体	99	258	2.6

2. アイブリッジ株式会社 実施分

「採用したいと思う」と回答した企業は全体の 57.3%に当たる 315 社であり、これらの企業が毎年採用を想定している人数の合計は 1,261 人であった。

※「6人～10人未満」は 6 人、「10人以上」は 10 人とみなして算出した。

「採用したいと思う」と回答した企業の業種別内訳は下表のとおりである。

業種	N	採用人数計	平均採用人数
製造業	62	277	4.5
サービス業	48	160	3.3
商社・卸売り・小売業	35	131	3.7
金融・証券・保険業	29	125	4.3
情報通信業	21	91	4.3
医療・福祉	21	83	4.0
建設業	20	64	3.2
不動産業	16	54	3.4
運送・輸送業	14	64	4.6
教育業	8	47	5.9
農業・林業・漁業・鉱業	7	18	2.6
非営利団体	6	23	3.8
電気・ガス・水道業	4	16	4.0
出版・印刷業	3	3	1.0
調査業・シンクタンク	2	9	4.5
メディア・マスコミ・広告業	2	6	3.0
その他	17	90	5.3
全体	315	1,261	4.0

（４）新設組織の定員設定の理由

第一に、入学定員が 50 名で収容定員が 200 名、専任教員就任予定が 6 名であり、単純に教員一人あたりの学生数が約 33 人となる。(1) ②で述べた教育内容を実現するためには、これ以上の学生数では難しいと判断する。特にインターンシップ（企業実習）に伴うきめ細かな指導が必要である。

第二に、学生の確保の見通しから、入学定員 50 名が妥当であると考えている。アンケート調査の結果より、今回回答があった 45 校のなかで 52 名が食物栄養学部食環境データサイエンス学科を第一志望に回答した。第二志望、第三志望合わせて 222 名が食物栄養学部食環境データサイエンス学科に興味を示している。山口県下関地区 10 校についてはアンケート調査を行っていないため、正確の数は分からないが、現段階では入学定員を 50 名とするのが妥当であると考えている。

資料目次

- (資料 1) 別紙 1 新設組織が置かれる都道府県の入学状況
- (資料 2) 別紙 2 の 1 既設学科等の入学定員の充足状況 (直近 5 年間)
- (資料 3) 別紙 2 の 2 既設学科等の収容定員の充足状況
- (資料 4) 学生募集高校訪問分担表 (2023 年 5 月分)
- (資料 5) 学生募集高校訪問分担表 (2023 年 12 月分)
- (資料 6) 別紙 3 既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績
- (資料 7) 食環境データサイエンス学科新パンフレット
- (資料 8) 新学部・新学科アンケート依頼状
- (資料 9) 新学部・新学科設置準備アンケート依頼高校訪問一覧表および回答結果
- (資料 10) 食環境データサイエンス学科リーフレット (オモテ)
- (資料 11) 食環境データサイエンス学科リーフレット (ウラ)
- (資料 12) 食環境データサイエンス学科アンケート用紙
- (資料 13) 高校別 新学部・新学科アンケート調査結果
- (資料 14) 九州栄養福祉大学 入試状況 (過去 5 年間)
- (資料 15) 食環境データサイエンス学科卒業生の採用に関するアンケート結果

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位5都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	福岡県	15,028人	57.7%
2	佐賀県	1,362人	5.2%
3	熊本県	1,248人	4.8%
4	長崎県	1,067人	4.1%
5	鹿児島県	1,004人	3.9%
	全 体	26,055人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	福岡県	100.48%	99.75%	99.74%
2				

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	家政学	94.11%	95.28%	89.01%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数		0人	0人	10人	10人	5人	
	延べ人数	志願者数		18人	27人	37人	32人	29人
		受験者数		18人	27人	35人	32人	28人
		合格者数		17人	27人	34人	28人	27人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数		18人	27人	37人	32人	29人
		受験者数		18人	27人	35人	32人	28人
		合格者数		17人	27人	34人	28人	27人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	1人	0人
	入学者数		17人	27人	34人	27人	26人	
	学校推薦型選抜	募集人数	50人	45人	45人	40人	40人	44人
延べ人数		志願者数	41人	46人	48人	50人	44人	46人
		受験者数	41人	46人	48人	50人	44人	46人
		合格者数	40人	46人	48人	50人	44人	46人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	41人	46人	48人	50人	44人	46人
		受験者数	41人	46人	48人	50人	44人	46人
		合格者数	40人	46人	48人	50人	44人	46人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
入学者数		40人	46人	48人	50人	44人	46人	
一般選抜		募集人数	40人	40人	40人	35人	35人	38人
	延べ人数	志願者数	69人	94人	59人	80人	61人	73人
		受験者数	68人	94人	59人	79人	60人	72人
		合格者数	67人	72人	52人	53人	55人	60人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	69人	94人	59人	80人	61人	73人
		受験者数	68人	94人	59人	79人	60人	72人
		合格者数	67人	72人	52人	53人	55人	60人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	33人	33人	23人	32人	27人	30人
	入学者数	34人	39人	29人	21人	28人	30人	
	共通テスト利用入試	募集人数	10人	10人	10人	10人	10人	10人
延べ人数		志願者数	52人	87人	59人	64人	36人	60人
		受験者数	52人	86人	59人	64人	36人	59人
		合格者数	48人	57人	49人	23人	26人	41人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	52人	87人	59人	64人	36人	60人
		受験者数	52人	86人	59人	64人	36人	59人
		合格者数	48人	57人	49人	23人	26人	41人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	40人	49人	40人	20人	26人	35人
入学者数		8人	8人	9人	3人	0人	6人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人	
	合計	募集人数	100人	95人	95人	95人	95人	96人
延べ人数		志願者数	163人	245人	193人	231人	173人	201人
		受験者数	162人	244人	193人	228人	172人	200人
		合格者数	156人	192人	176人	160人	153人	167人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	163人	245人	193人	231人	173人	201人
		受験者数	162人	244人	193人	228人	172人	200人
		合格者数	156人	192人	176人	160人	153人	167人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	73人	82人	63人	52人	54人	65人
入学者数		83人	110人	113人	108人	99人	103人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均
入学定員	100人	100人	100人	100人	100人	100
入学定員充足率	0.83	1.10	1.13	1.08	0.99	1.03
歩留率	0.53	0.57	0.64	0.68	0.65	0.61

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
総合型選抜・その他の特別選抜の募集人数0人は若干名の募集である。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数		0人	0人	8人	8人	4人	
	延べ人数	志願者数		21人	26人	42人	26人	29人
		受験者数		21人	26人	42人	25人	29人
		合格者数		17人	21人	36人	22人	24人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数		21人	26人	42人	26人	29人
		受験者数		21人	26人	42人	25人	29人
		合格者数		17人	21人	36人	22人	24人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		17人	21人	36人	22人	24人	
	学校推薦型選抜	募集人数	40人	36人	36人	32人	32人	35人
延べ人数		志願者数	54人	51人	53人	40人	48人	49人
		受験者数	54人	51人	53人	40人	48人	49人
		合格者数	53人	51人	52人	40人	46人	48人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	54人	51人	53人	40人	48人	49人
		受験者数	54人	51人	53人	40人	48人	49人
		合格者数	53人	51人	52人	40人	46人	48人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
入学者数		52人	51人	52人	40人	46人	48人	
一般選抜		募集人数	32人	32人	32人	28人	28人	30人
	延べ人数	志願者数	57人	44人	40人	37人	49人	45人
		受験者数	57人	41人	39人	35人	47人	44人
		合格者数	55人	34人	34人	29人	45人	39人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	57人	44人	40人	37人	49人	45人
		受験者数	57人	41人	39人	35人	47人	44人
		合格者数	55人	34人	34人	29人	45人	39人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	15人	12人	12人	11人	22人	14人
	入学者数	40人	22人	22人	18人	23人	25人	
	共通テスト利用入試	募集人数	8人	8人	8人	8人	8人	8人
延べ人数		志願者数	54人	51人	41人	51人	39人	47人
		受験者数	54人	51人	41人	51人	39人	47人
		合格者数	44人	30人	26人	18人	26人	29人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	54人	51人	41人	51人	39人	47人
		受験者数	54人	51人	41人	51人	39人	47人
		合格者数	44人	30人	26人	18人	26人	29人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	41人	25人	25人	17人	25人	27人
入学者数		3人	5人	1人	1人	1人	2人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	合計	募集人数	80人	76人	76人	76人	76人	77人
延べ人数		志願者数	165人	167人	160人	170人	162人	165人
		受験者数	165人	164人	159人	168人	159人	163人
		合格者数	152人	132人	133人	123人	139人	136人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	165人	167人	160人	170人	162人	165人
		受験者数	165人	164人	159人	168人	159人	163人
		合格者数	152人	132人	133人	123人	139人	136人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	57人	37人	37人	28人	47人	41人
入学者数		95人	95人	96人	95人	92人	95人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均
入学定員	80人	80人	80人	80人	80人	80
入学定員充足率	1.19	1.19	1.20	1.19	1.15	1.18
歩留率	0.63	0.72	0.72	0.77	0.66	0.70

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
総合型選抜・その他の特別選抜の募集人数0人は若干名の募集である。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数			0人	0人	4人	4人	
	延べ人数	志願者数			3人	12人	4人	9人
		受験者数			3人	12人	4人	8人
		合格者数			2人	10人	4人	8人
		うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人
		辞退者数			0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数			3人	12人	4人	9人
		受験者数			3人	12人	4人	8人
		合格者数			2人	10人	4人	8人
		うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人
		辞退者数			0人	2人	0人	1人
	入学者数			2人	10人	4人	7人	
	学校推薦型選抜	募集人数	20人	18人	18人	16人	16人	18人
		延べ人数	志願者数	22人	15人	17人	6人	16人
受験者数			22人	15人	17人	6人	16人	15人
合格者数			22人	14人	17人	6人	16人	15人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	22人	15人	17人	6人	16人	15人
		受験者数	22人	15人	17人	6人	16人	15人
		合格者数	22人	14人	17人	6人	16人	15人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
入学者数		22人	13人	17人	6人	16人	15人	
一般選抜		募集人数	16人	16人	16人	14人	14人	15人
		延べ人数	志願者数	15人	33人	20人	21人	9人
	受験者数		15人	33人	20人	21人	9人	20人
	合格者数		15人	31人	19人	20人	9人	19人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	15人	33人	20人	21人	9人	20人
		受験者数	15人	33人	20人	21人	9人	20人
		合格者数	15人	31人	19人	20人	9人	19人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	16人	8人	11人	3人	8人
	入学者数	12人	15人	11人	10人	6人	11人	
	共通テスト利用入試	募集人数	4人	4人	4人	4人	4人	4人
		延べ人数	志願者数	8人	18人	20人	18人	7人
受験者数			8人	18人	20人	18人	7人	14人
合格者数			8人	14人	17人	16人	7人	12人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	8人	18人	20人	18人	7人	14人
		受験者数	8人	18人	20人	18人	7人	14人
		合格者数	8人	14人	17人	16人	7人	12人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	8人	13人	16人	14人	7人	12人
入学者数		0人	1人	1人	2人	0人	1人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		延べ人数	志願者数	2人	0人	1人	0人	0人
	受験者数		2人	0人	1人	0人	0人	1人
	合格者数		1人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	2人	0人	1人	0人	0人	1人
		受験者数	2人	0人	1人	0人	0人	1人
		合格者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人	
	合計	募集人数	40人	38人	38人	38人	38人	38人
		延べ人数	志願者数	47人	69人	70人	49人	41人
受験者数			47人	69人	70人	49人	40人	55人
合格者数			46人	61人	63人	46人	40人	51人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	47人	69人	70人	49人	41人	55人
		受験者数	47人	69人	70人	49人	40人	55人
		合格者数	46人	61人	63人	46人	40人	51人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	11人	30人	26人	25人	11人	21人
入学者数		35人	31人	39人	22人	29人	31人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40
入学定員充足率	0.88	0.78	0.98	0.55	0.73	0.78
歩留率	0.76	0.51	0.62	0.48	0.73	0.62

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
総合型選抜・その他の特別選抜の募集人数0人は若干名の募集である。

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数		0人	0人	15人	15人	8人	
	延べ人数	志願者数		18人	12人	8人	10人	12人
		受験者数		18人	12人	8人	10人	12人
		合格者数		18人	11人	8人	10人	12人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数		18人	12人	8人	10人	12人
		受験者数		18人	12人	8人	10人	12人
		合格者数		18人	11人	8人	10人	12人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	1人	0人	0人
	入学者数		18人	11人	7人	10人	12人	
	学校推薦型選抜	募集人数	110人	100人	100人	90人	90人	98人
		延べ人数	志願者数	108人	98人	76人	63人	79人
受験者数			108人	98人	76人	63人	79人	85人
合格者数			108人	98人	76人	63人	79人	85人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	108人	98人	76人	63人	79人	85人
		受験者数	108人	98人	76人	63人	79人	85人
		合格者数	108人	98人	76人	63人	79人	85人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
入学者数		108人	98人	76人	62人	79人	85人	
一般選抜		募集人数	30人	30人	30人	25人	25人	28人
		延べ人数	志願者数	69人	63人	53人	39人	50人
	受験者数		69人	63人	51人	38人	50人	54人
	合格者数		35人	27人	29人	23人	27人	28人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	69人	63人	53人	39人	50人	55人
		受験者数	69人	63人	51人	38人	50人	54人
		合格者数	35人	27人	29人	23人	27人	28人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	3人	1人	2人	0人	2人
	入学者数	32人	24人	28人	21人	27人	26人	
	共通テスト利用入試	募集人数	8人	8人	8人	8人	8人	8人
		延べ人数	志願者数	3人	2人	7人	1人	2人
受験者数			3人	2人	7人	1人	2人	3人
合格者数			3人	2人	6人	1人	2人	3人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	3人	2人	7人	1人	2人	3人
		受験者数	3人	2人	7人	1人	2人	3人
		合格者数	3人	2人	6人	1人	2人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	2人	6人	1人	2人	3人
入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	1人
	受験者数		0人	0人	0人	0人	1人	0人
	合格者数		0人	0人	0人	0人	1人	0人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人	
	合計	募集人数	148人	138人	138人	138人	138人	140人
		延べ人数	志願者数	180人	181人	148人	111人	142人
受験者数			180人	181人	146人	110人	142人	152人
合格者数			146人	145人	122人	95人	119人	125人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	180人	181人	148人	111人	142人	152人
		受験者数	180人	181人	146人	110人	142人	152人
		合格者数	146人	145人	122人	95人	119人	125人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	5人	7人	5人	2人	5人
入学者数		140人	140人	115人	90人	117人	120人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均
入学定員	150人	150人	150人	150人	150人	150
入学定員充足率	0.93	0.93	0.77	0.60	0.78	0.80
歩留率	0.96	0.97	0.94	0.95	0.98	0.96

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
 ・一般選抜の中に特待生入試含む。
 ・総合型選抜・その他の特別選抜の募集人数0人は若干名の募集である。

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均	
総合型選抜	募集人数		0人	0人	7人	7人	4人	
	延べ人数	志願者数		3人	8人	9人	11人	8人
		受験者数		3人	8人	9人	11人	8人
		合格者数		3人	8人	9人	11人	8人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数		3人	8人	9人	11人	8人
		受験者数		3人	8人	9人	11人	8人
		合格者数		3人	8人	9人	11人	8人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		3人	8人	9人	11人	8人	
	学校推薦型選抜	募集人数	75人	45人	45人	45人	40人	50人
		延べ人数	志願者数	48人	59人	58人	59人	53人
受験者数			48人	59人	58人	59人	53人	55人
合格者数			48人	59人	58人	59人	53人	55人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	48人	59人	58人	59人	53人	55人
		受験者数	48人	59人	58人	59人	53人	55人
		合格者数	48人	59人	58人	59人	53人	55人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
入学者数		48人	58人	58人	59人	53人	55人	
一般選抜		募集人数	18人	15人	15人	15人	13人	15人
		延べ人数	志願者数	29人	33人	30人	29人	24人
	受験者数		29人	32人	30人	29人	24人	29人
	合格者数		13人	14人	15人	12人	13人	13人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	29人	33人	30人	29人	24人	29人
		受験者数	29人	32人	30人	29人	24人	29人
		合格者数	13人	14人	15人	12人	13人	13人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	5人	4人	0人	1人	2人
	入学者数	11人	9人	11人	12人	12人	11人	
	共通テスト利用入試	募集人数	5人	5人	5人	5人	5人	5人
		延べ人数	志願者数	6人	10人	6人	6人	1人
受験者数			6人	10人	6人	6人	1人	6人
合格者数			6人	9人	4人	5人	1人	5人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	6人	10人	6人	6人	1人	6人
		受験者数	6人	10人	6人	6人	1人	6人
		合格者数	6人	9人	4人	5人	1人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	7人	2人	4人	0人	3人
入学者数		2人	2人	2人	1人	1人	2人	
その他の特別選抜		募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		延べ人数	志願者数	1人	0人	0人	2人	0人
	受験者数		1人	0人	0人	2人	0人	1人
	合格者数		1人	0人	0人	1人	0人	0人
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	1人	0人	0人	2人	0人	1人
		受験者数	1人	0人	0人	2人	0人	1人
		合格者数	1人	0人	0人	1人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	1人	0人	0人	1人	0人	0人	
	合計	募集人数	98人	65人	65人	72人	65人	73人
		延べ人数	志願者数	84人	105人	102人	105人	89人
受験者数			84人	104人	102人	105人	89人	97人
合格者数			68人	85人	85人	86人	78人	80人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
実人数		志願者数	84人	105人	102人	105人	89人	97人
		受験者数	84人	104人	102人	105人	89人	97人
		合格者数	68人	85人	85人	86人	78人	80人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	13人	6人	4人	1人	6人
入学者数		62人	72人	79人	82人	77人	74人	

3. 入学定員充足率

	H31年度入学者	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	平均
入学定員	100人	70人	70人	70人	70人	76
入学定員充足率	0.62	1.03	1.13	1.17	1.10	1.01
歩留率	0.91	0.85	0.93	0.95	0.99	0.93

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
 ・一般選抜の中に特待生入試含む。
 ・総合型選抜・その他の特別選抜の募集人数0人は若干名の募集である。

○ 収容定員の充足状況

大学・学部等名	入学定員	収容定員	学生数 (令和5年5月1日現在)	収容定員 充足率	備考
九州栄養福祉大学 (合計)	220	900	902	1.00	
食物栄養学部 食物栄養学科 (計)	100	420	425	1.01	収容定員には3年次 編入学定員(10名× 2年分)を含む
リハビリテーション 学部 (計)	120	480	477	0.99	
理学療法学科	80	320	361	1.12	
作業療法学科	40	160	116	0.72	
東筑紫短期大学 (合計)	220	440	361	0.82	
保育学科	150	300	207	0.69	
食物栄養学科	70	140	154	1.10	

(福岡県・下関地区) 5月訪問分(5/16~6/2くらいまでに訪問)

状況	高校名	訪問時期			高校数	訪問担当者
		5月	7・8月	12月(予定)		
	門司学園	○	○	○	4	安倍 児玉
	門司大翔館	○	○	○		
	敬愛	○	○	○		
	豊国学園	○	○	○		
	小倉西	○	○	○	4	井元 土谷
	慶成	○	○	○		
	真颯館	○	○	○		
	小倉	○	○	○		
	小倉南	○	○	○	5	平澤 寺本
	小倉東	○	○	○		
	北九州	○	○	○		
	小倉商業	○	○	○		
	常盤	○	○	○		
	美萩野女子	○	○	○	4	神崎 和辻
	戸畑	○	○	○		
	ひびき	○	○	○		
	北九州市立	○	○	○		
	戸畑高等専修	○	○	○	4	倉崎 児玉
	若松	○	○	○		
	若松商業	○	○	○		
	高稜	○	○	○		
	八幡	○	○	○	2	佐野
	九国大付属	○	○	○		
	八幡中央	○	○	○	5	近藤 室井由
	仰星学園	○	○	○		
	星琳	○	○	○		
	八幡南	○	○	○		
	北筑	○	○	○		
	東筑	○	○	○	2	石原
	遠賀	○	○	○		
	折尾	○	○	○	5	赤松
	折尾愛真	○	○	○		
	自由ヶ丘	○	○	○		
	中間	○	○	○		
	希望が丘	○	○	○		

状況	高校名	訪問時期			高校数	訪問担当者
		5月	7・8月	12月(予定)		
	築上西	○	○	○	5	廣滋 梅林
	青豊	○	○	○		
	京都	○	○	○		
	育徳館	○	○	○		
	行橋	○	○	○		
	鞍手	○	○	○	4	吉田遊 笹部
	直方	○	○	○		
	筑豊	○	○	○		
	大和青藍	○	○	○		
	田川	○	○	○	5	中藤 廣藤
	西田川	○	○	○		
	田川科学技術	○	○	○		
	福智	○	○	○		
	東鷹	○	○	○		
	嘉徳	○	○	○	5	安倍 石原
	嘉徳東	○	○	○		
	近畿大学附属福岡	○	○	○		
	稲築志耕館	○	○	○		
	飯塚	○	○	○		
	下関西	○	○	○	5	四元 笹部
	下関南	○	○	○		
	下関商業	○	○	○		
	長府	○	○	○		
	豊浦	○	○	○		
	下関中等教育	○	○	○	4	梅崎
	梅光学院	○	○	○		
	早鞆	○	○	○		
	下関短大付属	○	○	○		
	下関国際	○	○	○	3	石原
	田部	○	○	○		
	下関北	○	○	○		
	宗像・福岡市周辺地区	○	○	○	50	武藤
	福岡県南部地区	○	○	○		

(九州地区〔山口県・大分県〕)

県	地区	訪問時期			高校数	訪問担当者
		5月	7・8月	12月(予定)		
口	山陽小野田3(紫)	○	○	○	3	木村
	宇部6(紫)	○	○	○	6	木村
	萩2・長門3・ 美祢2(緑)	○	○	○	7	木村
	※大津緑洋は大津校舎と 日置校舎の2箇所へ訪問					
	山口6(黄)	○	○	○	6	松成
	周南3・防府4・ 下松2(ピンク)	○	○	○	9	北嶋
	岩国・柳井・光・ 熊毛(青)	○	○	○	7	武藤

県	地区	訪問時期			高校数	訪問担当者
		5月	7・8月	12月(予定)		
大分県	中津4・宇佐3・ (青)	○	○	○	7	木村
	大分12・臼杵 (黄色)	○	○	○	13	北嶋
	国東・豊後高田・ 杵築・日出・別府4・ 由布(緑)	○	○	○	9	室井コ
	日田4・玖珠・竹田・ 豊後大野・津久見・ 佐伯3(ピンク)	○	○	○	11	中野

教務部または2号館・202号室(第二応接室)に上記地域(地区)と各担当者ごとに仕分けして訪問用資料を準備しますので、担当者の方は5/16以降に取りに来ていただき、紙袋に訪問校数分の資料一式を確認して訪問してください。

資料は1高校・1セットですので、訪問担当者が複数の場合は、どなたかが代表で取りに来られて下さい。南区Cの方の資料はまとめて取りに来られると思いますが、特に北区Cの方と担当の高校分はどちらが取りに来られるのかを確認して取りに来られるようお願いいたします。複数の担当者でご担当される高校の訪問の仕方ですが、資料は1セットしかありませんので、お二人で一緒に行かれるか、または担当校を振り分けての訪問をお願いします。

○資料一式・6種(2023版パンフ、2023版募集要項、R4年度問題集、文具〔高校教諭提供用〕、高校別在籍・出願リスト、OCチラシ)、
※出願リストは2023年度入試のみ。高校別リスト有無は、教務部にお問い合わせください。

7月訪問分(7/中下旬～8/中旬〔お盆前〕くらいまでに訪問)

校数	県	地 区	高校数	訪問時期			訪問担当者
				5月	7・8月	12月	
20	佐賀県	佐賀東部 基山・鳥栖・みやき・ 神崎・佐賀7(黄色)	11		○		松本
		佐賀西部 佐賀・小城・白石・鹿島・ 武雄・伊万里2・唐津2(緑)	9		○		梅崎
27	長崎県	長崎北部 平戸・佐世保7(黄色)	8		○		四元
		長崎南東部 川棚・大村・諫早5・島原2(緑)	9		○		廣滋
		長崎南西部 長崎10(ピンク)	10		○		深町
29	熊本県	熊本北部 山鹿・玉名3・大津・熊本10 (黄)	15		○		佐野
		熊本南部 熊本8・宇土・八代3・水俣・ 人吉(緑)	14		○		室井コ
20	宮崎県	宮崎北部 延岡3・日向・高鍋・西都・ 宮崎3(黄色)	9		○		武藤
		宮崎南部 宮崎5・日南2・都城3・小林 (緑)	11				
27	鹿児島県	鹿児島北西部(薩摩) 出水2・薩摩川内・ いちき串木野・日置2・ 鹿児島7(黄色)	13		○		中野
		鹿児島南東部(大隅) 鹿児島4・南九州・南さつま2・ 始良・霧島2・鹿屋3・志布志 (緑)	14		○		武藤
		沖縄県(中・南部)	約24				資料送付
		広島県(中・西部)	約31				資料送付

7/中旬～教務部または2号館・202号室(第二応接室)に左記・上記地域(地区)と各担当者ごとに仕分けして準備しますので、担当者の方は紙袋に訪問校数分の資料一式を確認して訪問してください。

資料は1高校・1セットですので、訪問担当者が複数の場合は、**どなたかが代表**で取りに来られて下さい。南区Cの方の資料はまとめて取りに来られると思いますが、特に北区Cの方と担当の高校分は**どちらが取りに来られるのかを確認して**取りに来られるようお願いいたします。

複数の担当者でご担当される高校の訪問の仕方ですが、資料は1セットしかありませんので、お二人で一緒に行かれるか、または担当校を振り分けての訪問をお願いいたします。

○資料一式・6種(2024版パンフ、2024版募集概要、R5年度問題集、文具〔高校教諭提供用〕、OCチラシ、高校別在籍・出願リスト※)。

※出願リストは2023年度入試のみ。高校別リスト有無は、教務部にお問い合わせください。

(福岡県・下関地区) 12月訪問分(12/11~12/26くらいまでに訪問)

状況	高校名	受験合格者					高校数	訪問担当者
		保育	短食	大食	理学	作業		
	門司学園			1		2	4	安倍 齋藤
	門司大翔館	3		1	4	1		
	敬愛			1	1			
	豊国学園	4						
	小倉西			2	1		4	井元 土谷
	慶成	3						
	真颯館				1			
	小倉							
	小倉南	1		1			6	平澤 寺本
	小倉東	5		4	3			
	北九州	5		1	5			
	小倉商業	3		1				
	常磐	2				1		
	美萩野女子							
	戸畑				1		4	神崎 和辻
	ひびき	1						
	北九州市立	1	1	2	1	2		
	戸畑工業	1					4	倉崎 齋藤
	若松	1	1	1	2			
	若松商業	2						
	高稜							
	八幡						3	佐野
	八幡工業			1				
	九国大付属			2				
	八幡中央	2	2		1		5	近藤 室井由
	仰星学園	1				1		
	星琳			1				
	八幡南	2		1	2	3		
	北筑				1			
	東筑						2	石原
	遠賀							
	折尾	2		0			5	赤松 阿部
	折尾愛真	2	2		2	1		
	自由ヶ丘	1		1	4			
	中間	1	1	3	6	1		
	希望が丘							

状況	高校名	受験合格者					高校数	訪問担当者
		保育	短食	大食	理学	作業		
	築上西	1	1				5	廣滋 梅林
	青豊	4		2		2		
	京都							
	育徳館	1	1	1				
	行橋	5	1				4	吉田遊 笹部
	鞍手				1			
	直方	1			2	2		
	筑豊							
	大和青藍	1	2	3			5	中藤 廣藤
	田川		1					
	西田川							
	田川科学技術							
	福智							
	東鷹	1	2	2			5	安倍 石原
	嘉徳							
	嘉徳東			3				
	近畿大学附属福岡 稲築志耕館			3				
	飯塚						5	四元 笹部
	下関西							
	下関南							
	下関商業			1				
	長府	1	2			1		
	豊浦						4	梅崎
	下関中等教育							
	梅光学院							
	早瀬				2			
	下関短大附属			1			3	石原
	下関国際			1				
	田部		1	1				
	下関北	1	4				中野、田中、 北嶋	
	宗像・福岡市周辺地区 福岡県南部地区							

(九州地区〔山口県・大分県〕)

県	地区	訪問時期			高校数	訪問担当者
		5月	7・8月	12月(予定)		
口	山陽小野田3(紫)	○	○	○	3	木村
	宇部6(紫)	○	○	○	6	木村
	萩2・長門3・ 美祢2(緑)	○	○	○	7	木村
	※大津緑洋は大津校舎と日置校舎の2箇所へ訪問					
	山口6(黄)	○	○	○	6	
	周南3・防府4・ 下松2(ピンク)	○	○	○	9	北嶋
	岩国・柳井・光・ 熊毛(青)	○	○	○	7	

県	地区	訪問時期			高校数	訪問担当者
		5月	7・8月	12月(予定)		
大分	中津4・宇佐3・ (青)	○	○	○	7	木村
	大分12・白杵 (黄色)	○	○	○	13	北嶋
				○	6	佐野
	国東・豊後高田・ 杵築・日出・別府4・ 由布(緑)	○	○	○	9	室井コ
	日田4・玖珠・竹田・ 豊後大野・津久見・ 佐伯3(ピンク)	○	○	○	11	中野

教務部または2号館・202号室(第二応接室)に上記地域(地区)と各担当者ごとに仕分けして訪問用資料を準備しますので、担当者の方は12/7以降に取りに来ていただき、紙袋に訪問校数分の資料一式を確認して訪問してください。

資料は1高校・1セットですので、訪問担当者が複数の場合は、どなたかが代表で取りに来られて下さい。南区Cの方の資料はまとめて取りに来られると思いますが、特に北区Cの方と担当の高校分はどちらが取りに来られるのかを確認して取りに来られるようお願いいたします。複数の担当者でご担当される高校の訪問は、お二人で一緒にお願いいたします。

○資料一式・6種(2023版パンフ、2023版募集要項、R4年度問題集、文具〔高校教諭提供用〕、高校別在籍・出願リスト、OCチラシ)、
※出願リストは2023年度入試のみ。高校別リスト有無は、教務部にお問い合わせください。

7月訪問分(7/中下旬～8/中旬〔お盆前〕くらいまでに訪問)

校数	県	地区	高校数	訪問時期			訪問担当者
				5月	7・8月	12月	
20	佐賀県	佐賀東部 基山・鳥栖・みやき・ 神崎・佐賀7(黄色)	11		○		松本
		佐賀西部 佐賀・小城・白石・鹿島・ 武雄・伊万里2・唐津2(緑)	9		○		梅崎
27	長崎県	長崎北部 平戸・佐世保7(黄色)	8		○		四元
		長崎南東部 川棚・大村・諫早5・島原2(緑)	9		○		廣滋
		長崎南西部 長崎10(ピンク)	10		○		深町
29	熊本県	熊本北部 山鹿・玉名3・大津・熊本10 (黄)	15		○		佐野
		熊本南部 熊本8・宇土・八代3・水俣・ 人吉(緑)	14		○		室井コ
20	宮崎県	宮崎北部 延岡3・日向・高鍋・西都・ 宮崎3(黄色)	9		○		
		宮崎南部 宮崎5・日南2・都城3・小林 (緑)	11				
27	鹿児島県	鹿児島北西部(薩摩) 出水2・薩摩川内・ いちき串木野・日置2・ 鹿児島7(黄色)	13		○		中野
		鹿児島南東部(大隅) 鹿児島4・南九州・南さつま2・ 始良・霧島2・鹿屋3・志布志 (緑)	14		○		
		沖縄県(中・南部)	約24				資料送付
		広島県(中・西部)	約31				資料送付

富島
宮崎日大
宮崎第一
妻

神村学園
野田女子
錦江湾
鹿児島女子
甲南
川内
加世田
武岡台

7/中旬～教務部または2号館・202号室(第二応接室)に左記・上記地域(地区)と各担当者ごとに仕分けして準備しますので、担当者の方は紙袋に訪問校数分の資料一式を確認して訪問してください。

資料は1高校・1セットですので、訪問担当者が複数の場合は、**どなたかが代表**で取りに来られて下さい。南区Cの方の資料はまとめて取りに来られると思いますが、特に北区Cの方と担当の高校分は**どちらが取りに来られるのかを確認**して取りに来られるようお願いします。

複数の担当者でご担当される高校の訪問の仕方ですが、資料は1セットしかありませんので、お二人で一緒に行かれるか、または担当校を振り分けての訪問をお願いします。

○資料一式・6種(2024版パンフ、2024版募集概要、R5年度問題集、文具〔高校教諭提供用〕、OCチラシ、高校別在籍・出願リスト※)。

※出願リストは2023年度入試のみ。高校別リスト有無は、教務部にお問い合わせください。

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：九州栄養福祉大学食物栄養学部食物栄養学科オープンキャンパス

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	110人	255人	①取組概要 令和3年開催分はコロナ感染対策のためオンライン(3回)実施。その他は完全予約制で少人数ごとに行った。令和4年開催分は対面で人数制限せず実施。受験希望者を対象としてキャンパス見学ツアー、食物栄養学部の特色や養成する人材像の紹介、模擬授業、模擬実験、在学生との懇談などを実施。 R4年度入試対象(R3開催)：計6回開催(3/27.6/19.7/17.7/31.8/20.8/21) R5年度入試対象(R4開催)：計6回開催(5/7.6/11.7/16.7/30.8/7.8/20.) ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 オープンキャンパス参加者のなかで毎年30～40%前後の学生が入学している。したがって、オープンキャンパスにトータルで100名以上が参加するように募集活動を行えば、定員充足が可能であると考えられる。 本学のオープンキャンパスでは、学科の教員全員出席で取り組み、模擬授業や模擬実習のみならず、受付やキャンパスツアー、体験や相談のコーナーも担当し、直接参加者とコミュニケーションを取りながら本学での学びや学生生活を知ってもらえるように企画実施しおり、例年好評を得ている。新学部のオープンキャンパスも複数回企画し、学生の確保につとめる。 オープンキャンパスで高校生や保護者から質問があった内容については、本人へはもちろん、高校訪問や高校教員対象の入試説明会などでも情報が共有できるように細やかに学生募集を行うことでも学生の確保につとめる。
うち受験対象者数(b)	72人	146人	
うち受験者数(c)	36人	61人	
うち入学者数(d)	29人	47人	
(受験率 c/b)	50.0%	41.8%	
(入学率 d/b)	40.3%	32.2%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：九州栄養福祉大学食物栄養学部食物栄養学科進学ガイダンス

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	225人	259人	①取組概要 受験希望者を対象として、高校会場ガイダンス、九州各県・山口県の会場形式ガイダンス等で本学の建学の精神、保育学科の特色、取得目標免許資格などの説明を行った。 R3年度実施：高校会場38校、会場形式58会場 R4年度実施：高校会場43校、会場形式42会場 ※令和4年度入試(令和3年度実施)分について、参加者登録が完全にできていない状況があった。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 進学ガイダンス相談者から毎年10～20%前後の学生が入学している。したがって、進学ガイダンスにトータルで300名以上が相談するように募集活動を行いたい。 4月から始まる新年度の九州山口各県で実施される業者主催の会場形式進学相談会へは、例年教職員が様々な資料を持参して総出で参加している。今後更に丁寧に本学がめざす人材育成についてや学びの特長を説明できるよう、教職員力を合わせて準備する。引率教員へも積極的に新学部の案内を行い、オープンキャンパスや学校見学へつなげていけるようにする。 高校会場での進学ガイダンスも同様に多くの高校へ向向き、生徒へ新学部の魅力をアピールする。これまでも近接する既設学科である保育学科の教員は、学科全体でスケジュールを合わせ毎年多くの高校で出前講義を行い、食物栄養分野について高校生に分かりやすく魅力を伝えていく。1、2年次にそれらの出前講義に興味関心を持ち、2、3年で進学ガイダンスやオープンキャンパスに参加することで、本学のアドミッションポリシーの理解など進路研究をしっかりと行い受験・入学に進むようにサポートしている。結果、入学後のミスマッチを防ぐことにもなる。そのように、本学のガイダンス面談担当者は、入学後、さらに卒業までの生徒ひとりひとりの成長する姿を想像しながら、真摯に学生募集に取り組んでおり、今後も同様に受験生の確保を進めていく。
うち受験対象者数(b)	72人	97人	
うち受験者数(c)	7人	20人	
うち入学者数(d)	7人	20人	
(受験率 c/b)	9.7%	20.6%	
(入学率 d/b)	9.7%	20.6%	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称：九州栄養福祉大学の大学案内配布

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	1047人	930人	①取組概要 本学ホームページからの資料請求者へ学校案内を送付した。大学案内、募集要項に加え、送付時期に応じて各種案内や学部学科の最新のお知らせなど同封した。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 毎年受験対象者数の約10%が入学へ結びついている。このことから、入学案内は学生募集にとって大変重要であり、今後一層充実した入学案内の作成に努める。 ここでの数字は、本学のホームページからの資料請求者である。その他、各種進学情報媒体への学生募集告知を行い、資料請求につなげており、毎日発送業務を行っている。今後は新学部に関する情報やオープンキャンパス案内なども同封してPRを行い、ダイレクトメールやSNSを利用した学生確保につとめる。
うち受験対象者数(b)	419人	343人	
うち受験者数(c)	105人	63人	
うち入学者数(d)	48人	32人	
(受験率 c/b)	25.1%	18.4%	
(入学率 d/b)	11.5%	9.3%	

④募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)			①取組概要 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ※入学率等を用いて、本取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者の人数を分析してください。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
(受験率 c/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	
(入学率 d/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	

⑤募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R4年度入試	R5年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)			①取組概要 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ※入学率等を用いて、本取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者の人数を分析してください。
うち受験対象者数(b)			
うち受験者数(c)			
うち入学者数(d)			
(受験率 c/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	
(入学率 d/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	

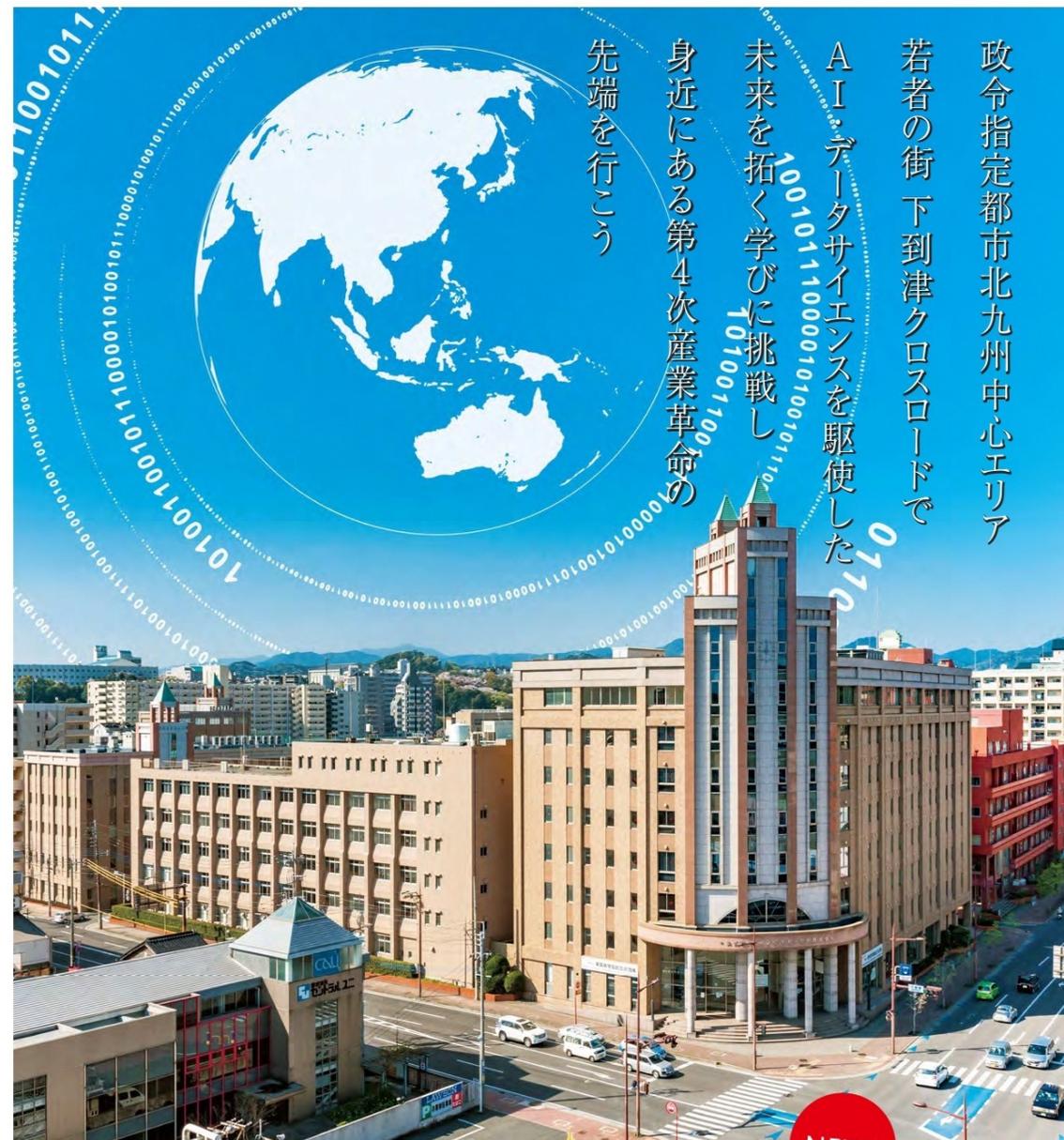
【食環境データサイエンス学科 概要】

学部・学科名称	食物栄養学部 食環境データサイエンス学科	入学定員	50名
学 費	初年度納入金:145万円 (入学金23万円・授業料等122万円)	学 位	学士 (食環境データサイエンス)
学びの内容	食環境と健康に関する深い理解とデータサイエンスの技術を組み合わせた教育を行い、食品の生産・流通、医療・福祉、環境に関連する大量のデータを収集・分析するスキルを修得することで、社会の持続可能な発展に寄与するデータサイエンティストを養成する。		
設置の理念	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の源である「食」に係る様々なデータを分析し、食についての安全性や世界的な食糧危機の課題等について多角的に捉えることのできる専門的知識を備えた人材を養成する。 ・人間が生きる上で欠かすことのできない食と農学に関する基礎知識から農園での演習を重ね、より具体的な食と農に関する専門知識を養う。 ・文部科学省が推奨する特定成長分野をけん引する高度専門分野の育成に寄与する。 ・食とデータサイエンスに係る企業と提携し、卒業後も研究を生かした就職につなげていく。 		
養成する人材像	本学は「建学の精神 勇気・親和・愛・知性の四つの心をバランス良く育てる」を基盤とした人格教育を行い、地域社会や福祉に役立つ使命感と信念を持ったデータサイエンティストを養成する。		
アドミッションポリシー	<p>本学科は、食環境と健康に関する深い理解と先端のデータサイエンス技術を統合した教育を通じて、子供から高齢者までの「豊かな食生活と健康」を実現する専門家を養成するために、以下に掲げる学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建学の精神(勇気・親和・愛・知性が調和する人間性を養う人格教育)に賛同する人 2. 高等学校までに学習した全ての教科の基礎学力を習得し、論理的思考能力を有している人 3. 食環境と健康のかかわりについて深い関心を持ち、AI・データサイエンスの技術を習得するために積極的かつ持続的な努力を惜しまない人 4. 他者の気持ちや立場を理解し、思いやりと協調性を兼ね備えた人 5. 新たな挑戦に積極的な志を持つ人 		
取得を目指す資格	上級データサイエンス・AI実務パスポート、基本情報技術者		
卒業後の進路	メーカー、流通・小売、サービス、商社、ソフトウェア・情報処理・ネット関連、官公庁・公社・団体、農業経営 etc.		

※設置される学科等の名称・内容などは予定につき、変更になる場合があります。

<アクセス>

- JR小倉駅 → 徒歩約15分
- JR小倉駅 → 西鉄バス「小倉駅入口」から約12分
→ 「金田陸橋西」降車後徒歩約2分
- JR八幡駅 → 西鉄バス「八幡駅入口第一」から約20分
→ 「下津」降車後徒歩約2分



2025年4月開設予定 九州栄養福祉大学 (設置認可申請中)
「食物栄養学部 食環境データサイエンス学科」

「食×データサイエンス」で、未来の食環境と健康を守る。

※設置される学科等の名称・内容などは予定につき、変更になる場合があります。

FOOD ENVIRONMENT × DATA SCIENCE

Greeting

食物栄養学部内新学科・食環境データサイエンス学科を設置認可申請中です。この食環境データサイエンス学科では、食環境・健康分野の深い専門知識とAI・データサイエンスのスキルを合わせ持つことにより、食料や食品の生産・流通、医療・福祉、環境への影響に関連する広範なデータを収集・分析し、子供から高齢者までの「豊かな食生活と健康」を実現する持続可能な社会に貢献するグローバル人材の育成を目的としています。

この食環境データサイエンス学科を創り上げるには、いわゆる第4次産業革命時代の最新知識を教育研究する専門家、最新技術を実際に開発してきた方々との連携協力が必要でした。特にロボット工学で日本の産業を牽引してきた株式会社安川電機の元CTO、最高技術責任者・熊谷彰氏、そしてAI・データサイエンスを活用した「スマート農業」という視点から我が国の食の安全保障の「大難問(アボリア)」に挑戦する株式会社オプティム(東証プライム上場企業)の菅谷俊二社長(日本のIT分野における特許資産個人ランキング1位)には力強い助力をいただきました。お二人とも開学後は特別客員教授という形で本学にお迎えする予定です。更に、インターンシップ(学生の企業実習)や講師派遣、共同研究並びに地域貢献のために地元北九州地域を中心とした約20の食産業・IT関連企業および団体が連携協定を結んでくれました。

今世界はグローバルな規模でビッグデータがネットを通して結ばれています。正に第4次産業革命に突入しています。そこでは多様なデジタル人材が要請されます。一昔前は「読み、書き、そろばん」「縫う、織る、染める」が人生を生きる大きな技術でしたが今はデジタルリテラシーを修得し大量のデータを解読し世界と交流していかないと「情報の非対称性」つまりインフォメーションギャップに陥る危険性もあります。岸田首相はASEAN諸国と共同して今後5年間で10万人の高度デジタル人材育成を目指す」と表明しました。それだけ多くの若い人が今から必要になってくるのではないかと考えています。北九州市はもともと国際都市として我が国に大きな貢献をしてきた地です。これからもアジア太平洋の中核都市として大きな役割を果たしていくと思います。我々の企画構想する食環境データサイエンス学科は必ず時代が要請する人材養成の拠点になると思います。

学長 室井 廣一

Mission ~学びの目的~

食環境分野の専門的知識とデータサイエンスの

スキルを合わせ持つ即活躍できる人を養成する。

現代社会では、「人生100年時代」と呼ばれる中で、単に長く生きるだけでなく、健康で充実した生活を送ることが求められています。この背景には、医療技術の進歩のみならず、第4次産業革命やSociety5.0と称される革新的デジタル社会の進展があり、ビッグデータの活用が各分野で重要視されています。食環境分野も例外ではなく農業、食品製造、流通、健康管理といった各ステージで蓄積されるデータから新たな価値を引き出すことが期待され、AI(人工知能)とデータサイエンス分野における専門知識を有する人材の育成、ひいてはこれらの先進技術を体系的に学べる教育環境の整備が求められています。

こうした背景から、九州栄養福祉大学の食環境データサイエンス学科では、AI技術とデータサイエンスの技術を駆使し、未来の食環境問題を科学的アプローチで解決できる専門家として、地域社会や人類の福祉向上に貢献する「グローバル人材」を養成します。

また、北九州地域の産学官連携を活かした展開、地元企業との包括的な連携によるプロジェクトやインターンシップを通じて、実践的な学びと経験を提供し、即活躍できる能力の育成を図ります。

現在の食環境における課題



食の「データサイエンティスト」の養成

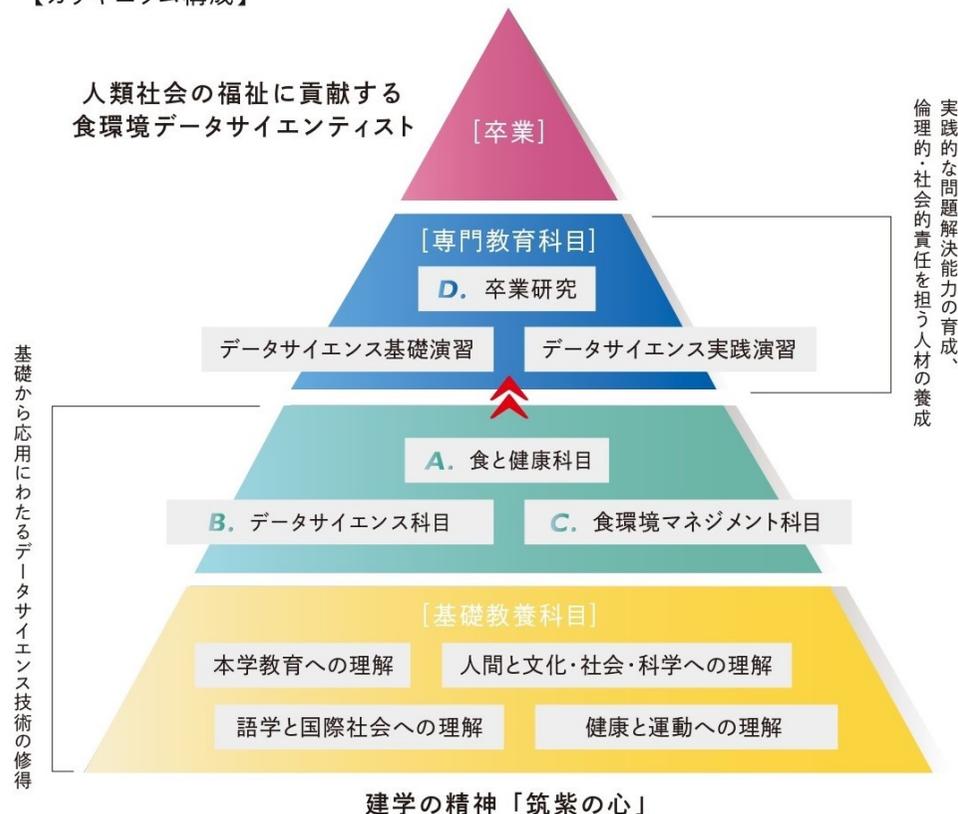
未来の食環境での実現目標



Curriculum ~学びのカリキュラム~

基礎教養科目と専門教育科目に分けられ、食環境・健康分野に関連するデータサイエンスの基礎教育から応用技術までの幅広い知識と技能を、体系的かつ段階的に学ぶことができるよう設計しています。

【カリキュラム構成】



【基礎教養科目】

〈本学教育への理解〉

- ・キャリアガイダンスI
- ・キャリアガイダンスII
- ・キャリアガイダンスIII
- ・キャリアガイダンスIV
- ・食環境データサイエンス概論
- ・食環境イノベーションデザイン
- ・農園演習

〈語学と国際社会への理解〉

- ・実用英語の基礎I
- ・実用英語の基礎II
- ・実用英語
- ・国際理解(海外研修)

〈人間と文化・社会・科学への理解〉

- ・食と経済
- ・人間関係の心理
- ・基礎生物学
- ・基礎化学
- ・リハビリテーション概論
- ・コンピュータリテラシー
- ・AI・データサイエンス入門

〈健康と運動への理解〉

- ・健康スポーツ科学I
- ・健康スポーツ科学II
- ・健康スポーツ科学III
- ・健康スポーツ科学IV

【専門教育科目の特色】

A. 食と健康科目

食栄養学科と連携した食と健康に関する講義科目を多数開講します。これらの科目を通じて、食環境・健康分野の深い専門知識を修得します。

- ・解剖生理学
- ・生化学
- ・疾病の成り立ちと病態
- ・運動生理学
- ・食品分子機能学
- ・微生物学
- ・食品学総論
- ・食品衛生学
- ・食品加工学
- ・基礎栄養学
- ・応用栄養学
- ・臨床栄養学
- ・スポーツ栄養学
- ・公衆栄養学



B. データサイエンス科目

食環境・健康に関するデータサイエンスの専門家としての知識および技術の体系的な修得に必要な科目を多数開講します。演習科目はもちろん、講義科目においても積極的にノートPCを活用します。理論を机上で学ぶだけでなく、データサイエンス分野に幅広く活用されているプログラム言語Pythonによる実装・動作確認を行うことで、AI・データサイエンスの専門知識およびスキルを着実に修得していきます。

- ・微積分学基礎
- ・データサイエンスのための微積分学
- ・線形代数基礎
- ・データサイエンスのための線形代数
- ・確率統計学基礎
- ・データサイエンスのための確率統計学
- ・データサイエンスのための応用数学
- ・プログラミング基礎
- ・プログラミング演習
- ・情報ネットワーク
- ・データベース入門
- ・センシングと信号処理
- ・機械学習基礎
- ・機械学習演習
- ・データ解析基礎
- ・データ解析演習
- ・ニューラルネット基礎
- ・ニューラルネット演習
- ・マルチモーダルAI技術と応用
- ・データ駆動型意思決定と可視化
- ・食農健康データサイエンス
- ・先端AI論
- ・フードウェルネスデータサイエンス
- ・バイオインフォマティクス
- ・マーケティングとデータサイエンス
- ・マネジメントとデータサイエンス
- ・人間とAI



C. 食環境マネジメント科目

産業界における実践的な経験を有する外部講師による講義科目に加え、現実の課題に主体的に取り組む演習科目を開講します。これらの科目を通じて、産業界における現実の課題に対する実践的な解決策を提案できる能力に加え、起業家精神を養います。

- ・マーケティング論
- ・マーケティングリサーチ
- ・流通システム論
- ・消費者行動論
- ・サプライチェーンマネジメント学
- ・アグリビジネスマネジメント学
- ・食環境地域連携演習
- ・インターンシップ
- ・アントレプレナー論
- ・アントレプレナー演習



D. 卒業研究

専門教育科目の集大成として、少人数のゼミ単位でプロジェクトベース学習および各自のテーマに基づいた研究活動に取り組みます。これらの活動を通じて、卒業後の継続的な学習と自己研鑽に努める姿勢を養います。

- ・データサイエンス基礎演習
- ・データサイエンス実践演習
- ・卒業研究



Campus ～学びのステージ～

最先端の栄養学、農学、ITの学び・体験の場でありその成果を北九州および全国に発信する拠点として、現在の5号館が生まれ変わります。



食環境データサイエンス学科の 目指す形

食環境データサイエンス学科では、人々の健康を食・睡眠・運動の観点から学び、研究し、社会へと貢献していきます。その実現のために、生まれ変わった5号館には最先端の研究設備や研究を促進する空間を用意し、学生自らの学習と研究を促します。



【コミュニティエリア】

学生や教員、外部の方々とのコミュニケーションを促進し、新たな食農のアイデアを創発することを目指します。



【ラボラトリーエリア】

食事による体への影響を、睡眠や運動などに関連する最先端の外部測定装置から変化を捉え、食が体に与える影響を多角的に捉える設備があります。



【フローズンダイニング】

冷凍食を活用した新しい食の実現に向けて、専用の設備を設置。食農を通じて、地産地消や地元企業とのコラボレーションを生み出す新しい環境を構築します。



【AIイノベーション・データサイエンスラボ「KIDS LABO.(キッズラボ)」を併設!!】



「政令指定都市北九州中心エリア、クロスロードでAI×データを駆使した未来を拓く学びに挑戦し、身近にある第4次産業革命を体験しよう」

九州栄養福祉大学の「KIDS LABO.」は、AIとデータサイエンスを駆使して、未来の可能性を切り拓くイノベーションラボです。子供から大人まで、あらゆる世代が集うこのラボでは、各人の才能を開花させるための環境を提供します。最先端の技術に触れながら、実社会への応用も模索します。学びとイノベーションが交差するこの場所（ジャンクション）で、新しい時代の先駆者を目指しましょう。

Message ～ AI・データサイエンス分野における第一人者からの期待の声～

01



元株式会社安川電機CTO
(取締役常務執行役員 技術開発本部長)
新学部・学科設置準備室 顧問
熊谷 彰 氏

食環境データサイエンス学科の設立は、今日のデジタル社会における革新的な動きと密接に関連していると感じます。この学科が提供する教育は、データサイエンスの技術を食と農業、健康の分野に応用することで、これらの分野における新たな課題解決の道を切り開く人材を育成することが重要なテーマだと思えます。特に、AIを活用した「食の番人」としての役割を担う専門家の育成は、将来的に食環境問題に対する持続可能な解決策を提案する上で重要な意味を持ちます。また、人格教育と地域社会との連携を重視する姿勢は、社会に貢献するデータサイエンティストの養成において欠かせない要素です。このような教育方針は、将来的に多方面での貢献が期待される人材を輩出し、社会の発展に大きく寄与するでしょう。そういう意味でも、この学科に対して大きな期待を抱いています。
(特別客員教授就任予定)

02

人生100年時代と言われるまでに医療技術が進化を遂げた今日において、その100年をより健やかに、より若々しく生きたいという事が21世紀後半の人類に残された大きな夢の一つであると思えます。本学に開設される食環境データサイエンス学科は、栄養学に農学、データサイエンスを融合した新しい領域のスペシャリストを生み出すことで人類の夢を、社会課題の解決を目指す学科です。栄養学とデジタルの融合は多くの人々に大きな希望をもたらします。若い皆様の豊かな才能と強い熱意で人類の次なる夢を実現するスペシャリスト、エキスパートの誕生に期待します。共に大いに学びましょう。
(特別客員教授就任予定)



OPTIM®

日本のIT分野・特許資産個人ランキングNo.1
株式会社オプティム(東証プライム上場企業)
代表取締役社長
菅谷 俊二 氏

令和6年1月 ○日

高等学校校長 殿

九州栄養福祉大学
新学部・学科設置準備室
学長・室長 室 井 廣 一

新学部・学科設置のためのアンケート調査のお願い

平素より本学への格別なご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本学は令和7年4月開設へ向けて、新学部「こども教育学部こども教育学科」および食物栄養学部の中に新学科「食環境データサイエンス学科」の設置準備を進めております。

※各学部・各学科の学びの内容、養成する人材等などについては別紙資料をご参考ください。

つきましては、新学部・学科の設置認可申請にあたり、「学生確保のための基礎資料」として地元高校生へのアンケート調査が必要になります。5項目の簡単なアンケート調査でございます。

学期末のお忙しい時期に大変恐縮ですが、何卒ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

設 置 学 科

九州栄養福祉大学

大学院 健康科学研究科 健康栄養学専攻

食物栄養学部 ———— 食物栄養学科(管理栄養士養成課程)

— 食環境データサイエンス学科(開設予定)

リハビリテーション学部 ———— 理学療法学科(理学療法士養成課程)

— 作業療法学科(作業療法士養成課程)

こども教育学部 こども教育学科(開設予定)

新学部・新学科設置準備アンケート依頼高校訪問一覧表および回答結果

○…回答あり

×…締切日まで回答なし

	高校名	人数 2年生	アンケート回収校	高校数	担当者
1	門司学園	119	○	24	上森
2	門司大翔館	126	○		
3	小倉西	236	○		
4	小倉工業	180	○		
5	小倉東	155	×		
6	常磐	194	○		
7	戸畑	239	×		
8	ひびき	228	○		
9	築上西	116	×		
10	青豊	280	○		
11	京都	234	○		
12	育徳館	155	○		
13	行橋	185	×		
14	苅田工業	151	○		
15	直方	153	×		
16	筑豊	113	○		
17	田川	161	○		
18	田川科学技術	164	○		
19	東鷹	159	○		
20	嘉穂	231	○		
21	嘉穂東	215	○		
22	嘉穂総合	107	○		
23	北筑	276	○		
24	飯塚	223	○		
25	小倉南	192	○	3	寺本
26	北九州	197	○		
27	小倉商業	238	○		
28	敬愛	128	○	1	齋藤
29	北九州市立	188	○	1	和辻
30	若松	133	○	1	倉崎
31	九州国際大学付属	526	○	1	佐野
32	八幡中央	193	○	2	近藤 室井由
33	八幡南	237	○		
34	折尾	196	○	3	赤松
35	折尾愛真	287	○		
36	中間	197	○		
37	鞍手	224	○	1	笹部
38	東筑紫学園（併設校）	377	○	1	北嶋



【新学科 概要】

学部・学科	食物栄養学部 食環境データサイエンス学科	入学定員	50名
学費	初年度納入金:145万円(入学金23万円・授業料等122万円)	学位	学士 (食環境データサイエンス)
学びの内容	食環境と健康に関する深い理解とデータサイエンスの技術を組み合わせた教育を行い、食品の生産・流通、医療・福祉、環境に関連する大量のデータを収集・分析するスキルを修得することで、社会の持続可能な発展に寄与するデータ駆動型のデータサイエンスの専門家を養成する。		
設置の理念	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の源である「食」に係る様々なデータを分析し、食についての安全性や世界的な食糧危機の課題等について多角的に捉えることのできる専門的知識を備えた人材を養成する。 ・人間が生きる上で欠かすことのできない食と農学に関する基礎知識から農園での演習を重ね、より具体的な食と農に関する専門知識を養う。 ・文部科学省が推奨する特定成長分野をけん引する高度専門分野の育成に寄与する。 ・食とデータサイエンスに係る企業と提携し、卒業後も研究を生かした就職につなげていく。 		
養成する人材像	本学は「建学の精神 勇気・親和・愛・知性の四つの心をバランス良く育てる」を基盤とした人格教育を行い、地域社会や福祉に役立つ使命感と信念を持ったデータサイエンティストを養成する。		
アドミッションポリシー	<p>本学科は、食環境と健康に関する深い理解と先端のデータサイエンス技術を統合した教育を通じて、子供から高齢者までの「豊かな食生活と健康」を実現する専門家を養成するために、以下に掲げる学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建学の精神(勇気・親和・愛・知性が調和する人間性を養う人格教育)に賛同する人 2. 高等学校までに学習した全ての教科の基礎学力を習得し、論理的思考能力を有している人 3. 食環境と健康のかかわりについて深い関心を持ち、AI・データサイエンスの技術を習得するために積極的かつ持続的な努力を惜しまない人 4. 他者の気持ちや立場を理解し、思いやりと協調性を兼ね備えた人 5. 新たな挑戦に積極的な志を持つ人 		
取得を目指す資格	上級データサイエンス・AI実務パスポート、基本情報技術者		
卒業後の進路	メーカー、流通・小売、サービス、商社、ソフトウェア・情報処理・ネット関連、官公庁・公社・団体、農業経営 etc.		
類似大学学部・学科	中村学園大学(栄養科学部 フードマネジメント学科、流通科学部 流通科学科) / 南九州大学(健康栄養学部 食品開発科学科) / 別府大学(食物栄養科学部)		

※設置される学科等の名称・内容などは予定につき、変更される場合があります。

<アクセス>

- JR南小倉駅 → 徒歩約15分
- JR小倉駅 → 西鉄バス「小倉駅入口」から約12分
→ 「金田陸橋西」降車後徒歩約2分
- JR八幡駅 → 西鉄バス「八幡駅入口第一」から約20分
→ 「下津」降車後徒歩約2分

政令指定都市北九州中心エリア若者の街下到達クロスロードで

AI×データを駆使した未来を拓く学びに挑戦し

身近にある第4次産業革命の先端を行こう

北九州初!!
2025年4月
開設予定(構想中)

※設置される学科等の名称・内容などは予定につき、変更される場合があります。

食物栄養学部

食環境データサイエンス学科

「食」と「データサイエンス」で、未来の食環境と健康を守る。

FOOD × DATA SCIENCE

食農健康分野の専門的知識とデータサイエンスの

スキルを合わせ持つ人材を養成する。

それが「食環境データサイエンス学科」の使命です。

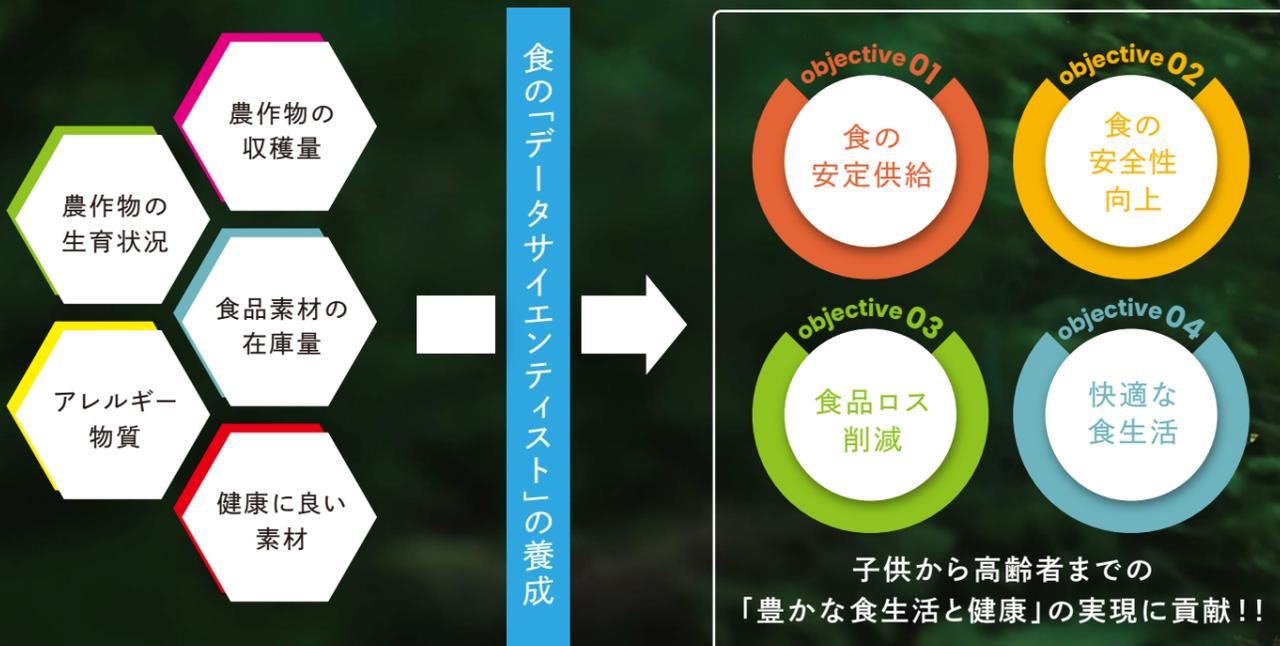
IoT (Internet of Things=モノのインターネット) やAI (人工知能) による第4次産業革命や、Society 5.0 と称される革新的デジタル社会の世界的進展を背景に、様々な領域においてデータを収集・分析・解釈することで新たな価値を生み出すことのできる「データサイエンティスト」が求められています。

食・環境健康分野も同様で、農作物や食品の生産、流通、健康への影響など多くのビッグデータが生成されており、既にAIによる課題発見と解決に対する取り組みも社会実装されていますが、食農健康分野の深い専門知識とデータサイエンスのスキルを合わせ持つ人材が足りないというのが現状です。

「食環境データサイエンス学科」では、社会的需要が急速に高まっている、食の「データサイエンティスト」を養成することで、未来の豊かな食生活と健康の実現に貢献したいと考えています。

現在の食環境における課題

未来の食環境での実現目標



【AI・データサイエンス分野における第一人者の期待の声】



元株式会社安川電機CTO
(取締役常務執行役員
技術開発本部長)
新学部・学科設置準備室
顧問
熊谷 彰 氏

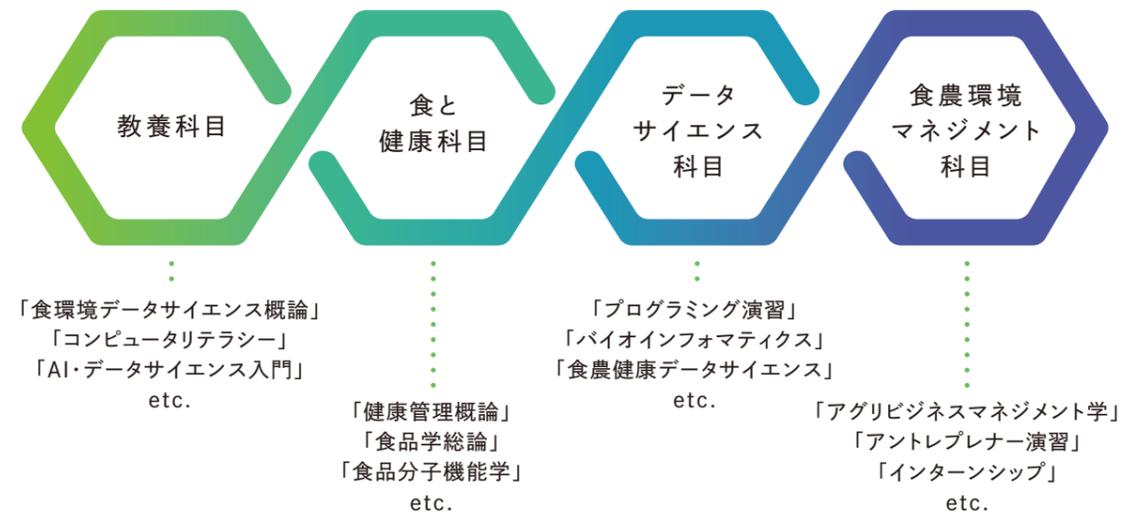
食環境データサイエンス学科の設立は、今日のデジタル社会における革新的な動きと密接に関連していると感じます。この学科が提供する教育は、データサイエンスの技術を食と農業、健康の分野に応用することで、これらの分野における新たな課題解決の道を切り開く人材を育成することが重要なテーマだと思います。特に、AIを活用した「食の番人」としての役割を担う専門家の育成は、将来的に食環境問題に対する持続可能な解決策を提案する上で重要な意味を持ちます。また、人格教育と地域社会との連携を重視する姿勢は、社会に貢献するデータサイエンティストの養成において欠かせない要素です。このような教育方針は、将来的に多方面での貢献が期待される人材を輩出し、社会の発展に大きく寄与するでしょう。そういう意味でも、この学科に対して大きな期待を抱いています。
(特別客員教授就任予定)



OPTIM®
日本のIT分野・特許資産
個人ランキングNo.1
株式会社オプティム
(東証プライム企業)
代表取締役社長
菅谷 俊二 氏

人生100年時代と言われるまでに医療技術が進化を遂げた今日において、その100年をより健やかに、より若々しく生きたいという事が21世紀後半の人類に残された大きな夢の一つであると思います。本学に開設される食環境データサイエンス学科は、栄養学に農学、データサイエンスを融合した新しい領域のスペシャリストを生み出すことで人類の夢を、社会課題の解決を目指す学科です。栄養学とデジタルの融合は多くの人々に大きな希望をもたらします。若い皆様の豊かな才能と強い熱意で人類の次なる夢を実現するスペシャリスト、エキスパートの誕生に期待します。共に大いに学びましょう。
(特別客員教授就任予定)

【食の教養科目に加え、様々な専門教育科目を履修】



【AIイノベーション・データサイエンスラボ「KIDS LABO. (キッズラボ)」を併設予定!!】



KIDS LABO.
Kyushu Nutrition and Welfare University
AI Innovation and Data Science Lab.

「政令指定都市北九州中心エリア、クロスロードでAI×データを駆使した未来を拓く学びに挑戦し、身近にある第4次産業革命を体験しよう」

九州栄養福祉大学の「KIDS LABO.」は、AIとデータサイエンスを駆使して、未来の可能性を切り拓くイノベーションラボです。子供から大人まで、あらゆる世代が集うこのラボでは、各人の才能を開花させるための環境を提供します。最先端の技術に触れながら、実社会への応用も模索します。学びとイノベーションが交差するこの場所(ジャンクション)で、新しい時代の先駆者を目指しましょう。

該当する番号に○をつけてください。

1. 卒業後の進路

【設問】

卒業後の進路はどのように考えていますか。(複数選択可)

【選択肢】

- ① 大学 ② 短期大学 ③ 専門職大学 ④ 専門職短期大学 ⑤ 専門学校 ⑥ 就職 ⑦ その他

※上記設問のうち、①～④を選択した方に質問です。

2. 進学を希望する場合の大学等の設置者

【設問】

志望する大学等の設置者の希望を選択してください。(複数選択可)

【選択肢】

- ① 国立 ② 公立 ③ 私立

3. 興味のある学問分野

【設問】

高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。

(複数選択可)

【選択肢】

- ① 理学関係 ② 工学関係 ③ 農学関係 ④ 家政関係 ⑤ 保健衛生学関係 ⑥ その他

4. 新設組織の受験希望の有無

【設問】

九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食環境データサイエンス学科が開設された場合、
受験を希望しますか。次より一つ選択してください。

【選択肢】

- ① 第一志望として受験する ② 第二志望として受験する ③ 第三志望として受験する ④ 受験しない

5. 新設組織に合格した場合の入学希望の有無

【設問】

上記4で①～③を選択した方に質問です。

九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食環境データサイエンス学科を受験して合格した場合、
入学を希望しますか。次より一つ選択してください。

【選択肢】

- ① 入学する ② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する ③ 入学しない

ご協力ありがとうございました。

新学部・新学科設置準備アンケート調査結果
 食物栄養学部 食環境データサイエンス学科

	高校名	令和5年度 2年生	第1志望	第2志望	第3志望
1	小倉南	187	0	1	3
2	北九州	186	0	1	1
3	小倉商業	209	1	2	0
4	敬愛	116	5	3	1
5	北九州市立	180	0	0	3
6	若松	123	2	0	1
7	九州国際大学付属	486	3	5	7
8	八幡南	214	0	1	5
9	戸畑	218	1	0	2
10	折尾	184	1	0	3
11	折尾愛真	113	4	9	2
12	中間	174	1	2	7
13	鞍手	204	2	2	3
14	門司学園	114	1	4	2
15	門司大翔館	110	1	2	3
16	小倉西	223	0	1	1
17	小倉工業	177	0	1	2
18	ひびき	202	0	1	8
19	青豊	273	1	3	6
20	京都	219	0	0	3
21	育徳館	141	0	3	2
22	苅田工業	140	0	2	0
23	東鷹	145	1	3	4
24	嘉穂	215	1	1	5
25	常磐	156	2	2	3
26	筑豊	103	1	1	2
27	田川	150	0	0	1
28	西田川	67	2	2	1
29	田川科学技術	88	0	1	0
30	嘉穂総合	31	0	2	1
31	八幡中央	172	0	4	2
32	飯塚	225	1	3	3
33	嘉穂東	200	2	2	11
34	北筑	258	1	1	4
35	東筑紫学園（併設校）	344	6	8	17
36	大和青藍	187	3	5	6
37	築上西	89	0	1	8
38	中津東	62	1	0	0
39	中津南	178	4	0	2
40	中津北	144	1	0	3
41	東九州龍谷	153	0	1	2
42	安心院	39	0	0	0
43	杵築	106	1	1	1
44	国東	54	0	0	0
45	宇佐	93	2	0	0
	合計	7452	52	81	141

九州栄養福祉大学 入試状況（過去5年間）

食物栄養学科	受験者		合格者		入学者			
	一般前期	共通前期	一般前期	共通前期	一般前期	(歩留)	共通前期	(歩留)
R6年度	46	34	46	25	27	58.7%	7	28.0%
R5年度	58	34	53	24	29	54.7%	0	0.0%
R4年度	77	61	50	22	20	40.0%	2	9.1%
R3年度	58	55	52	45	29	55.8%	6	13.3%
R2年度	91	80	71	53	38	53.5%	6	11.3%
						52.5%		12.3%

理学療法学科	受験者		合格者		入学者			
	一般前期	共通前期	一般前期	共通前期	一般前期	(歩留)	共通前期	(歩留)
R6年度	28	20	27	14	11	40.7%	1	7.1%
R5年度	46	35	44	23	22	50.0%	1	4.3%
R4年度	44	46	29	17	18	62.1%	1	5.9%
R3年度	40	40	33	25	21	63.6%	1	4.0%
R2年度	49	49	32	28	20	62.5%	4	14.3%
						55.8%		7.1%

作業療法学科	受験者		合格者		入学者			
	一般前期	共通前期	一般前期	共通前期	一般前期	(歩留)	共通前期	(歩留)
R6年度	13	11	13	7	8	61.5%	0	0.0%
R5年度	6	6	6	6	5	83.3%	0	0.0%
R4年度	10	16	20	14	10	50.0%	1	7.1%
R3年度	17	18	19	15	11	57.9%	0	0.0%
R2年度	21	17	25	13	13	52.0%	0	0.0%
						61.0%		1.4%

※作業療法学科において、受験者より合格者数が多いのは、理学療法学科からの第2志望合格を含んでいるため

九州栄養福祉大学
食物栄養学部「食環境データサイエンス学科」(設置認可申請中)に関する
アンケート結果まとめ

■調査目的

2025年4月開設予定の九州栄養福祉大学 食物栄養学部「食環境データサイエンス学科」に対する企業(団体)のニーズを把握する。

■調査概要

調査票タイトル	卒業生の採用に関するアンケート
調査対象	企業(団体)の人事採用関係者
調査エリア	全国
調査方法	Web調査
調査実施機関	1. 本学 2. アイブリッジ株式会社
実施時期	1. 2024年6月20日～2024年7月3日 2. 2024年6月25日～2024年6月27日
有効回答数	1. 152社(団体) 2. 550社

■調査結果概要

本学並びに調査会社が実施した調査において、「食環境データサイエンス学科」に対する企業(団体)のニーズは下表に示す結果となった。

調査項目	本学 実施分	調査会社 実施分
「食環境データサイエンス学科」の必要性	必要だと思う 96.1%	必要だと思う 69.6%
「食環境データサイエンス学科」卒業生の採用意向	採用したいと思う 65.1%	採用したいと思う 57.3%
採用を考える場合の、毎年の採用想定人数	258人	1,261人

この結果より、「食環境データサイエンス学科」に対する企業(団体)のニーズは高いと考える。また、採用を考える場合の毎年の採用想定人数は本学科入学定員である50人を大幅に上回っており、安定した人材需要があることが伺える。

本調査は、食物栄養学部に設置予定である「食環境データサイエンス学科」に対する企業及び団体のニーズを把握するために実施したものである。

本学及び併設校と関わりのある企業及び団体に対して匿名での調査を行ったところ、本学科の入学定員をはるかに超える人数の採用が想定されたが、より公正な調査とするために調査会社（アイブリッジ株式会社）にも調査を委託した。

以下、本学が実施した調査及び調査会社が実施した調査それぞれの結果について述べる。

■回答企業（団体）の属性

1. 本学 実施分

回答企業（団体）の本社（本部）所在地は、北九州市を含む「福岡県内」が66.4%と半数以上を占め、うち「北九州市内」が32.2%である。

回答企業（団体）の業種は、「卸売・小売業」が20.4%と最も多く、「医療・福祉」が11.8%、「飲食サービス業」と「製造業（食料品以外）」がそれぞれ11.2%、「情報通信業」が9.2%である。

回答企業（団体）の従業員数（正社員数）は、「1,000人以上」が27.0%と最も多く、次いで「10人未満」が21.1%、「10人～50人未満」が13.8%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

回答企業の本社所在地は、「関東地方」が45.3%と約半数を占め、次いで「近畿地方」が20.4%、「中部地方」が12.2%である。北九州市を含む「福岡県内」は5.6%、うち「北九州市内」は0.9%であった。

回答企業の業種は、「製造業」が17.5%と最も多く、次いで「サービス業」が15.3%、「商社・卸売り・小売業」が12.9%である。

回答企業の従業員数（正社員数）は、「1,000人以上」が22.9%と最も多く、次いで「10人未満」が19.5%、「10人～50人未満」が16.2%である。

■回答企業（団体）の採用状況（過去3か年）と本年度採用人数の傾向

1. 本学 実施分

回答企業（団体）の過去3か年の平均的な正規社員の採用人数は、「1人～5人未満」が34.2%と最も多く、次いで「100人以上」が19.7%、「5人～10人未満」が13.2%であり、「0人」と回答した企業（団体）は5.9%であった。

回答企業（団体）の2024年度の新規採用人数は、2023年度と比較して「ほぼ昨年度並み」が45.4%と最も多く、次いで「増加した」が24.3%、「採用しなかった」が15.8%、「減少した」が14.5%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

回答企業の過去3か年の平均的な正規社員の採用人数は、「1人～5人未満」が27.5%と最も多く、次いで「20人～50人未満」が14.9%、「100人以上」が12.9%であり、「0人」と回答した企業は12.5%であった。

回答企業の2024年度の新規採用人数は、2023年度と比較して「ほぼ昨年度並み」が50.7%と最も多く、次いで「増加した」が21.5%、「採用しなかった」が16.4%、「減少した」が11.5%である。

■九州栄養福祉大学 食物栄養学部「食環境データサイエンス学科」の特色に対する魅力度

※「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業（団体）の割合を魅力度とする。

【特色1】本学の食環境・健康分野の教育実績に、地元工学系大学、日本を代表するAI活用企業及び20社近くの地元企業との産学連携を活かし、AI・データサイエンスの基礎から実社会への応用まで修得できる体系的な教育プログラムを構築し、卒業後、即社会で活躍できる人材を養成する。

1. 本学 実施分

特色1についての魅力度は、93.4%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

特色1についての魅力度は、67.3%である。

【特色2】食環境・健康分野における農業、食品製造、流通、健康管理といった各段階で蓄積されるデータをAI・データサイエンス技術を用いて分析し、科学的合理性に基づいて課題解決策を提案できるデータサイエンティストを養成する。

1. 本学 実施分

特色2についての魅力度は、93.4%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

特色2についての魅力度は、63.1%である。

【特色3】本学科棟（6階建て）は、アクティブラーニング型授業を実現するための最新の機器・備品を備え、ビジュアルな講義や高速通信による遠隔講義に対応するとともに、企業のサテライトオフィスを設け、学内でのインターンシップや学生によるアルバイトを可能とする。また、食とデータサイエンスに係る企業や地元自治体と連携して社会的課題解決のための卒業研究を行い、卒業後も研究活動を生かした就職につなげる。

1. 本学 実施分

特色2についての魅力度は、92.8%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

特色2についての魅力度は、64.4%である。

■九州栄養福祉大学 食物栄養学部「食環境データサイエンス学科」の必要度

※「必要だと思う」と回答した企業（団体）の割合を必要度とする。

1. 本学 実施分

必要度は、96.1%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

必要度は、69.6%である。

■九州栄養福祉大学 食物栄養学部「食環境データサイエンス学科」卒業生の採用見込み

1. 本学 実施分

「採用したいと思う」と回答した企業（団体）は全体の65.1%に当たる99社（団体）であり、これらの企業（団体）が毎年採用を想定している人数の合計は258人であった。

※「6人～10人未満」は6人、「10人以上」は10人とみなして算出した。

「採用したいと思う」と回答した企業の業種別内訳は下表のとおりである。

業種	N	採用人数計	平均採用人数
卸売・小売業	22	55	2.5
飲食サービス業	15	59	3.9
医療・福祉	13	37	2.8
情報通信業	11	24	2.2
製造業（食料品）	9	13	1.4
製造業（食料品以外）	7	13	1.9
金融・保険業	5	27	5.4
運輸業	2	3	1.5
教育機関	2	7	3.5
建設業	2	3	1.5
複合サービス業	2	3	1.5
電気・ガス・熱供給・水道業	1	1	1.0
農林漁業・鉱業	1	1	1.0
不動産業	1	1	1.0
その他	6	11	1.8
全体	99	258	2.6

2. アイブリッジ株式会社 実施分

「採用したいと思う」と回答した企業は全体の57.3%に当たる315社であり、これらの企業が毎年採用を想定している人数の合計は1,261人であった。

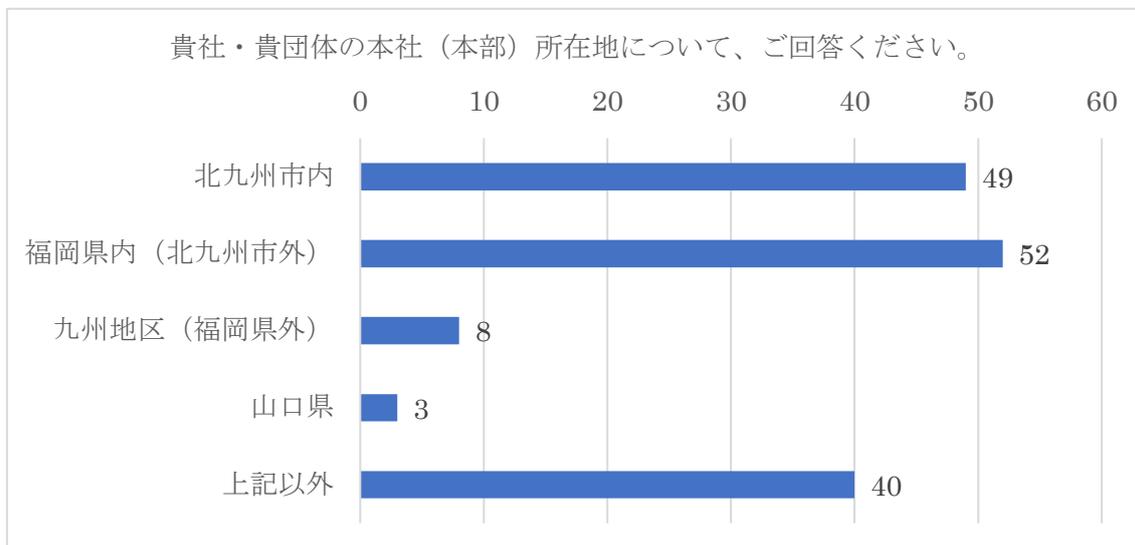
※「6人～10人未満」は6人、「10人以上」は10人とみなして算出した。

「採用したいと思う」と回答した企業の業種別内訳は下表のとおりである。

業種	N	採用人数計	平均採用人数
製造業	62	277	4.5
サービス業	48	160	3.3
商社・卸売り・小売業	35	131	3.7
金融・証券・保険業	29	125	4.3
情報通信業	21	91	4.3
医療・福祉	21	83	4.0
建設業	20	64	3.2
不動産業	16	54	3.4
運送・輸送業	14	64	4.6
教育業	8	47	5.9
農業・林業・漁業・鉱業	7	18	2.6
非営利団体	6	23	3.8
電気・ガス・水道業	4	16	4.0
出版・印刷業	3	3	1.0
調査業・シンクタンク	2	9	4.5
メディア・マスコミ・広告業	2	6	3.0
その他	17	90	5.3
全体	315	1,261	4.0

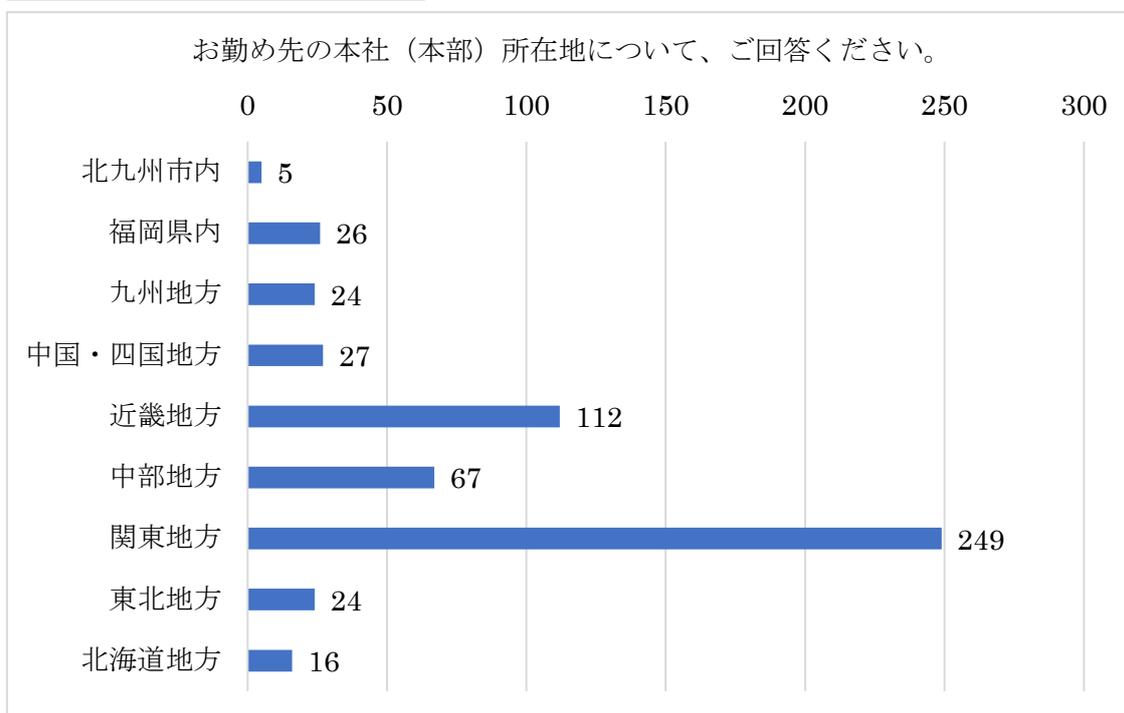
Q1. 回答企業（団体）の本社（本部）所在地について

1. 本学 実施分



(N=152)

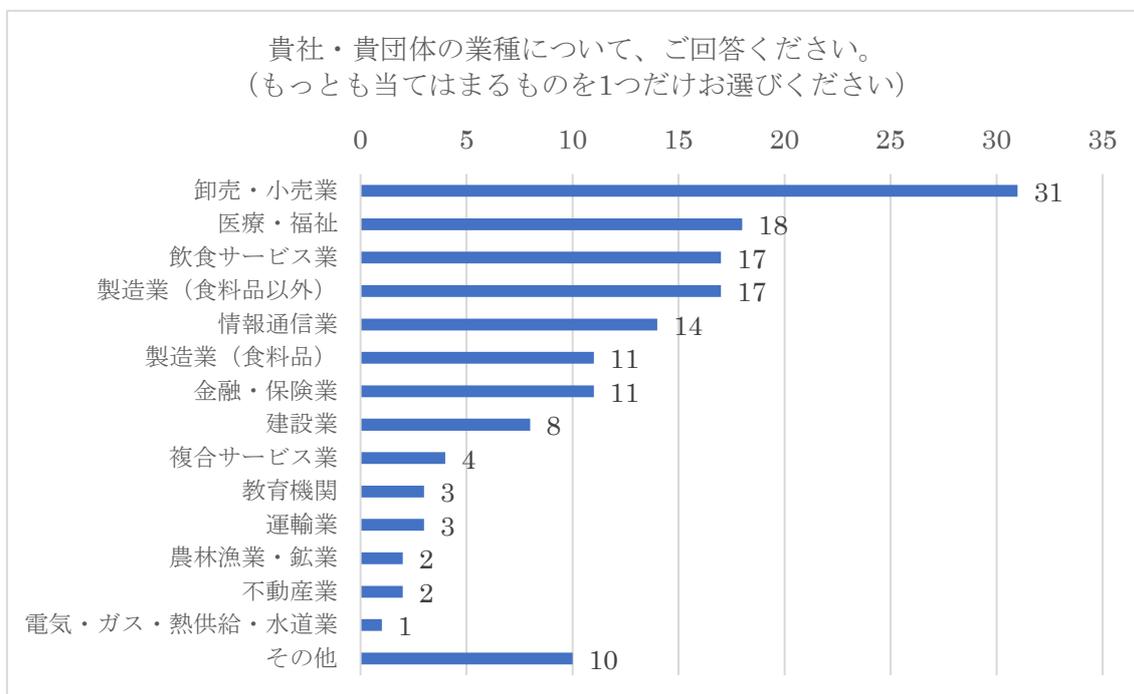
2. アイブリッジ株式会社 実施分



(N=550)

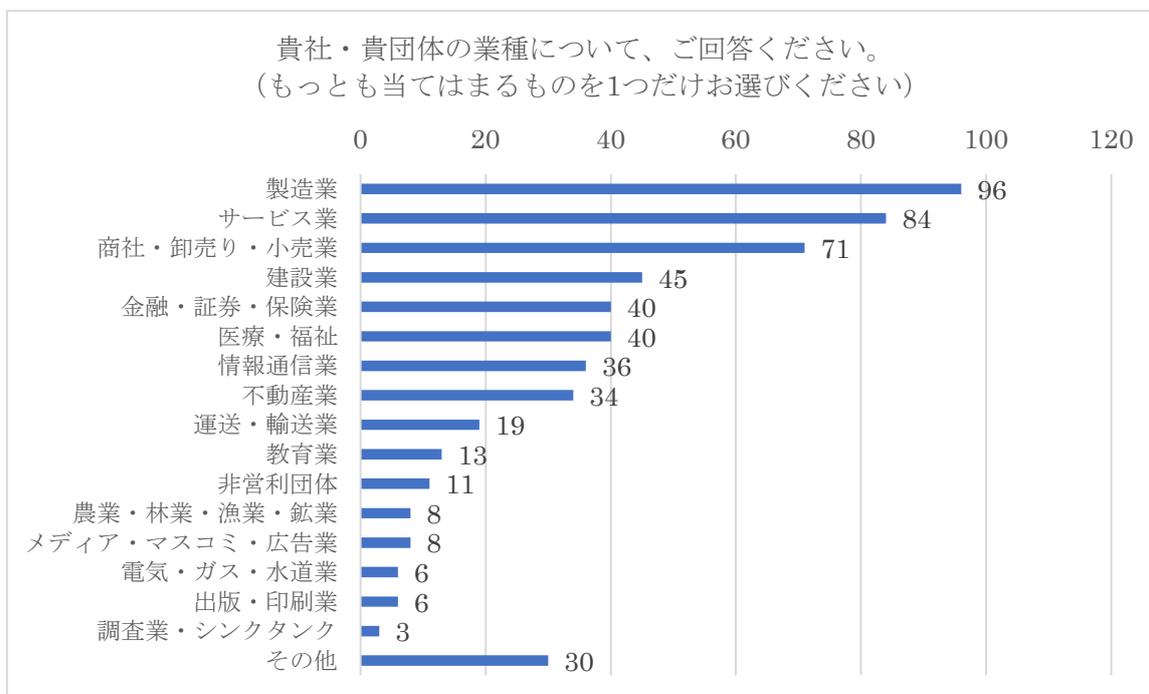
Q2. 回答企業（団体）の業種について

1. 本学 実施分



(N=152)

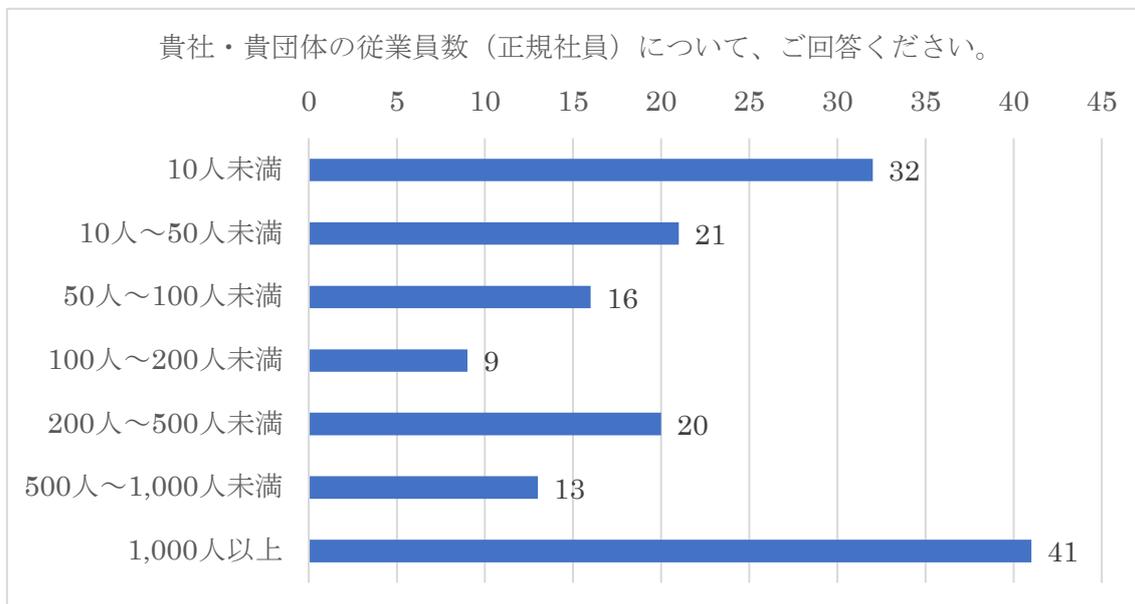
2. アイブリッジ株式会社 実施分



(N=550)

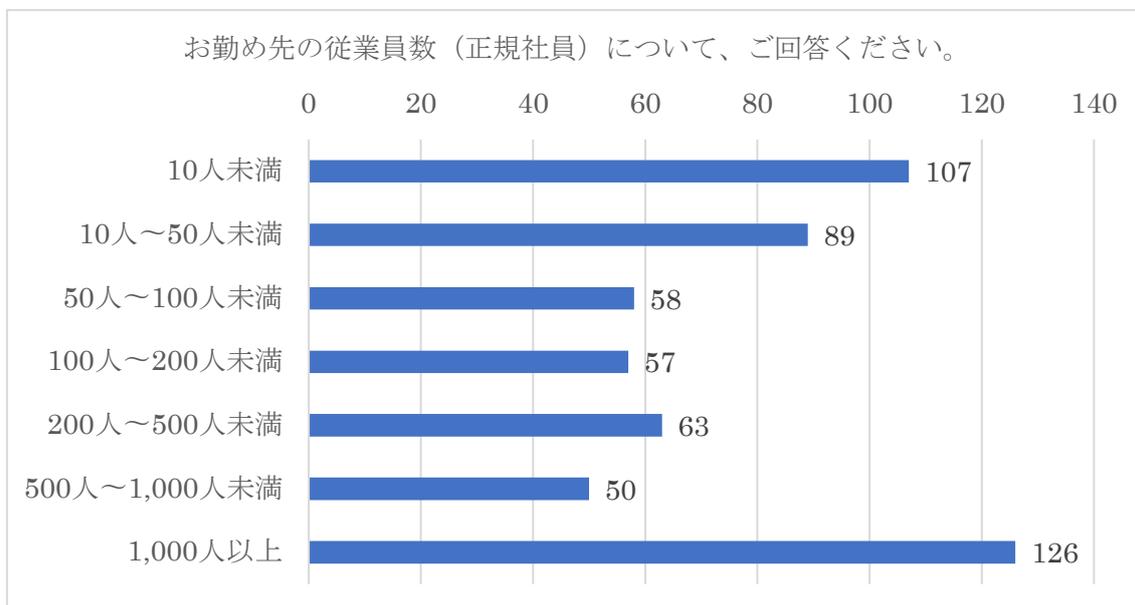
Q3. 回答企業（団体）の従業員数（正規社員）について

1. 本学 実施分



(N=152)

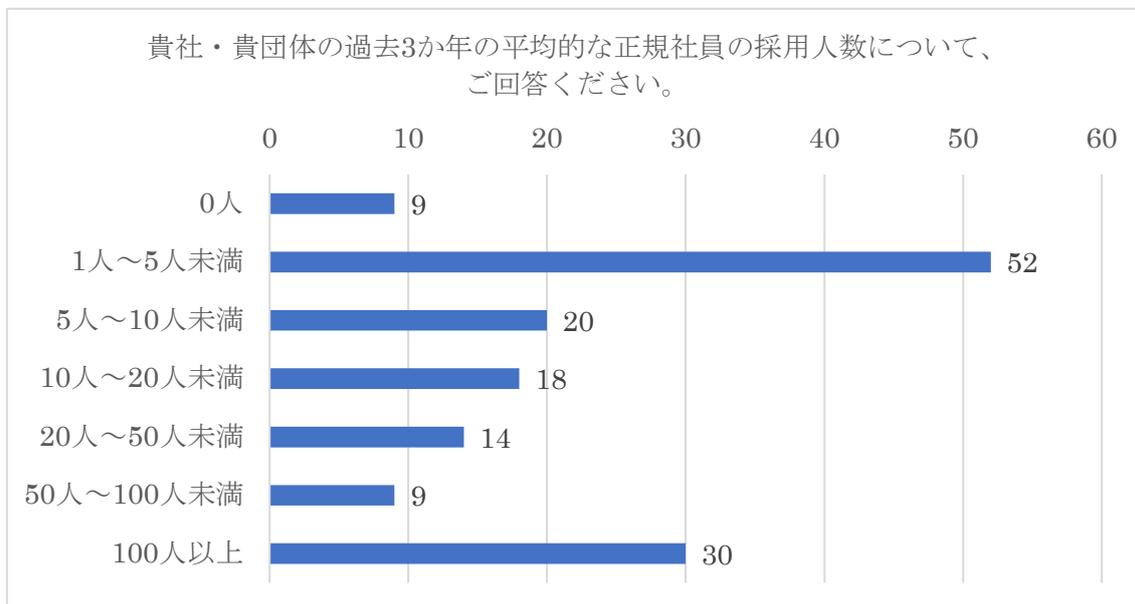
2. アイブリッジ株式会社 実施分



(N=550)

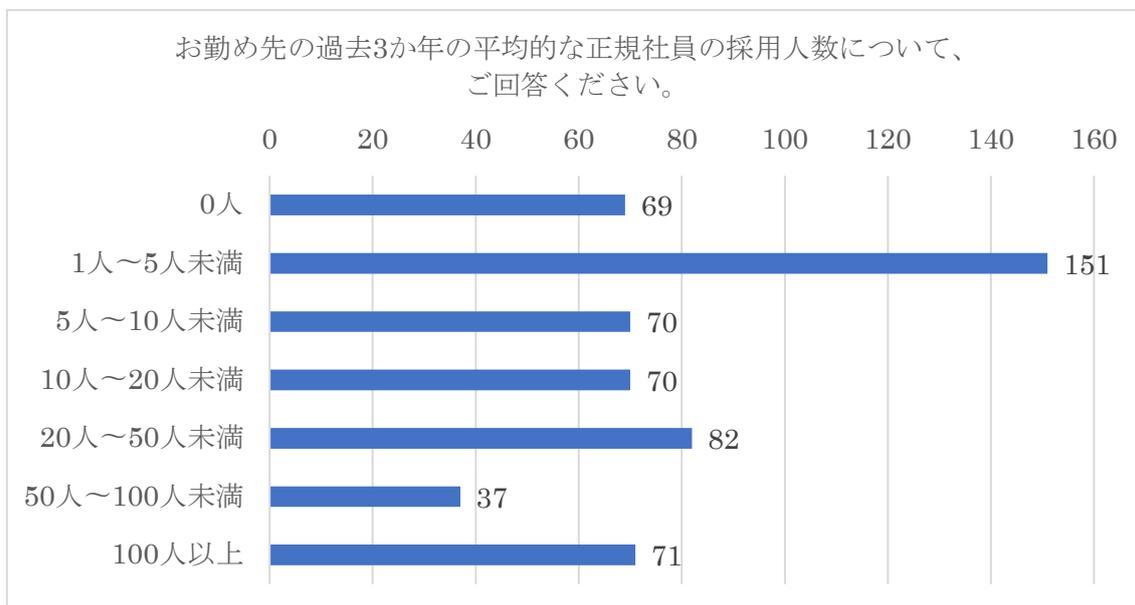
Q4. 回答企業（団体）の過去3か年の平均的な正規社員の採用人数について

1. 本学 実施分



(N=152)

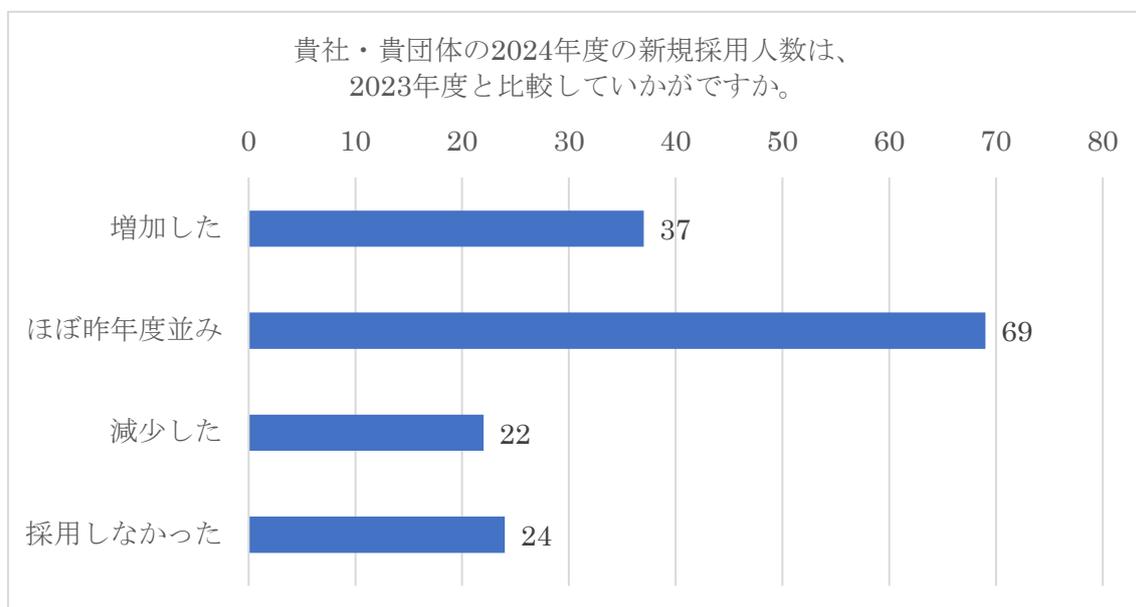
2. アイブリッジ株式会社 実施分



(N=550)

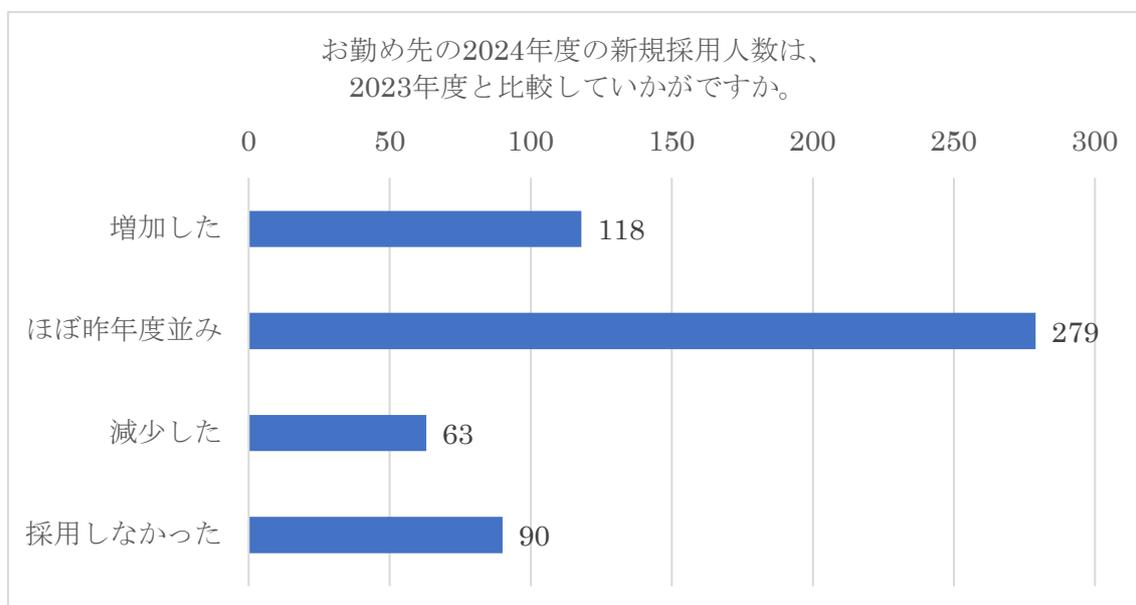
Q5. 回答企業（団体）の2024年度の新規採用人数について（2023年度との比較）

1. 本学 実施分



(N=152)

2. アイブリッジ株式会社 実施分



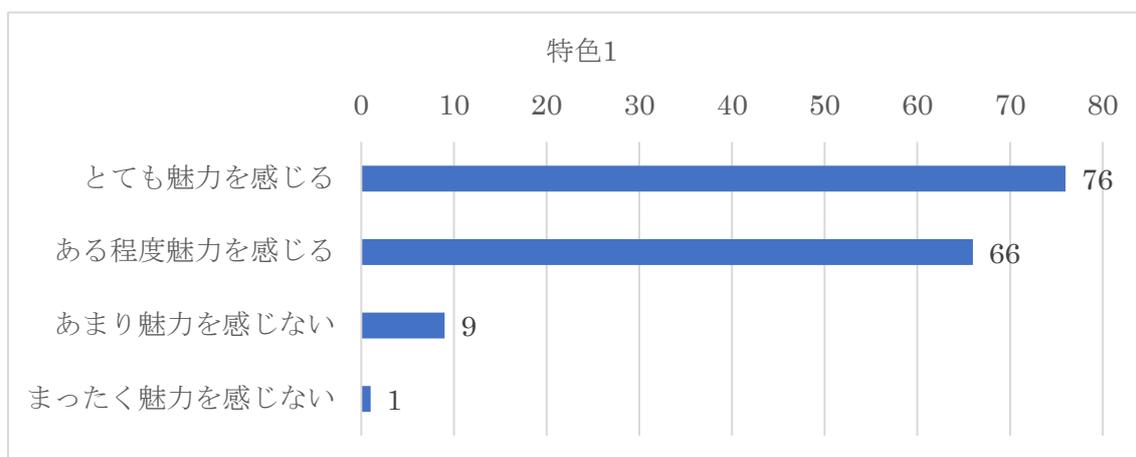
(N=550)

Q6. 食環境データサイエンス学科の特色1の魅力について

ここからは、2025年4月開設予定の本学「食環境データサイエンス学科」（設置認可申請中）に関してお聞きします。「食環境データサイエンス学科」（設置認可申請中）には、以下のような特色があります。お勤め先（ご回答者）にとって、どの程度魅力に感じますか。

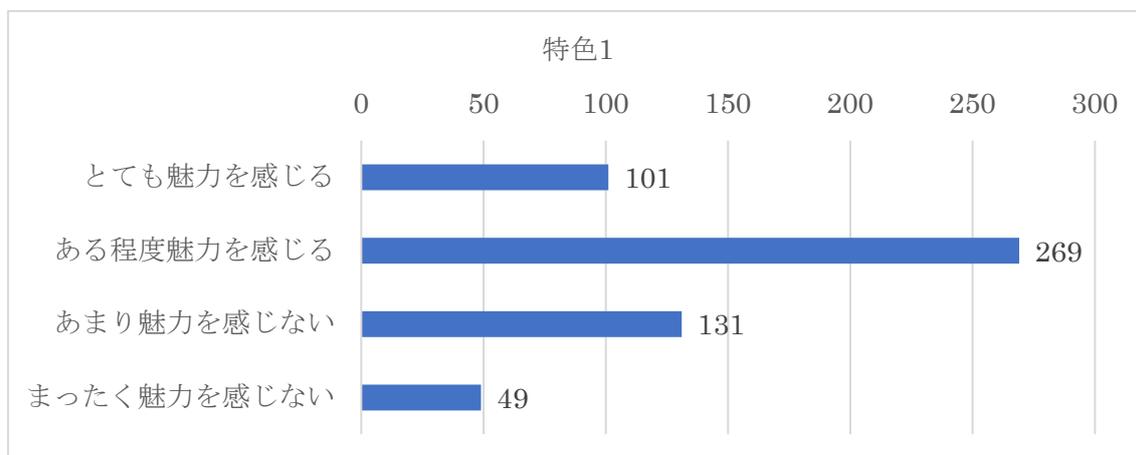
【特色1】 本学の食環境・健康分野の教育実績に、地元工学系大学、日本を代表するAI活用企業及び20社近くの地元企業との産学連携を活かし、AI・データサイエンスの基礎から実社会への応用まで修得できる体系的な教育プログラムを構築し、卒業後、即社会で活躍できる人材を養成する。

1. 本学 実施分



(N=152)

2. アイブリッジ株式会社 実施分

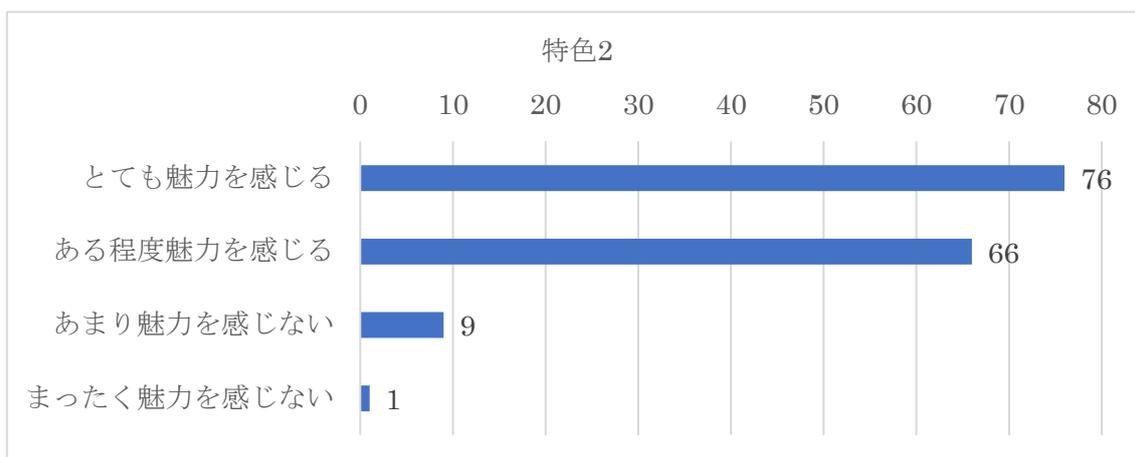


(N=550)

Q7. 食環境データサイエンス学科の特色2の魅力について

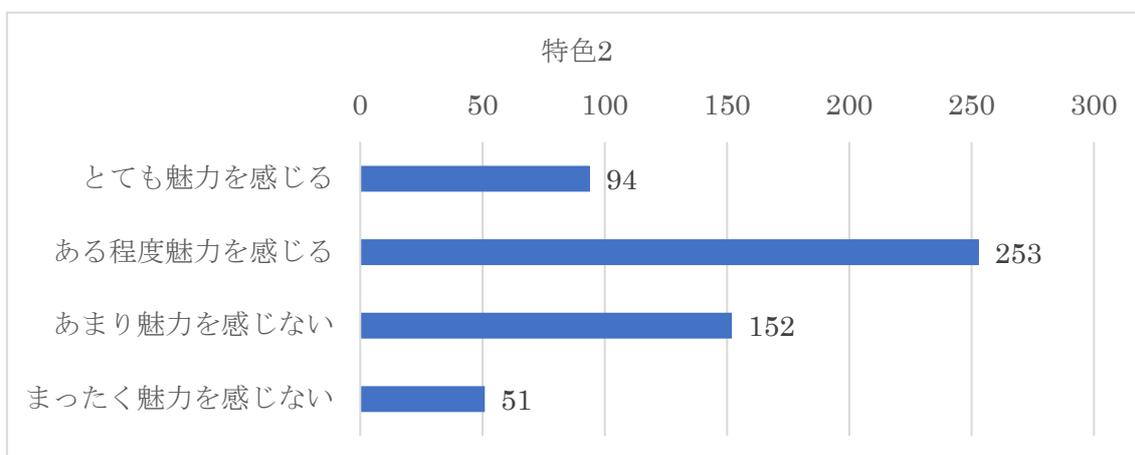
【特色2】食環境・健康分野における農業、食品製造、流通、健康管理といった各段階で蓄積されるデータをAI・データサイエンス技術を用いて分析し、科学的合理性に基づいて課題解決策を提案できるデータサイエンティストを養成する。

1. 本学 実施分



(N=152)

2. アイブリッジ株式会社 実施分

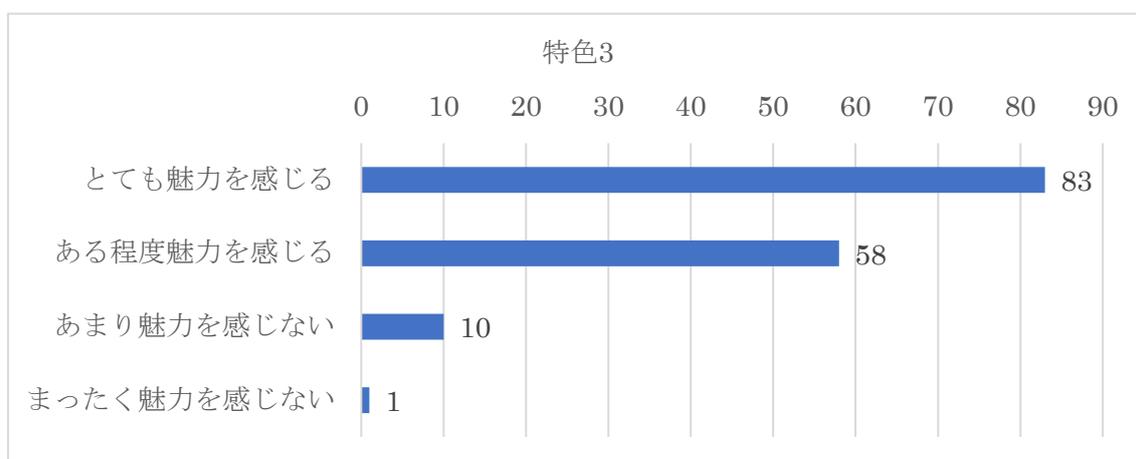


(N=550)

Q8. 食環境データサイエンス学科の特色3の魅力について

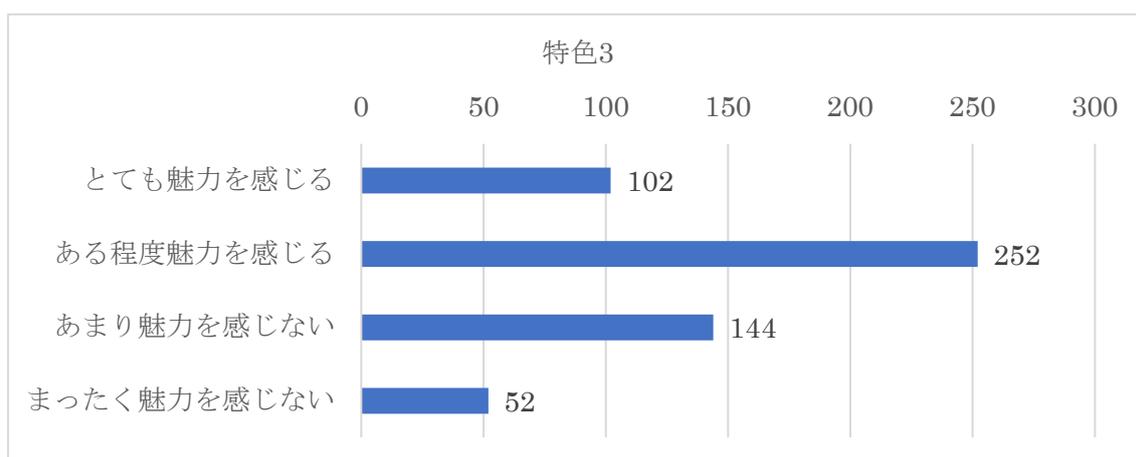
【特色3】本学科棟（6階建て）は、アクティブラーニング型授業を実現するための最新の機器・備品を備え、ビジュアルな講義や高速通信による遠隔講義に対応するとともに、企業のサテライトオフィスを設け、学内でのインターンシップや学生によるアルバイトを可能とする。また、食とデータサイエンスに係る企業や地元自治体と連携して社会的課題解決のための卒業研究を行い、卒業後も研究活動を生かした就職につなげる。

1. 本学 実施分



(N=152)

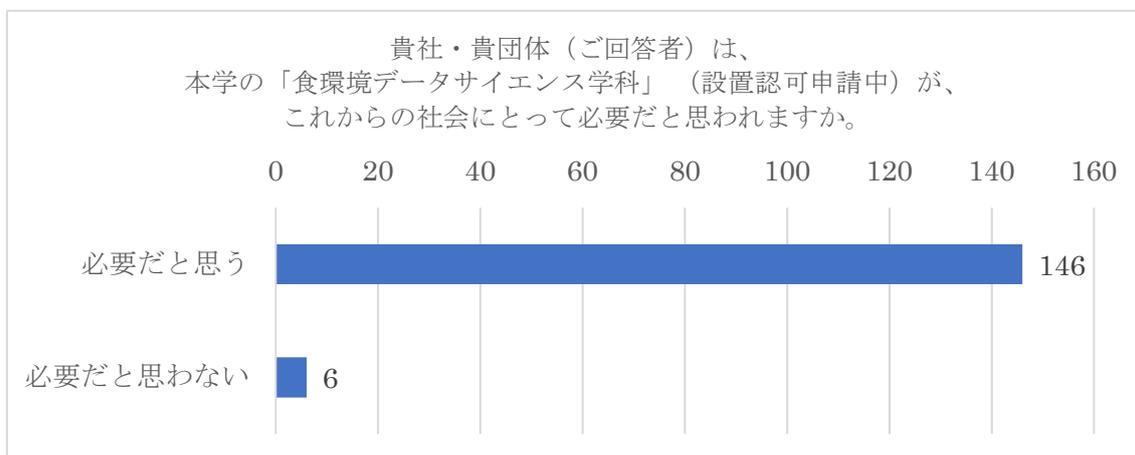
2. アイブリッジ株式会社 実施分



(N=550)

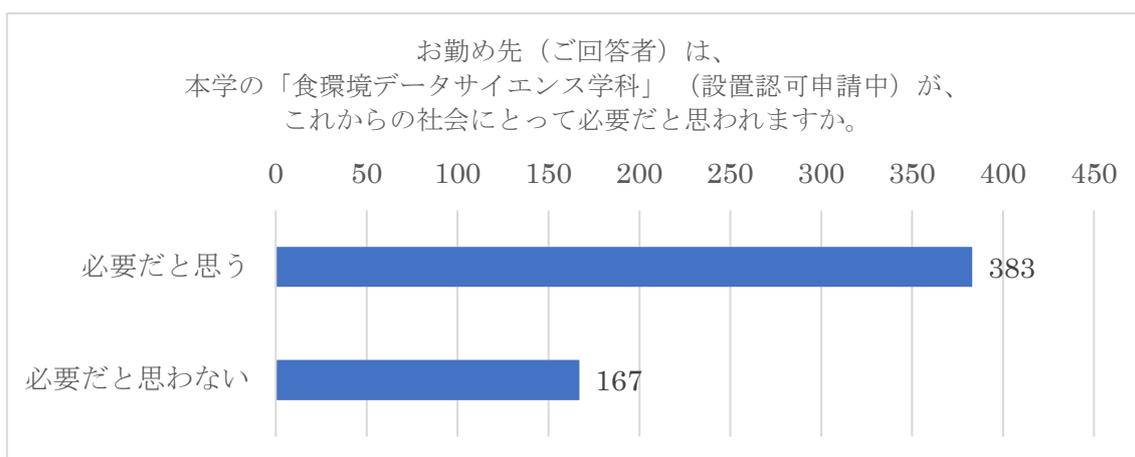
Q9. 回答企業（団体）が考える本学「食環境データサイエンス学科」の必要性について

1. 本学 実施分



(N=152)

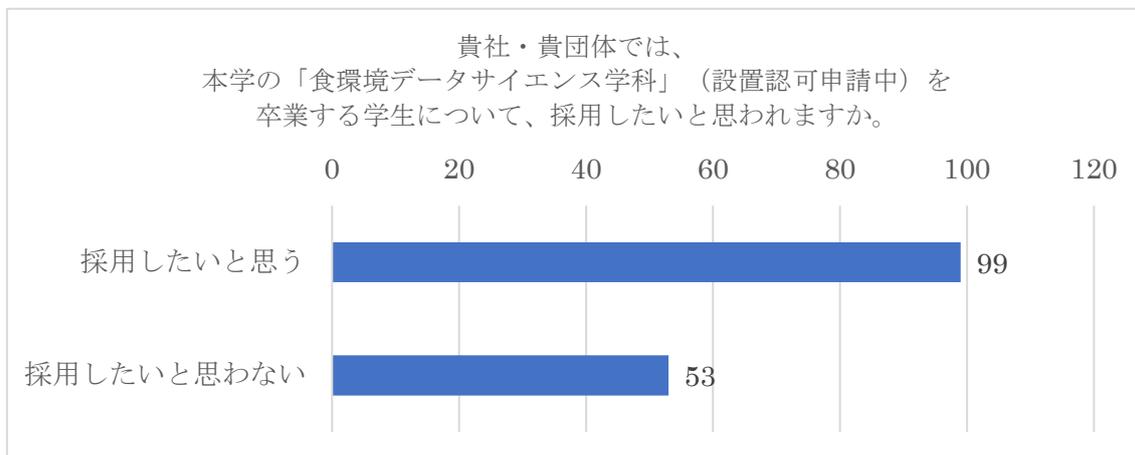
2. アイブリッジ株式会社 実施分



(N=550)

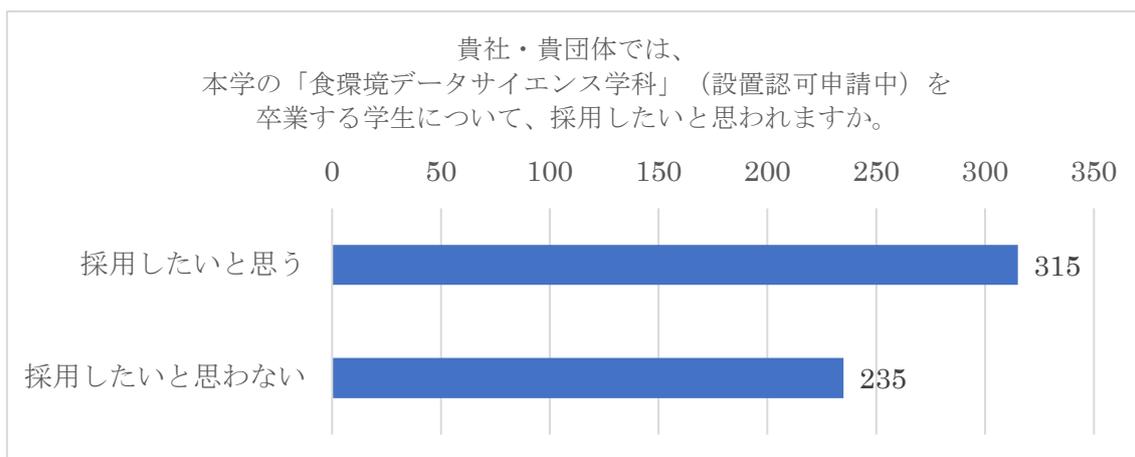
Q10. 回答企業（団体）における食環境データサイエンス学科卒業生の採用意向について

1. 本学 実施分



(N=152)

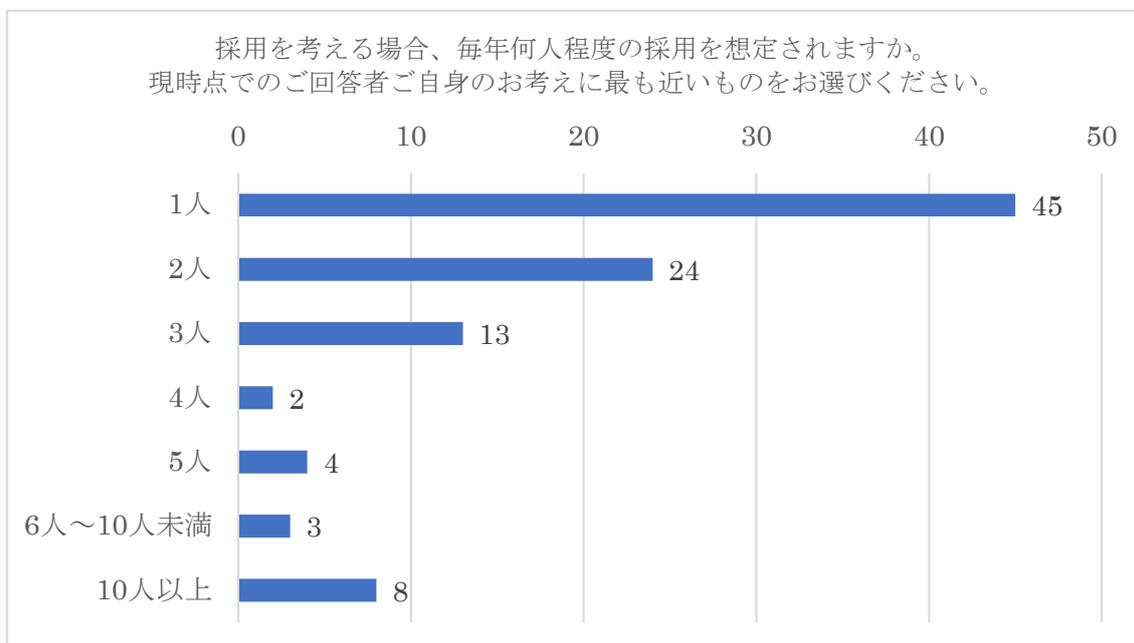
2. アイブリッジ株式会社 実施分



(N=550)

Q11. 回答企業（団体）における食環境データサイエンス学科生の採用想定人数について

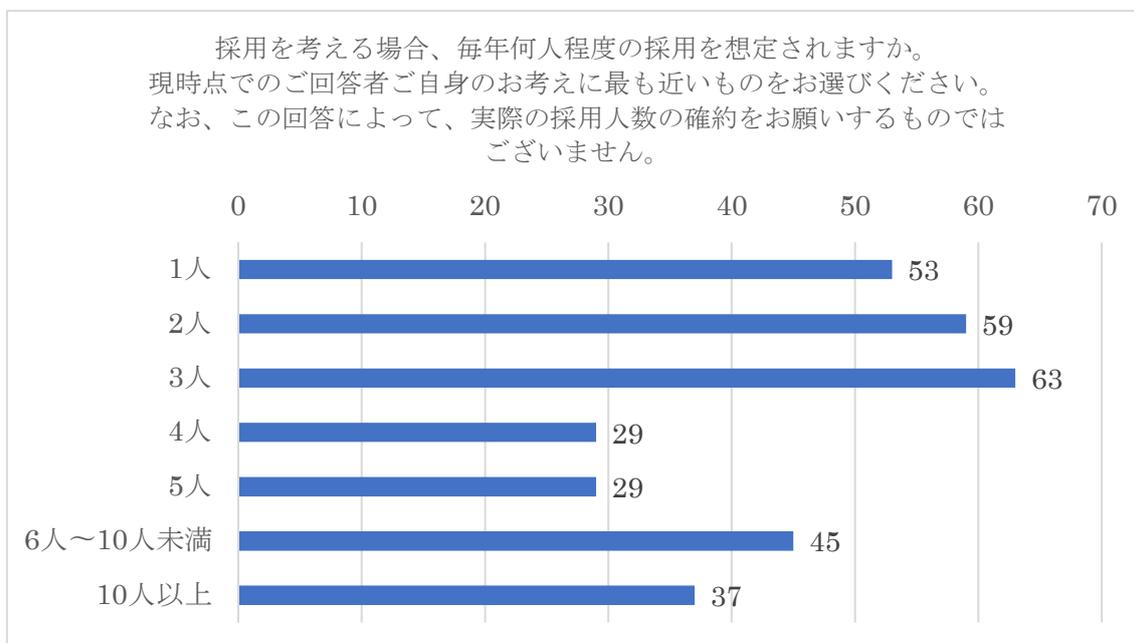
1. 本学 実施分



(N=99)

総採用人数 258人（6人～10人未満 6人、10人以上は10人としてカウント）

2. アイブリッジ株式会社 実施分



(N=315)

総採用人数 1261人（6人～10人未満 6人、10人以上は10人としてカウント）

教 員 名 簿

学 長 又 は 校 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	ムロイ ヒロイチ 室井 廣一 <平成16年4月>		政治学修士		学校法人東筑紫学園理事長 (令和4.4~令和8.3) 九州栄養福祉大学学長 (平成16.4~令和9.3) 東筑紫短期大学学長 (平成13.4~令和9.3)

審査意見への対応を記載した書類（7月）（本文）

（目次）九州栄養福祉大学

1. 新設する食物栄養学部食環境データサイエンス学科の学生確保の見通しについて、入学定員に対応した学生の確保を長期的かつ安定的に図ることができる見通しがあるとは判断できないことから、以下の観点を踏まえつつ、アンケート調査について各設問の集計結果やクロス集計結果を明確に提示した上で、集計結果に対して適切な分析を加えることにより、客観的かつ具体的なデータ等の根拠に基づき明確に説明すること。（食物栄養学部食環境データサイエンス学科）
(是正事項)・・・2

(1) 高校生を対象としたアンケート調査の結果を分析しているが、「第1志望として受験する」かつ「入学する」と回答している者は37名であり、入学定員50名に達していない。また、第2志望が71名、第3志望が116名であったことについて、「この内少なくとも20%の学生が受験したとすると40名程度の受験は考えられる。したがって第1志望の受験者と合計すると定員の1.5倍程度の受験者が予測できる」と説明しているが、第2志望や第3志望として受験した学生のうち、何名程度の入学者が見込まれるのかについて分析がなされていない。

(2) 「設問1～5までの条件にすべて合格するものをクロス集計したうえで分析を行った」と説明しているが、各設問の集計結果が示されていないことに加えて、「学生確保の見通し等を記載した書類（資料）」p.19の「資料12 新学部・新学科設置準備アンケート調査結果」についても、各設問のいずれの選択肢によるクロス集計結果なのか半然としない。

2. 新設する食物栄養学部食環境データサイエンス学科の人材需要の社会的動向について、「学生確保の見通し等を記載した書類（本文）」p.8の「⑤人材需要に関するアンケート調査等」において説明している内容は、本学科の実習受入れ人数や実習受入れ先の企業と産学連携協定を締結していることにすぎず、アンケート調査等により人材需要を示したものではないことから、本学科に対する直接的な需要について客観的な根拠に基づいて説明がなされていない。このため、例えば、同資料で説明している産学連携協定を締結している企業や養成する人材が想定する具体的な雇用先に対して、本学科の卒業生の採用に関するアンケート調査に基づいて説明するなど、本学科が養成する人材の社会的需要について、改めて客観的な根拠と適切な分析に基づき、明確に説明すること。
(食物栄養学部食環境データサイエンス学科) (是正事項)・・・10

3. 「食」においてデータサイエンスを実施する意義を学生等に対してわかりやすく説明する必要がある。

・・・35

(是正事項) 九州栄養福祉大学

1. 新設する食物栄養学部食環境データサイエンス学科の学生確保の見通しについて、入学定員に対応した学生の確保を長期的かつ安定的に図ることができる見通しがあるとは判断できないことから、以下の観点を踏まえつつ、アンケート調査について各設問の集計結果やクロス集計結果を明確に提示した上で、集計結果に対して適切な分析を加えることにより、客観的かつ具体的なデータ等の根拠に基づき明確に説明すること。(食物栄養学部食環境データサイエンス学科)

(1) 高校生を対象としたアンケート調査の結果を分析しているが、「第1志望として受験する」かつ「入学する」と回答している者は37名であり、入学定員50名に達していない。また、第2志望が71名、第3志望が116名であったことについて、「この内少なくとも20%の学生が受験したとすると40名程度の受験は考えられる。したがって第1志望の受験者と合計すると定員の1.5倍程度の受験者が予測できる」と説明しているが、第2志望や第3志望として受験した学生のうち、何名程度の入学者が見込まれるのかについて分析がなされていない。

(2) 「設問1～5までの条件にすべて合格するものをクロス集計したうえで分析を行った」と説明しているが、各設問の集計結果が示されていないことに加えて、「学生確保の見通し等を記載した書類(資料)」p.19の「資料12 新学部・新学科設置準備アンケート調査結果」についても、各設問のいずれの選択肢によるクロス集計結果なのか判然としない。

(対応)

審査意見でご指摘いただいたことについて、本学においても継続して学生確保に係るアンケートの実施を行った。アンケート結果を踏まえ改めて以下のとおり説明する。

[アンケート調査について]

アンケート用紙【設問3】興味ある学問分野については、本学が新設予定の食環境データサイエンス学科の教育の特性上、理学関係、工学関係、農学関係、家政学関係、保健衛生学関係、その他、どの分野でも関係していると考えられ、どの分野を選択しても可として判断した。

したがって、受験希望の有無の判断は、以下の条件に基づいて行っている。

第一志望 【設問1】「①大学」を選択

【設問2】「③私立」を選択

【設問3】いずれを選択しても可

【設問4】「①第一志望として受験する」を選択

【設問5】「①入学する」を選択

第二志望 【設問1～3】上記と同様

【設問4】「②第二志望として受験する」を選択

【設問5】「②志望順位は上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択

第三志望 【設問1～3】上記と同様

【設問4】「③第三志望として受験する」を選択

【設問5】「②志望順位は上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択

また、前回はアンケートの回答校が33校の段階での集計結果を報告したが、その後にアンケートの回答が返送されてきた3校分を加え、さらに追加でアンケートを実施した9校(大分県中津地区を中心に実施)分を加えた、計45校分のアンケート集計結果を報告する。

[クロス集計の手順と集計結果]

- アンケート実施校： 45校
 - アンケート回答の高校生（現3年生）： 7,452名
 - 【設問1】において「①大学」を選択した学生数：4,799名（64.4%）
 - 4,799名のうち【設問2】において「③私立」を選択した学生数：2,544名（53.0%）
 - 2,544名のうち【設問4】において「①第一志望として受験する」を選択し、かつ【設問5】において「①入学する」を選択した学生数：52名（全体の0.7%）
 - 2,544名のうち【設問4】において「②第二志望として受験する」を選択し、かつ【設問5】において「②志望順位は上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択した学生：81名（全体の1.1%）
 - 2,544名のうち【設問4】において「③第三志望として受験する」を選択し、かつ【設問5】において「②志望順位は上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択した学生：141名（全体の1.9%）
- 45校の各高校別の第一志望、第二志望、第三志望の調査結果を資料として添付した。

（学生確保の見通し等を記載した書類（資料）P23の資料13「新学部・新学科設置準備アンケート調査結果」）
※前回提出の「学生確保の見通し等を記載した書類（資料）P12の「資料12 新学部・新学科設置準備アンケート調査結果」と合わせて「審査意見への対応を記載した書類（7月）」P7,8にアンケート調査結果を添付

集計結果より、第一志望が52名と定員の50名を上回っている。また、第二志望、第三志望の合計222名（入学定員の約4.5倍）の現3年生が食環境データサイエンス学科に興味を示しており、このうち、20%程度の学生が受験すると推定される。推定の根拠として、別表に過去5年間の一般選抜前期・大学入学共通テスト利用選抜前期の入試結果を示す。本学の既設学科は食物栄養学科、理学療法学科、作業療法学科の3学科であり、本学が第一志望である学生のほとんどは、専願制（合格すると入学することが条件）である総合型選抜、学校推薦型選抜を受験している。一般選抜や大学入学共通テスト利用選抜は併願可能であるため、第二志望や第三志望である学生も受験していることが推測される。一般選抜前期の場合、合格者が入学する割合（以下、歩留率と表現）の5年間の平均は、食物栄養学科が52.5%、理学療法学科が55.8%、作業療法学科が61%である。新設予定の食環境データサイエンス学科の歩留率が、既設の食物栄養学科の歩留率と相関がある確証はないが、既設学科の歩留率を踏まえて少なくとも20%程度はあると見込んでもよいと考える。

- アンケートにて第一志望と判断された者： 52名
- アンケートにて第二志望、第三志望と判断された者の20%： 44名

以上のことから、定員50名は確保できると考える。

（学生確保の見通し等を記載した書類（資料）P24の資料14「九州栄養福祉大学 入試状況（過去5年間）」）

※「審査意見への対応を記載した書類（7月）」P9にも資料添付

(新旧対照表) 学生確保の見通しと学生確保に向けた取組を記載した書類

④学生確保に関するアンケート調査 (8～9 頁)

新	旧
<p>【アンケート調査方法について】</p> <p>アンケート依頼 高校訪問分担表のとおり直接本学教員が高校に訪問し所属長にアンケート依頼した。 (依頼状添付) <u>既設学部、学科に入学実績がある高校で2時間以内に通学できる高校を選択。</u> <u>アンケート実施校：45 校 (実施期間：1月下旬～2月)</u> <u>アンケート回答の高校生 (現3年生) 総数：7,452 名</u> アンケート対象者に必要な情報を提供するためにリーフレットを作成した。 (リーフレット添付) 情報の内容については、開設予定の学部・学科の名称、入学定員、学費、学位、学びの内容、設置の理念、養成する人材像、アドミッションポリシー、取得を目指す資格、卒業後の進路、類似大学学部・学科を明示した。 アンケートの調査内容については、申請手引きの書式に則り作成した。 (アンケート用紙添付) <u>アンケート用紙【設問 3】興味ある学問分野については、本学が新設予定の食環境データサイエンス学科の教育の特性上、理学関係、工学関係、農学関係、家政学関係、保健衛生学関係、その他、どの分野でも関係していると考えられ、どの分野を選択しても可として判断した。</u> <u>したがって、受験希望の有無の判断は、以下の条件に基づいて行っている。</u> 第一志望 <u>【設問 1】「①大学」を選択</u> <u>【設問 2】「③私立」を選択</u> <u>【設問 3】いずれを選択しても可</u> <u>【設問 4】「①第一志望として受験する」を選択</u> <u>【設問 5】「①入学する」を選択</u> 第二志望 <u>【設問 1～3】上記と同様</u> <u>【設問 4】「②第二志望として受験する」を選択</u></p>	<p>アンケート依頼 高校訪問分担表のとおり直接本学教員が高校に訪問し所属長にアンケート依頼した。 (依頼状添付) 依頼校数 38 校： (実施期間：1月下旬～2月中旬) 既設学部、学科に入学実績がある高校で2時間以内に通学できる高校を選択。 締切りまでにアンケートの回答校:33 校(一覧表添付) 年度末の忙しい時期に急遽アンケートをお願いしたにも拘らず、予想以上に回答していただいた。 アンケート回答の高校生 (現2年生) 総数：6,883 名 アンケート対象者に必要な情報を提供するためにリーフレットを作成した。 (リーフレット添付) 情報の内容については、開設予定の学部・学科の名称、入学定員、学費、学位、学びの内容、設置の理念、養成する人材像、アドミッションポリシー、取得を目指す資格、卒業後の進路、類似大学学部・学科を明示した。 アンケートの調査内容については、申請手引きの書式に則り作成した。 (アンケート用紙添付) 【アンケート調査分析結果】 分析については、設問1～5までの条件にすべて合格するものをクロス集計したうえで分析を行った。 具体的には、設問4の①第1志望として受験すると集計する場合には、設問5にて①入学するを選んだものに限る。 設問4の②第2志望として受験すると集計する場合は、設問5で①入学する、または、②志望順位が上位のほかの志望校が不合格の場合、入学するを選んだものに限る。 設問4の②第3志望として受験すると集計する場合は、設問5で①入学する、または、②志望順位が上位のほかの志望校が不合格の場合、入学するを選んだものに限るとした。 以上の集計方法により新設組織の受験希望の結果一覧</p>

<p><u>【設問 5】「②志望順位は上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択</u></p> <p><u>第三志望</u></p> <p><u>【設問 1～3】 上記と同様</u></p> <p><u>【設問 4】「③第三志望として受験する」を選択</u></p> <p><u>【設問 5】「②志望順位は上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択</u></p> <p><u>また、前回はアンケートの回答校が 33 校の段階での集計結果を報告したが、その後にアンケートの回答が返送されてきた 3 校分を加え、さらに追加でアンケートを実施した 9 校（大分県中津地区を中心に実施）分を加えた、計 45 校分のアンケート集計結果を報告する。</u></p> <p><u>【クロス集計の手順と集計結果】</u></p> <p><u>○アンケート実施校： 45 校</u></p> <p><u>○アンケート回答の高校生（現 3 年生）： 7,452 名</u></p> <p><u>○【設問 1】において「①大学」を選択した学生数：4,799 名（64.4%）</u></p> <p><u>○4,799 名のうち【設問 2】において「③私立」を選択した学生数：2,544 名（53.0%）</u></p> <p><u>○2,544 名のうち【設問 4】において「①第一志望として受験する」を選択し、かつ【設問 5】において「①入学する」を選択した学生数：52 名（全体の 0.7%）</u></p> <p><u>○2,544 名のうち【設問 4】において「②第二志望として受験する」を選択し、かつ【設問 5】において「②志望順位は上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択した学生：81 名（全体の 1.1%）</u></p> <p><u>○2,544 名のうち【設問 4】において「③第三志望として受験する」を選択し、かつ【設問 5】において「②志望順位は上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択した学生：141 名（全体の 1.9%）</u></p> <p><u>45 校の各高校別の第一志望、第二志望、第三志望の調査結果を資料として添付した。</u></p> <p><u>（資料：新学部・新学科設置準備アンケート調査結果）</u></p> <p><u>集計結果より、第一志望が 52 名と定員の 50 名を上回っている。また、第二志望、第三志望の合計 222 名（入学定員の約 4.5 倍）の現 3 年生が食環境データサイエンス学科に興味を示しており、このうち、20%程度の学生が受験すると推定される。推定の根拠として、別表に過去 5 年間の一般選抜前期・大学入学共通テスト利用選抜</u></p>	<p>表を作成した。</p> <p>（別紙：新学部・新学科アンケート調査結果）</p> <p>食物栄養学部食環境データサイエンス学科の第 1 志望者は、37 名で定員 50 名に届かなかった。しかし、第 2 志望が 71 名、第 3 志望が 116 名であった。多くの学生が新しい学科について興味があると推測できる。第 2 志望、第 3 志望合わせて 187 名興味を示しており、この内少なくとも 20%の学生が受験したとすると 40 名程度の受験は考えられる。したがって第 1 希望の受験者と合計すると定員の 1.5 倍程度の受験者が予測できる。しかも依頼した高校 5 校が現在のところ未回答であるため、今後さらに増えることが考えられる。また、今回は、福岡県内でも 2 時間以内で通学可能な高校に依頼した。しかし本学は、関門地区といわれるところに位置しており、山口県ではあるが、下関市と本学が所在する小倉は、JR 線で 30 分以内の距離にある。</p> <p>したがって下関市内には、10 校の高校（下関西、下関南、下関商業、長府、豊浦、下関中等教育、早鞆、下関国際、田部、下関北）あり、この 10 校すべてが 2 時間以内の通学圏内にある。この 10 校のアンケート調査を実施すれば、さらに希望が増えることが予測される。</p> <p>また、大分県ではあるが 2 時間以内で通学できる中津・宇佐地区に 3 校（安心院、宇佐、柳ヶ浦）あるため、追加でアンケートを実施可能である。以上の調査結果から定員 50 名の学生確保が十分に可能かと考えられる。</p>
---	--

<p>前期の入試結果を示す。本学の既設学科は食物栄養学科、理学療法学科、作業療法学科の3学科であり、本学が第一志望である学生のほとんどは、<u>専願制（合格すると入学することが条件）である総合型選抜、学校推薦型選抜を受験している。一般選抜や大学入学共通テスト利用選抜は併願可能であるため、第二志望や第三志望である学生も受験していることが推測される。一般選抜前期の場合、合格者が入学する割合（以下、歩留率と表現）の5年間の平均は、食物栄養学科が52.5%、理学療法学科が55.8%、作業療法学科が61%である。新設予定の食環境データサイエンス学科の歩留率が、既設の食物栄養学科の歩留率と相関がある確証はないが、既設学科の歩留率を踏まえて少なくとも20%程度はあると見込んでよいと考える。</u></p> <p><u>○アンケートにて第一志望と判断された者： 32名</u></p> <p><u>○アンケートにて第二志望、第三志望と判断された者の20%： 44名</u></p> <p><u>以上のことから、定員50名は確保できると考える。</u></p> <p><u>（資料：九州栄養福祉大学 入試状況（過去5年間））</u></p>	
--	--

新学部・新学科設置準備アンケート調査結果
 食物栄養学部 食環境データサイエンス学科

	高校名	令和5年度 2年生	第1志望	第2志望	第3志望
1	小倉南	187	0	1	3
2	北九州	186	0	1	1
3	小倉商業	209	1	2	0
4	敬愛	116	5	3	1
5	北九州市立	180	0	0	3
6	若松	123	2	0	1
7	九州国際大学付属	486	3	5	7
8	八幡南	214	0	1	5
9	戸畑	218	1	0	2
10	折尾	184	1	0	3
11	折尾愛真	113	4	9	2
12	中間	174	1	2	7
13	鞍手	204	2	2	3
14	門司学園	114	1	4	2
15	門司大翔館	110	1	2	3
16	小倉西	223	0	1	1
17	小倉工業	177	0	1	2
18	ひびき	202	0	1	8
19	青豊	273	1	3	6
20	京都	219	0	0	3
21	育徳館	141	0	3	2
22	苅田工業	140	0	2	0
23	東鷹	145	1	3	4
24	嘉穂	215	1	1	5
25	常磐	156	2	2	3
26	筑豊	103	1	1	2
27	田川	150	0	0	1
28	西田川	67	2	2	1
29	田川科学技術	88	0	1	0
30	嘉穂総合	31	0	2	1
31	八幡中央	172	0	4	2
32	飯塚	225	1	3	3
33	嘉穂東	200	2	2	11
34	北筑	258	1	1	4
35	東筑紫学園（併設校）	344	6	8	17
36	大和青藍	187	3	5	6
37	築上西	89	0	1	8
38	中津東	62	1	0	0
39	中津南	178	4	0	2
40	中津北	144	1	0	3
41	東九州龍谷	153	0	1	2
42	安心院	39	0	0	0
43	杵築	106	1	1	1
44	国東	54	0	0	0
45	宇佐	93	2	0	0
	合計	7452	52	81	141

新学部・新学科設置準備アンケート調査結果

食物栄養学部 食環境データサイエンス学科

	高校名	人数 2年生	第1志望	第2志望	第3志望
1	小倉南	192	0	1	3
2	北九州	197	0	1	1
3	小倉商業	238	1	2	0
4	敬愛	128	5	3	1
5	北九州市立	188	0	0	3
6	若松	133	2	0	1
7	九州国際大学付属	526	3	5	7
8	八幡南	237	0	1	5
9	折尾	196	1	0	3
10	折尾愛真	287	4	9	2
11	中間	197	1	2	7
12	鞍手	224	2	2	3
13	門司学園	119	1	4	2
14	門司大翔館	126	1	2	3
15	小倉西	236	0	1	1
16	小倉工業	180	0	1	2
17	ひびき	228	0	1	8
18	青豊	280	1	3	6
19	京都	234	0	0	3
20	育徳館	155	0	3	2
21	苅田工業	151	0	2	0
22	東鷹	159	1	3	4
23	嘉穂	231	1	1	5
24	常磐	194	2	2	3
25	筑豊	113	1	1	2
26	田川	161	0	0	1
27	田川科学技術	164	0	1	0
28	嘉穂総合	107	0	2	1
29	八幡中央	193	0	4	2
30	飯塚	223	1	3	3
31	嘉穂東	215	2	2	11
32	北筑	276	1	1	4
33	東筑紫学園（併設校）	377	6	8	17
	合計	6865	37	71	116

資料：九州栄養福祉大学 入試状況（過去5年間）

一般選抜前期・大学入学共通テスト利用選抜前期 入試結果

食物栄養学科	受験者		合格者		入学者			
	一般前期	共通前期	一般前期	共通前期	一般前期	(歩留)	共通前期	(歩留)
R6年度	46	34	46	25	27	58.7%	7	28.0%
R5年度	58	34	53	24	29	54.7%	0	0.0%
R4年度	77	61	50	22	20	40.0%	2	9.1%
R3年度	58	55	52	45	29	55.8%	6	13.3%
R2年度	91	80	71	53	38	53.5%	6	11.3%
						52.5%		12.3%

理学療法学科	受験者		合格者		入学者			
	一般前期	共通前期	一般前期	共通前期	一般前期	(歩留)	共通前期	(歩留)
R6年度	28	20	27	14	11	40.7%	1	7.1%
R5年度	46	35	44	23	22	50.0%	1	4.3%
R4年度	44	46	29	17	18	62.1%	1	5.9%
R3年度	40	40	33	25	21	63.6%	1	4.0%
R2年度	49	49	32	28	20	62.5%	4	14.3%
						55.8%		7.1%

作業療法学科	受験者		合格者		入学者			
	一般前期	共通前期	一般前期	共通前期	一般前期	(歩留)	共通前期	(歩留)
R6年度	13	11	13	7	8	61.5%	0	0.0%
R5年度	6	6	6	6	5	83.3%	0	0.0%
R4年度	10	16	20	14	10	50.0%	1	7.1%
R3年度	17	18	19	15	11	57.9%	0	0.0%
R2年度	21	17	25	13	13	52.0%	0	0.0%
						61.0%		1.4%

※作業療法学科において、受験者より合格者数が多いのは、理学療法学科からの第2志望合格を含んでいるため

(是正事項) 九州栄養福祉大学

2. 新設する食物栄養学部食環境データサイエンス学科の人材需要の社会的動向について、「学生確保の見直し等を記載した書類（本文）」p.8の「⑤人材需要に関するアンケート調査等」において説明している内容は、本学科の実習受入れ人数や実習受入れ先の企業と産学連携協定を締結していることにすぎず、アンケート調査等により人材需要を示したものではないことから、本学科に対する直接的な需要について客観的な根拠に基づいて説明がなされていない。このため、例えば、同資料で説明している産学連携協定を締結している企業や養成する人材が想定する具体的な雇用先に対して、本学科の卒業生の採用に関するアンケート調査に基づいて説明するなど、本学科が養成する人材の社会的需要について、改めて客観的な根拠と適切な分析に基づき、明確に説明すること。（食物栄養学部食環境データサイエンス学科）

(対応)

審査意見でご指摘の通り、人材需要に関するアンケート調査を行い調査結果に基づいて以下のとおり説明する。

【食環境データサイエンス学科卒業生の採用に関するアンケート結果まとめ】

■調査目的

2025年4月開設予定の九州栄養福祉大学 食物栄養学部「食環境データサイエンス学科」に対する企業（団体）のニーズを把握する。

■調査概要

調査票タイトル	卒業生の採用に関するアンケート
調査対象	企業（団体）の人事採用関係者
調査エリア	全国
調査方法	Web 調査
調査実施機関	1. 本学 2. アイブリッジ株式会社
実施時期	1. 2024年6月20日～2024年7月3日 2. 2024年6月25日～2024年6月27日
有効回答数	1. 152社（団体） 2. 550社

■調査結果概要

本学並びに調査会社が実施した調査において、「食環境データサイエンス学科」に対する企業（団体）のニーズは下表に示す結果となった。

調査項目	本学 実施分	調査会社 実施分
「食環境データサイエンス学科」の必要性	必要だと思う 96.1%	必要だと思う 69.6%
「食環境データサイエンス学科」卒業生の採用意向	採用したいと思う 65.1%	採用したいと思う 57.3%
採用を考慮する場合の、毎年の採用想定人数	258人	1,261人

この結果より、「食環境データサイエンス学科」に対する企業（団体）のニーズは高いと考える。また、採用を考慮する場合の毎年の採用想定人数は本学科入学定員である50人を大幅に上回っており、安定した人材需要があることが伺える。

本学及び併設校と関わりのある企業及び団体に対して匿名での調査を行ったところ、本学科の入学定員をはるかに超える人数の採用が想定されたが、より公正な調査とするために調査会社（アイブリッジ株式会社）にも調査を委託した。

以下、本学が実施した調査及び調査会社が実施した調査それぞれの結果の詳細について述べる。（学生確保の見直し等を記載した書類（資料）P25の資料15「食環境データサイエンス学科卒業生の採用に関するアンケート調査結果」※「審査意見への対応を記載した書類（7月）」P17～34にも資料添付

■回答企業（団体）の属性

1. 本学 実施分

回答企業（団体）の本社（本部）所在地は、北九州市を含む「福岡県内」が66.4%と半数以上を占め、うち「北九州市内」が32.2%である。

回答企業（団体）の業種は、「卸売・小売業」が20.4%と最も多く、「医療・福祉」が11.8%、「飲食サービス業」と「製造業（食料品以外）」がそれぞれ11.2%、「情報通信業」が9.2%である。

回答企業（団体）の従業員数（正社員数）は、「1,000人以上」が27.0%と最も多く、次いで「10人未満」が21.1%、「10人～50人未満」が13.8%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

回答企業の本社所在地は、「関東地方」が45.3%と約半数を占め、次いで「近畿地方」が20.4%、「中部地方」が12.2%である。北九州市を含む「福岡県内」は5.6%、うち「北九州市内」は0.9%であった。

回答企業の業種は、「製造業」が17.5%と最も多く、次いで「サービス業」が15.3%、「商社・卸売り・小売業」が12.9%である。

回答企業の従業員数（正社員数）は、「1,000人以上」が22.9%と最も多く、次いで「10人未満」が19.5%、「10人～50人未満」が16.2%である。

■回答企業（団体）の採用状況（過去3か年）と本年度採用人数の傾向

1. 本学 実施分

回答企業（団体）の過去3か年の平均的な正規社員の採用人数は、「1人～5人未満」が34.2%と最も多く、次いで「100人以上」が19.7%、「5人～10人未満」が13.2%であり、「0人」と回答した企業（団体）は5.9%であった。

回答企業（団体）の2024年度の新規採用人数は、2023年度と比較して「ほぼ昨年度並み」が45.4%と最も多く、次いで「増加した」が24.3%、「採用しなかった」が15.8%、「減少した」が14.5%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

回答企業の過去3か年の平均的な正規社員の採用人数は、「1人～5人未満」が27.5%と最も多く、次いで「20人～50人未満」が14.9%、「100人以上」が12.9%であり、「0人」と回答した企業は12.5%であった。

回答企業の2024年度の新規採用人数は、2023年度と比較して「ほぼ昨年度並み」が50.7%と最も多く、次いで「増加した」が21.5%、「採用しなかった」が16.4%、「減少した」が11.5%である。

■九州栄養福祉大学 食物栄養学部「食環境データサイエンス学科」の特色に対する魅力度

※「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業（団体）の割合を魅力度とする。

【特色1】本学の食環境・健康分野の教育実績に、地元工学系大学、日本を代表するAI活用企業及び20社近くの地元企業との産学連携を活かし、AI・データサイエンスの基礎から実社会への応用まで修得できる体系的な教育プログラムを構築し、卒業後、即社会で活躍できる人材を養成する。

1. 本学 実施分

特色1についての魅力度は、93.4%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

特色1についての魅力度は、67.3%である。

【特色2】食環境・健康分野における農業、食品製造、流通、健康管理といった各段階で蓄積されるデータをAI・データサイエンス技術を用いて分析し、科学的合理性に基づいて課題解決策を提案できるデータサイエンティストを養成する。

1. 本学 実施分

特色2についての魅力度は、93.4%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

特色2についての魅力度は、63.1%である。

【特色3】本学科棟（6階建て）は、アクティブラーニング型授業を実現するための最新の機器・備品を備え、ビジュアルな講義や高速通信による遠隔講義に対応するとともに、企業のサテライトオフィスを設け、学内でのインターンシップや学生によるアルバイトを可能とする。また、食とデータサイエンスに係る企業や地元自治体と連携して社会的課題解決のための卒業研究を行い、卒業後も研究活動を生かした就職につなげる。

1. 本学 実施分

特色2についての魅力度は、92.8%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

特色2についての魅力度は、64.4%である。

■九州栄養福祉大学 食物栄養学部「食環境データサイエンス学科」の必要度

※「必要だと思う」と回答した企業（団体）の割合を必要度とする。

1. 本学 実施分

必要度は、96.1%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

必要度は、69.6%である。

■九州栄養福祉大学 食物栄養学部「食環境データサイエンス学科」卒業生の採用見込み

1. 本学 実施分

「採用したいと思う」と回答した企業（団体）は全体の65.1%に当たる99社（団体）であり、これらの企業（団体）が毎年採用を想定している人数の合計は258人であった。

※「6人～10人未満」は6人、「10人以上」は10人とみなして算出した。

「採用したいと思う」と回答した企業の業種別内訳は下表のとおりである。

業種	N	採用人数計	平均採用人数
卸売・小売業	22	55	2.5
飲食サービス業	15	59	3.9
医療・福祉	13	37	2.8
情報通信業	11	24	2.2
製造業（食料品）	9	13	1.4
製造業（食料品以外）	7	13	1.9
金融・保険業	5	27	5.4
運輸業	2	3	1.5
教育機関	2	7	3.5
建設業	2	3	1.5
複合サービス業	2	3	1.5
電気・ガス・熱供給・水道業	1	1	1.0
農林漁業・鉱業	1	1	1.0
不動産業	1	1	1.0
その他	6	11	1.8
全体	99	258	2.6

2. アイブリッジ株式会社 実施分

「採用したいと思う」と回答した企業は全体の57.3%に当たる315社であり、これらの企業が毎年採用を想定している人数の合計は1,261人であった。

※「6人～10人未満」は6人、「10人以上」は10人とみなして算出した。

「採用したいと思う」と回答した企業の業種別内訳は下表のとおりである。

業種	N	採用人数計	平均採用人数
製造業	62	277	4.5
サービス業	48	160	3.3
商社・卸売り・小売業	35	131	3.7
金融・証券・保険業	29	125	4.3
情報通信業	21	91	4.3
医療・福祉	21	83	4.0
建設業	20	64	3.2
不動産業	16	54	3.4
運送・輸送業	14	64	4.6
教育業	8	47	5.9
農業・林業・漁業・鉱業	7	18	2.6
非営利団体	6	23	3.8
電気・ガス・水道業	4	16	4.0
出版・印刷業	3	3	1.0
調査業・シンクタンク	2	9	4.5
メディア・マスコミ・広告業	2	6	3.0
その他	17	90	5.3
全体	315	1,261	4.0

(新旧対照表) 学生確保の見通しと学生確保に向けた取組を記載した書類

⑤人材需要に関するアンケート調査等 (9～12 頁)

新	旧														
<p>【食環境データサイエンス学科卒業生の採用に関するアンケート結果まとめ】</p> <p>■調査目的 2025 年 4 月開設予定の九州栄養福祉大学 食物栄養学部「食環境データサイエンス学科」に対する企業 (団体) のニーズを把握する。</p> <p>■調査概要</p> <table border="1"> <tr> <td>調査票タイトル</td> <td>卒業生の採用に関するアンケート</td> </tr> <tr> <td>調査対象</td> <td>企業 (団体) の人事採用関係者</td> </tr> <tr> <td>調査エリア</td> <td>全国</td> </tr> <tr> <td>調査方法</td> <td>Web 調査</td> </tr> <tr> <td>調査実施機関</td> <td>1. 本学 2. アイブリッジ株式会社</td> </tr> <tr> <td>実施時期</td> <td>1. 2024 年 6 月 20 日～2024 年 7 月 3 日 2. 2024 年 6 月 25 日～2024 年 6 月 27 日</td> </tr> <tr> <td>有効回答数</td> <td>1. 152 社 (団体) 2. 550 社</td> </tr> </table> <p>■調査結果概要 本学並びに調査会社が実施した調査において、「食環境データサイエンス学科」に対する企業 (団体) のニーズは下表に示す結果となった。 (別表：■調査結果概要 ※上記対応の回答内図表)</p> <p>この結果より、「食環境データサイエンス学科」に対する企業 (団体) のニーズは高いと考える。また、採用を考える場合の毎年の採用想定人数は本学科入学定員である 50 人を大幅に上回っており、安定した人材需要があることが伺える。</p> <p>本学及び併設校と関わりのある企業及び団体に対して匿名での調査を行ったところ、本学科の入学定員をはるかに超える人数の採用が想定されたが、より公正な調査とするために調査会社 (アイブリッジ株式会社) にも調査を委託した。</p> <p>以下、本学が実施した調査及び調査会社が実施した調査それぞれの結果の詳細について述べる。(資料：食環境データサイエンス学科卒業生の採用に関するアンケート調査結果)</p>	調査票タイトル	卒業生の採用に関するアンケート	調査対象	企業 (団体) の人事採用関係者	調査エリア	全国	調査方法	Web 調査	調査実施機関	1. 本学 2. アイブリッジ株式会社	実施時期	1. 2024 年 6 月 20 日～2024 年 7 月 3 日 2. 2024 年 6 月 25 日～2024 年 6 月 27 日	有効回答数	1. 152 社 (団体) 2. 550 社	<p>(別表：産学連携協定企業一覧 ※新旧対照表 (7 月) 内別表参照)</p> <p>アンケート調査は実施できていないが、上記記載の企業と現在本学は産学連携協定を締結しており、実習の受入のみならず、具体的な社会課題解決のための共同研究、講師派遣など、強固な連携体制を構築し、就職にも繋げていく予定である。したがって、社会的な人材需要の見通しを踏まえた計画であると考えている。</p>
調査票タイトル	卒業生の採用に関するアンケート														
調査対象	企業 (団体) の人事採用関係者														
調査エリア	全国														
調査方法	Web 調査														
調査実施機関	1. 本学 2. アイブリッジ株式会社														
実施時期	1. 2024 年 6 月 20 日～2024 年 7 月 3 日 2. 2024 年 6 月 25 日～2024 年 6 月 27 日														
有効回答数	1. 152 社 (団体) 2. 550 社														

■回答企業（団体）の属性

1. 本学 実施分

回答企業（団体）の本社（本部）所在地は、北九州市を含む「福岡県内」が 66.4%と半数以上を占め、うち「北九州市内」が 32.2%である。回答企業（団体）の業種は、「卸売・小売業」が 20.4%と最も多く、「医療・福祉」が 11.8%、「飲食サービス業」と「製造業（食料品以外）」がそれぞれ 11.2%、「情報通信業」が 9.2%である。回答企業（団体）の従業員数（正社員数）は、「1,000 人以上」が 27.0%と最も多く、次いで「10 人未満」が 21.1%、「10 人～50 人未満」が 13.8%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

回答企業の本社所在地は、「関東地方」が 45.3%と約半数を占め、次いで「近畿地方」が 20.4%、「中部地方」が 12.2%である。北九州市を含む「福岡県内」は 5.6%、うち「北九州市内」は 0.9%であった。

回答企業の業種は、「製造業」が 17.5%と最も多く、次いで「サービス業」が 15.3%、「商社・卸売り・小売業」が 12.9%である。

回答企業の従業員数（正社員数）は、「1,000 人以上」が 22.9%と最も多く、次いで「10 人未満」が 19.5%、「10 人～50 人未満」が 16.2%である。

■回答企業（団体）の採用状況（過去 3 か年）と本年度採用人数の傾向

1. 本学 実施分

回答企業（団体）の過去 3 か年の平均的な正規社員の採用人数は、「1 人～5 人未満」が 34.2%と最も多く、次いで「100 人以上」が 19.7%、「5 人～10 人未満」が 13.2%であり、「0 人」と回答した企業（団体）は 5.9%であった。

回答企業（団体）の 2024 年度の新規採用人数は、2023 年度と比較して「ほぼ昨年度並み」が 45.4%と最も多く、次いで「増加した」が 24.3%、「採用しなかった」が 15.8%、「減少した」が 14.5%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

回答企業の過去 3 か年の平均的な正規社員の採用人

数は、「1 人～5 人未満」が 27.5%と最も多く、次いで「20 人～50 人未満」が 14.9%、「100 人以上」が 12.9%であり、「0 人」と回答した企業は 12.5%であった。

回答企業の 2024 年度の新規採用人数は、2023 年度と比較して「ほぼ昨年度並み」が 50.7%と最も多く、次いで「増加した」が 21.5%、「採用しなかった」が 16.4%、「減少した」が 11.5%である。

■九州栄養福祉大学 食物栄養学部「食環境データサイエンス学科」の特色に対する魅力度

※「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業（団体）の割合を魅力度とする。

【特色 1】本学の食環境・健康分野の教育実績に、地元工学系大学、日本を代表する AI 活用企業及び 20 社近くの地元企業との産学連携を活かし、AI・データサイエンスの基礎から実社会への応用まで修得できる体系的な教育プログラムを構築し、卒業後、即社会で活躍できる人材を養成する。

1. 本学 実施分

特色 1 についての魅力度は、93.4%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

特色 1 についての魅力度は、67.3%である。

【特色 2】食環境・健康分野における農業、食品製造、流通、健康管理といった各段階で蓄積されるデータを AI・データサイエンス技術を用いて分析し、科学的合理性に基づいて課題解決策を提案できるデータサイエンティストを養成する。

1. 本学 実施分

特色 2 についての魅力度は、93.4%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

特色 2 についての魅力度は、63.1%である。

【特色 3】本学科棟（6 階建て）は、アクティブラーニング型授業を実現するための最新の機器・備品を備え、ビジュアルな講義や高速通信による遠隔講義に対応するとともに、企業のサテライトオフィスを設け、学内でのインターンシップや学生によるアルバイトを可能とする。また、食とデータサイエンスに係る企業や地元自治体と連携して社会的課題解決のための卒業研究を行い、卒業後も研究活動を生かした就職につなげる。

1. 本学 実施分

特色2 についての魅力度は、92.8%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

特色2 についての魅力度は、64.4%である。

■九州栄養福祉大学 食物栄養学部「食環境データサイ
エンス学科」の必要度

※「必要だと思う」と回答した企業（団体）の割合を必
要度とする。

1. 本学 実施分

必要度は、96.1%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

必要度は、69.6%である。

■九州栄養福祉大学 食物栄養学部「食環境データサイ
エンス学科」卒業生の採用見込み

1. 本学 実施分

「採用したいと思う」と回答した企業（団体）は全体
の65.1%に当たる99社（団体）であり、これらの企業
（団体）が毎年採用を想定している人数の合計は258人
であった。

※「6人～10人未満」は6人、「10人以上」は10人
とみなして算出した。

「採用したいと思う」と回答した企業の業種別内訳は
下表のとおりである。

（別表：【本学実施分】採用希望企業 業種別内訳

※上記対応の回答内図表）

2. アイブリッジ株式会社 実施分

「採用したいと思う」と回答した企業は全体の57.3%に
当たる315社であり、これらの企業が毎年採用を想定し
ている人数の合計は1,261人であった。

※「6人～10人未満」は6人、「10人以上」は10人
とみなして算出した。

「採用したいと思う」と回答した企業の業種別内訳は下
表のとおりである。

（別表：【アイブリッジ実施分】採用希望企業 業種別内
訳 ※上記対応の回答内図表）

九州栄養福祉大学
食物栄養学部「食環境データサイエンス学科」(設置認可申請中)に関する
アンケート結果まとめ

■調査目的

2025年4月開設予定の九州栄養福祉大学 食物栄養学部「食環境データサイエンス学科」に対する企業(団体)のニーズを把握する。

■調査概要

調査票タイトル	卒業生の採用に関するアンケート
調査対象	企業(団体)の人事採用関係者
調査エリア	全国
調査方法	Web調査
調査実施機関	1. 本学 2. アイブリッジ株式会社
実施時期	1. 2024年6月20日～2024年7月3日 2. 2024年6月25日～2024年6月27日
有効回答数	1. 152社(団体) 2. 550社

■調査結果概要

本学並びに調査会社が実施した調査において、「食環境データサイエンス学科」に対する企業(団体)のニーズは下表に示す結果となった。

調査項目	本学 実施分	調査会社 実施分
「食環境データサイエンス学科」の必要性	必要だと思う 96.1%	必要だと思う 69.6%
「食環境データサイエンス学科」卒業生の採用意向	採用したいと思う 65.1%	採用したいと思う 57.3%
採用を考える場合の、毎年の採用想定人数	258人	1,261人

この結果より、「食環境データサイエンス学科」に対する企業(団体)のニーズは高いと考える。また、採用を考える場合の毎年の採用想定人数は本学科入学定員である50人を大幅に上回っており、安定した人材需要があることが伺える。

本調査は、食物栄養学部に設置予定である「食環境データサイエンス学科」に対する企業及び団体のニーズを把握するために実施したものである。

本学及び併設校と関わりのある企業及び団体に対して匿名での調査を行ったところ、本学科の入学定員をはるかに超える人数の採用が想定されたが、より公正な調査とするために調査会社（アイブリッジ株式会社）にも調査を委託した。

以下、本学が実施した調査及び調査会社が実施した調査それぞれの結果について述べる。

■回答企業（団体）の属性

1. 本学 実施分

回答企業（団体）の本社（本部）所在地は、北九州市を含む「福岡県内」が66.4%と半数以上を占め、うち「北九州市内」が32.2%である。

回答企業（団体）の業種は、「卸売・小売業」が20.4%と最も多く、「医療・福祉」が11.8%、「飲食サービス業」と「製造業（食料品以外）」がそれぞれ11.2%、「情報通信業」が9.2%である。

回答企業（団体）の従業員数（正社員数）は、「1,000人以上」が27.0%と最も多く、次いで「10人未満」が21.1%、「10人～50人未満」が13.8%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

回答企業の本社所在地は、「関東地方」が45.3%と約半数を占め、次いで「近畿地方」が20.4%、「中部地方」が12.2%である。北九州市を含む「福岡県内」は5.6%、うち「北九州市内」は0.9%であった。

回答企業の業種は、「製造業」が17.5%と最も多く、次いで「サービス業」が15.3%、「商社・卸売り・小売業」が12.9%である。

回答企業の従業員数（正社員数）は、「1,000人以上」が22.9%と最も多く、次いで「10人未満」が19.5%、「10人～50人未満」が16.2%である。

■回答企業（団体）の採用状況（過去3か年）と本年度採用人数の傾向

1. 本学 実施分

回答企業（団体）の過去3か年の平均的な正規社員の採用人数は、「1人～5人未満」が34.2%と最も多く、次いで「100人以上」が19.7%、「5人～10人未満」が13.2%であり、「0人」と回答した企業（団体）は5.9%であった。

回答企業（団体）の2024年度の新規採用人数は、2023年度と比較して「ほぼ昨年度並み」が45.4%と最も多く、次いで「増加した」が24.3%、「採用しなかった」が15.8%、「減少した」が14.5%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

回答企業の過去3か年の平均的な正規社員の採用人数は、「1人～5人未満」が27.5%と最も多く、次いで「20人～50人未満」が14.9%、「100人以上」が12.9%であり、「0人」と回答した企業は12.5%であった。

回答企業の2024年度の新規採用人数は、2023年度と比較して「ほぼ昨年度並み」が50.7%と最も多く、次いで「増加した」が21.5%、「採用しなかった」が16.4%、「減少した」が11.5%である。

■九州栄養福祉大学 食物栄養学部「食環境データサイエンス学科」の特色に対する魅力度

※「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業（団体）の割合を魅力度とする。

【特色 1】 本学の食環境・健康分野の教育実績に、地元工学系大学、日本を代表する AI 活用企業及び 20 社近くの地元企業との産学連携を活かし、AI・データサイエンスの基礎から実社会への応用まで修得できる体系的な教育プログラムを構築し、卒業後、即社会で活躍できる人材を養成する。

1. 本学 実施分

特色1についての魅力度は、93.4%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

特色1についての魅力度は、67.3%である。

【特色 2】 食環境・健康分野における農業、食品製造、流通、健康管理といった各段階で蓄積されるデータを AI・データサイエンス技術を用いて分析し、科学的合理性に基づいて課題解決策を提案できるデータサイエンティストを養成する。

1. 本学 実施分

特色2についての魅力度は、93.4%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

特色2についての魅力度は、63.1%である。

【特色 3】 本学科棟（6 階建て）は、アクティブラーニング型授業を実現するための最新の機器・備品を備え、ビジュアルな講義や高速通信による遠隔講義に対応するとともに、企業のサテライトオフィスを設け、学内でのインターンシップや学生によるアルバイトを可能とする。また、食とデータサイエンスに係る企業や地元自治体と連携して社会的課題解決のための卒業研究を行い、卒業後も研究活動を生かした就職につなげる。

1. 本学 実施分

特色2についての魅力度は、92.8%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

特色2についての魅力度は、64.4%である。

■九州栄養福祉大学 食物栄養学部「食環境データサイエンス学科」の必要度

※「必要だと思う」と回答した企業（団体）の割合を必要度とする。

1. 本学 実施分

必要度は、96.1%である。

2. アイブリッジ株式会社 実施分

必要度は、69.6%である。

■九州栄養福祉大学 食物栄養学部「食環境データサイエンス学科」卒業生の採用見込み

1. 本学 実施分

「採用したいと思う」と回答した企業（団体）は全体の65.1%に当たる99社（団体）であり、これらの企業（団体）が毎年採用を想定している人数の合計は258人であった。

※「6人～10人未満」は6人、「10人以上」は10人とみなして算出した。

「採用したいと思う」と回答した企業の業種別内訳は下表のとおりである。

業種	N	採用人数計	平均採用人数
卸売・小売業	22	55	2.5
飲食サービス業	15	59	3.9
医療・福祉	13	37	2.8
情報通信業	11	24	2.2
製造業（食料品）	9	13	1.4
製造業（食料品以外）	7	13	1.9
金融・保険業	5	27	5.4
運輸業	2	3	1.5
教育機関	2	7	3.5
建設業	2	3	1.5
複合サービス業	2	3	1.5
電気・ガス・熱供給・水道業	1	1	1.0
農林漁業・鉱業	1	1	1.0
不動産業	1	1	1.0
その他	6	11	1.8
全体	99	258	2.6

2. アイブリッジ株式会社 実施分

「採用したいと思う」と回答した企業は全体の57.3%に当たる315社であり、これらの企業が毎年採用を想定している人数の合計は1,261人であった。

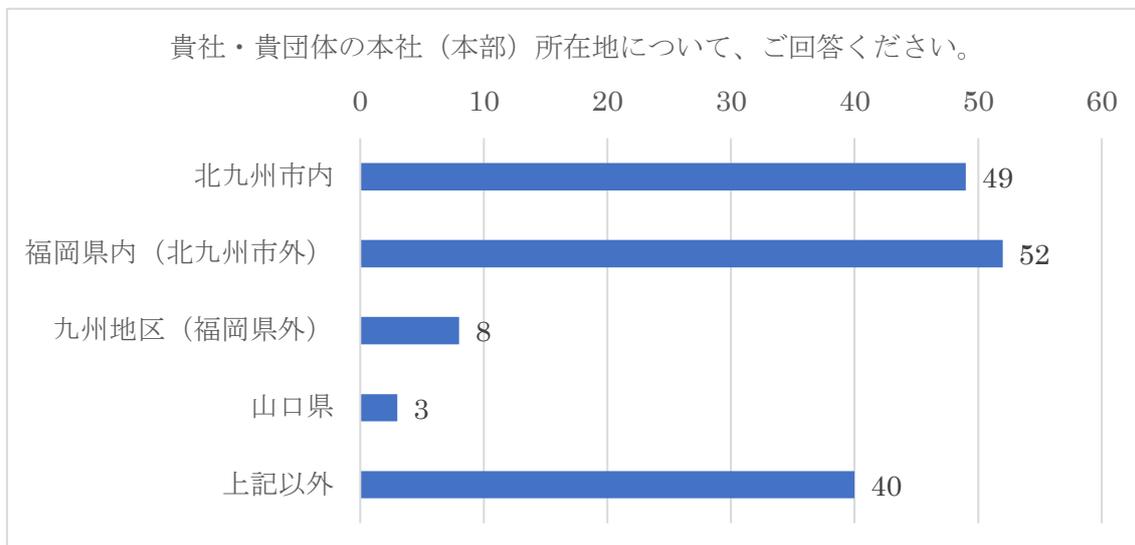
※「6人～10人未満」は6人、「10人以上」は10人とみなして算出した。

「採用したいと思う」と回答した企業の業種別内訳は下表のとおりである。

業種	N	採用人数計	平均採用人数
製造業	62	277	4.5
サービス業	48	160	3.3
商社・卸売り・小売業	35	131	3.7
金融・証券・保険業	29	125	4.3
情報通信業	21	91	4.3
医療・福祉	21	83	4.0
建設業	20	64	3.2
不動産業	16	54	3.4
運送・輸送業	14	64	4.6
教育業	8	47	5.9
農業・林業・漁業・鉱業	7	18	2.6
非営利団体	6	23	3.8
電気・ガス・水道業	4	16	4.0
出版・印刷業	3	3	1.0
調査業・シンクタンク	2	9	4.5
メディア・マスコミ・広告業	2	6	3.0
その他	17	90	5.3
全体	315	1,261	4.0

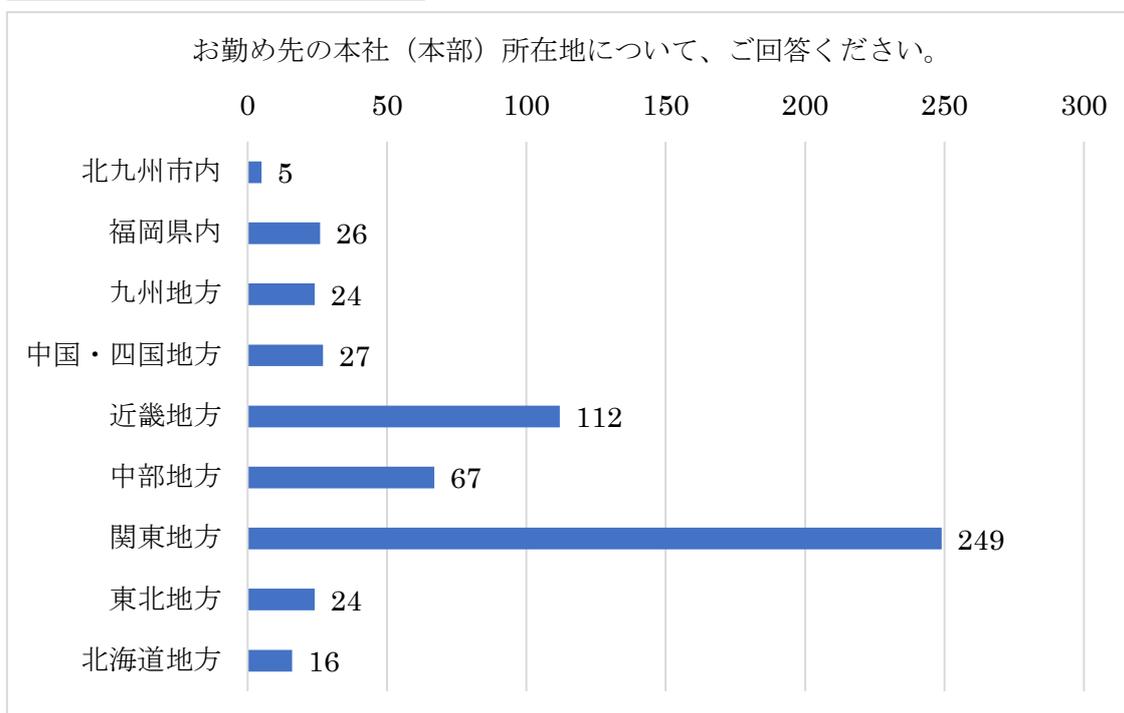
Q1. 回答企業（団体）の本社（本部）所在地について

1. 本学 実施分



(N=152)

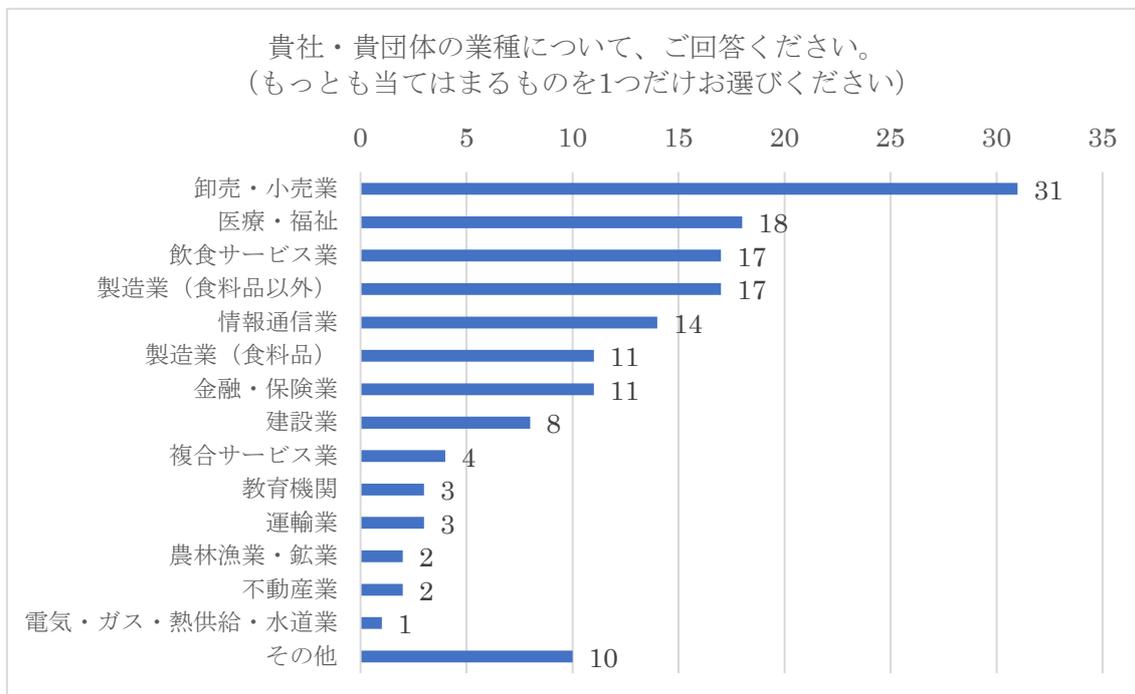
2. アイブリッジ株式会社 実施分



(N=550)

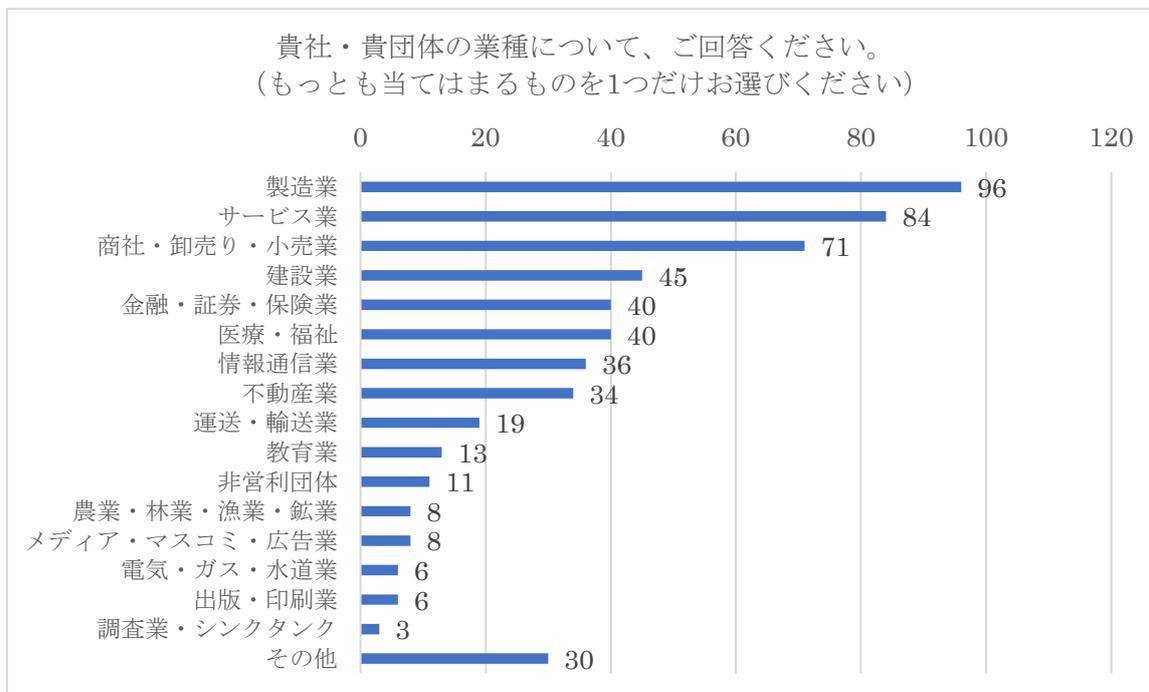
Q2. 回答企業（団体）の業種について

1. 本学 実施分



(N=152)

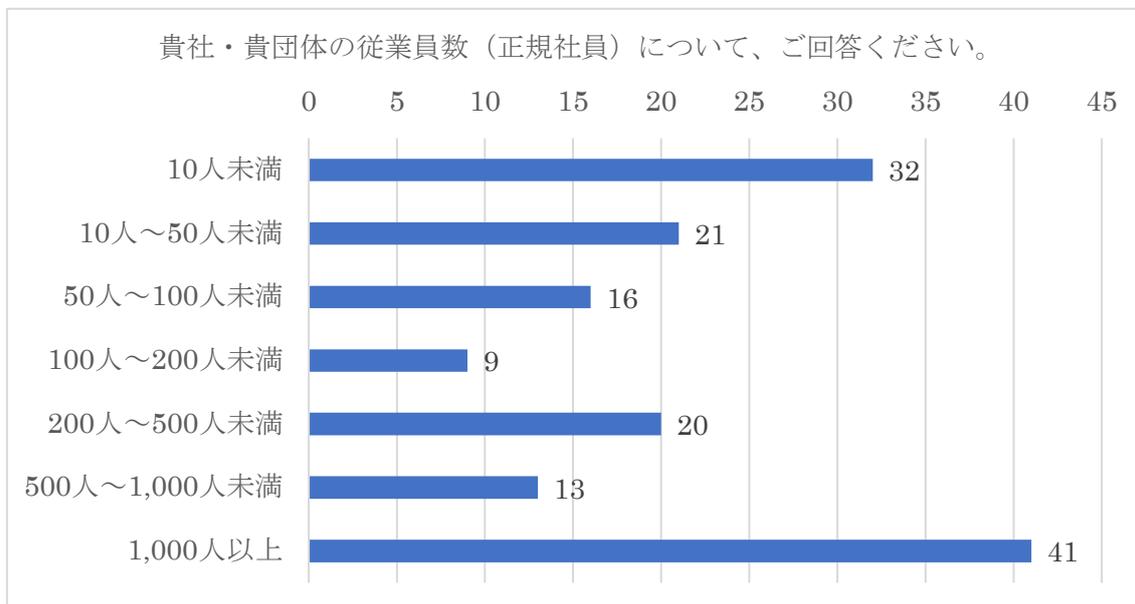
2. アイブリッジ株式会社 実施分



(N=550)

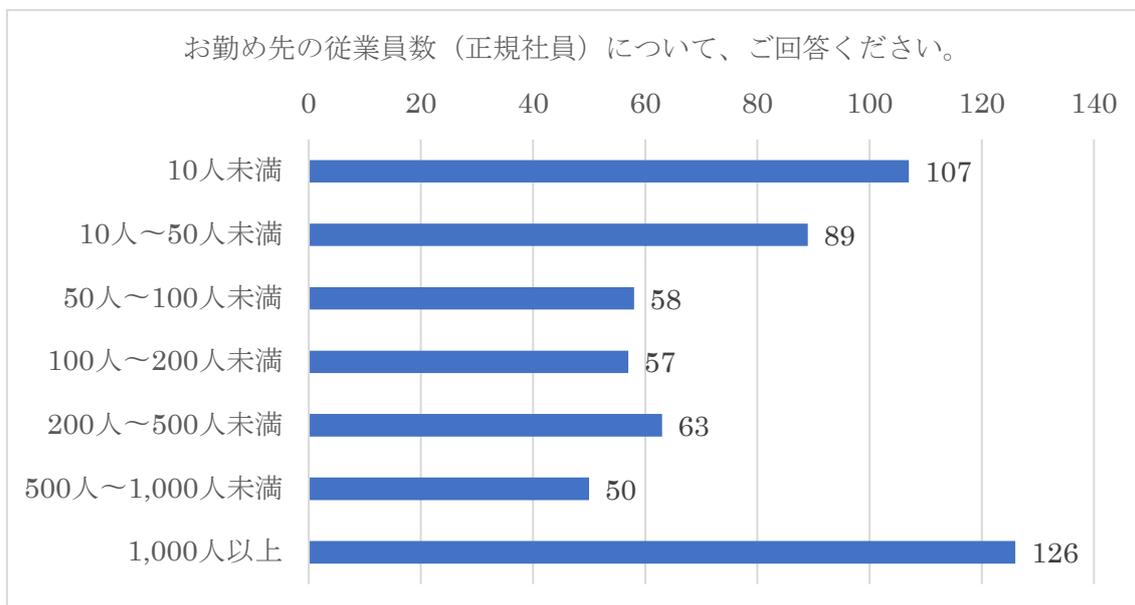
Q3. 回答企業（団体）の従業員数（正規社員）について

1. 本学 実施分



(N=152)

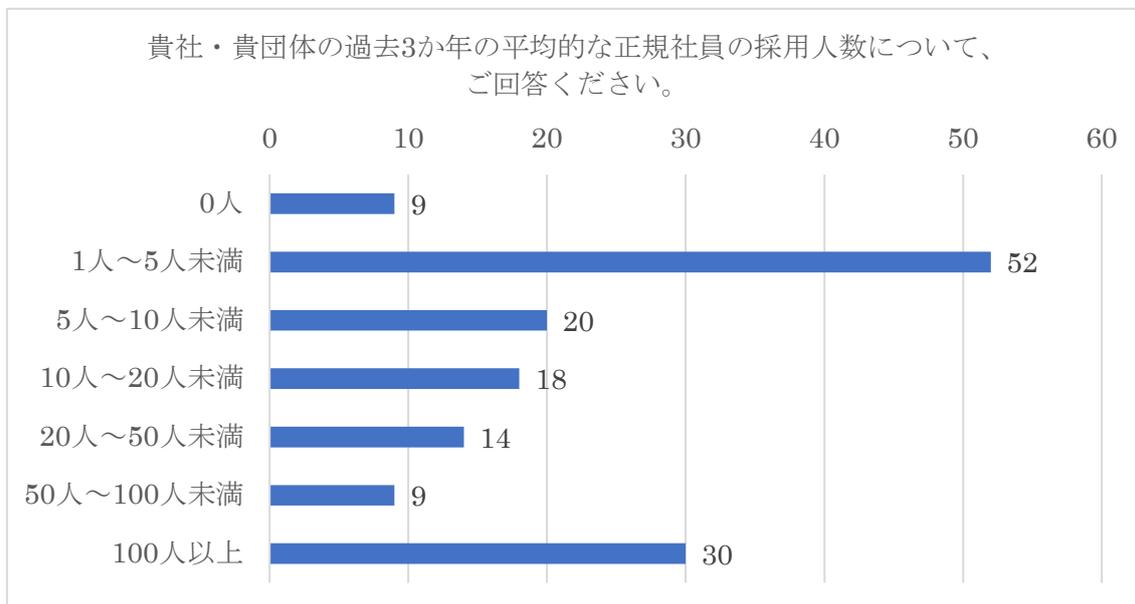
2. アイブリッジ株式会社 実施分



(N=550)

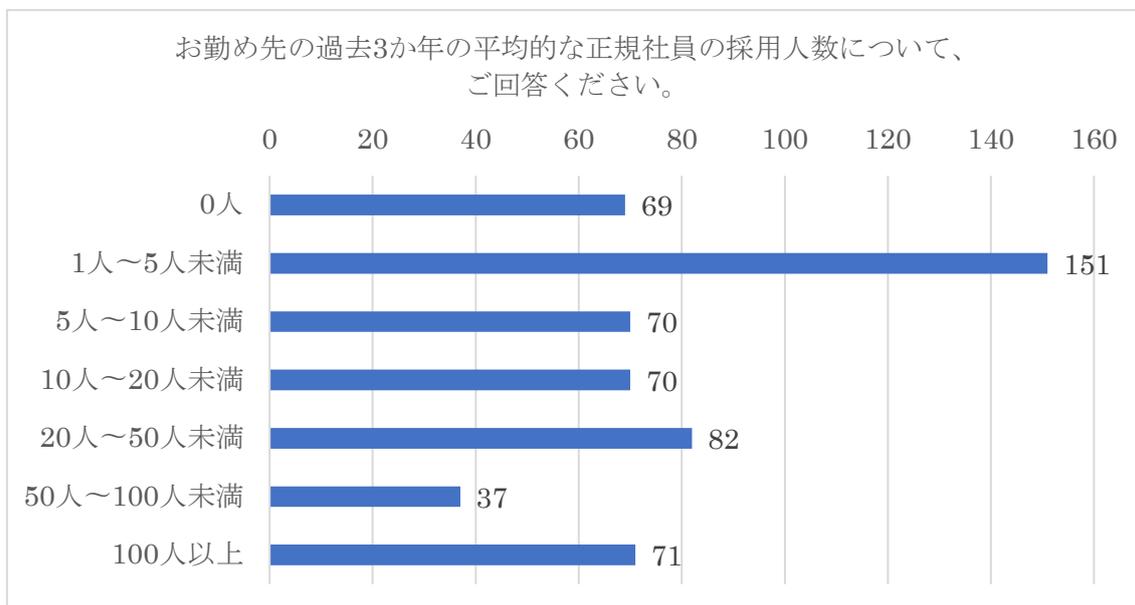
Q4. 回答企業（団体）の過去3か年の平均的な正規社員の採用人数について

1. 本学 実施分



(N=152)

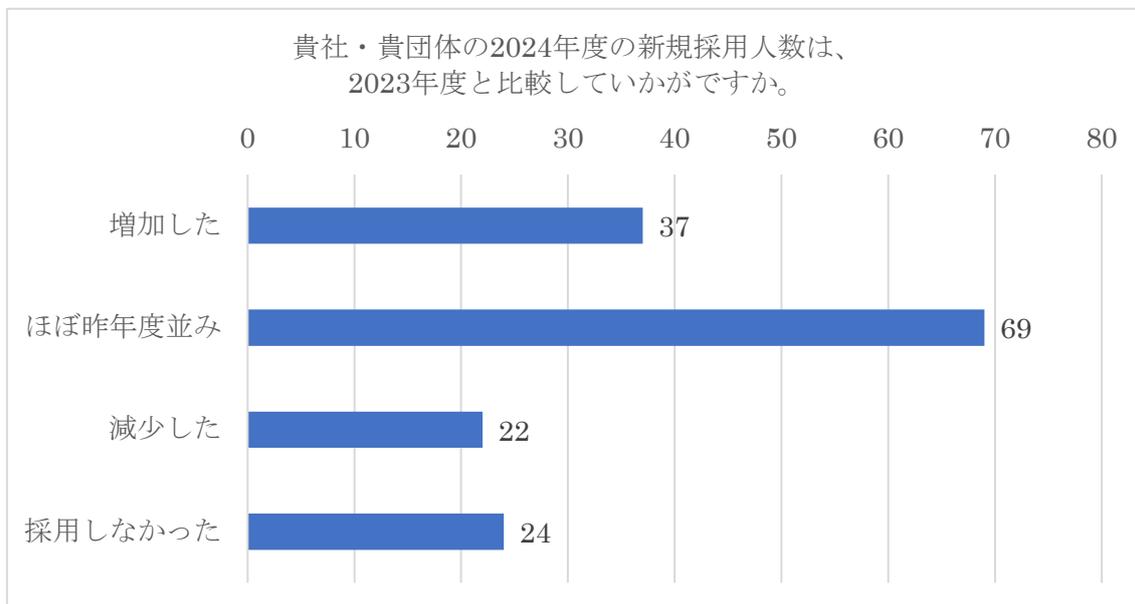
2. アイブリッジ株式会社 実施分



(N=550)

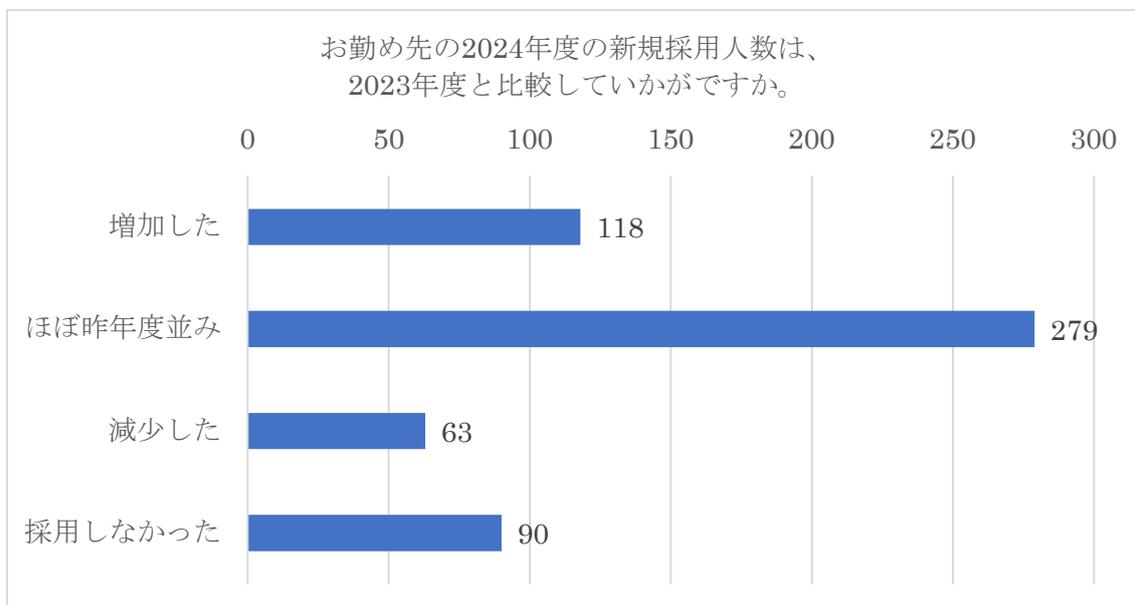
Q5. 回答企業（団体）の2024年度の新規採用人数について（2023年度との比較）

1. 本学 実施分



(N=152)

2. アイブリッジ株式会社 実施分



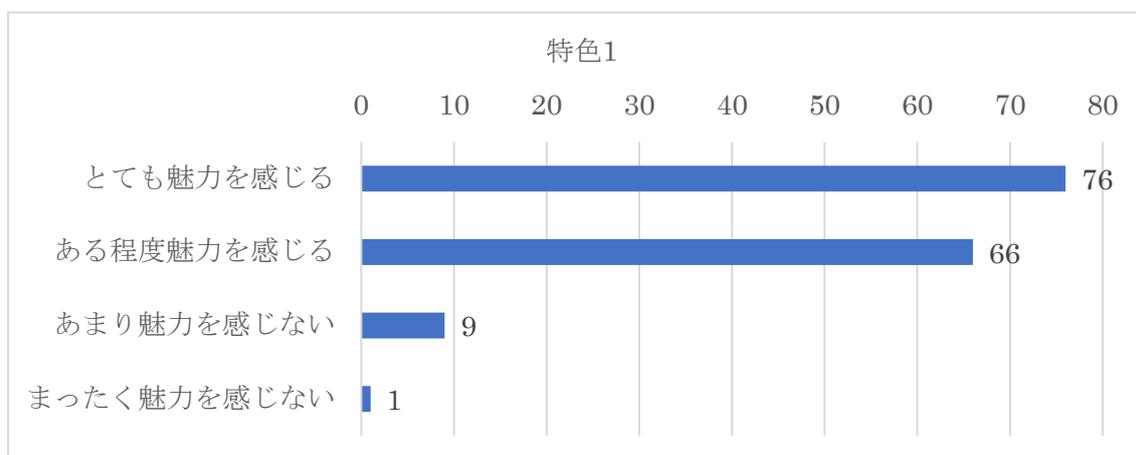
(N=550)

Q6. 食環境データサイエンス学科の特色1の魅力について

ここからは、2025年4月開設予定の本学「食環境データサイエンス学科」（設置認可申請中）に関してお聞きします。「食環境データサイエンス学科」（設置認可申請中）には、以下のような特色があります。お勤め先（ご回答者）にとって、どの程度魅力に感じますか。

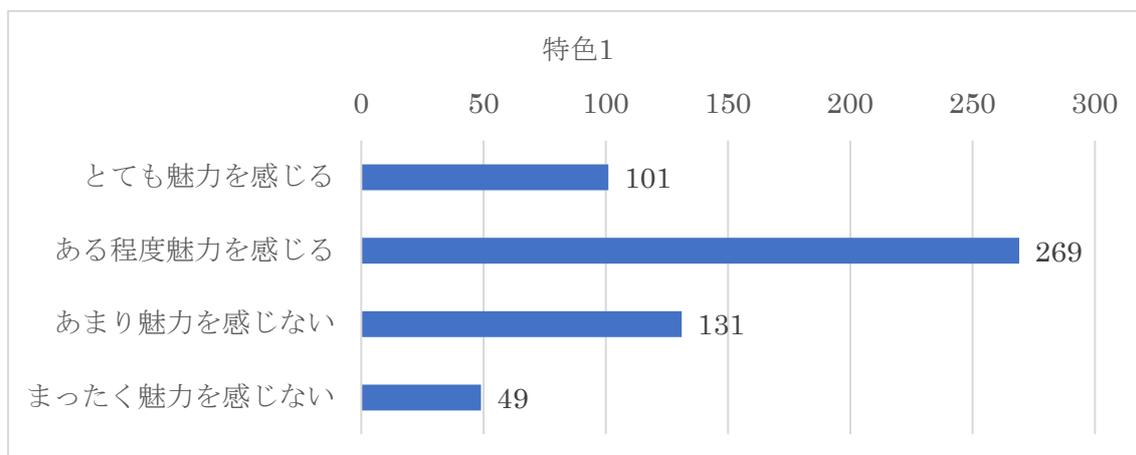
【特色1】 本学の食環境・健康分野の教育実績に、地元工学系大学、日本を代表するAI活用企業及び20社近くの地元企業との産学連携を活かし、AI・データサイエンスの基礎から実社会への応用まで修得できる体系的な教育プログラムを構築し、卒業後、即社会で活躍できる人材を養成する。

1. 本学 実施分



(N=152)

2. アイブリッジ株式会社 実施分

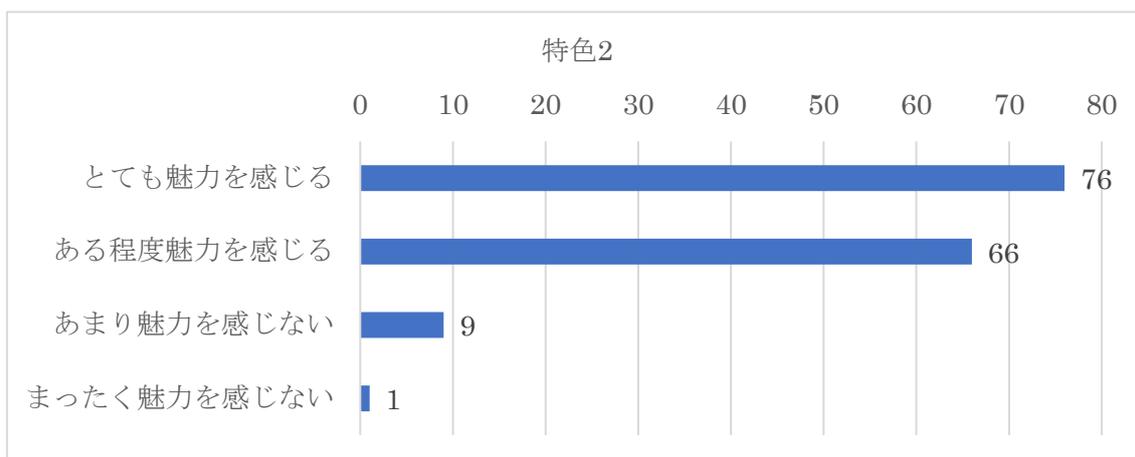


(N=550)

Q7. 食環境データサイエンス学科の特色2の魅力について

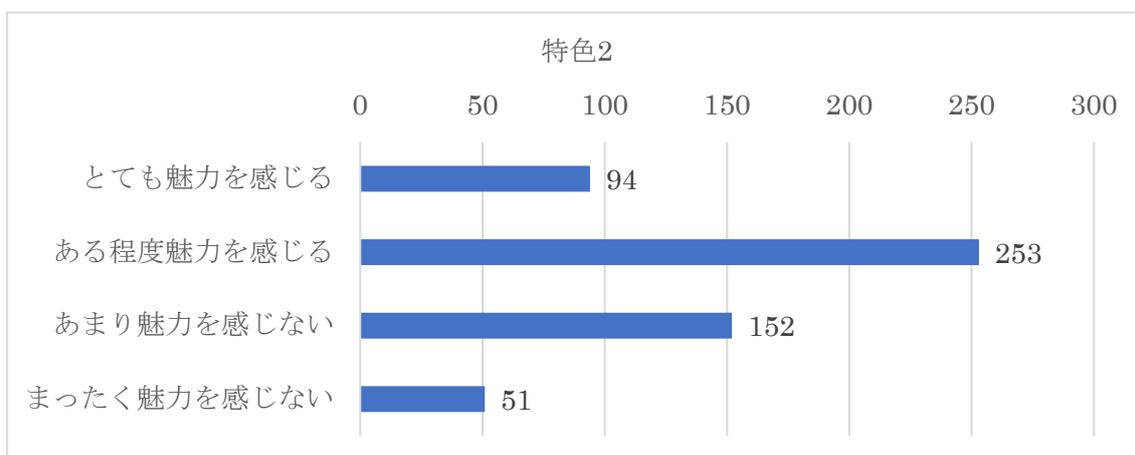
【特色2】食環境・健康分野における農業、食品製造、流通、健康管理といった各段階で蓄積されるデータをAI・データサイエンス技術を用いて分析し、科学的合理性に基づいて課題解決策を提案できるデータサイエンティストを養成する。

1. 本学 実施分



(N=152)

2. アイブリッジ株式会社 実施分

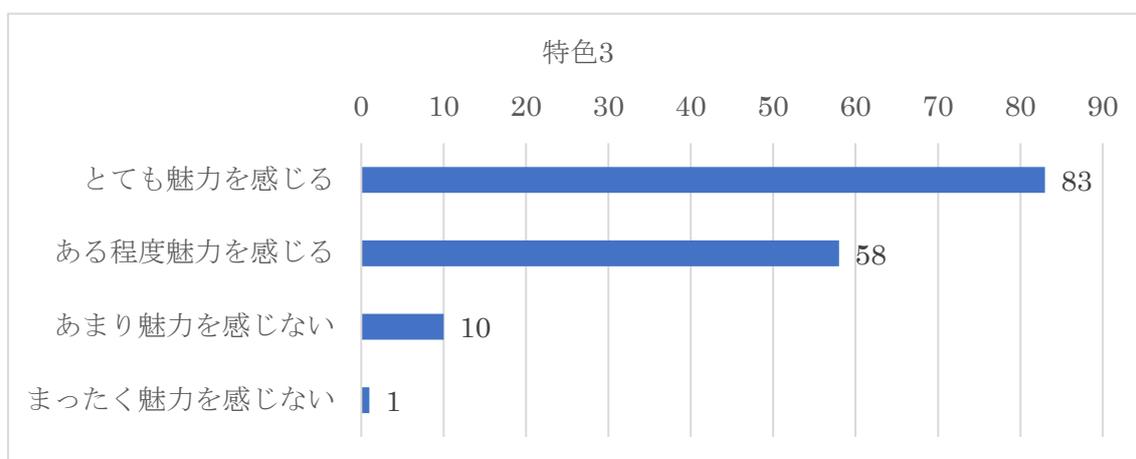


(N=550)

Q8. 食環境データサイエンス学科の特色3の魅力について

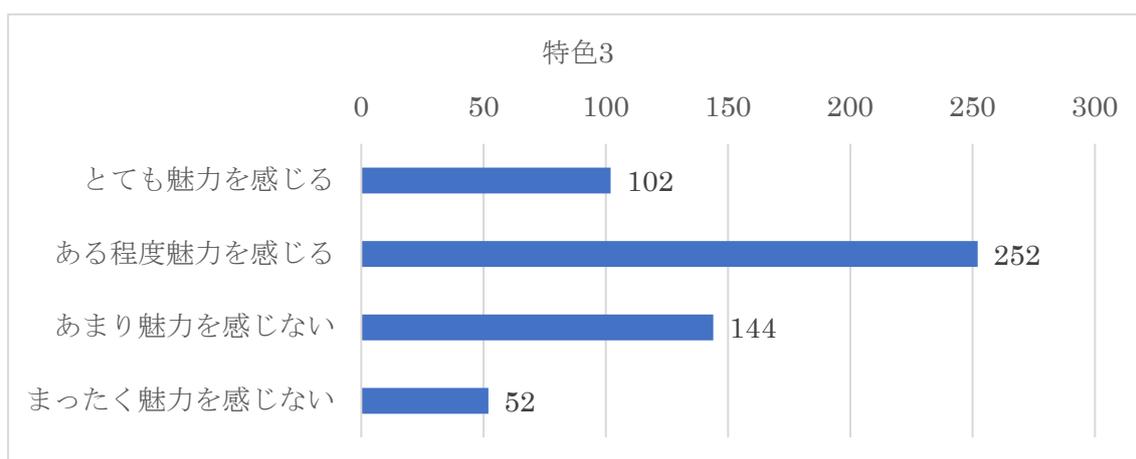
【特色3】本学科棟（6階建て）は、アクティブラーニング型授業を実現するための最新の機器・備品を備え、ビジュアルな講義や高速通信による遠隔講義に対応するとともに、企業のサテライトオフィスを設け、学内でのインターンシップや学生によるアルバイトを可能とする。また、食とデータサイエンスに係る企業や地元自治体と連携して社会的課題解決のための卒業研究を行い、卒業後も研究活動を生かした就職につなげる。

1. 本学 実施分



(N=152)

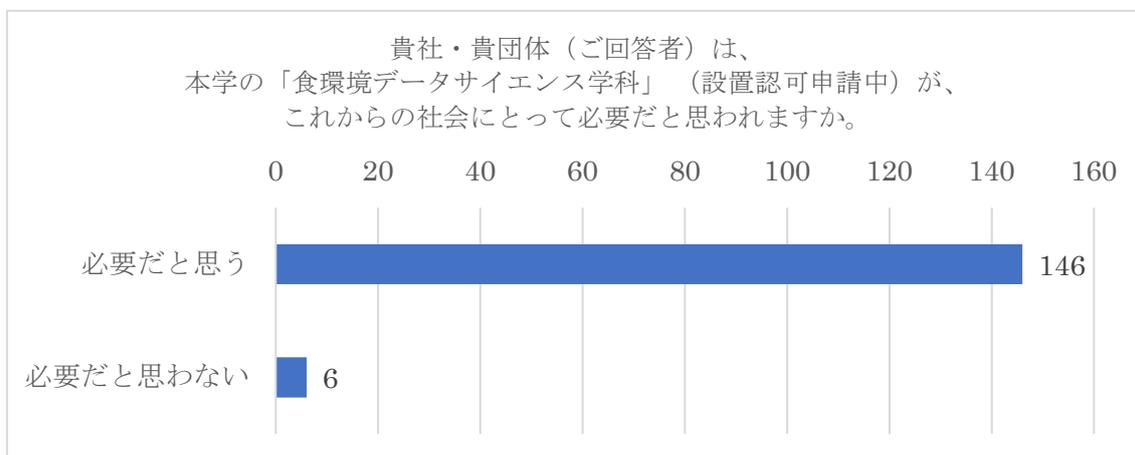
2. アイブリッジ株式会社 実施分



(N=550)

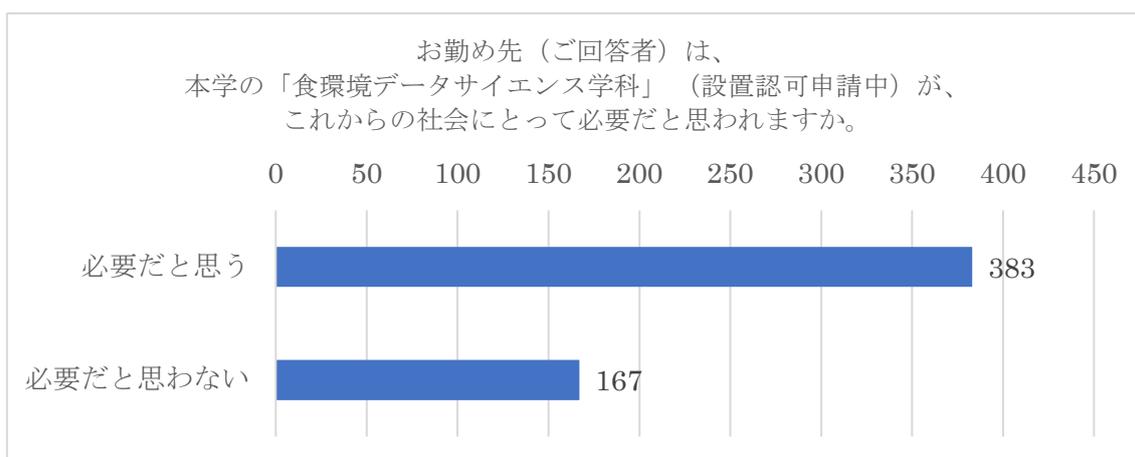
Q9. 回答企業（団体）が考える本学「食環境データサイエンス学科」の必要性について

1. 本学 実施分



(N=152)

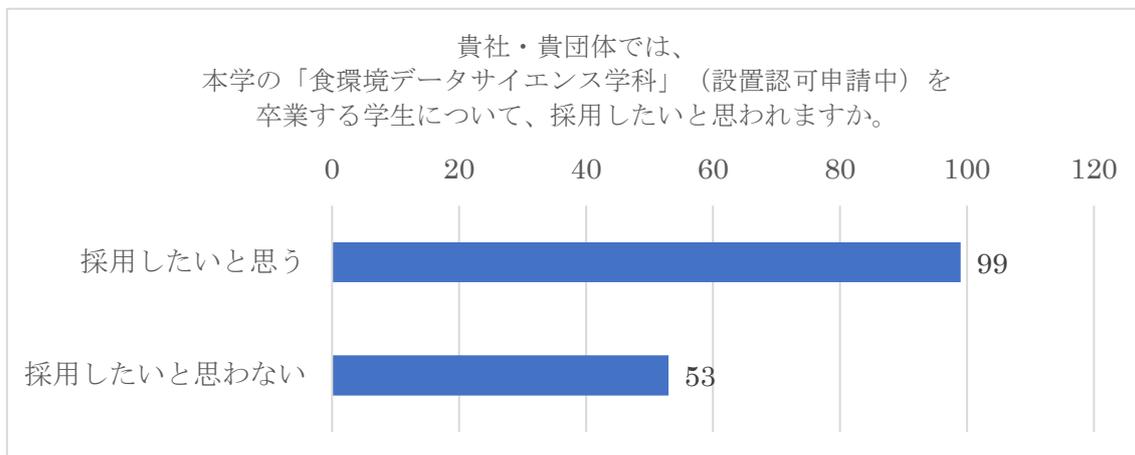
2. アイブリッジ株式会社 実施分



(N=550)

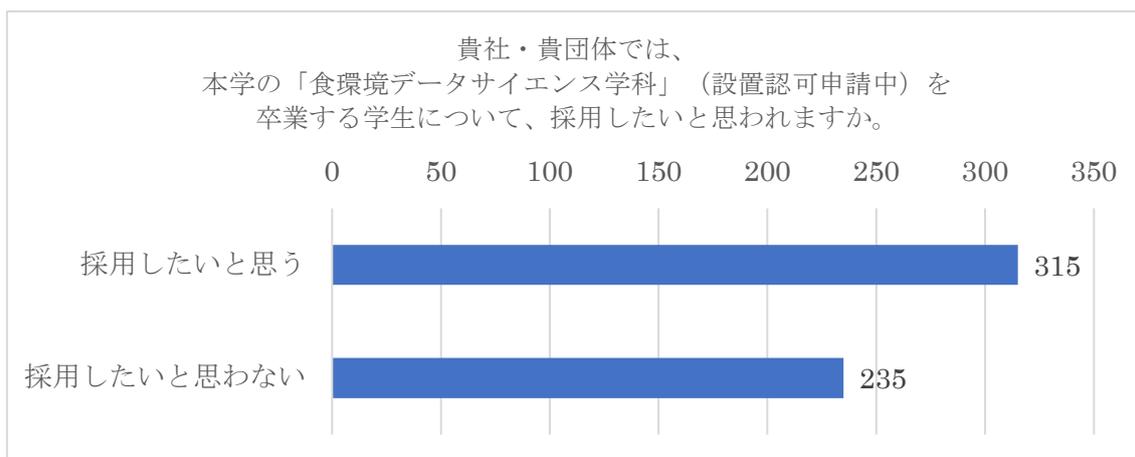
Q10. 回答企業（団体）における食環境データサイエンス学科卒業生の採用意向について

1. 本学 実施分



(N=152)

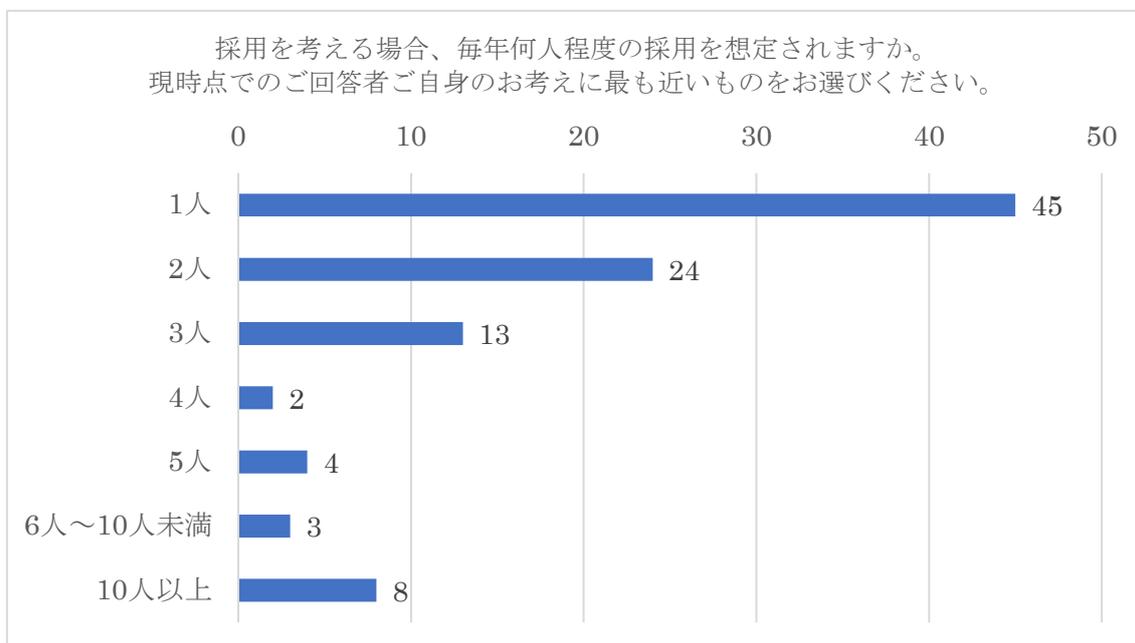
2. アイブリッジ株式会社 実施分



(N=550)

Q11. 回答企業（団体）における食環境データサイエンス学科生の採用想定人数について

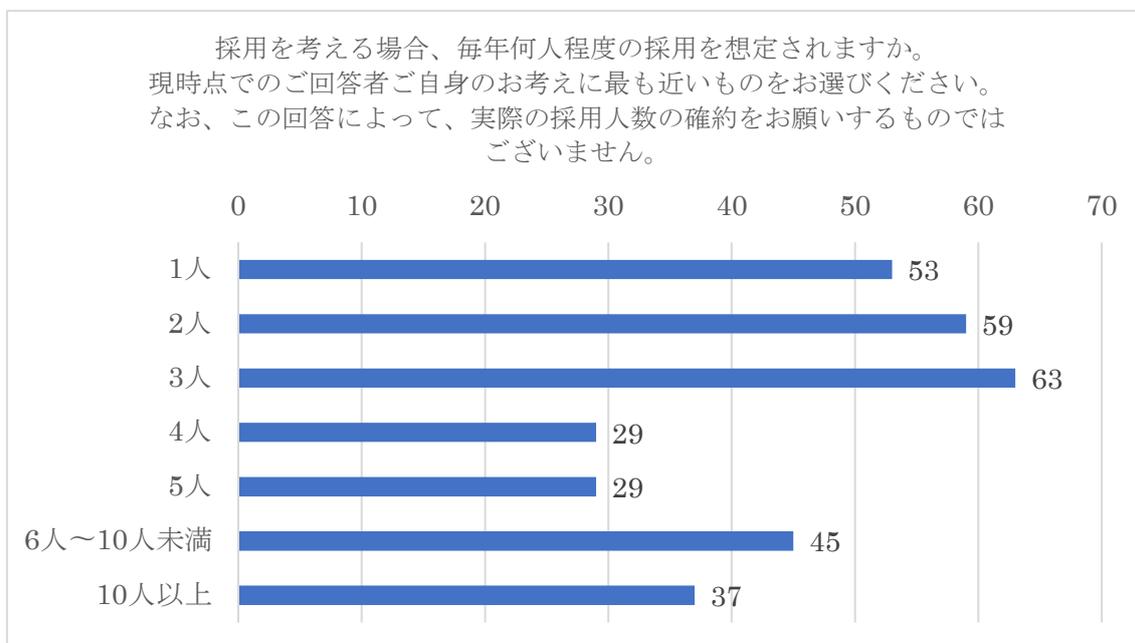
1. 本学 実施分



(N=99)

総採用人数 258人（6人～10人未満 6人、10人以上は10人としてカウント）

2. アイブリッジ株式会社 実施分



(N=315)

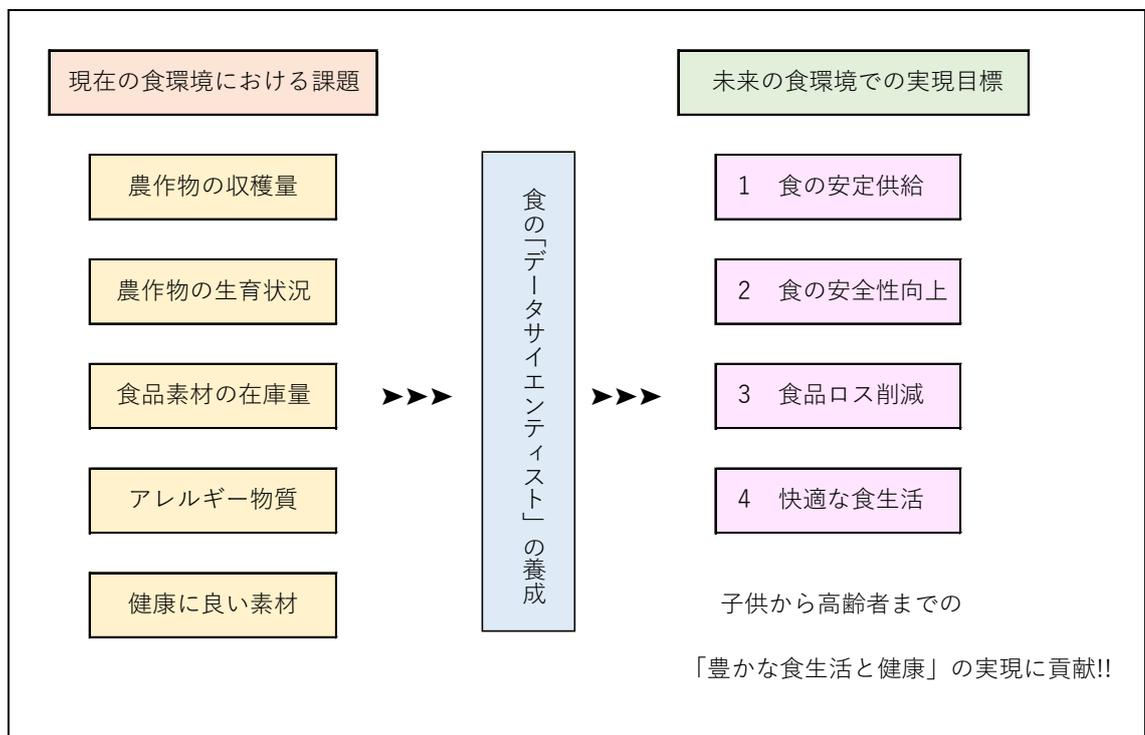
総採用人数 1261人（6人～10人未満 6人、10人以上は10人としてカウント）

1. 「食」においてデータサイエンスを実施する意義を学生等に対してわかりやすく説明する必要がある。

(対応)

口頭意見でのご指摘を踏まえ、食分野においてデータサイエンスを実施する意義について高校生等に対してわかりやすく説明するために、8ページの新学科パンフレットを作成している。(学生確保の見通し等を記載した書類(資料) P20 の資料7「食環境データサイエンス学科パンフレット」) ※「審査意見への対応を記載した書類(7月)」 P37にも資料添付

現代社会では、「人生100年時代」と呼ばれる中で、単に長く生きるだけでなく、健康で充実した生活を送ることが求められている。この背景には、医療技術の進歩のみならず、第4次産業革命やSociety5.0と称される革新的デジタル社会の進展があり、ビッグデータの活用が各分野で重要視されている。食環境分野も例外ではなく農業、食品製造、流通、健康管理といった各ステージで蓄積されるデータから新たな価値を引き出すことが期待され、AI(人工知能)とデータサイエンス分野における専門知識を有する人材の育成、ひいてはこれらの先進技術を体系的に学べる教育環境の整備が求められている。こうした背景から、九州栄養福祉大学の食環境データサイエンス学科では、AI技術とデータサイエンスの技術を駆使し、未来の食環境問題を科学的アプローチで解決できる専門家として、地域社会や人類の福祉向上に貢献する「グローバル人材」を養成する。また、北九州地域の産学連携を活かした展開、地元企業との包括的な連携によるプロジェクトやインターンシップを通じて、実践的な学びと経験を提供し、即活躍できる能力の育成を図っていく。



(新旧対照表) 学生確保の見通しと学生確保に向けた取組を記載した書類

②新設組織の特色 (2 頁)

新	旧
<p>食品の生産・流通・医療・福祉・環境に関する幅広い知識とこれらに関連する多量のデータ収集・分析能力を有し、食の課題について多角的なアプローチにより解決することのできるデータサイエンティストを養成する。</p> <p><u>現代社会では、「人生 100 年時代」と呼ばれる中で、単に長く生きるだけでなく、<u>健康で充実した生活を送ることが求められている。この背景には、医療技術の進歩のみならず、第 4 次産業革命や Society5.0 と称される革新的デジタル社会の進展があり、ビッグデータの活用が各分野で重要視されている。食環境分野も例外ではなく農業、食品製造、流通、健康管理といった各ステージで蓄積されるデータから新たな価値を引き出すことが期待れ、AI (人工知能) とデータサイエンス分野における専門知識を有する人材の育成、ひいてはこれらの先進技術を体系的に学べる教育環境の整備が求められている。こうした背景から、九州栄養福祉大学の食環境データサイエンス学科では、AI 技術とデータサイエンスの技術を駆使し、未来の食環境問題を科学的アプローチで解決できる専門家として、地域社会や人類の福祉向上に貢献する「グローバル人材」を養成する。また、北九州地域の産学連携を活かした展開、地元企業との包括的な連携によるプロジェクトやインターンシップを通じて、実践的な学びと経験を提供し、即活躍できる能力の育成を図っていく。</u></u></p> <p><u>(別表：図説 食環境データサイエンス学科の特色 ※上記対応の回答内図表)</u></p>	<p>食品の生産・流通・医療・福祉・環境に関する幅広い知識とこれらに関連する多量のデータ収集・分析能力を有し、食の課題について多角的なアプローチにより解決することのできるデータサイエンティストを養成する。</p>

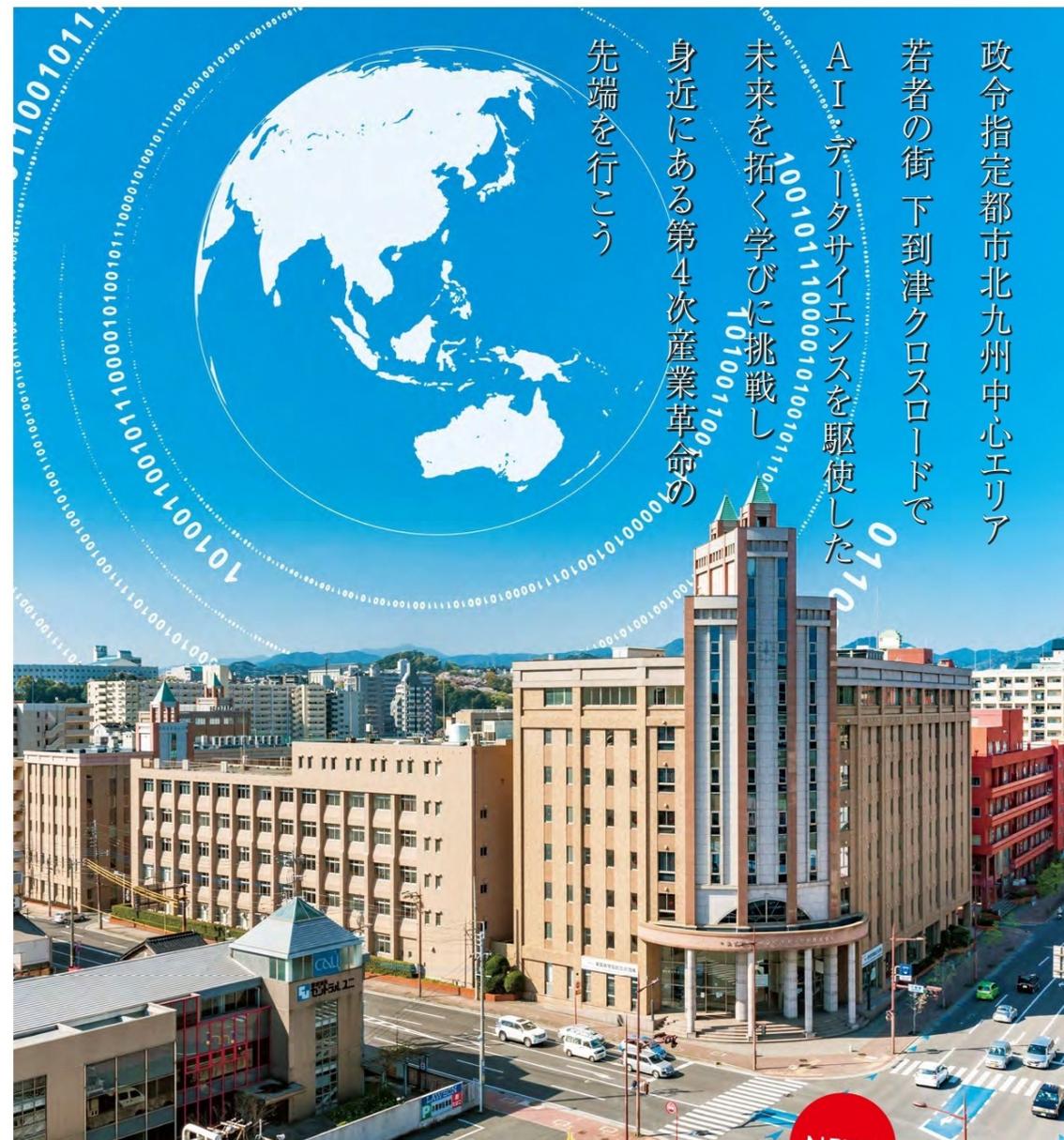
【食環境データサイエンス学科 概要】

学部・学科名称	食物栄養学部 食環境データサイエンス学科	入学定員	50名
学 費	初年度納入金:145万円 (入学金23万円・授業料等122万円)	学 位	学士 (食環境データサイエンス)
学びの内容	食環境と健康に関する深い理解とデータサイエンスの技術を組み合わせた教育を行い、食品の生産・流通、医療・福祉、環境に関連する大量のデータを収集・分析するスキルを修得することで、社会の持続可能な発展に寄与するデータサイエンティストを養成する。		
設置の理念	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の源である「食」に係る様々なデータを分析し、食についての安全性や世界的な食糧危機の課題等について多角的に捉えることのできる専門的知識を備えた人材を養成する。 ・人間が生きる上で欠かすことのできない食と農学に関する基礎知識から農園での演習を重ね、より具体的な食と農に関する専門知識を養う。 ・文部科学省が推奨する特定成長分野をけん引する高度専門分野の育成に寄与する。 ・食とデータサイエンスに係る企業と提携し、卒業後も研究を生かした就職につなげていく。 		
養成する人材像	<p>本学は「建学の精神 勇氣・親和・愛・知性の四つの心をバランス良く育てる」を基盤とした人格教育を行い、地域社会や福祉に役立つ使命感と信念を持ったデータサイエンティストを養成する。</p>		
アドミッションポリシー	<p>本学科は、食環境と健康に関する深い理解と先端のデータサイエンス技術を統合した教育を通じて、子供から高齢者までの「豊かな食生活と健康」を実現する専門家を養成するために、以下に掲げる学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建学の精神(勇氣・親和・愛・知性が調和する人間性を養う人格教育)に賛同する人 2. 高等学校までに学習した全ての教科の基礎学力を習得し、論理的思考能力を有している人 3. 食環境と健康のかかわりについて深い関心を持ち、AI・データサイエンスの技術を習得するために積極的かつ持続的な努力を惜しまない人 4. 他者の気持ちや立場を理解し、思いやりと協調性を兼ね備えた人 5. 新たな挑戦に積極的な志を持つ人 		
取得を目指す資格	上級データサイエンス・AI実務パスポート、基本情報技術者		
卒業後の進路	メーカー、流通・小売、サービス、商社、ソフトウェア・情報処理・ネット関連、官公庁・公社・団体、農業経営 etc.		

※設置される学科等の名称・内容などは予定につき、変更になる場合があります。

<アクセス>

- JR小倉駅 → 徒歩約15分
- JR小倉駅 → 西鉄バス「小倉駅入口」から約12分
→ 「金田陸橋西」降車後徒歩約2分
- JR八幡駅 → 西鉄バス「八幡駅入口第一」から約20分
→ 「下津」降車後徒歩約2分



2025年4月開設予定 九州栄養福祉大学 (設置認可申請中)
「食物栄養学部 食環境データサイエンス学科」

「食×データサイエンス」で、未来の食環境と健康を守る。

※設置される学科等の名称・内容などは予定につき、変更になる場合があります。

FOOD ENVIRONMENT × DATA SCIENCE

Greeting

食物栄養学部内新学科・食環境データサイエンス学科を設置認可申請中です。この食環境データサイエンス学科では、食環境・健康分野の深い専門知識とAI・データサイエンスのスキルを合わせ持つことにより、食料や食品の生産・流通、医療・福祉、環境への影響に関連する広範なデータを収集・分析し、子供から高齢者までの「豊かな食生活と健康」を実現する持続可能な社会に貢献するグローバル人材の育成を目的としています。

この食環境データサイエンス学科を創り上げるには、いわゆる第4次産業革命時代の最新知識を教育研究する専門家、最新技術を実際に開発してきた方々との連携協力が必要でした。特にロボット工学で日本の産業を牽引してきた株式会社安川電機の元CTO、最高技術責任者・熊谷彰氏、そしてAI・データサイエンスを活用した「スマート農業」という視点から我が国の食の安全保障の「大難問(アボリア)」に挑戦する株式会社オプティム(東証プライム上場企業)の菅谷俊二社長(日本のIT分野における特許資産個人ランキング1位)には力強い助力をいただきました。お二人とも開学後は特別客員教授という形で本学にお迎えする予定です。更に、インターンシップ(学生の企業実習)や講師派遣、共同研究並びに地域貢献のために地元北九州地域を中心とした約20の食産業・IT関連企業および団体が連携協定を結んでくれました。

今世界はグローバルな規模でビッグデータがネットを通して結ばれています。正に第4次産業革命に突入しています。そこでは多様なデジタル人材が要請されます。一昔前は「読み、書き、そろばん」「縫う、織る、染める」が人生を生きる大きな技術でしたが今はデジタルリテラシーを修得し大量のデータを解読し世界と交流していかないと「情報の非対称性」つまりインフォメーションギャップに陥る危険性もあります。岸田首相はASEAN諸国と共同して今後5年間で10万人の高度デジタル人材育成を目指すと表明しました。それだけ多くの若い人が今から必要になってくるのではないかと考えています。北九州市はもともと国際都市として我が国に大きな貢献をしてきた地です。これからもアジア太平洋の中核都市として大きな役割を果たしていくと思います。我々の企画構想する食環境データサイエンス学科は必ず時代が要請する人材養成の拠点になると思います。

学長 室井 廣一

Mission ~学びの目的~

食環境分野の専門的知識とデータサイエンスの

スキルを合わせ持つ即活躍できる人を養成する。

現代社会では、「人生100年時代」と呼ばれる中で、単に長く生きるだけでなく、健康で充実した生活を送ることが求められています。この背景には、医療技術の進歩のみならず、第4次産業革命やSociety5.0と称される革新的デジタル社会の進展があり、ビッグデータの活用が各分野で重要視されています。食環境分野も例外ではなく農業、食品製造、流通、健康管理といった各ステージで蓄積されるデータから新たな価値を引き出すことが期待され、AI(人工知能)とデータサイエンス分野における専門知識を有する人材の育成、ひいてはこれらの先進技術を体系的に学べる教育環境の整備が求められています。

こうした背景から、九州栄養福祉大学の食環境データサイエンス学科では、AI技術とデータサイエンスの技術を駆使し、未来の食環境問題を科学的アプローチで解決できる専門家として、地域社会や人類の福祉向上に貢献する「グローバル人材」を養成します。

また、北九州地域の産学官連携を活かした展開、地元企業との包括的な連携によるプロジェクトやインターンシップを通じて、実践的な学びと経験を提供し、即活躍できる能力の育成を図ります。

現在の食環境における課題



食の「データサイエンティスト」の養成

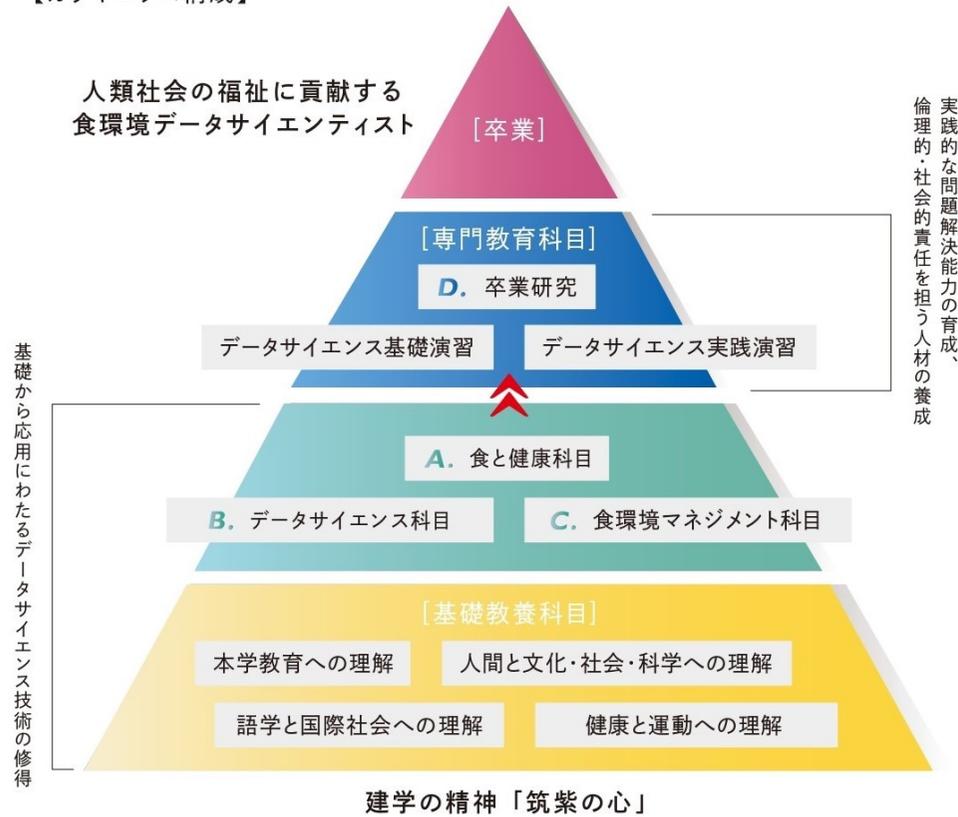
未来の食環境での実現目標



Curriculum ~学びのカリキュラム~

基礎教養科目と専門教育科目に分けられ、食環境・健康分野に関連するデータサイエンスの基礎教育から応用技術までの幅広い知識と技能を、体系的かつ段階的に学ぶことができるよう設計しています。

【カリキュラム構成】



【基礎教養科目】

〈本学教育への理解〉

- ・キャリアガイダンスI
- ・キャリアガイダンスII
- ・キャリアガイダンスIII
- ・キャリアガイダンスIV
- ・食環境データサイエンス概論
- ・食環境イノベーションデザイン
- ・農園演習

〈語学と国際社会への理解〉

- ・実用英語の基礎I
- ・実用英語の基礎II
- ・実用英語
- ・国際理解(海外研修)

〈人間と文化・社会・科学への理解〉

- ・食と経済
- ・人間関係の心理
- ・基礎生物学
- ・基礎化学
- ・リハビリテーション概論
- ・コンピュータリテラシー
- ・AI・データサイエンス入門

〈健康と運動への理解〉

- ・健康スポーツ科学I
- ・健康スポーツ科学II
- ・健康スポーツ科学III
- ・健康スポーツ科学IV

【専門教育科目の特色】

A. 食と健康科目

食栄養学科と連携した食と健康に関する講義科目を多数開講します。これらの科目を通じて、食環境・健康分野の深い専門知識を修得します。

- ・解剖生理学
- ・生化学
- ・疾病の成り立ちと病態
- ・運動生理学
- ・食品分子機能学
- ・微生物学
- ・食品学総論
- ・食品衛生学
- ・食品加工学
- ・基礎栄養学
- ・応用栄養学
- ・臨床栄養学
- ・スポーツ栄養学
- ・公衆栄養学



B. データサイエンス科目

食環境・健康に関するデータサイエンスの専門家としての知識および技術の体系的な修得に必要な科目を多数開講します。演習科目はもちろん、講義科目においても積極的にノートPCを活用します。理論を机上で学ぶだけでなく、データサイエンス分野に幅広く活用されているプログラム言語Pythonによる実装・動作確認を行うことで、AI・データサイエンスの専門知識およびスキルを着実に修得していきます。

- ・微積分学基礎
- ・データサイエンスのための微積分学
- ・線形代数基礎
- ・データサイエンスのための線形代数
- ・確率統計学基礎
- ・データサイエンスのための確率統計学
- ・データサイエンスのための応用数学
- ・プログラミング基礎
- ・プログラミング演習
- ・情報ネットワーク
- ・データベース入門
- ・センシングと信号処理
- ・機械学習基礎
- ・機械学習演習
- ・データ解析基礎
- ・データ解析演習
- ・ニューラルネット基礎
- ・ニューラルネット演習
- ・マルチモーダルAI技術と応用
- ・データ駆動型意思決定と可視化
- ・食農健康データサイエンス
- ・先端AI論
- ・フードウェルネスデータサイエンス
- ・バイオインフォマティクス
- ・マーケティングとデータサイエンス
- ・マネジメントとデータサイエンス
- ・人間とAI



C. 食環境マネジメント科目

産業界における実践的な経験を有する外部講師による講義科目に加え、現実の課題に主体的に取り組む演習科目を開講します。これらの科目を通じて、産業界における現実の課題に対する実践的な解決策を提案できる能力に加え、起業家精神を養います。

- ・マーケティング論
- ・マーケティングリサーチ
- ・流通システム論
- ・消費者行動論
- ・サプライチェーンマネジメント学
- ・アグリビジネスマネジメント学
- ・食環境地域連携演習
- ・インターンシップ
- ・アントレプレナー論
- ・アントレプレナー演習



D. 卒業研究

専門教育科目の集大成として、少人数のゼミ単位でプロジェクトベース学習および各自のテーマに基づいた研究活動に取り組みます。これらの活動を通じて、卒業後の継続的な学習と自己研鑽に努める姿勢を養います。

- ・データサイエンス基礎演習
- ・データサイエンス実践演習
- ・卒業研究



Campus ～学びのステージ～

最先端の栄養学、農学、ITの学び・体験の場でありその成果を北九州および全国に発信する拠点として、現在の5号館が生まれ変わります。



食環境データサイエンス学科の 目指す形

食環境データサイエンス学科では、人々の健康を食・睡眠・運動の観点から学び、研究し、社会へと貢献していきます。その実現のために、生まれ変わった5号館には最先端の研究設備や研究を促進する空間を用意し、学生自らの学習と研究を促します。



【コミュニティエリア】

学生や教員、外部の方々とのコミュニケーションを促進し、新たな食農のアイデアを創発することを目指します。



【ラボラトリーエリア】

食事による体への影響を、睡眠や運動などに関連する最先端の外部測定装置から変化を捉え、食が体に与える影響を多角的に捉える設備があります。



【フローズンダイニング】

冷凍食を活用した新しい食の実現に向けて、専用の設備を設置。食農を通じて、地産地消や地元企業とのコラボレーションを生み出す新しい環境を構築します。



【AIイノベーション・データサイエンスラボ「KIDS LABO.(キッズラボ)」を併設!!】

「政令指定都市北九州中心エリア、クロスロードでAI×データを駆使した未来を拓く学びに挑戦し、身近にある第4次産業革命を体験しよう」

九州栄養福祉大学の「KIDS LABO.」は、AIとデータサイエンスを駆使して、未来の可能性を切り拓くイノベーションラボです。子供から大人まで、あらゆる世代が集うこのラボでは、各人の才能を開花させるための環境を提供します。最先端の技術に触れながら、実社会への応用も模索します。学びとイノベーションが交差するこの場所（ジャンクション）で、新しい時代の先駆者を目指しましょう。



Message ～ AI・データサイエンス分野における第一人者からの期待の声～

01

食環境データサイエンス学科の設立は、今日のデジタル社会における革新的な動きと密接に関連していると感じます。この学科が提供する教育は、データサイエンスの技術を食と農業、健康の分野に応用することで、これらの分野における新たな課題解決の道を切り開く人材を育成することが重要なテーマだと思えます。特に、AIを活用した「食の番人」としての役割を担う専門家の育成は、将来的に食環境問題に対する持続可能な解決策を提案する上で重要な意味を持ちます。また、人格教育と地域社会との連携を重視する姿勢は、社会に貢献するデータサイエンティストの養成において欠かせない要素です。このような教育方針は、将来的に多方面での貢献が期待される人材を輩出し、社会の発展に大きく寄与するでしょう。そういう意味でも、この学科に対して大きな期待を抱いています。

(特別客員教授就任予定)



元株式会社安川電機CTO
(取締役常務執行役員 技術開発本部長)
新学部・学科設置準備室 顧問
熊谷 彰 氏

02

人生100年時代と言われるまでに医療技術が進化を遂げた今日において、その100年をより健やかに、より若々しく生きたいという事が21世紀後半の人類に残された大きな夢の一つであると思えます。本学に開設される食環境データサイエンス学科は、栄養学に農学、データサイエンスを融合した新しい領域のスペシャリストを生み出すことで人類の夢を、社会課題の解決を目指す学科です。栄養学とデジタルの融合は多くの人々に大きな希望をもたらします。若い皆様の豊かな才能と強い熱意で人類の次なる夢を実現するスペシャリスト、エキスパートの誕生に期待します。共に大いに学びましょう。

(特別客員教授就任予定)



OPTIM®

日本のIT分野・特許資産個人ランキングNo.1
株式会社オプティム(東証プライム上場企業)
代表取締役社長
菅谷 俊二 氏